

平成 20 年度

豊田市男女共同参画に関する意識調査報告書

豊田市

はじめに

男女共同参画社会は、男性、女性が性別に関係なく、社会を構成する対等なメンバーとして認め合い、仕事、家庭、地域などあらゆる分野に参画し、喜びも責任もともに分かち合う社会です。

我が国においては、男女共同参画社会の実現を「二十一世紀の我が国社会を決定する最重要課題」として位置づけ、少子化やワーク・ライフ・バランス等の観点から積極的な議論や取組を展開しています。

豊田市においても、平成12年に「とよた男女共同参画プラン（クローバープラン）」を、平成18年には改訂版である「とよた男女共同参画プラン（クローバープラン後期計画）」を策定し、市民一人ひとりが個性と能力を生かせる社会を目指して様々な取組を進めています。また、平成13年には男女共同参画社会づくりの拠点施設として、現在の「とよた男女共同参画センター（キラッ☆とよた）」をオープンしました。

今回の調査は、「とよた男女共同参画プラン（クローバープラン後期計画）」の計画期間が終了（平成21年度）することを踏まえて、平成10年と15年に実施した意識調査から家庭や地域、職場等における男女共同参画に関する市民の意識や男女平等、男女の社会参加の実態等の変化や豊田市の取り組んできた施策に対する評価などを比較・検証し、今後の男女共同参画社会実現に向けた施策の充実を図るとともに、新プラン策定の基礎資料とするために改めて実施したものです。

本調査にご協力いただきました皆様方にお礼を申し上げますと共に、今後の男女共同参画社会の実現に向けて、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成21年3月

豊田市

目次

はじめに

調査結果の概要

調査結果の分析

I.	調査の概要	1
1	調査の概要	1
1-1.	調査の目的	1
1-2.	調査項目	1
1-3.	調査方法	1
1-4.	回答者属性	2
II.	調査結果の分析	5
1	男女平等意識	5
1-1.	男女平等意識	5
2	男女の関わり・役割分担	21
3	家庭における男女のあり方について	38
3-1.	家庭における夫婦の役割分担	38
3-2.	家庭における子どもの育て方	52
3-3.	ジェンダー意識と子育て意識の関係	55
4	地域活動における男女の役割分担	57
5	職場における男女の役割分担	61
5-1.	女性が仕事を持つことについての意向	61
5-2.	仕事を継続しない方がよいと考える理由	65
5-3.	結婚・出産後に女性が仕事をするために必要だと思うこと	67
5-4.	職場における男女の違い	72
6	ワーク・ライフ・バランス	78
7	男女共同参画社会実現に向けた豊田市の取組	87
7-1.	これまでの事業の評価	87
7-2.	男女共同参画社会の実現において重要と思うもの	119
7-3.	自分自身や家族の男女共同参画に関する理解が深まったと思うこと	129
8	男女共同参画社会実現に関する今後の取組	131
8-1.	地域イベントや行政が発信する情報の入手経路	131

8-2. 男女共同参画に関する意識啓発を推進する方法	134
8-3. 豊田市が進める男女共同参画社会づくりのための取組についての意見	138
9 調査結果のまとめ	140

参考資料

図表目次

図表 I-1 性別	2
図表 I-2 年齢	2
図表 I-3 既婚等の別	2
図表 I-4 家族構成	3
図表 I-5 回答者の職業	3
図表 I-6 配偶者の職業	3
図表 I-7 居住地区	4
図表 II-1 男女平等意識	6
図表 II-2 平成 15 年度調査 男女平等意識	7
図表 II-3 平成 10 年度調査 男女平等意識 (n=1,733)	7
図表 II-4 平成 15 年度調査・「クローバープラン(後期)」における分野別目標との比較	8
図表 II-5 男女別 男女平等意識	8
図表 II-6 加重平均による優遇度の求め方	9
図表 II-7 スコア化による分析【男女平等意識】	10
図表 II-8 スコア化による分析【男女別 男女平等意識】	10
図表 II-9 男女別 家庭生活における男女平等意識	11
図表 II-10 女性年齢別 家庭生活における男女平等意識	12
図表 II-11 女性職業別 家庭生活における男女平等意識	12
図表 II-12 男女別 学校教育の場における男女平等意識	13
図表 II-13 女性年齢別 学校教育の場における男女平等意識	13
図表 II-14 男女別 職場における男女平等意識	14
図表 II-15 女性年齢別 職場における男女平等意識	15
図表 II-16 女性職業別 職場における男女平等意識	15
図表 II-17 男性年齢別 職場における男女平等意識	16
図表 II-18 男女別 政治の場における男女平等意識	17
図表 II-19 女性年齢別 政治の場における男女平等意識	17
図表 II-20 男女別 地域社会における男女平等意識	18
図表 II-21 女性年齢別 地域社会における男女平等意識	18
図表 II-22 男女別 法律や制度における男女平等意識	19
図表 II-23 女性年齢別 法律や制度における男女平等意識	19
図表 II-24 男女別 社会通念・慣習や風潮における男女平等意識	20
図表 II-25 女性年齢別 社会通念・慣習や風潮における男女平等意識	20
図表 II-26 男女の役割分担 設問A～C【考え方】	22
図表 II-27 男女の役割分担 設問A～C【行動】	23
図表 II-28 スコア化による分析【男女の役割分担 設問A～C】	23

図表 II-29	男女の役割分担 設問D~H【考え方】	24
図表 II-30	男女の役割分担 設問D~H【行動】	25
図表 II-31	スコア化による分析【男女の役割分担 設問D~H】	25
図表 II-32	男女別 男女の役割分担「結婚してもそれぞれ自分名義の財産を持った方がいい」	26
図表 II-33	女性職業別 男女の役割分担「結婚してもそれぞれ自分名義の財産を持った方がいい」	26
図表 II-34	男女別 男女の役割分担「子育ては女性も男性も協力して行う」	27
図表 II-35	女性年齢別 男女の役割分担「子育ては女性も男性も協力して行う」	28
図表 II-36	男性年齢別 男女の役割分担「子育ては女性も男性も協力して行う」	28
図表 II-37	男女別 男女の役割分担「男性も家事をきちんとできる方がいい」	29
図表 II-38	男性年齢別 男女の役割分担「男性も家事をきちんとできる方がいい」	29
図表 II-39	男女別 男女の役割分担「男は仕事・女は家庭」という考え方はいい」	30
図表 II-40	女性年齢別 男女の役割分担 「男は仕事・女は家庭」という考え方はいい」	31
図表 II-41	男性年齢別 男女の役割分担 「男は仕事・女は家庭」という考え方はいい」	31
図表 II-42	平成 19 年度子ども意識調査 「男は仕事・女は家庭」という考え方について」	32
図表 II-43	男女別 男女の役割分担「女は女らしく、男は男らしくする方がいい」	33
図表 II-44	女性年齢別 男女の役割分担 「女は女らしく、男は男らしくする方がいい」	34
図表 II-45	男性年齢別 男女の役割分担「女は女らしく、男は男らしくする方がいい」	34
図表 II-46	男女別 男女の役割分担「女性が仕事を持つのは良いが家事・育児も専業主婦並にきちんとする方がいい」	35
図表 II-47	女性年齢別 男女の役割分担「女性が仕事を持つのは良いが家事・育児も専業主婦並にきちんとする方がいい」	35
図表 II-48	男女別 男女の役割分担「女性は自分のことより家族のことを優先する方がいい」	36
図表 II-49	女性年齢別 男女の役割分担「女性は自分のことより家族のことを優先する方がいい」	36
図表 II-50	男女別 男女の役割分担「男性は家庭や地域のことより仕事を優先する方がいい」	37
図表 II-51	男性年齢別 男女の役割分担「男性は家庭や地域のことより仕事を優先する方がいい」	37
図表 II-52	家庭における夫婦の役割分担	40
図表 II-53	スコアによる分析【家庭における夫婦の役割分担】	40
図表 II-54	平成 15 年度調査 家庭における夫婦の役割分担(家事、家計、子育て、介護)	41
図表 II-55	平成 19 年度子ども意識調査 家庭における夫婦の役割分担	41
図表 II-56	男女別 家庭における夫婦の役割分担「家事全般」	42
図表 II-57	女性年齢別 家庭における夫婦の役割分担「家事全般」	43
図表 II-58	男性年齢別 家庭における夫婦の役割分担「家事全般」	43
図表 II-59	男女別 家庭における夫婦の役割分担「家計の管理」	44
図表 II-60	女性年齢別 家庭における夫婦の役割分担「家計の管理」	45

図表 II-61	男性年齢別 家庭における夫婦の役割分担「家計の管理」	45
図表 II-62	男女別 家庭における夫婦の役割分担「子育て全般」	46
図表 II-63	女性年齢別 家庭における夫婦の役割分担「子育て全般」	46
図表 II-64	男性年齢別 家庭における夫婦の役割分担「子育て全般」	47
図表 II-65	男女別 家庭における夫婦の役割分担「老親の世話・介護」	48
図表 II-66	女性年齢別 家庭における夫婦の役割分担「老親の世話・介護」	49
図表 II-67	男性年齢別 家庭における夫婦の役割分担「老親の世話・介護」	49
図表 II-68	男女別 家庭における夫婦の役割分担「地域活動への参加」	50
図表 II-69	女性年齢別 家庭における夫婦の役割分担「地域活動への参加」	50
図表 II-70	男性年齢別 家庭における夫婦の役割分担「地域活動への参加」	51
図表 II-71	家庭における子どもの育て方	53
図表 II-72	男女別 家庭における子どもの育て方(女の子)	53
図表 II-73	男女別 家庭における子どもの育て方(男の子)	54
図表 II-74	ジェンダー意識「女は女らしく、男は男らしく」と子育て意識の関係	56
図表 II-75	ジェンダー意識「男は仕事・女は家庭」と子育て意識の関係	56
図表 II-76	地域活動における男女の役割分担	58
図表 II-77	男女別 地域活動における男女の役割分担【現状】	59
図表 II-78	男女別 地域活動における男女の役割分担【意識】	59
図表 II-79	平成 15 年度調査 地域活動における男女の役割分担	60
図表 II-80	男女別 女性が仕事を持つことについての意向	61
図表 II-81	女性職業別 女性が仕事を持つことについての意向	62
図表 II-82	年齢別 女性が仕事を持つことについての意向	63
図表 II-83	女性が仕事を持つことについての意向 前回調査との比較	64
図表 II-84	男女別 仕事を継続しない方がよいと考える理由	65
図表 II-85	女性年齢別 仕事を継続しない方がよいと考える理由	66
図表 II-86	男女別 結婚・出産後に女性が仕事をするために必要だと思うこと(3 つ以内 MA)	68
図表 II-87	女性職業別 結婚・出産後に女性が仕事をするために必要だと思うこと(3 つ以内 MA)	69
図表 II-88	女性年齢別 結婚・出産後に女性が仕事をするために必要だと思うこと(3 つ以内 MA)	70
図表 II-89	男性年齢別 結婚・出産後に女性が仕事をするために必要だと思うこと(3 つ以内 MA)	71
図表 II-90	男女別 職場における男女の違いの有無	72
図表 II-91	職場における男女の違いの内容(MA)	73
図表 II-92	年齢別 職場における男女の違いの有無	74
図表 II-93	職業別 職場における男女の違いの有無	75
図表 II-94	女性年齢別 職場における男女の違いの内容	76
図表 II-95	男性年齢別 職場における男女の違いの内容	76
図表 II-96	女性職業別 職場における男女の違いの内容	77

図表 II-97	男性職業別 職場における男女の違いの内容	77
図表 II-98	理想とする優先順位	79
図表 II-99	現実の優先順位	79
図表 II-100	男女別 女性の場合の理想とする順位	81
図表 II-101	年齢別 女性の場合の理想とする順位	81
図表 II-102	女性職業別 女性の場合の理想とする順位	82
図表 II-103	男女別 男性の場合の理想とする順位	83
図表 II-104	年齢別 男性の場合の理想とする順位	84
図表 II-105	年齢別 女性の場合の現実的な順位	85
図表 II-106	女性職業別 女性の場合の現実的な順位	85
図表 II-107	年齢別 男性の場合の現実的な順位	86
図表 II-108	豊田市の取組に対する評価	88
図表 II-109	男女別 妊婦の健康に対する取組に対する評価	89
図表 II-110	年齢別 妊婦の健康に対する取組に対する評価	89
図表 II-111	男女別 男性の育児参加促進への取組に対する評価	90
図表 II-112	年齢別 男性の育児参加促進への取組に対する評価	90
図表 II-113	男女別 保育サービスなど子育て支援の充実に対する評価	91
図表 II-114	年齢別 保育サービスなど子育て支援の充実に対する評価	92
図表 II-115	女性職業別 保育サービスなど子育て支援の充実に対する評価	93
図表 II-116	女性 就学前の子どもの有無別 保育サービスなど子育て支援の充実に対する評価	93
図表 II-117	男女別 学校教育における男女共同参画の意識づくりに対する評価	94
図表 II-118	年齢別 学校教育における男女共同参画の意識づくりに対する評価	95
図表 II-119	小学生・中学生の子どもの有無別 学校教育における男女共同参画の意識づくりに対する評価	95
図表 II-120	男女別 学校行事やPTA活動などへの父親参加促進の取組に対する評価	96
図表 II-121	年齢別 学校行事やPTA活動などへの父親参加促進の取組に対する評価	97
図表 II-122	小学生・中学生の子どもの有無別 学校行事やPTA活動などへの父親参加促進の取組に対する評価	97
図表 II-123	男女別 家庭における男性の家事・育児参加の促進に対する評価	98
図表 II-124	年齢別 家庭における男性の家事・育児参加の促進に対する評価	98
図表 II-125	男女別 男女共同参画に関する学習機会の創出に対する評価	99
図表 II-126	年齢別 男女共同参画に関する学習機会の創出に対する評価	99
図表 II-127	男女別 地域活動における男女共同参画の促進に対する評価	100
図表 II-128	年齢別 地域活動における男女共同参画の促進に対する評価	101
図表 II-129	居住地域別 地域活動における男女共同参画の促進に対する評価	101
図表 II-130	男女別 自治区役員や地域会議委員など意志決定の場への女性の登用に対する評	

価.....	102
図表 II-131 年齢別 自治区役員や地域会議委員など意志決定の場への女性の登用に対する評価.....	103
図表 II-132 居住地域別 自治区役員や地域会議委員など意志決定の場への女性の登用に対する評価.....	103
図表 II-133 男女別 各種団体の女性リーダーの養成など人材育成の推進に対する評価.....	104
図表 II-134 年齢別 各種団体の女性リーダーの養成など人材育成の推進に対する評価.....	104
図表 II-135 男女別 ドメスティックバイオレンス(DV)の理解促進や解消への取組に対する評価.....	105
図表 II-136 年齢別 ドメスティックバイオレンス(DV)の理解促進や解消への取組に対する評価.....	105
図表 II-137 男女別 セクシュアル・ハラスメント(セクハラ)の理解促進や解消への取組に対する評価.....	106
図表 II-138 年齢別 セクシュアル・ハラスメント(セクハラ)の理解促進や解消への取組に対する評価.....	107
図表 II-139 職業別 セクシュアル・ハラスメント(セクハラ)の理解促進や解消への取組に対する評価.....	107
図表 II-140 男女別 職場における男女平等な環境づくりに対する評価.....	108
図表 II-141 年齢別 職場における男女平等な環境づくりに対する評価.....	109
図表 II-142 職業別 職場における男女平等な環境づくりに対する評価.....	109
図表 II-143 男女別 離職した女性に対する再チャレンジ支援など女性の就業継続支援に対する評価.....	110
図表 II-144 年齢別 離職した女性に対する再チャレンジ支援など女性の就業継続支援に対する評価.....	111
図表 II-145 職業別 離職した女性に対する再チャレンジ支援など女性の就業継続支援に対する評価.....	111
図表 II-146 男女別 ワーク・ライフ・バランス理解促進に対する評価.....	112
図表 II-147 年齢別 ワーク・ライフ・バランス理解促進に対する評価.....	113
図表 II-148 職業別 ワーク・ライフ・バランス理解促進に対する評価.....	113
図表 II-149 男女別 高齢者の健康やいきがいづくりへの取組に対する評価.....	114
図表 II-150 年齢別 高齢者の健康やいきがいづくりへの取組に対する評価.....	114
図表 II-151 男女別 要介護者を支える家庭への支援体制に対する評価.....	115
図表 II-152 年齢別 要介護者を支える家庭への支援体制に対する評価.....	115
図表 II-153 男女別 イベント、広報紙などによる男女共同参画意識の啓発推進に対する評価.....	116
図表 II-154 年齢別 イベント、広報紙などによる男女共同参画意識の啓発推進に対する評価.....	116
図表 II-155 男女別 男女共同参画を推進する市民活動の支援に対する評価.....	117
図表 II-156 年齢別 男女共同参画を推進する市民活動の支援に対する評価.....	117
図表 II-157 男女別 女性の様々な悩みを気軽に相談できる相談体制の充実に対する評価.....	118
図表 II-158 年齢別 女性の様々な悩みを気軽に相談できる相談体制の充実に対する評価.....	118
図表 II-159 男女別 男女共同参画社会の実現において重要と思うもの.....	120
図表 II-160 女性年齢別 男女共同参画社会の実現において重要と思うもの.....	122

図表 II-161	男性年齢別 男女共同参画社会の実現において重要と思うもの	123
図表 II-162	分析の方法	124
図表 II-163	女性 各施策の評価(「わからない」を除いた値)	125
図表 II-164	男性 各施策の評価(「わからない」を除いた値)	126
図表 II-165	女性 各施策の分類結果	128
図表 II-166	男性 各施策の分類結果	128
図表 II-167	自分自身や家族の男女共同参画に関する理解が深まったと思うこと(MA)	130
図表 II-168	男女別 地域イベントや行政が発信する情報の入手経路(MA)	131
図表 II-169	女性年齢別 地域イベントや行政が発信する情報の入手経路(MA)	132
図表 II-170	男性年齢別 地域イベントや行政が発信する情報の入手経路(MA)	133
図表 II-171	男女共同参画に関する意識啓発を推進する方法(MA)	135
図表 II-172	女性年齢別 男女共同参画に関する意識啓発を推進する方法(MA)	136
図表 II-173	男性年齢別 男女共同参画に関する意識啓発を推進する方法(MA)	137
図表 II-174	アンケートについての意見	138
図表 II-175	行政への要望	139

調査結果の概要

男女共同参画社会とは



誰もが自分らしく、個性と能力を発揮できる社会になっているでしょうか？

男女共同参画社会とは、女性と男性が社会を構成する対等なメンバーとして認め合い、仕事、家庭、地域などあらゆる分野に参画し、喜びも責任も、ともに分かち合う社会です。

豊田市では、男女共同参画社会の実現を目指して、平成12年に「とよた男女共同参画プラン(クローバープラン)」を策定し、各種施策の取組を積極的に進めてきました。今回、プランの計画期間(平成21年度)の終了が近いことを踏まえ、平成10年、15年に実施した男女共同参画に関する意識調査から市民の皆さんの意識の変化や男女の社会参画の実態、施策に対する評価などを比較・検証し、新プラン策定の基礎資料とするため、改めて意識調査を実施しました。

配布対象 20歳以上の男女各1,500人の市民を無作為抽出

回収数 女性888人(回収率59.2%)、男性645人(回収率43.0%)

豊田市における男女平等意識の変化

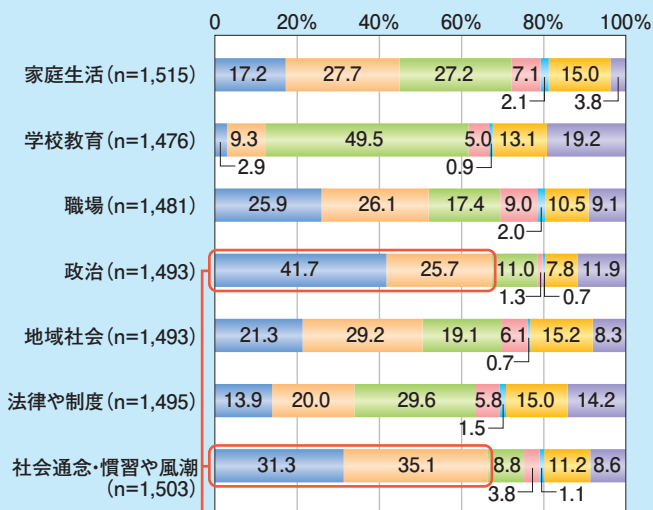


男女が対等なパートナーとして認め合う社会へ、緩やかですが変化してきています。

「男女平等意識」をみると、いずれの分野においても、男性が優遇されていると感じている人の割合が、女性が優遇されていると感じている人の割合を上回っています。特に、「政治」や「社会通念・慣習や風潮」では、約7割の人が、男性が優遇されていると感じています。

過去の調査と比較すると、男女が平等であると感じている人は、それぞれの分野でおおむね増加傾向にあります。クローバープラン(後期)で掲げた目標値には達していません。豊田市においては、10年間で緩やかに、男女が対等なパートナーとして扱われる社会に変化してきてはいますが、さらなる意識の改善に向けた啓発や取組が必要です。

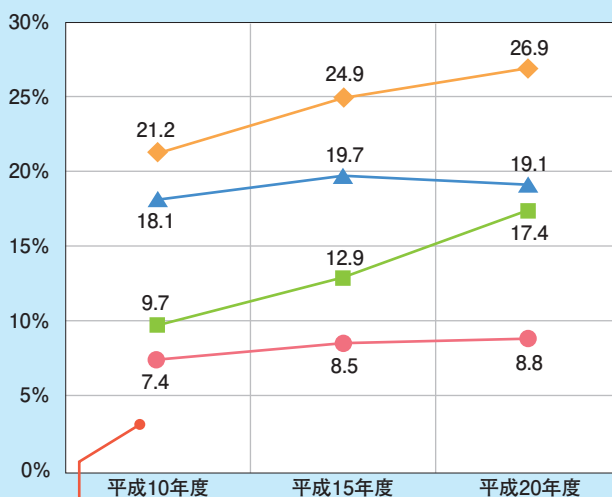
■男女平等意識



依然として、約7割の人が、男性が優遇されていると感じている分野があります。

■ 男性の方が優遇されている ■ 男性の方がやや優遇されている
■ 平等である ■ 女性の方がやや優遇されている
■ 女性の方が優遇されている ■ どちらともいえない
■ わからない

■過去の調査との比較(「平等である」の割合)



少しずつ、男女が平等に扱われる社会に変化していますがさらなる改善が必要です。

◆ 家庭生活 ■ 職場
▲ 地域社会 ● 社会通念・慣習や風潮

家庭における男女の役割分担

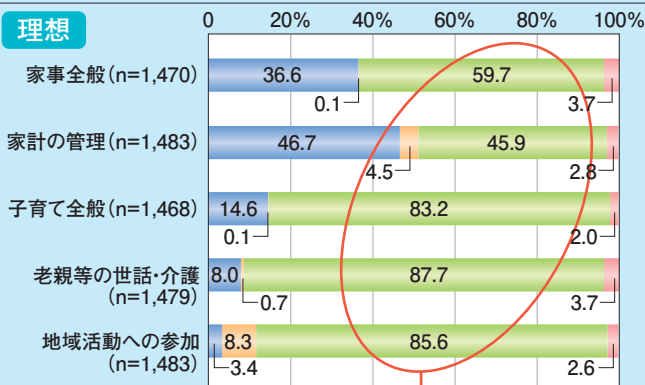


多くの方が家庭のことは夫婦共同で行いたいと考えていますが、
現実には、家事の大半は妻がしています。

育児や地域活動への参加、介護などを夫婦共同で行うことを理想とする家庭が多い一方で、現実には、家事や家計の大半は妻が行っています。

■家庭における夫婦の役割分担

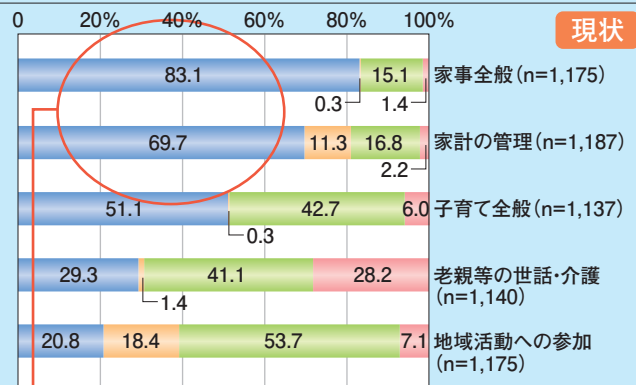
理想



多くの方が、家庭の仕事を共同で行いたいと考えています。

■ 主に妻が行うのがよい ■ 主に夫が行うのがよい
■ 共同で行うのがよい ■ その他

現状



家事のほとんどは妻が行っています。

■ 主に妻が行う ■ 主に夫が行う
■ 共同で行う ■ その他

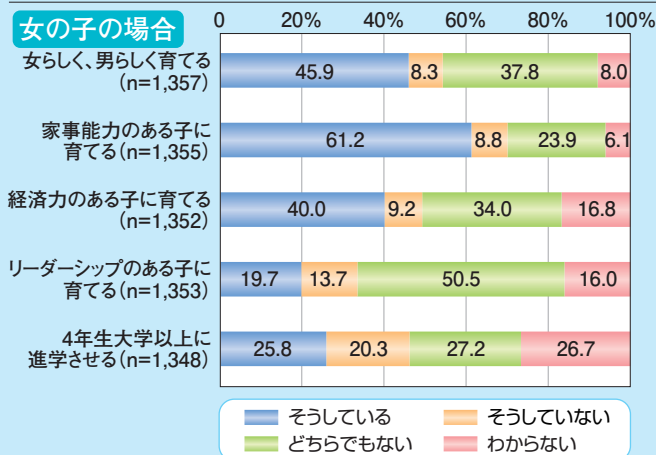


子どもの頃から、男女で期待される役割が異なっています。

女の子には家事能力が、男の子にはリーダーシップや経済力、学歴などが期待されています。また、ジェンダー意識にとらわれている人の方が、とらわれていない人よりも、女らしく、男らしく育てることを重視しています。家事能力もリーダーシップも、あるいは経済力も、男女問わず自立して生きるために必要な要素です。子どもの性別によって接し方を変えることは、子どものうちからジェンダー意識を育てることにもつながります。

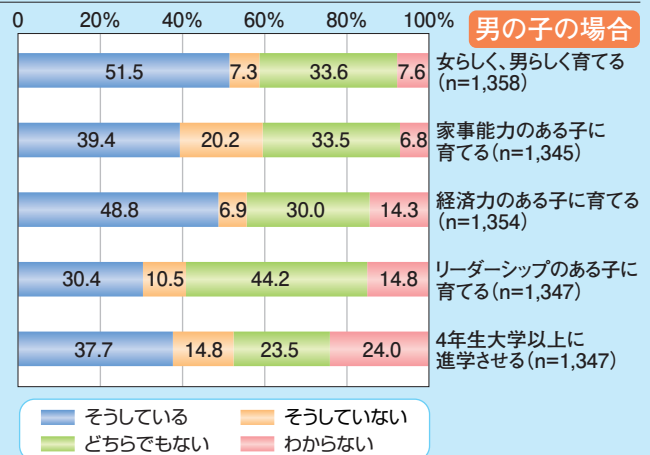
■子どもへの期待、育て方

女の子の場合



■ そうしている ■ そうしていない
■ どちらでもない ■ わからない

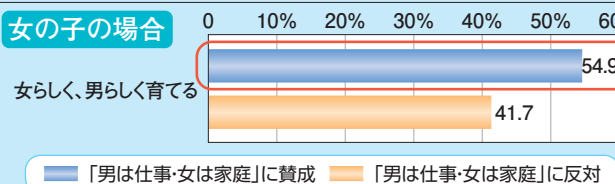
男の子の場合



■ そうしている ■ そうしていない
■ どちらでもない ■ わからない

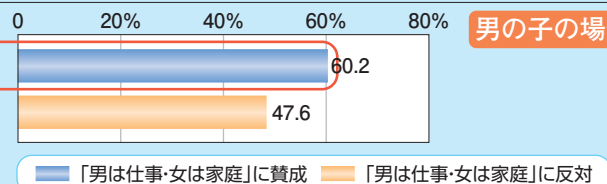
■ジェンダー意識が子どもの育て方に及ぼす影響

女の子の場合



■ 「男は仕事・女は家庭」に賛成 ■ 「男は仕事・女は家庭」に反対

男の子の場合



■ 「男は仕事・女は家庭」に賛成 ■ 「男は仕事・女は家庭」に反対

ジェンダー意識にとらわれている人の方が、女らしく、男らしく育てることを重視しています。

注) ジェンダーとは、生物学的な性別ではなく、「女らしさ、男らしさ」など文化的・社会的につくられた性差をさします。

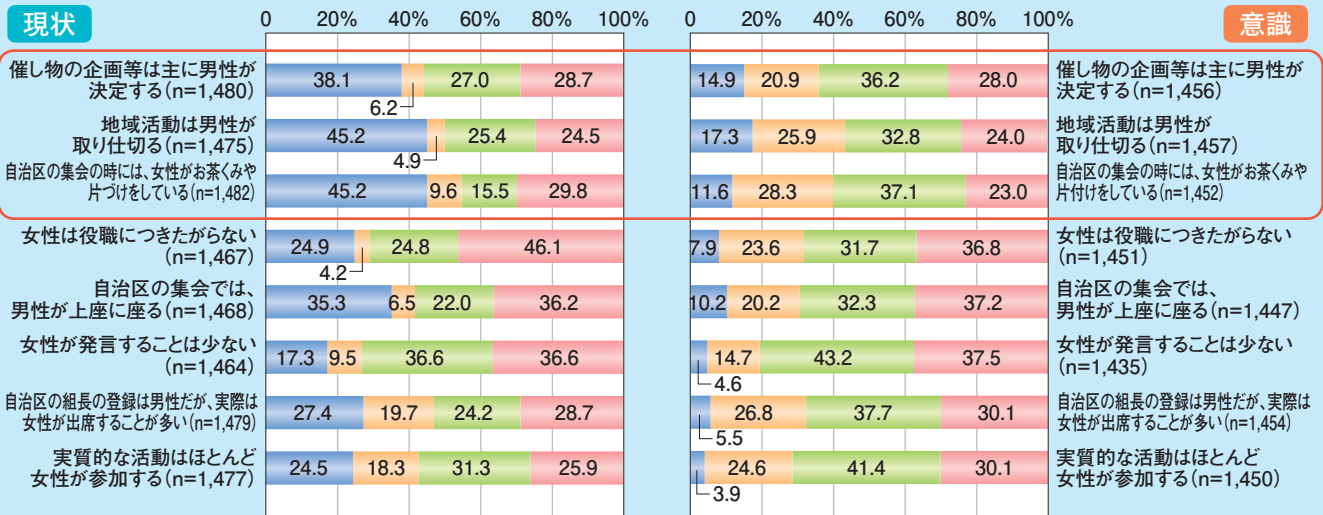
地域社会における男女の役割分担



男性が企画や仕切りを行い、
女性がお茶くみや片付けを行うという分担がなされています。

地域活動においては、男性が企画や仕切りを行い、女性がお茶くみや片づけなどの雑事を行うなどといった従来からの慣習による性別の役割分担がいまだに存在しており、それについて約3~4割の人が改善すべき、約2~3割の人が仕方ないと考えています。

■地域社会における男女の役割分担



男性=企画、女性=片づけという役割分担がなされており、改善が求められています。

■ そうしている ■ そうしていない ■ どちらでもない ■ わからない

■ 当然だと思う ■ 仕方ない ■ 改善すべき ■ わからない

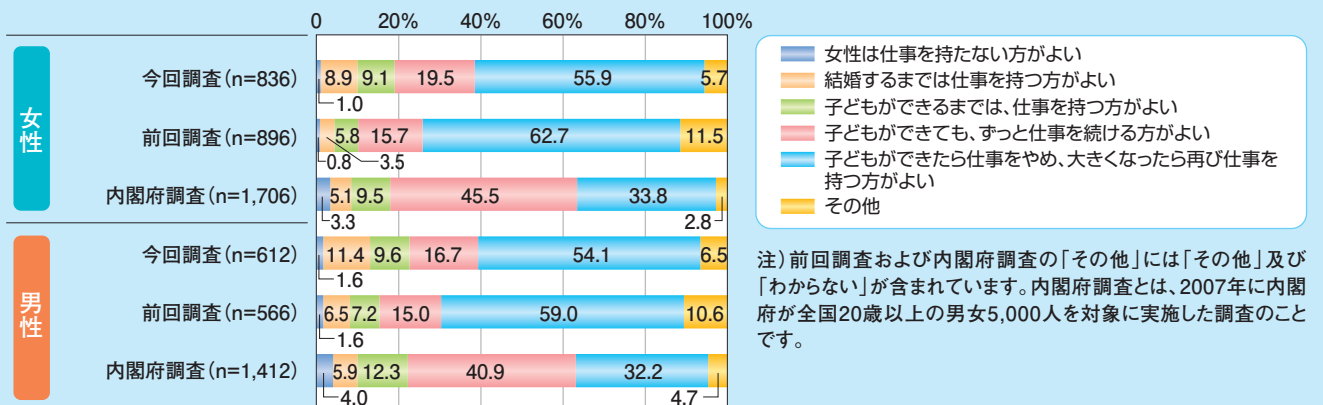
職場における男女の役割分担



女性は結婚や出産を機に仕事を離れるほうがよいと考えている人が、
全国に比べて多くなっています。

男女ともに過半数の人が、「子どもができれば仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つ方がよい」と考えています。内閣府調査では男性の約4割、女性の約5割が回答していた、「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」と考えている人は、前回調査と比較すると増えてはいますが、それでも約2割と全国に比べて大幅に低くなっています。このように、豊田市では、女性は結婚や出産を機に仕事を離れるほうがよいと考えている人が、全国に比べて多くなっています。

■女性が仕事を持つことについての考え



■ 女性は仕事を持たない方がよい
■ 結婚するまでは仕事を持つ方がよい
■ 子どもができるまでは、仕事を持つ方がよい
■ 子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい
■ 子どもができれば仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つ方がよい
■ その他

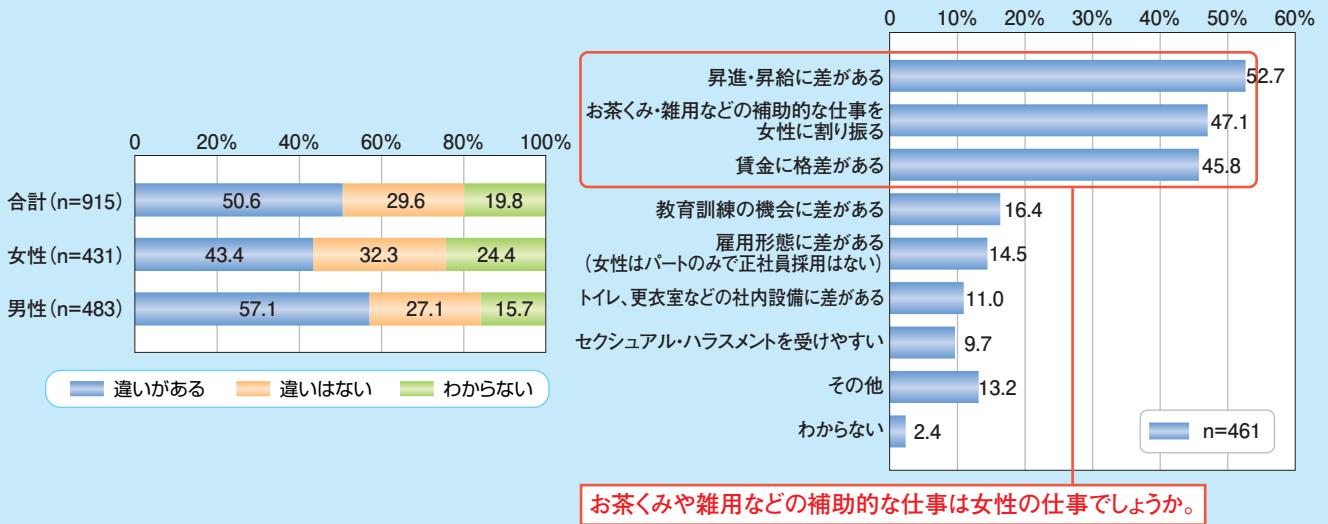
注) 前回調査および内閣府調査の「その他」には「その他」及び「わからない」が含まれています。内閣府調査とは、2007年に内閣府が全国20歳以上の男女5,000人を対象に実施した調査のことです。



過半数の人が、仕事の内容や待遇などにおいて男女に差があると感じています。

過半数の人が、職場において男女の違いがあると感じています。違いがあると感じている人のうち過半数の人が、女性には補助的な仕事が割り振られ、昇進・昇級、賃金に差が生じていると感じています。

■職場における男女の平等意識



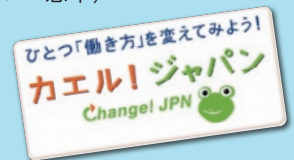
仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の実現状況

仕事と生活の調和が実現した社会とは…

「国民一人ひとりが、やりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中興期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現出来る社会」です。(ワーク・ライフ・バランス憲章)

誰もが、仕事や子育て、介護、地域活動など様々な活動を自分の希望するバランスで展開できる社会の推進は、男女共同参画社会を実現させる上で重要な取組です。

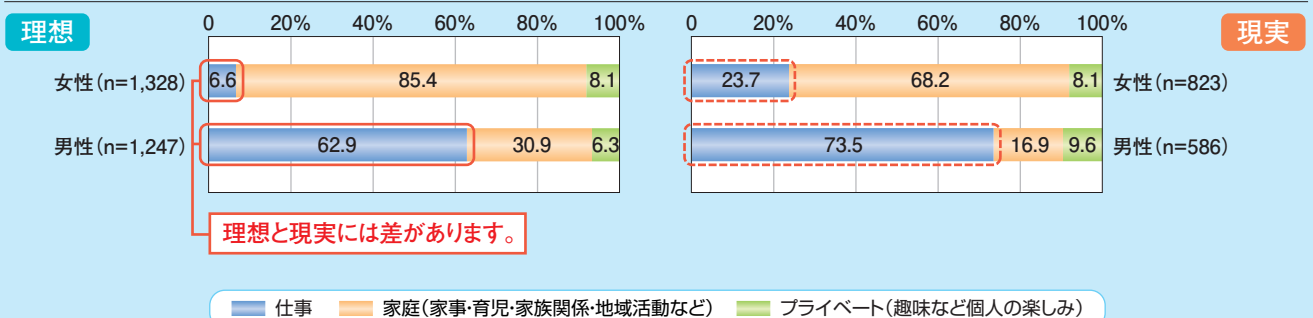
国では、企業、労働者、国・地方公共団体の各主体だけでなく、国民全員の取組への気運を醸成するため、2008年より「カエル! ジャパン」キャンペーンを行っています。



現実、理想よりも「仕事」が優先されています。

仕事・家庭・プライベートのうち最も優先したいものについて、女性は「家庭」を、男性は「仕事」を優先したい人の割合が最も高くなっています。現実でも、女性は「家庭」を、男性は「仕事」を優先している人の割合が最も高くなっていますが、比率をみると男女ともに「仕事」を優先している人の割合が、理想よりも高くなっています。

■ワーク・ライフ・バランスの実現状況



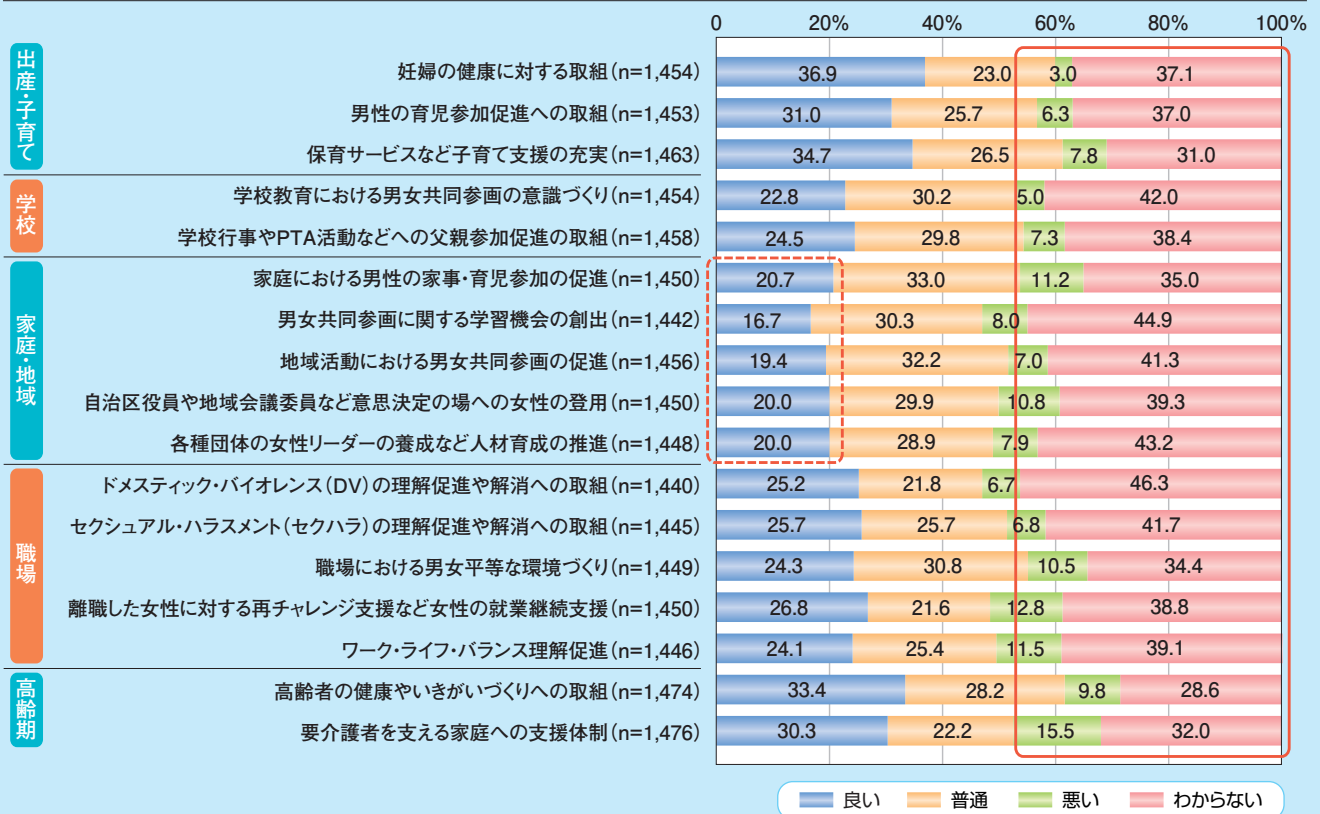
豊田市の取組に対する評価



あなたは、豊田市の男女共同参画に関する取組を知っていますか？

豊田市の取組について知らない人が多く、取組自体の認知についても検討が必要です。項目別にみると、「出産・子育て」、「高齢期」における取組の評価が比較的高い一方で、「家庭・地域」については全般的に評価が低い状況にあり、重点的な取組が必要になると考えられます。

■豊田市の取組に対する評価



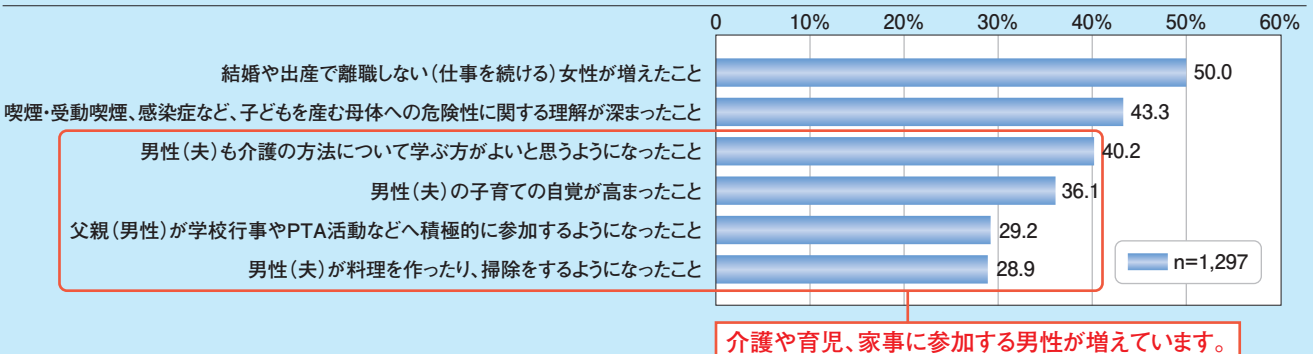
男女共同参画に関する理解が深まったこと



女性が仕事を続けることの理解や、男性の介護・育児・家事参加への意識が高まっています。

過半数の人が、これまでの豊田市の取組により、女性が仕事を続けることに対する理解が深まったと感じています。また、男性の介護や育児、家事参加への意識も高まっています。

■これまでの豊田市の取組によって男女共同参画に関する理解が深まったこと



男女共同参画社会の実現に向けて重要だと思うこと

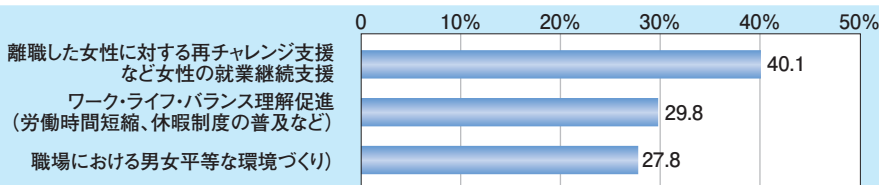
豊田市では、今後も、皆さんが重要と考える施策を優先的に進めていくことによって、男女共同参画社会の実現を目指します。

多様な働き方が選択可能な、男女が等しく扱われる職場環境

子育てや介護などの理由により、働きたくても働けない女性や、仕事などの理由により、育児に参加できない男性がいます。

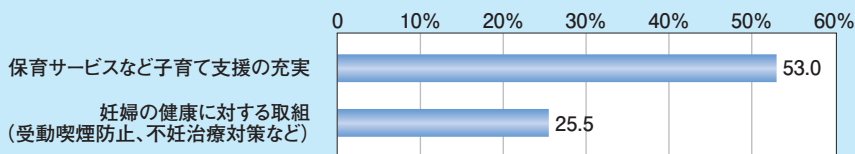
また、職場では、お茶くみなどの補助的な仕事が女性だけに割り振られている場合もあります。男性、女性が対等なパートナーとして、働けるよう、企業に呼びかけていきます。

男女共同参画社会の実現において重要と思うもの



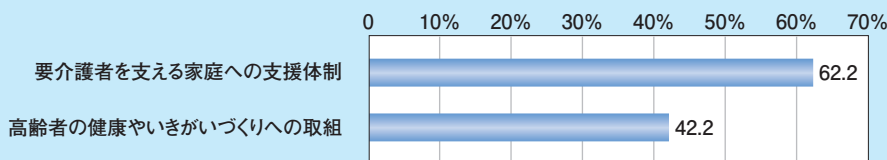
安全に子どもを生み、育てられる環境

男女共同参画社会実現のために、過半数の人が、「保育サービスなど子育て支援の充実」が必要と考えています。少子化が進む中、女性が安心・安全に出産し、子育てできるような環境づくりを推進していきます。



介護を支え、高齢者が生き生きと生活できる環境

6割の人が、男女共同参画社会の実現には「要介護者を支える家庭への支援体制」が重要と感じています。超高齢化社会の到来を控える中、高齢者の生活を支える人や高齢者自身が生き生きと生活できるよう、支援体制を充実させていきます。



豊田市には、男女共同参画推進の拠点施設「キラッ☆とよた」があります。

女性のための電話相談室クローバーコール(専用電話:33-9680)

悩みや問題を抱えた女性のための無料電話相談で、専門の女性相談員が対応しています。相談日時は、火曜、木曜、金曜、土曜日の10時～16時、水曜日の10～13時、16時～19時です。

男性のための電話相談室メンズコール☆とよた(専用電話:37-0034)

悩みや問題を抱えた男性のための無料電話相談で、専門の男性相談員が対応しています。相談日時は、毎月第2・第4金曜日の18時～20時です。

ミニッツ10 ジェンダー講座(エフエムとよたラジオラビート(78.6MHz)にて放送)

家庭、職場、地域での様々な会話の中のにぞく「ジェンダー意識」をドラマ仕立てにし、分かりやすく解説しています。放送時間は、毎週火曜日の午前7時40分からと、土曜日の午前8時45分からの10分間です。

情報誌「クローバー」の発行

男女共同参画に関する情報や、キラッ☆とよた主催講座の案内などを掲載した情報誌を発行しています。

あなたとわたしのフォーラム

市民の皆さんに男女共同参画について広く理解していただくために、男女共同参画に関する講演会を開催しています。

「キラッ☆とよた」で
行っている
事業の一部を
ご紹介します。

男女共同参画社会の実現に向けて一人ひとりができること

男女がお互いに対等なパートナーとして認め合い、責任や喜びを分かち合っ
て、家庭・地域・職場などを共に築きあげていく社会が男女共同参画社会です。

家庭

女性は家事を優先すべきと考えていませんか。
お互いを思いやり、協力ができないときには感謝の気持ちを伝えて
みてはいかががでしょうか。

家事や育児、介護には、大変時間がかかります。全てを一人で行おうとすると、自分の個性
や能力を活かす機会を十分に持てません。一度離職した女性に対する就業継続支援を望む
声の大きい中、女性だけに家事や育児、介護の負担が偏ってしまっている状況は、男女が対等
なパートナーとして家庭を築いているとは言えません。

自分がやらなければ、あるいは、妻が当然やってくれるものだという考えを見つめなおし、
お互いを思いやり、協力ができないときには感謝の気持ちを伝えてみてはいかががでしょうか。

地域

慣習にとらわれていませんか。
地域活動にも女性のパワーが必要です。

なぜ地域活動は男性が仕切るのでしょうか。なぜ女性はお茶くみや片付けなどの裏方の役
回りなのでしょうか。

全国には、女性のパワーで活性化されている地域がたくさんあります。従来からのしきたり
や慣習にとらわれず、地域づくりに女性の力を活かしてみてはいかががでしょうか。

職場

能力ではなく、性別により役割を分担していませんか。
男女共に、個人の望ましいワーク・ライフ・バランスを実現できる
職場環境を目指しましょう。

男女が対等なパートナーとして、共に活躍する職場を築いていくためには、性別により役割
を分担するのではなく、個人の個性や能力により業務を分担することが大切です。

誰もが、仕事や子育て、介護、地域活動など様々な活動を自分の希望するバランスで展開
出来る社会が求められている中、個人が望ましいワーク・ライフ・バランスを実現できるよう、
男女ともに、仕事をしながらも家庭生活のための時間や地域活動に参加する時間などを気兼
ねなく確保できる職場を目指しましょう。

※各グラフの合計値は、四捨五入により100%にならない可能性があります。

調査結果の分析

I. 調査の概要

1 調査の概要

1-1. 調査の目的

本調査は、平成 18 年 3 月に発行した「とよた男女共同参画プラン（クローバープラン後期）」（以下、「クローバープラン（後期）」）の策定期間終了（平成 21 年度）に向け、家庭や地域、職場等における男女共同参画に関する市民の意識や男女平等、男女の社会参加の実態等がどのように変化してきたかを改めて調査し、平成 10 年度、平成 15 年度の過去 2 回の意識調査と比較・検証することにより、男女共同参社会実現に向けての施策展開の基礎とするとともに新プラン策定の基礎資料とすることを目的としている。

1-2. 調査項目

本年度実施の調査項目は以下のとおりである。

1 男女平等意識【問1】

2 男女の関わり・役割分担【問2】

3 家庭における男女の役割分担【問3・問4】

4 地域活動における男女の役割分担【問5】

5 職場における男女の役割分担【問6～問9】

6 ワーク・ライフ・バランス【問10】

7 男女共同参画社会実現に向けた現在の取組【問11・問12】

8 男女共同参画社会実現に向けた今後の取組【問13～問15】

■ 夫婦の役割分担

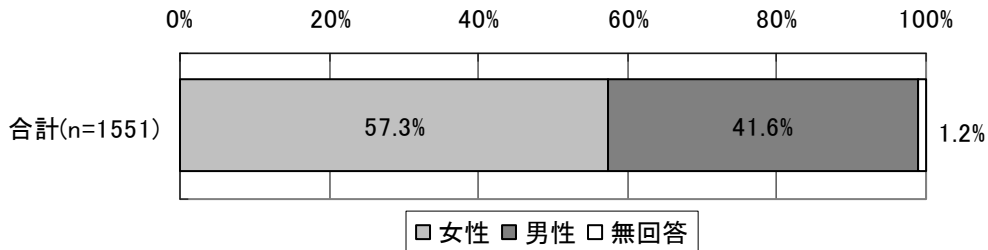
■ 子どもの育て方

1-3. 調査方法

- 配布方法：郵送留め置き・郵送回収
- 配布対象：20 歳以上の男女各 1,500 人の市民を無作為抽出
- 回収数：全体 1,551 人（回収率 51.7%）
女性 888 人（回収率 59.2%）、男性 645 人（回収率 43.0%）、
性別不明 18 人（回収率 1.2%）

1-4. 回答者属性 性別

図表 I-1 性別

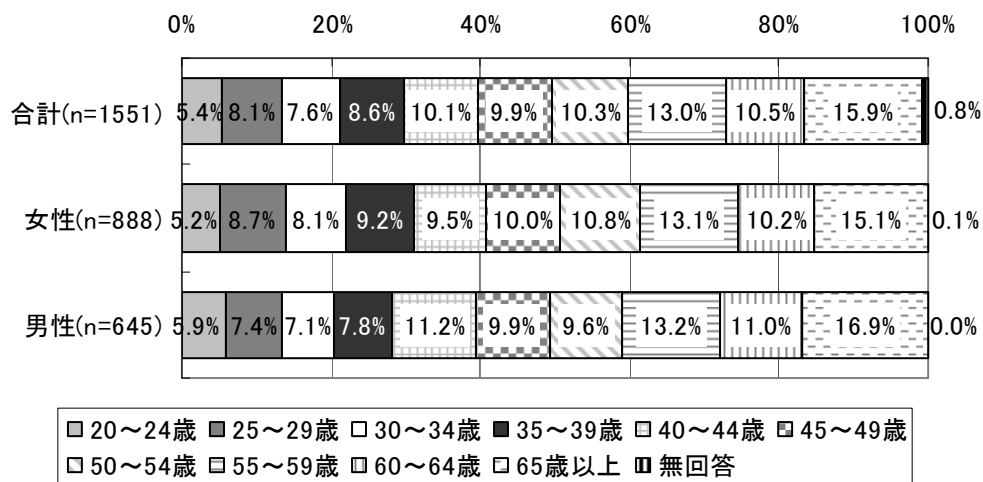


注) nとは、データ数を表す(以下省略)

なお、各グラフの合計値は四捨五入により100%にならない場合がある。(以下省略)

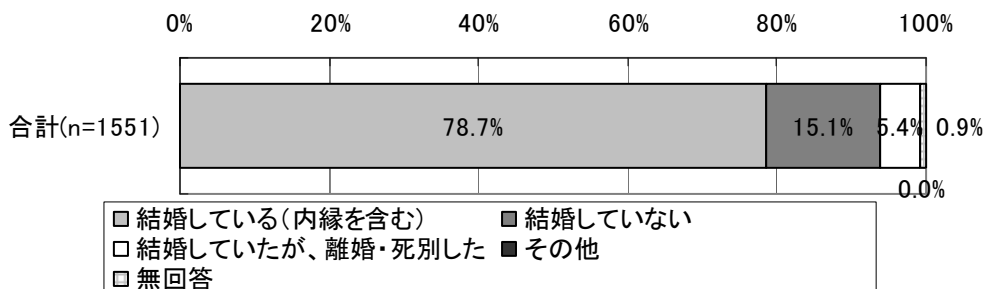
年齢

図表 I-2 年齢



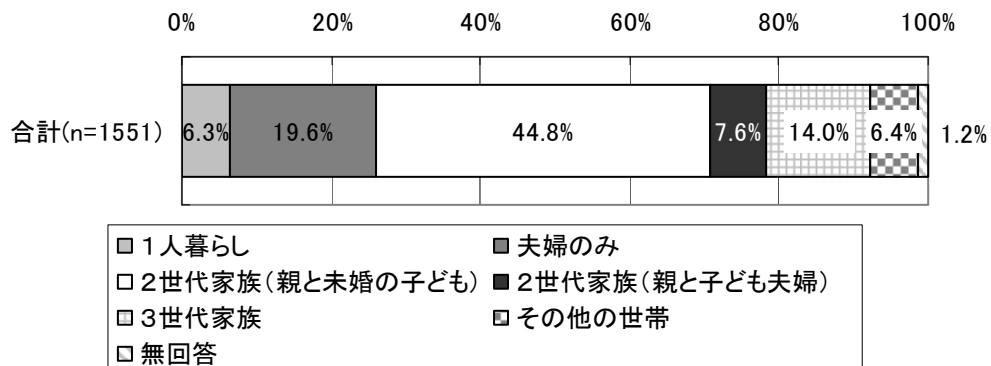
既婚等の別

図表 I-3 既婚等の別



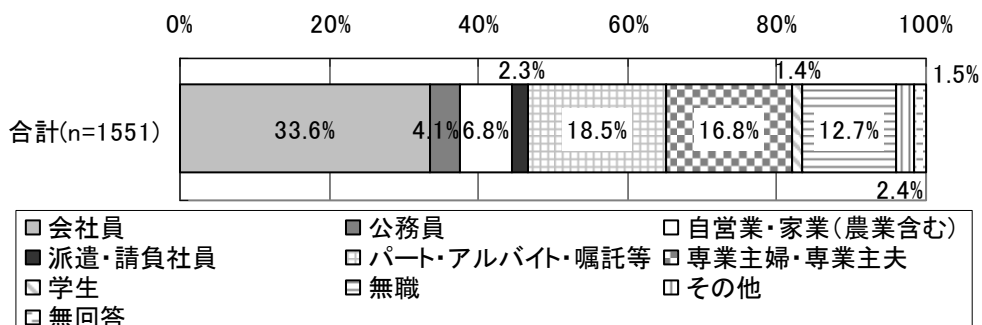
家族構成

図表 I-4 家族構成



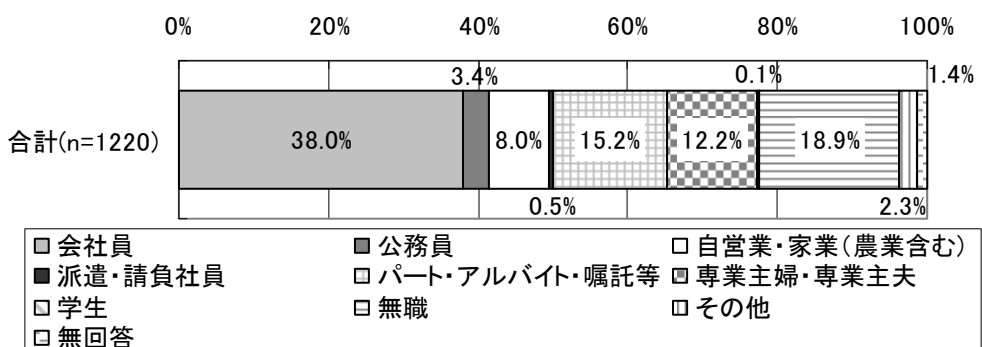
回答者の職業

図表 I-5 回答者の職業



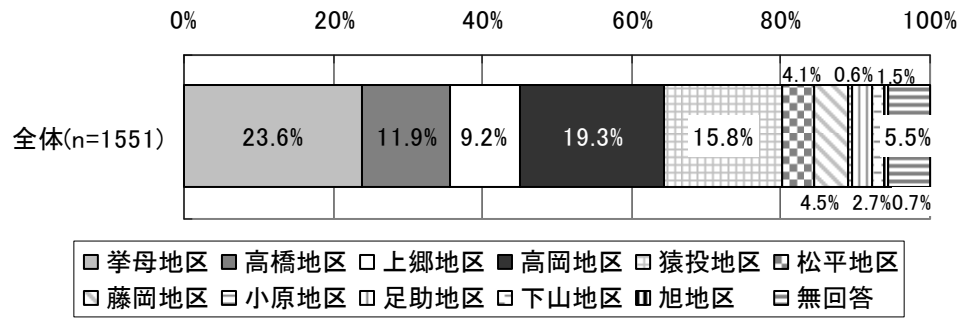
配偶者の職業

図表 I-6 配偶者の職業



居住地区

図表 I-7 居住地区



II. 調査結果の分析

1 男女平等意識

1-1. 男女平等意識

- 全ての分野において、男性が優遇されていると考える人の割合が、女性が優遇されていると考える人の割合を上回っている。
- 男性の優遇度が高いのは「政治」「社会通念・慣習や風潮」である。他方、性別による優遇度の差が小さい分野は「学校教育」で、過半数の人が、男女が対等なパートナーとして扱われていると感じている。
- 平成10年度以降、各分野における男女平等意識は確実に変化しているものの、目標に達するほどには至っておらず、男女共同参画に関わる意識啓発や各分野の取組が一層必要とされている。

問1 A～Eの分野において、男女の地位は平等になっていると思いますか。また、F、Gにあげた社会全体のしくみにおいてはどう思いますか。A～Gについて、あてはまるものを各々1つ選**び○印**をつけてください。

	優遇されている 女性の方が	やや優遇されている 女性の方が	平等である	やや優遇されている 男性の方が	優遇されている 男性の方が	どちらともいえない	わからない
A 家庭生活で	1	2	3	4	5	6	7
B 学校教育の場で	1	2	3	4	5	6	7
C 職場で	1	2	3	4	5	6	7
D 政治の場で	1	2	3	4	5	6	7
E 地域社会の場で	1	2	3	4	5	6	7
F 法律や制度で	1	2	3	4	5	6	7
G 社会通念・慣習や風潮で	1	2	3	4	5	6	7

注) 「B 学校教育の場」とは、授業や学校生活など学校の環境全体とお考えください。

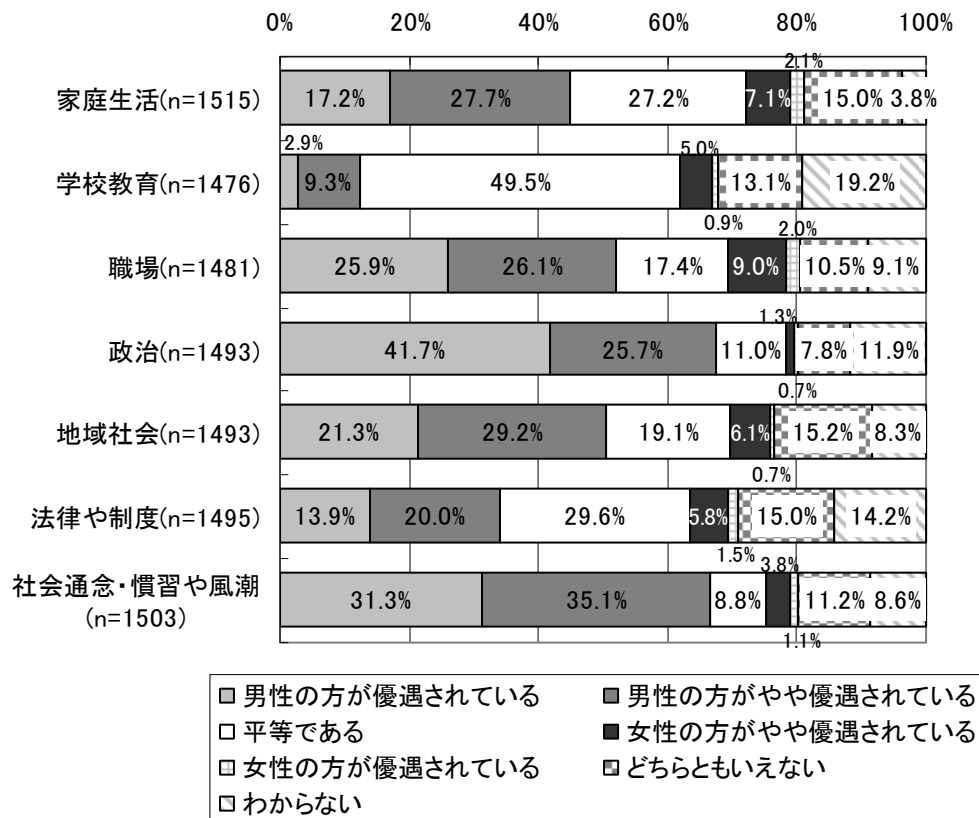
(1) 全体の傾向

- ・ 各分野の男女平等意識についてみると（図表 II-1）、全ての分野において、男性が優遇されている（「男性の方が優遇されている」および「男性の方がやや優遇されている」の合計）と考える人の割合が、女性が優遇されている（「女性の方が優遇されている」および「女性の方がやや優遇されている」の合計）と考える人の割合を上回っている。
- ・ 分野別にみると、「政治」「社会通念・慣習や風潮」「職場」「地域社会」においては過半数を超える人が、男性が優遇されていると感じている。最も「平等である」と

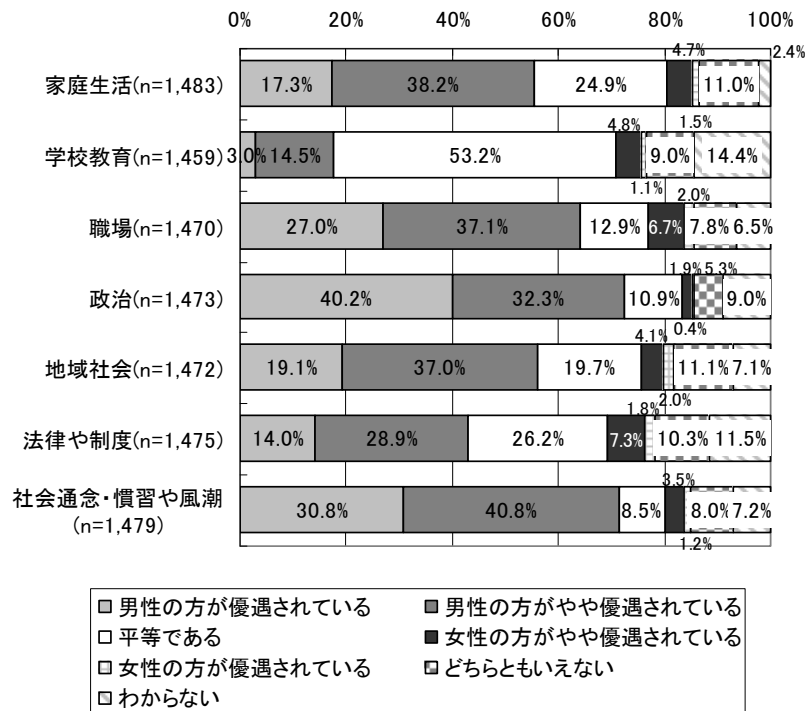
考える人の割合が多い分野は「教育」で、その割合は49.5%となっている。

- 平成15年度に実施された「豊田市男女共同参画に関する意識調査」（以下、前回調査）および平成10年度の同調査と比較すると（図表 II-2、図表 II-3）、男性が優遇されていると考える人の割合は、すべての項目について調査を重ねるごとに減少しており、市民意識の変化がみてとれる。
- 平成17年度に策定された「クローバープラン（後期）」にて示された目標値と比較すると（図表 II-4）、「家庭生活」「職場」「地域社会」「社会通念・慣習や風潮」の4分野全てについて、平成21年度の目標に達していない。平成10年度以降、各分野における男女平等意識は確実に変化しているものの、目標に達するほどには至っておらず、男女共同参画に関わる意識啓発や各分野の取組が一層必要とされている。
- 男女別にみると（図表 II-5）、全ての分野について、女性の方が男性よりも、男性が優遇されていると考える人の割合が高い。特に、「家庭」「法律や制度」「政治」分野において、男女間の意識差が大きくなっている。

図表 II-1 男女平等意識

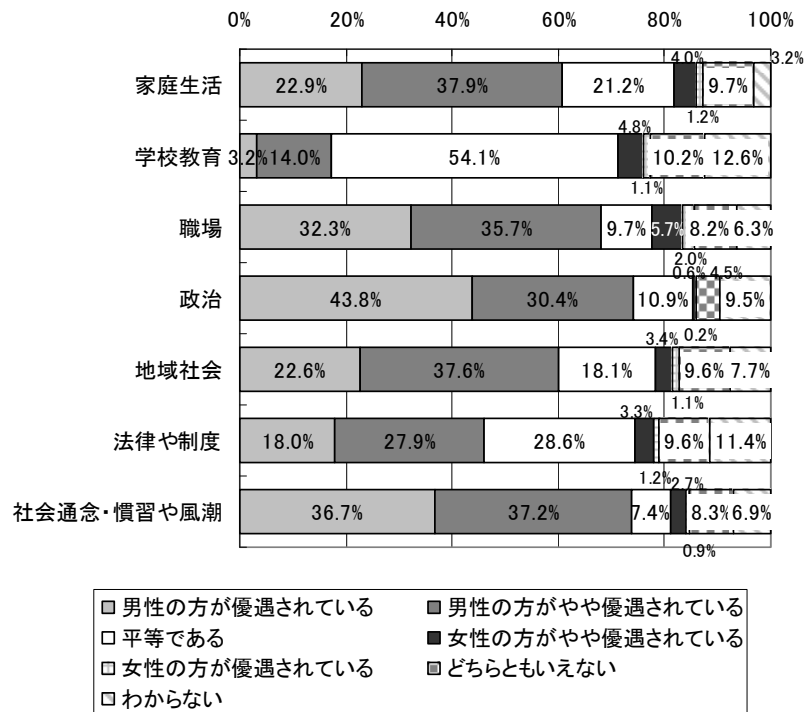


図表 II-2 平成15年度調査 男女平等意識



備考) 平成 15 年 8 月に豊田市在住の 20 歳以上の男女 1,500 人を対象とした調査。有効回収数は女性 908 人、男性 583 人

図表 II-3 平成10年度調査 男女平等意識 (n=1,733)



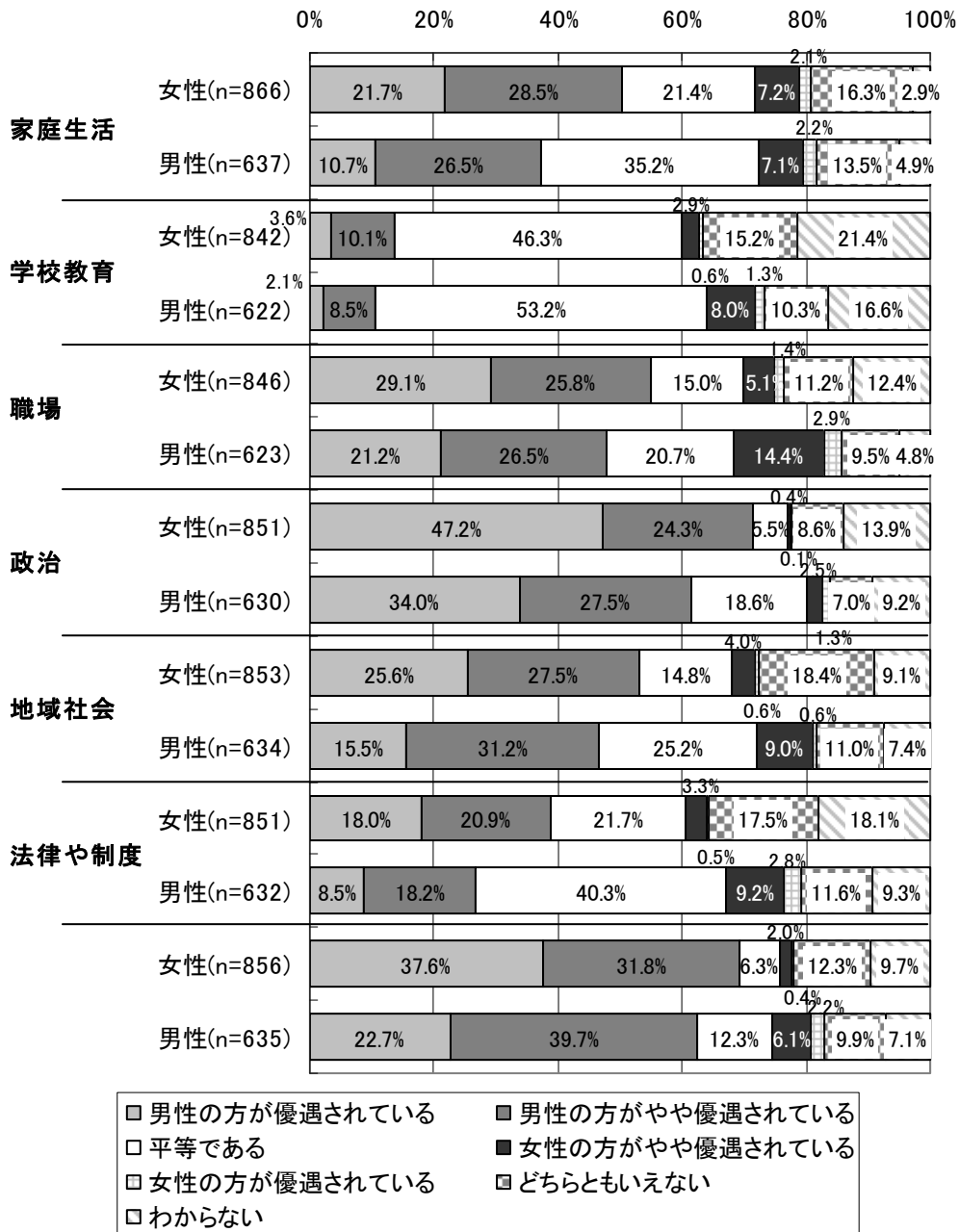
備考) 平成 10 年 10 月に豊田市在住の 20 歳以上の男女 1,500 人を対象とした調査。有効回収数は女性 971 人、男性 758 人

図表 II-4 平成15年度調査・「クローバープラン（後期）」における分野別目標との比較

項目	H10 年度時点	H15 年度時点	現状	H21 年度目標
家庭生活	21.2%	24.9%	27.2%	30%以上
職場	9.7%	12.9%	17.4%	20%以上
地域社会	18.1%	19.7%	19.1%	30%以上
社会通念・慣習や風習	7.4%	8.5%	8.8%	20%以上

備考) 「平等である」と感じている人の割合

図表 II-5 男女別 男女平等意識



スコア化による分析

ここでは、男女平等意識のそれぞれの項目について、優遇度をみるために、図表 II-6に示した方法により、男女それぞれの優遇度をスコア化し、分析を行うこととする。

このようにして求めたスコアは、男性優遇度が高いものほど「2」に近づき、女性優遇度が高いものほど「-2」に近づき、「0」に近いほど男女平等感が高い。

図表 II-6 加重平均による優遇度の求め方

■ 項目のスコア化

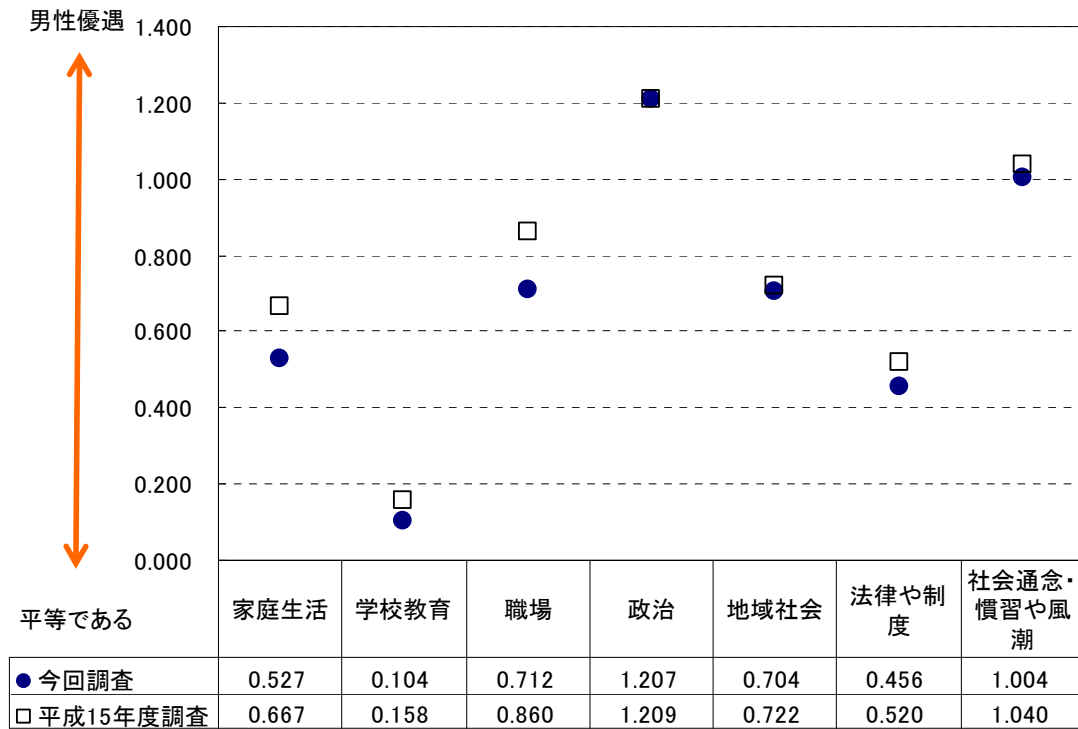
各選択肢について、「男性の方が優遇されている」を2点、「男性の方がやや優遇されている」を1点、「平等である」を0点、「女性の方がやや優遇されている」を-1点、「女性の方が優遇されている」を-2点とし、それぞれの点数に回答者割合（実数）を掛け合わせたものを足し合わせた。

$$\text{優遇度} = 2 \times (\text{「男性の方が優遇されている」の割合}) + 1 \times (\text{「男性の方がやや優遇されている」の割合}) + 0 \times (\text{「平等である」の割合}) + (-1) \times (\text{「女性の方がやや優遇されている」の割合}) + (-2) \times (\text{「女性の方が優遇されている」の割合})$$

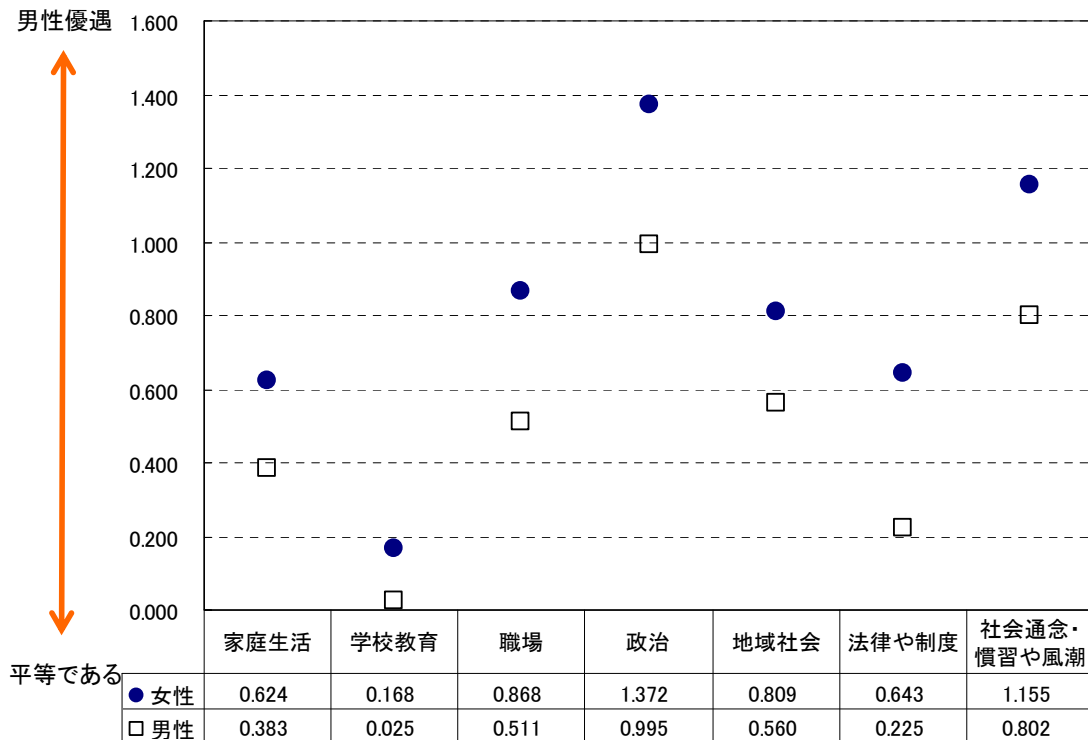
なお、スコア化にあたっては、各項目間の評価の公平性を担保するため、各項目について優遇度を評価していない回答者（「わからない」の回答）を除いた回答数を母数として算出し直した。

- ・ 各分野のうち最も男性優遇度が高いのは「政治」で、続いて「社会通念・慣習や風潮」となっている。他方、性別による優遇度の差が小さい分野は「学校教育」で、学校教育においては、男女が対等なパートナーとして扱われていると感じている人の割合が高いことがわかる。
- ・ 平成15年度調査と比較すると（図表 II-7）、全ての分野において、性別により優遇度に差があると考える人の割合が減少している。特に、「家庭生活」および「職場」については変化の割合が大きい。一方で、「政治」と「社会通念や慣習や風潮」においては、性別により優遇度に差があると考える人の割合は減少しているものの、未だにその割合は他の項目よりも高く、課題となっている。
- ・ 性別による意識の差をみると（図表 II-8）、全ての分野において、女性の方が男性よりも、男性優遇度が高いと感じる人の割合が高くなっている。特に、「法律や制度」と「政治」においては男女の意識の差は大きい。

図表 II-7 スコア化による分析【男女平等意識】



図表 II-8 スコア化による分析【男女別 男女平等意識】

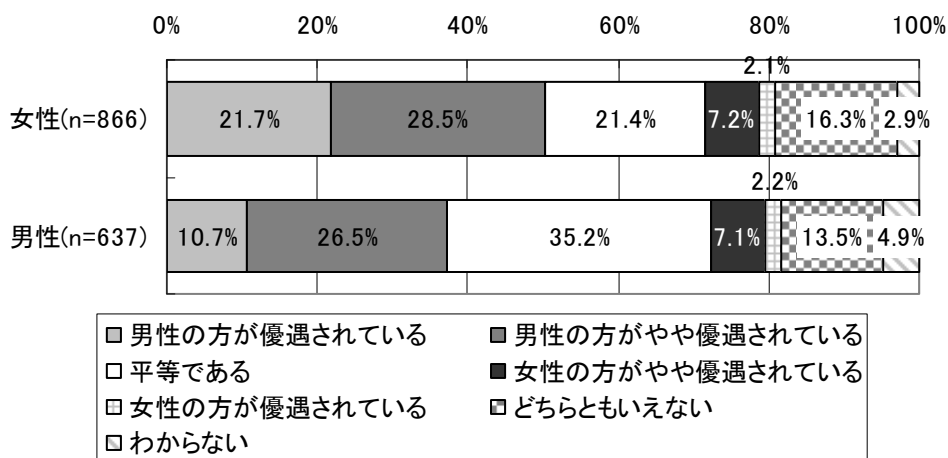


(2) 個別の傾向

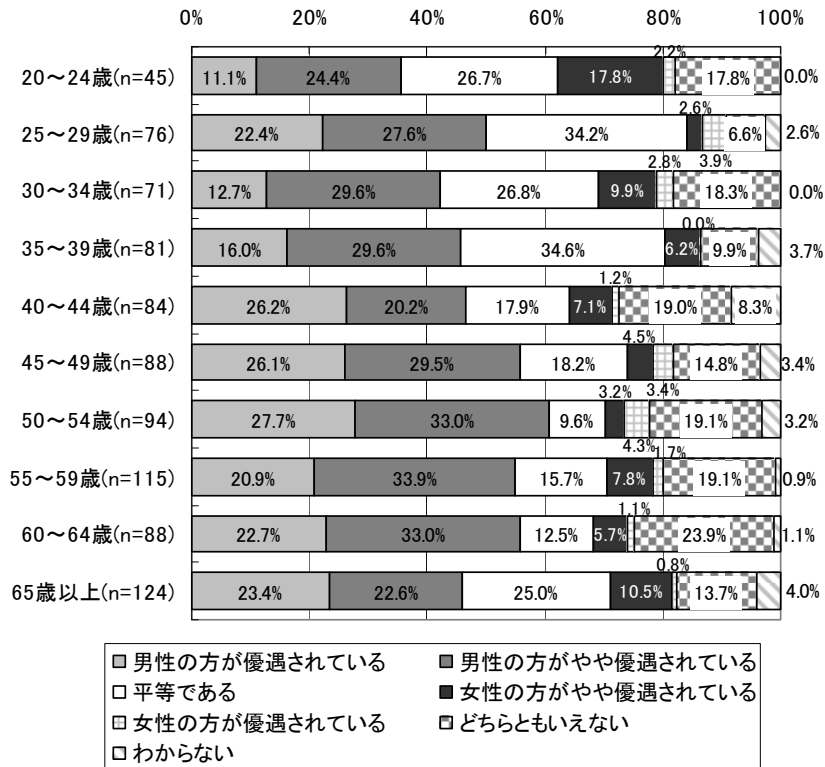
① 家庭生活

- ・ 家庭生活に関する男女平等意識について男女別にみると（図表 II-9）、男性が優遇されている（「男性の方が優遇されている」および「男性の方がやや優遇されている」の合計）と考えている女性は、女性全体の過半を占めており、男性よりも13.0ポイント上回っている。
- ・ 女性の年齢別にみると（図表 II-10）、45歳～64歳までの年齢層において、男性が優遇されていると感じる割合が高く、過半数以上が家庭の役割の多くを女性が担っていることについて不平等感を感じている。
- ・ 女性の職業別にみると（図表 II-11）、公務員、会社員の女性において、男性が優遇されていると感じる女性の割合が高く、その割合は公務員で66.6%、会社員で56.6%となっている。男性も女性もフルタイムで働いている家庭においては、男性も女性も就労しているという条件は同じであるにもかかわらず、女性にかかる家事等の負担が男性よりも大きいため、不平等感を感じる人の割合が高くなっていると想定される。

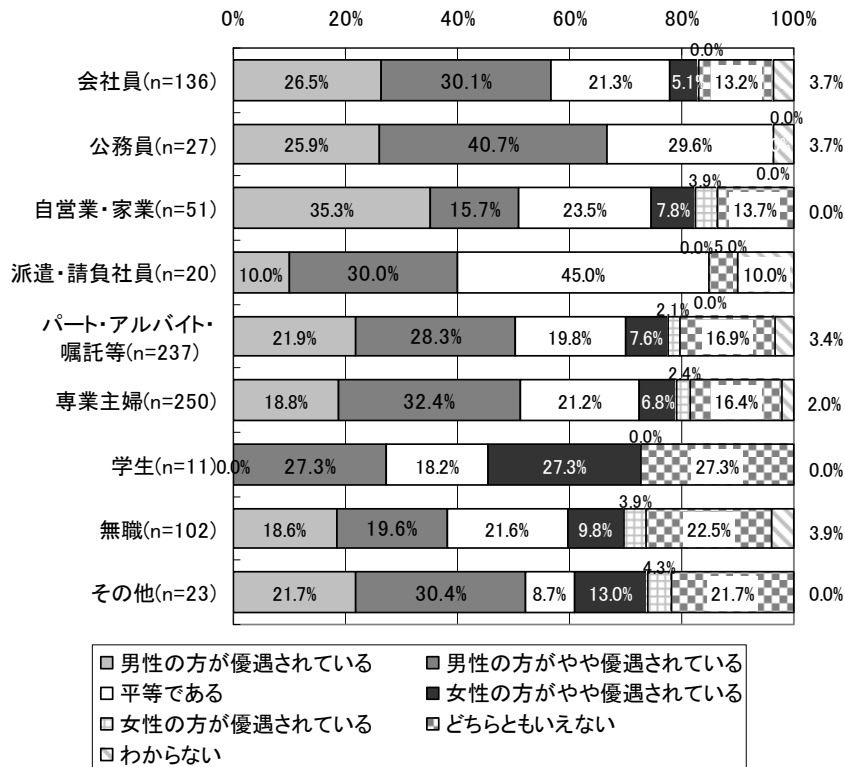
図表 II-9 男女別 家庭生活における男女平等意識



図表 II-10 女性年齢別 家庭生活における男女平等意識



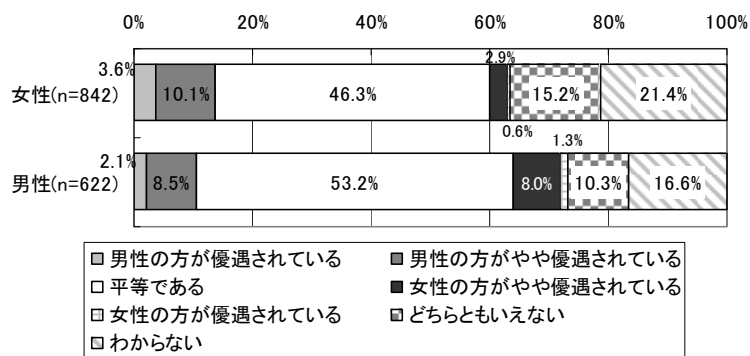
図表 II-11 女性職業別 家庭生活における男女平等意識



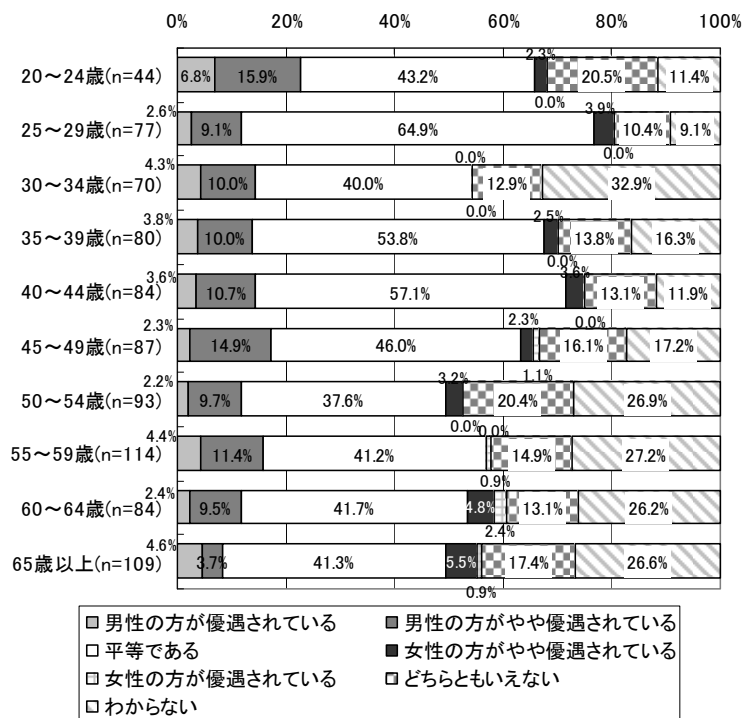
② 学校教育

- ・ 学校教育に関する男女平等意識について男女別にみると（図表 II-12）、男女間で大きな差異はなく、女性の46.3%、男性の53.2%が、「平等である」と回答している。
- ・ 女性の年齢別にみると（図表 II-13）、25歳～29歳と子どもが通学していると想定される35歳～49歳の年齢層において、「平等である」と回答した人の割合が比較的高い。
- ・ 25～29歳は、男女共同参画社会基本法が制定された1999年にちょうど学校教育を受けていた年代にあたる。そのため、その年代において、男女が対等なパートナーであると感じている人の割合が高い背景には、法律の制定を受けて、あるいは法律の制定過程において、学校現場において男女共同参画が意識されはじめられたことが、影響しているとも考えられる。

図表II-12 男女別 学校教育の場における男女平等意識



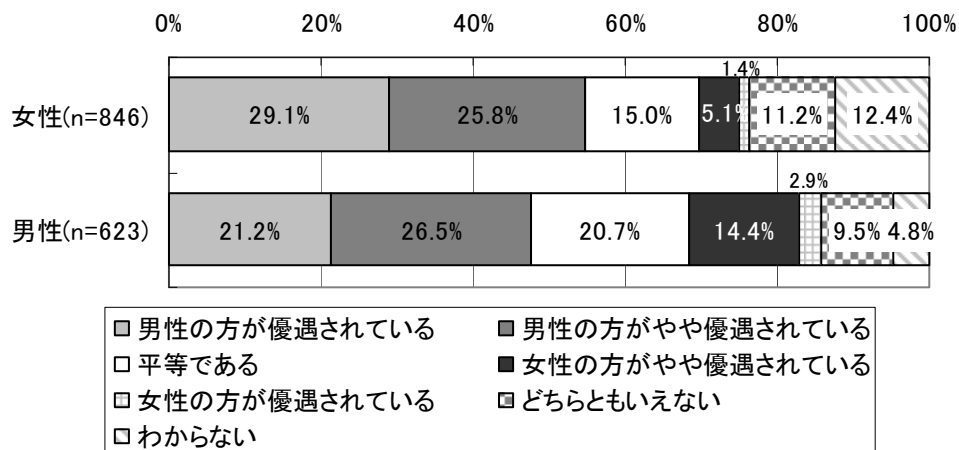
図表 II-13 女性年齢別 学校教育の場における男女平等意識



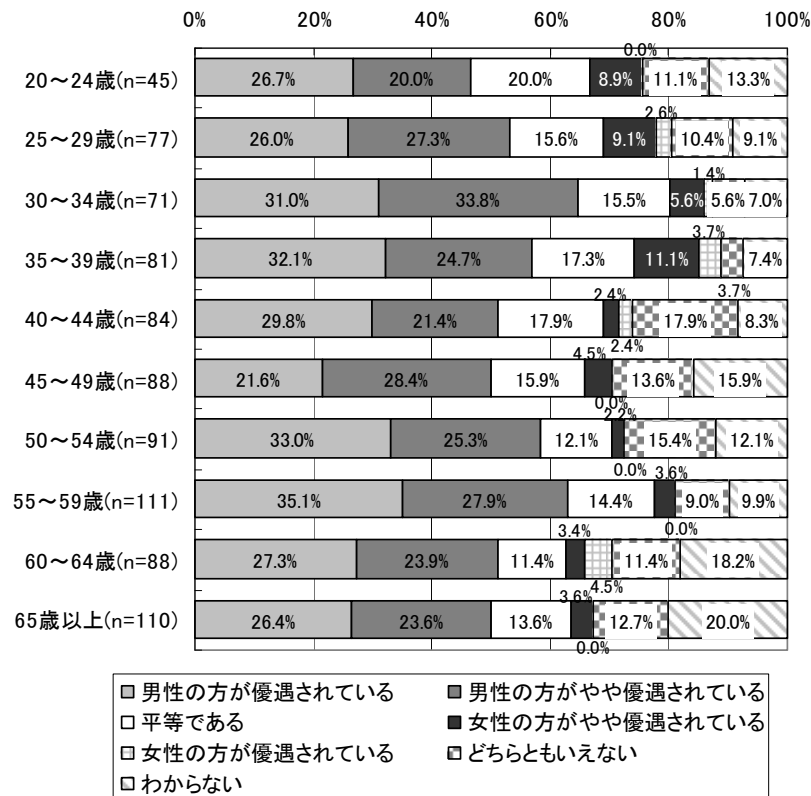
③ 職場

- ・ 職場に関する男女平等意識について男女別にみると（図表 II-14）、女性の 54.9%、女性の 47.7%が、男性が優遇されていると考えている。
- ・ 女性の年齢別にみると（図表 II-15）、30～34 歳（64.8%）および 55～59 歳（63.0%）の女性は、男性が優遇されていると感じる割合が高い。一般に、女性は 30 歳前後で一度離職し、子育て後の 50 代前後に再就職する人が多いと言われている。現実にも、女性の労働力率は、20 代半ばと 50 代前後という 2 つのピークを持った M 字曲線を描いている。このような世代の女性が、男性が優遇されていると感じる割合が高い背景には、ライフコースの節目の時期に処遇・待遇等における男女格差を経験する機会が多いためと想定される。
- ・ 女性の職業別にみると（図表 II-16）、会社員（64.7%）と専業主婦（61.7%）において、男性が優遇されていると感じる女性の割合が高くなっている。
- ・ このように、男性が優遇されていると考える人の割合が高い一方で、男性の 17.3%は女性が優遇されていると考えており、その割合は他の分野に比較して高くなっている。
- ・ 男性の年齢別にみると（図表 II-17）、20 代と 60 代前半において、女性が優遇されていると考えている人の割合が高く、大きな責任を任せられ、仕事に最もやりがいを感じると考えられる 30 代、40 代においてその割合は低くなっている。

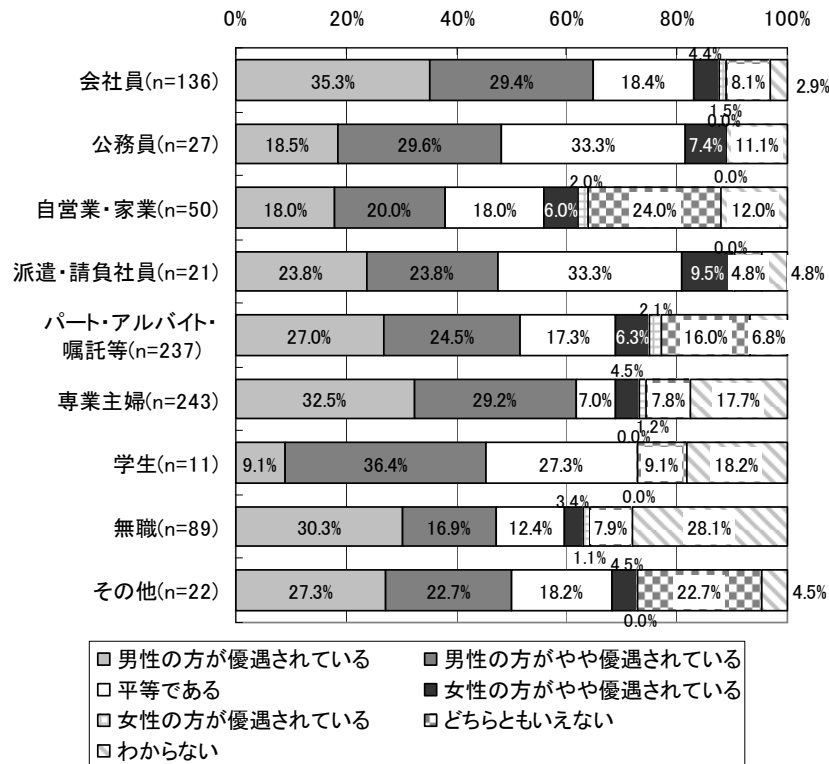
図表II-14 男女別 職場における男女平等意識



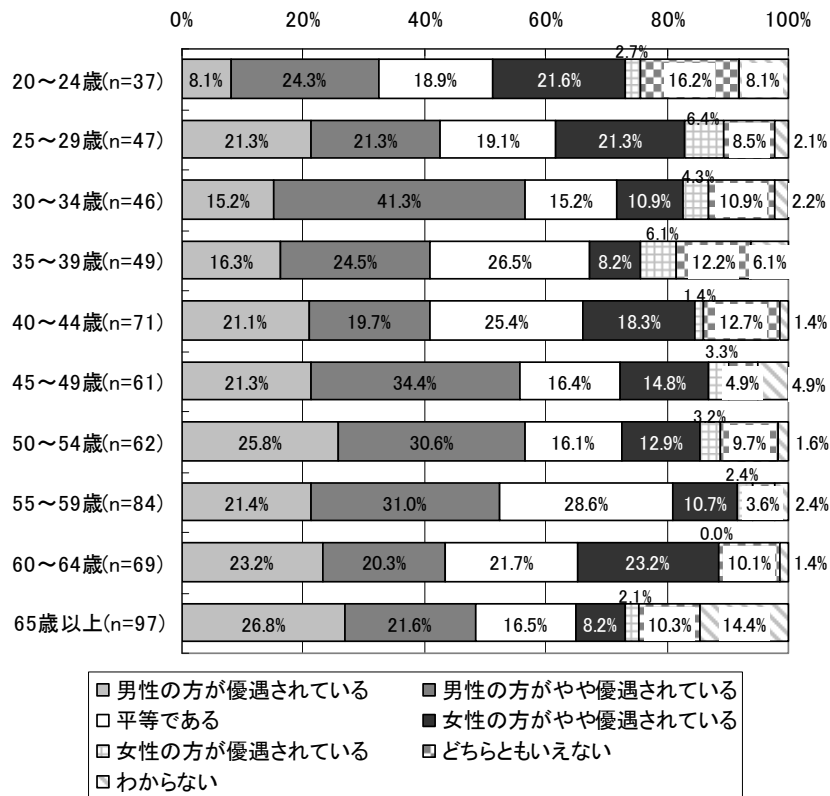
図表II-15 女性年齢別 職場における男女平等意識



図表II-16 女性職業別 職場における男女平等意識



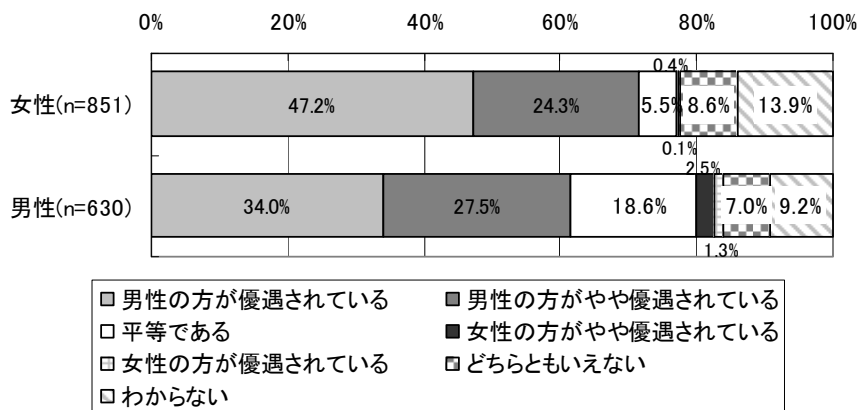
図表II-17 男性年齢別 職場における男女平等意識



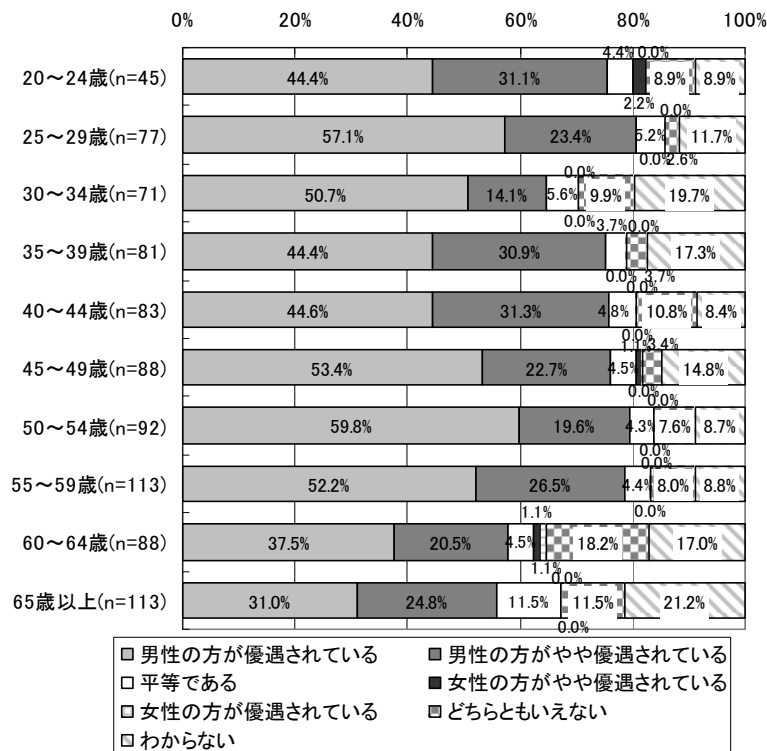
④ 政治

- 政治の場における意識について男女別にみると（図表 II-18）、女性の 71.5%、男性の 61.5%が、男性が優遇されていると感じている。特に女性においては、「平等である」と回答した人はごく僅か（5.5%）で、「男性の方が優遇されている」と回答した人が約半数を占めており、政治が男性優遇度の非常に高い場と捉えられていることがわかる。
- 女性の年齢別にみると（図表 II-19）、60 歳未満と 60 歳以上で意識に差が見られ、現役世代の方が男女の地位に差があると感じている人の割合が高くなっている。

図表II-18 男女別 政治の場における男女平等意識



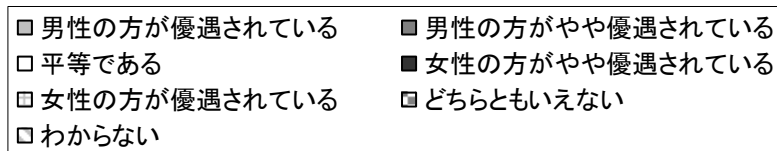
図表II-19 女性年齢別 政治の場における男女平等意識



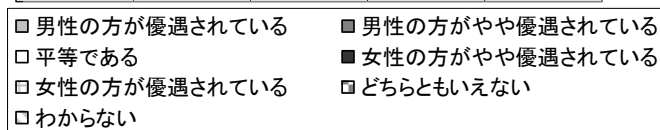
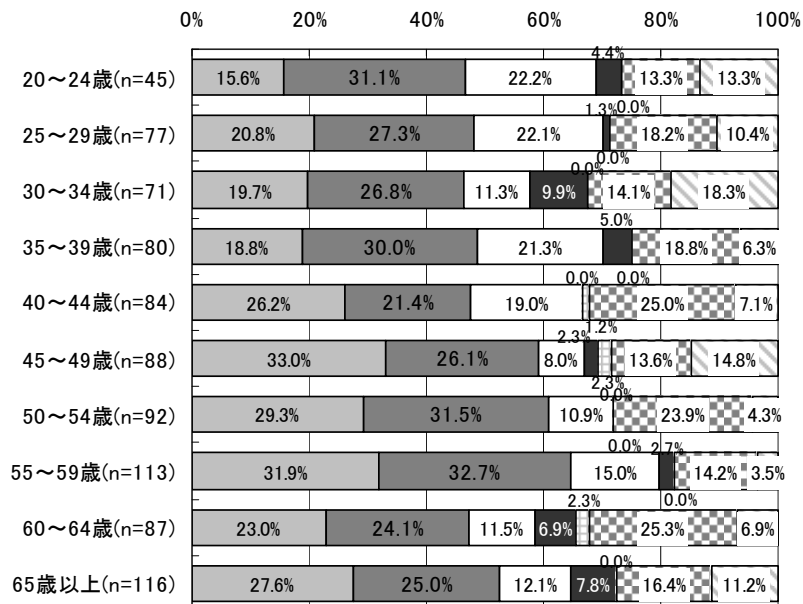
⑤ 地域社会

- ・ 地域社会における意識について男女別にみると（図表 II-20）、女性の53.1%、男性の46.7%が、男性が優遇されていると考えている。
- ・ 女性の年齢別にみると（図表 II-21）、特に45歳～59歳の地域活動を担う世代において男性が優遇されていると考える人の割合が高く、その割合は約6割となっている。

図表II-20 男女別 地域社会における男女平等意識



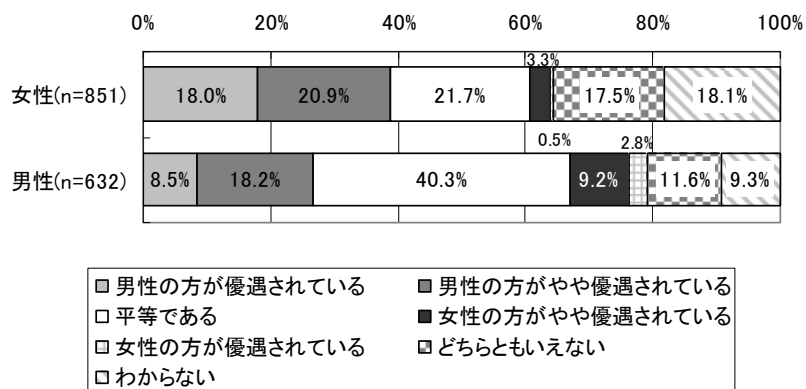
図表II-21 女性年齢別 地域社会における男女平等意識



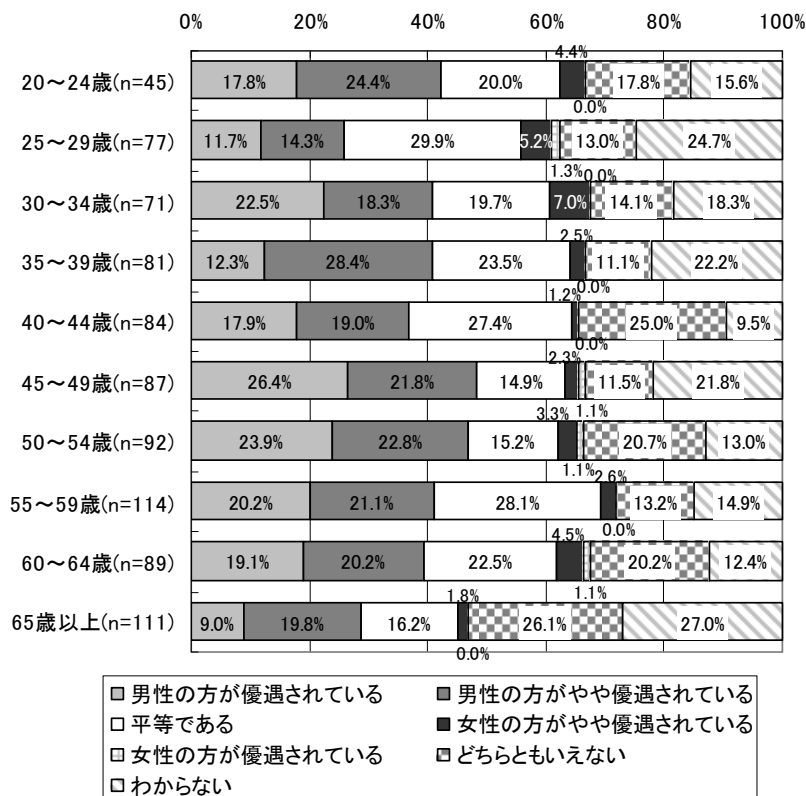
⑥ 法律や制度

- ・ 法律や制度における意識について男女別にみると（図表 II-22）、女性の 38.9%、男性の 26.7%が、男性が優遇されていると考えている。さらに、「平等である」と回答した人の割合は、女性が 21.7%、男性が 40.3%となっており、男女で意識の差がみられる。
- ・ 女性の年齢別にみると（図表 II-23）、45～54 歳において、男性が優遇されていると考えている人の割合が最も高い。子育てや再就職など転機を迎えることの多いこれらの世代は、様々な局面で男女の地位の不平等さを感じていると推測される。

図表II-22 男女別 法律や制度における男女平等意識



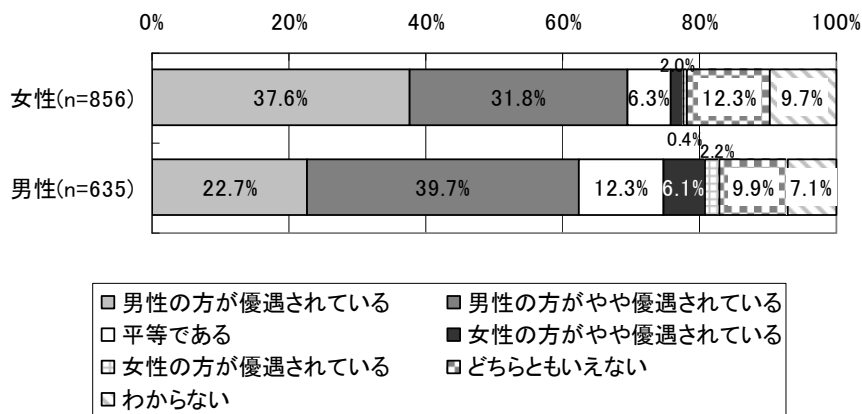
図表II-23 女性年齢別 法律や制度における男女平等意識



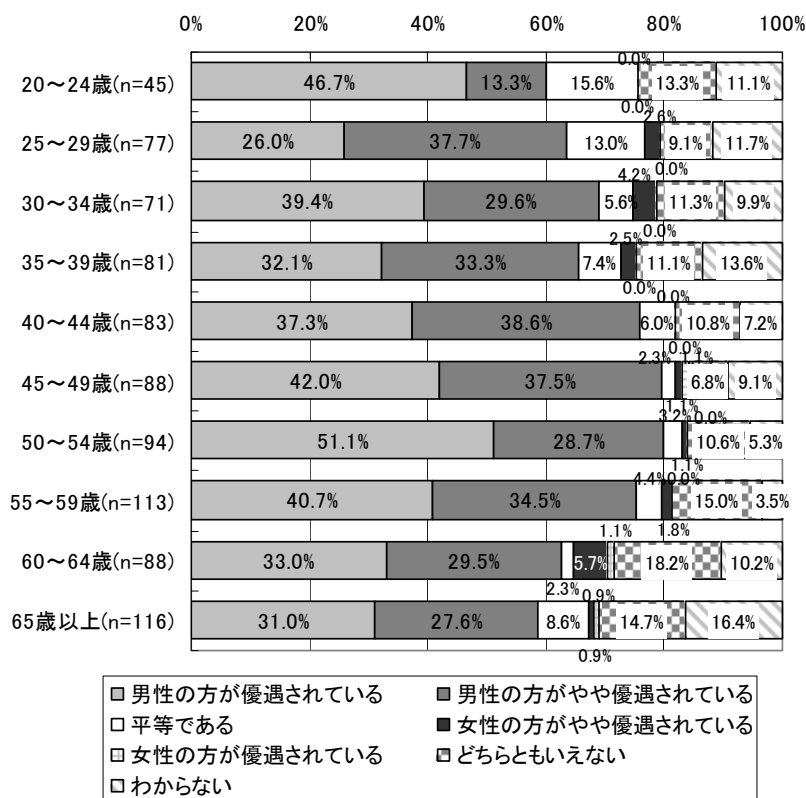
⑦ 社会通念・慣習や風潮

- ・ 社会通念・慣習や風潮に関する意識について男女別にみると(図表 II-24)、女性の69.4%、男性の62.4%が、男性が優遇されていると考えている。
- ・ 他分野と比較すると、女性が優遇されていると考える人の割合が低く、社会通念・慣習や風潮においては、男性優位の考え方が強いことがわかる。
- ・ 女性の年齢別にみると(図表 II-25)、他の項目と同様に40～59歳の中老年世代において、男性が優遇されていると考える人が多い。

図表II-24 男女別 社会通念・慣習や風潮における男女平等意識



図表II-25 女性年齢別 社会通念・慣習や風潮における男女平等意識



2 男女の関わり・役割分担

- 男性は、家事や育児に参加することが望ましいと考えられているが、現状は仕事が優先になっている。
- 若年層より年齢が高い人の方が、「男は仕事・女は家庭」というジェンダーにとらわれた考え方や行動が強い傾向にある。
- 特に、育児のために一時期職場を離れて家庭に入る女性が増える、M字カーブの底部にあたる年齢層では、「男は仕事・女は家庭」という考え方に沿った行動をしている人が、男女ともに過半数を占めている。

問2 男女の関わりに関する以下の考え方や行動について、あなたはどのように考えますか。

- (1) A～Hそれぞれについて、あなたはどのように思われますか。【(1)考え方】欄からあなたの考えに最も近い番号を各々1つ選び○印をつけてください。
- (2) A～Hそれぞれについて、あなたはどのように行動していますか。【(2)実際の行動】欄からあなたの行動に最も近い番号を各々1つ選び○印をつけてください。

	【(1)考え方】					【(2)実際の行動】				
	そう思う	そどちらかと思つ	そどちらかと思わな	そどちらかと思わな	わからない	そうしている	そどちらかと思つ	そどちらかと思わな	そどちらかと思わな	わからない
A 結婚をしてもそれぞれ自分名義の財産を持った方がいい	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
B 子育ては女性も男性も協力して行く	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
C 男性も家事をきちんとできる方がいい	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
D 「男は仕事・女は家庭」という考え方はいい	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
E 「女は女らしく、男は男らしく」する方がいい	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
F 女性が仕事を持つのは良いが家事・育児も専業主婦並にきちんとする方がいい	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
G 女性は自分のことより家族のことを優先する方がいい	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
H 男性は家庭や地域のことより仕事を優先する方がいい	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

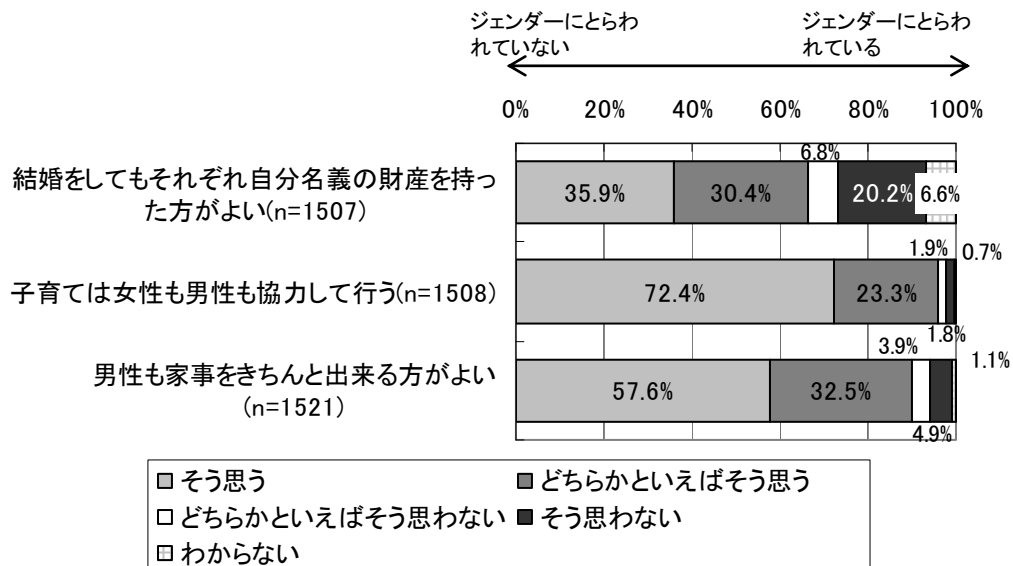
備考) 設問 A～C の内容は、「女らしさ、男らしさ」など社会的につくられた性差にとらわれず、男女が個人の個性や能力を発揮し、ともに社会を築き上げていくことを志向する考え方、すなわちジェンダーにとらわれない考え方を示している。そのため、設問 A～C については「そう思う」＝ジェンダーにとらわれない考え方を持つことを意味している。

設問 D～H の内容は、社会的につくられた性差によって影響された考え方、すなわちジェンダーにとらわれた考え方を示している。そのため、設問 D～H については「そう思う」＝ジェンダーにとらわれた考え方を持つことを意味している。

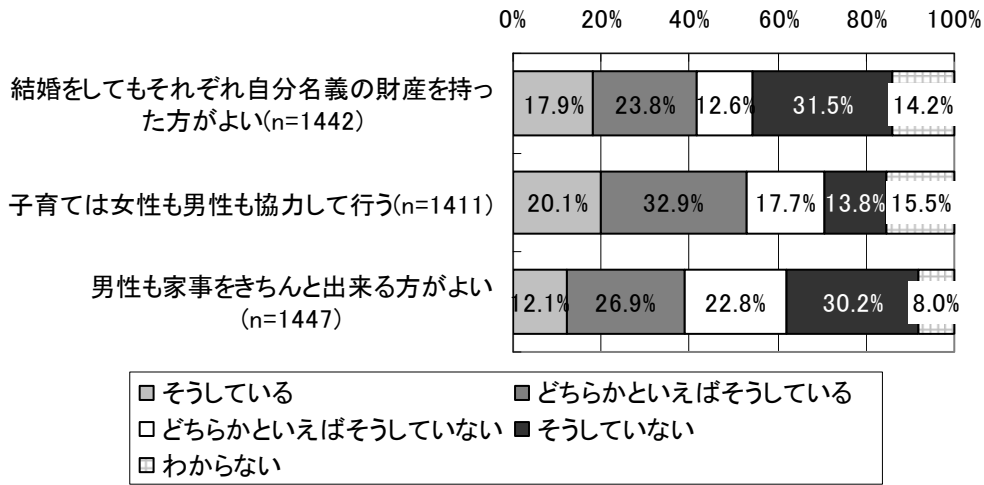
(1) 全体の傾向

- ・ 設問 A～C についての考え方をみると（図表 II-26）、「子育ては女性も男性も協力して行う」と「男性も家事をきちんと出来る方がいい」には約9割が賛成（「そう思う」および「どちらかといえばそう思う」の合計）している。
- ・ 設問 A～C についての実際の行動をみると（図表 II-27）、「子育ては女性も男性も協力して行う」を実践している人の割合（「そうしている」および「どちらかといえばそうしている」の合計）は、他の2項目を実践している人の割合を約1割上回っており、約5割となっている。
- ・ 各選択肢について、「そう思う」・「そうしている」を2点、「どちらかといえばそう思う」・「どちらかといえばそうしている」を1点、「どちらかといえばそう思わない」・「どちらかといえばそうしていない」を-1点、「そう思わない」・「そうしていない」を-2点とし、図表 II-6と同様の方法でスコア化による分析を行うと（図表 II-28）、「結婚してもそれぞれ自分名義の財産を持った方がよい」と「男性も家事をきちんと出来る方がいい」において、現実のスコアがマイナスとなっており、「そうしている」人よりも「そうしていない」人の割合の方が高い状況にある。
- ・ さらに、「男性も家事をきちんと出来る方がいい」については、考え方と行動が最も乖離している項目で、男性の家事参加が大多数の人に望まれてはいるが、現状としてそれを実現できない要因が介在していることがうかがえる。

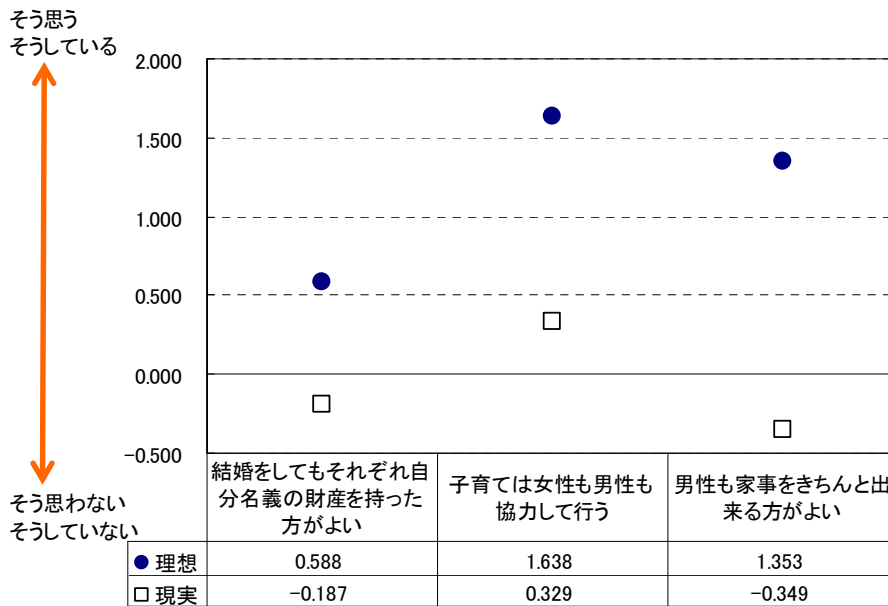
図表II-26 男女の役割分担 設問A～C【考え方】



図表II-27 男女の役割分担 設問A～C【行動】

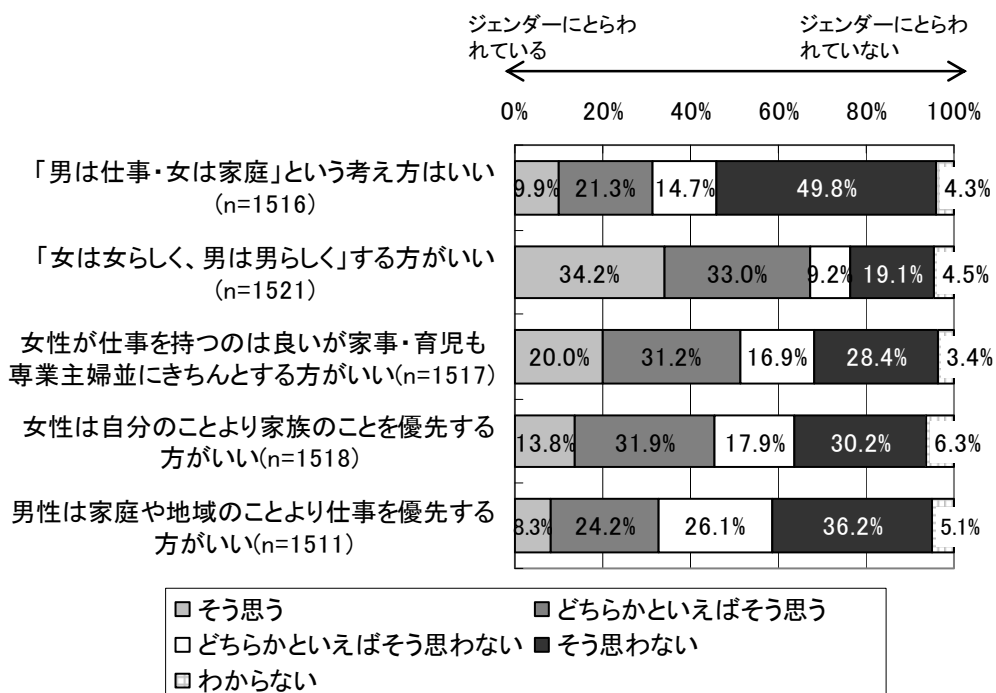


図表II-28 スコア化による分析【男女の役割分担 設問A～C】

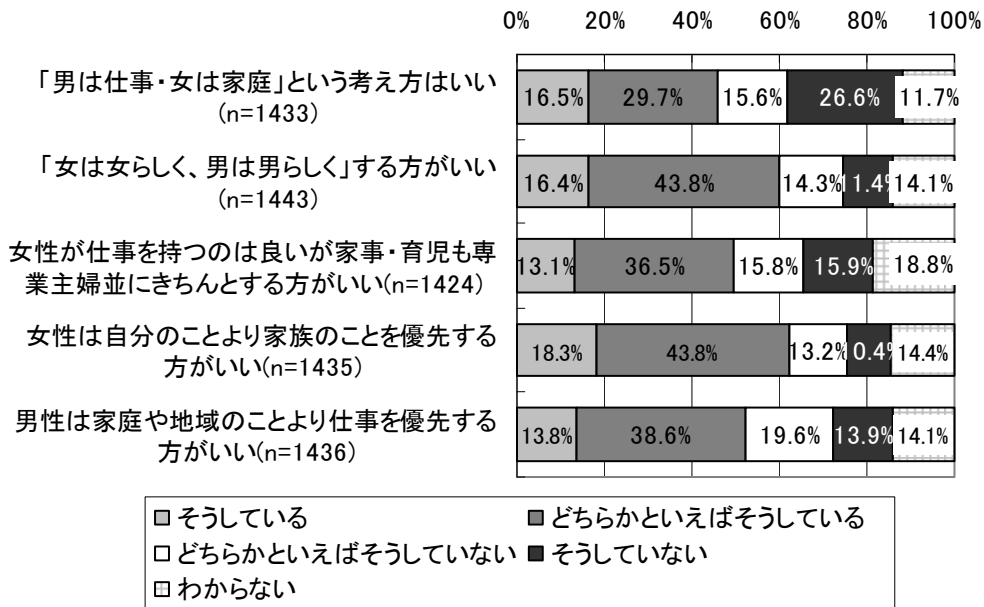


- ・ 設問 D～H についての考え方をみると（図表 II-29）、賛成の意向が高いのは「「女は女らしく、男は男らしく」する方がいい」で、67.2%が賛成している。他方、賛成の意向が低いのは「「男は仕事・女は家庭」という考え方はいい」と「男性は家庭や地域のことより仕事を優先する方がいい」で、賛成者は約3割である。
- ・ 設問 D～H についての実際の行動をみると（図表 II-30）、「「女は女らしく、男は男らしく」する方がいい」と「女性は自分のことより家族のことを優先する方がいい」を実践している人の割合（「そうしている」および「どちらかといえばそうしている」の合計）が、他の項目を実践している人の割合よりも高く、約6割となっている。
- ・ 各選択肢について、設問 A～C と同様にスコア化による分析を行うと（図表 II-31）、「「男は仕事・女は家庭」という考え方はいい」以外の項目は、現実のスコアがプラスとなっており、「そうしていない」人よりも「そうしている」人の割合が高く、今後の課題である。
- ・ 考え方に賛成した人と、実際に行動している人の割合の差が最も大きいのは、「男性は家庭や地域のことより仕事を優先する方がいい」であり、男性は、家事や育児に参加することが望ましいと考えられているが、現状は仕事が優先になっている状況にあると推測される。

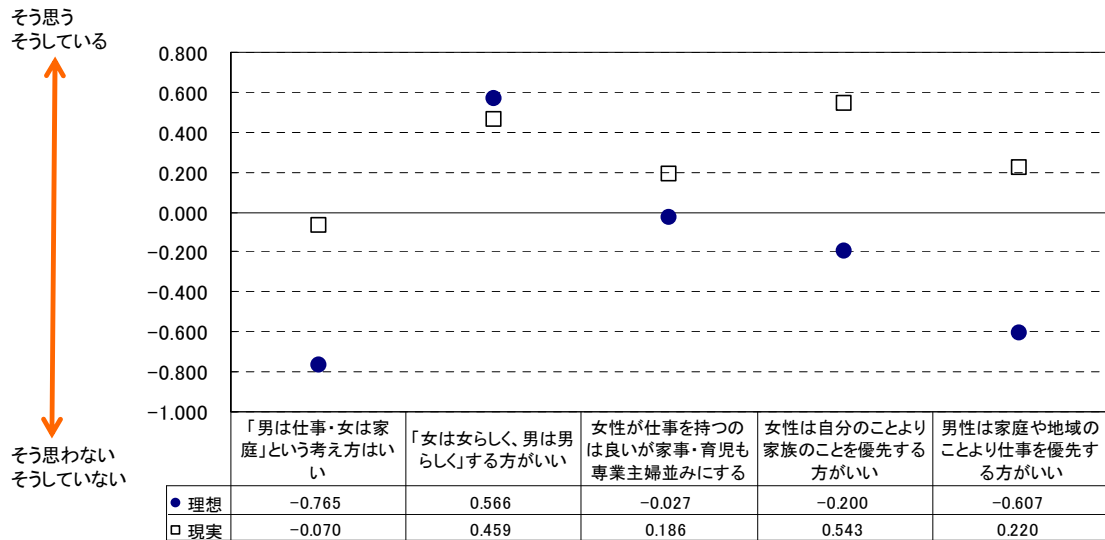
図表II-29 男女の役割分担 設問D～H【考え方】



図表II-30 男女の役割分担 設問D～H【行動】



図表II-31 スコア化による分析【男女の役割分担 設問D～H】

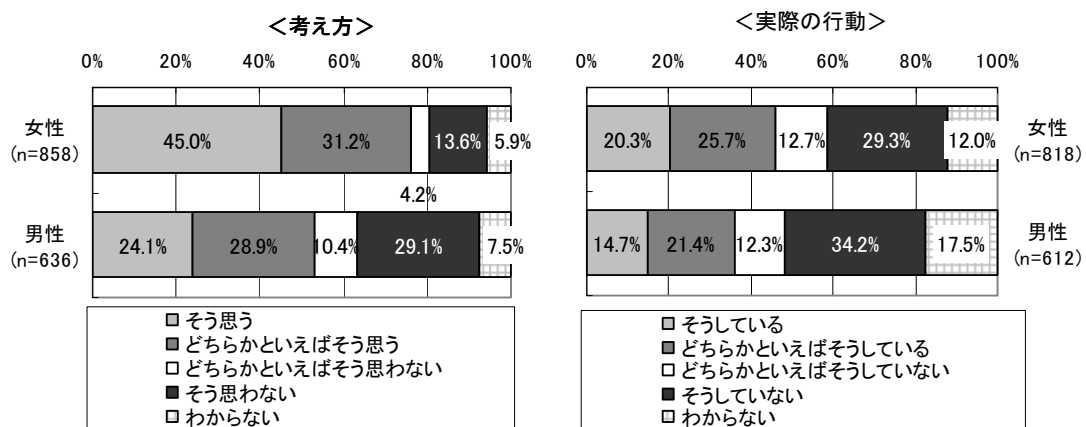


(2) 個別の傾向

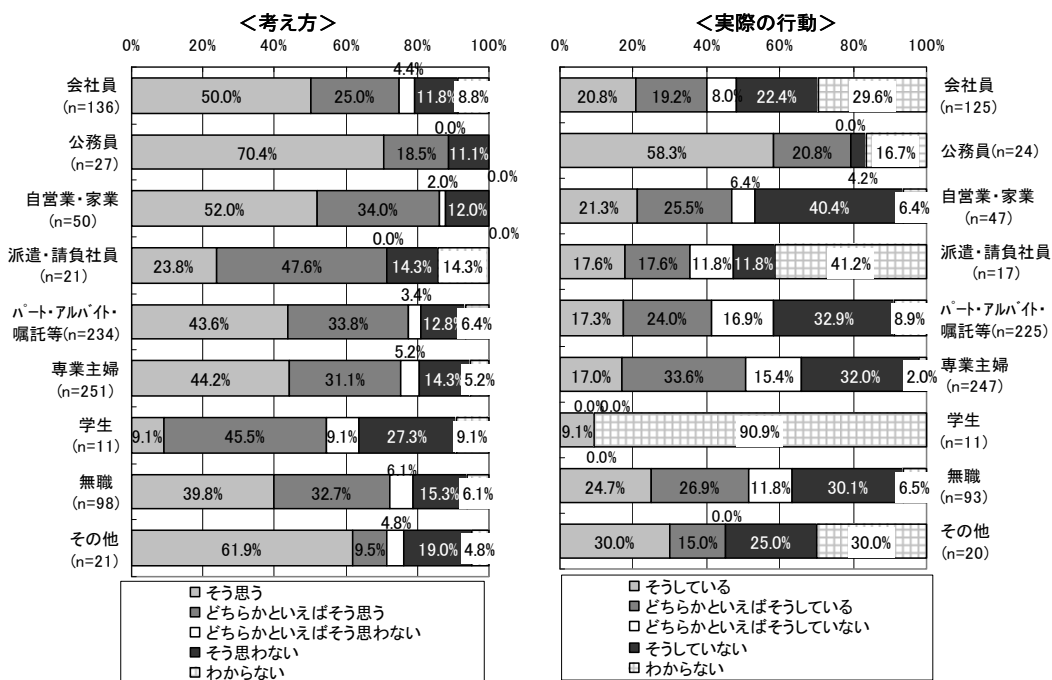
① 「結婚してもそれぞれ自分名義の財産を持った方がいい」

- 「結婚してもそれぞれ自分名義の財産を持った方がいい」という考え方については、女性の76.2%、男性の53.0%が賛成している（図表II-32）。実際に自分名義の財産があるのは、女性の46.0%、男性の36.1%であり、考え方と行動に差異が生じている。
- 女性の職業別にみると（図表II-33）、特に公務員、自営業・家業において考え方に賛成する人の割合が高い。実際に自分名義の財産を持っている女性の割合は、公務員では約8割であるが、学生を除くその他の職業においては概ね3割から5割に留まっている。考え方と実際の行動の乖離が大きいのは自営業・家業である。

図表II-32 男女別 男女の役割分担「結婚してもそれぞれ自分名義の財産を持った方がいい」



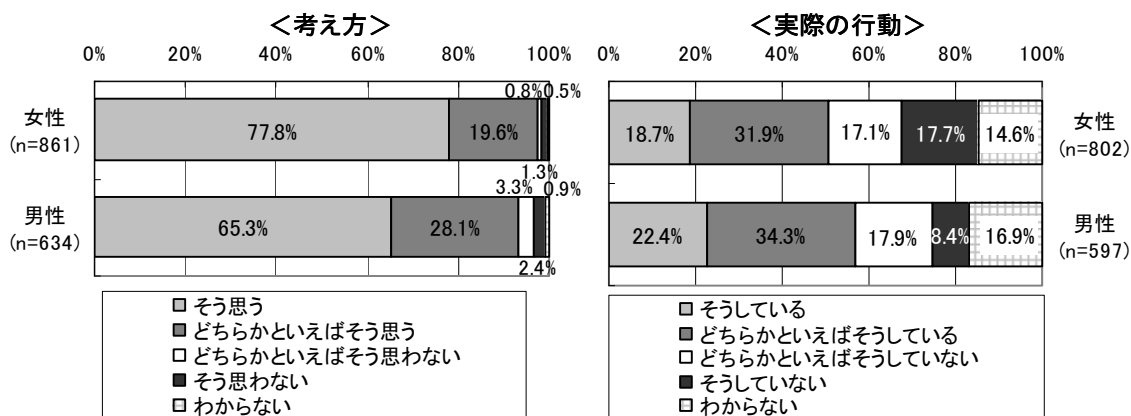
図表II-33 女性職業別 男女の役割分担「結婚してもそれぞれ自分名義の財産を持った方がいい」



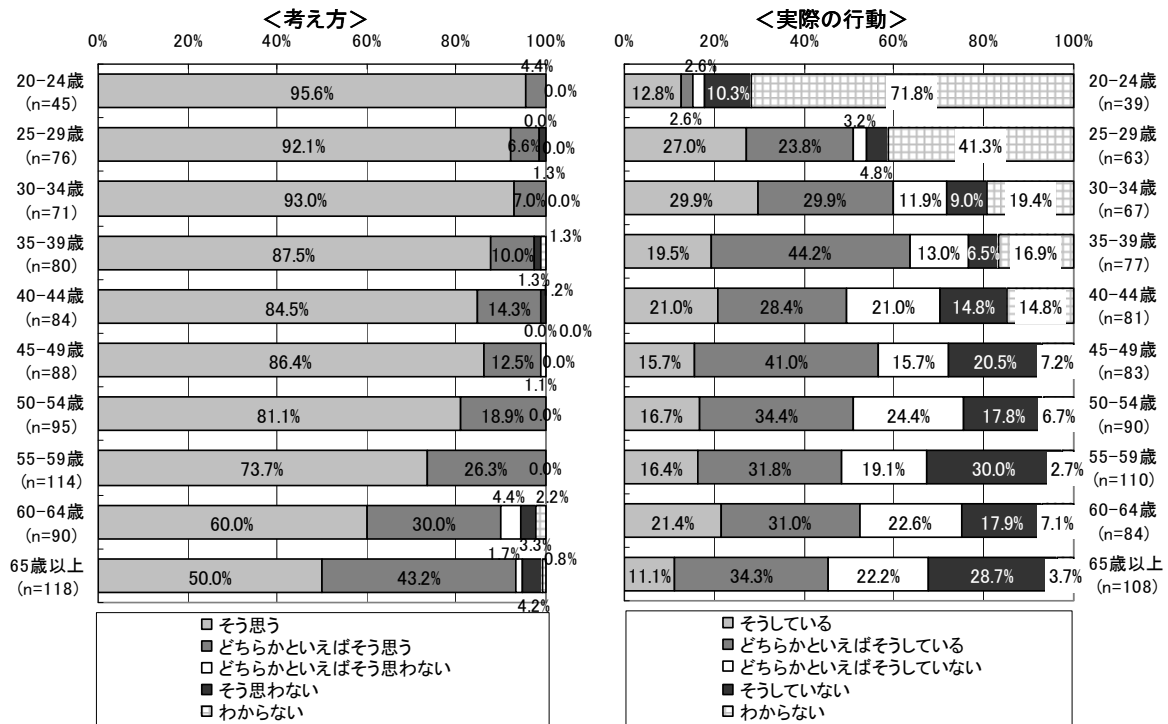
② 「子育ては女性も男性も協力して行う」

- ・ 「子育ては女性も男性も協力して行う」という考え方については、女性の97.4%、男性の93.4%が賛成している（図表II-34）が、実際に行動していると回答した割合は、女性で50.6%、男性で56.7%となっており、考えと行動の間に乖離がある。
- ・ 女性の年齢別にみると（図表II-35）、子育て世代である30代以降については、考え方についても実際の行動においても、若年層ほど考え方に賛成、あるいは実際に行動している女性の割合が高くなる傾向がみられる。
- ・ 男性の年齢別にみると（図表II-36）、考え方については、女性同様、若年層ほど賛成する割合が高い傾向がみられる。実際の行動については、40代前半と、50代後半、60代後半以上で子育てに協力している人の割合が高い。40代前半は、子どもがある程度成長して一緒に遊べる時期にあることから男性と女性が協力して子育てを行う割合が高くなっていると考えられ、50代後半や60代後半以上については、主に孫の子育てを男女で協力して行っているものと思われる。

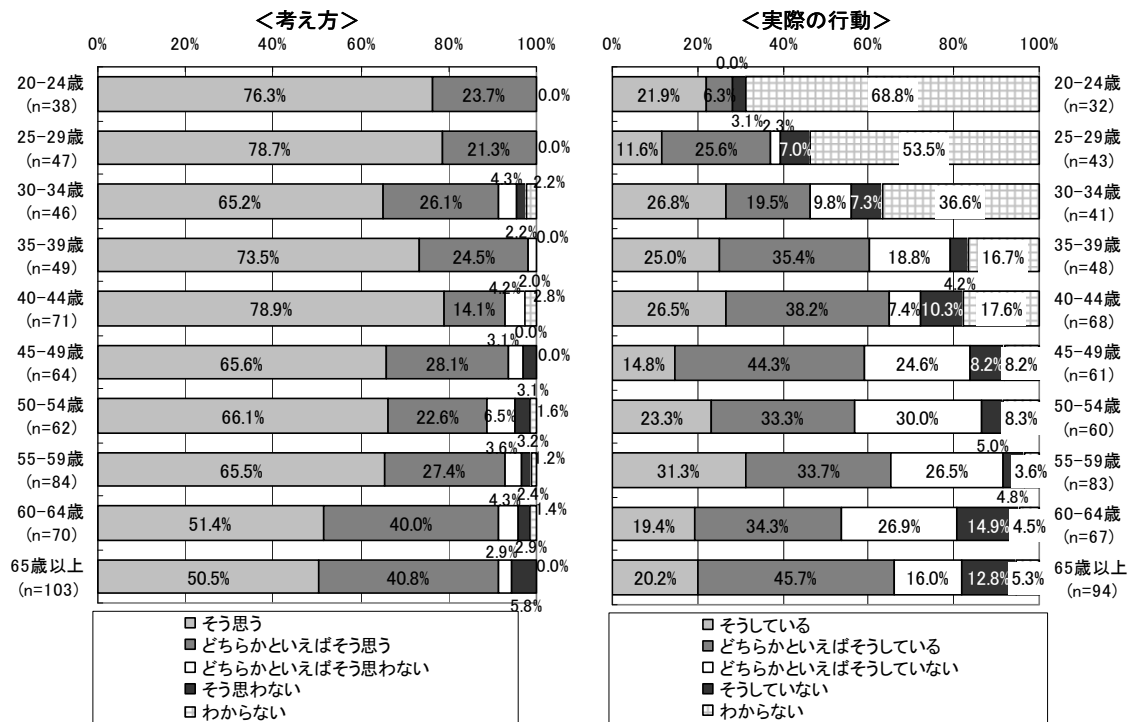
図表II-34 男女別 男女の役割分担「子育ては女性も男性も協力して行う」



図表II-35 女性年齢別 男女の役割分担「子育ては女性も男性も協力して行う」



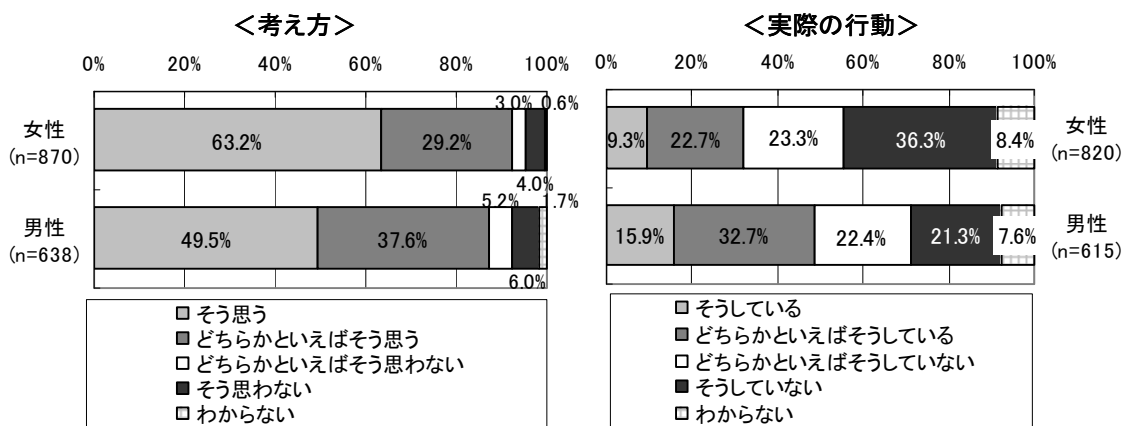
図表II-36 男性年齢別 男女の役割分担「子育ては女性も男性も協力して行う」



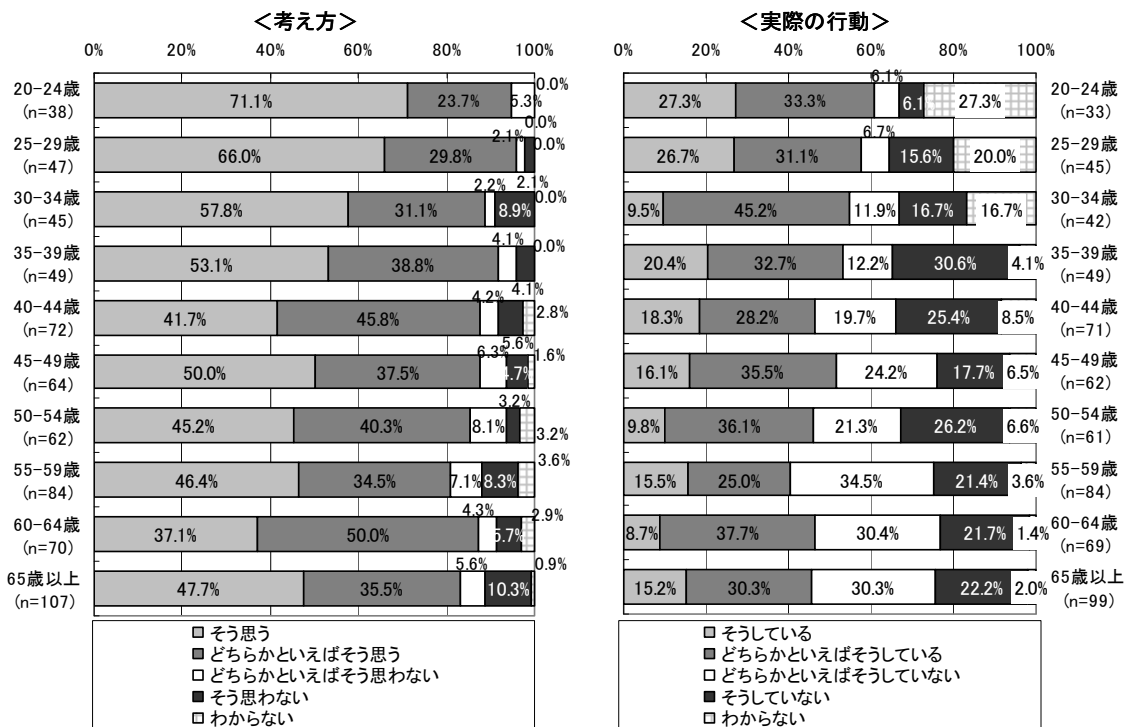
③ 「男性も家事をきちんとできる方がいい」

- 「男性も家事をきちんとできる方がいい」という考え方については、女性の92.4%、男性の87.1%が賛成している（図表II-37）。実際に行動していると回答した割合は、女性が32.0%、男性が48.6%で、考え方に賛成した人の割合より大幅に低くなっている。
- 男性の年齢別にみると（図表II-38）、考え方については全ての年齢層で賛成の割合が8割を超えている。実際の行動については、若年層ほど家事をする男性が多い傾向がみられる。

図表II-37 男女別 男女の役割分担「男性も家事をきちんとできる方がいい」



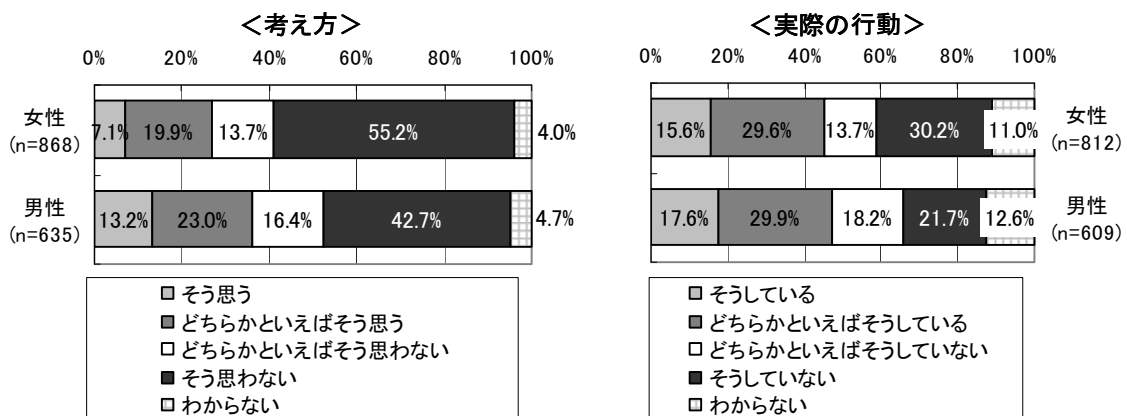
図表II-38 男性年齢別 男女の役割分担「男性も家事をきちんとできる方がいい」



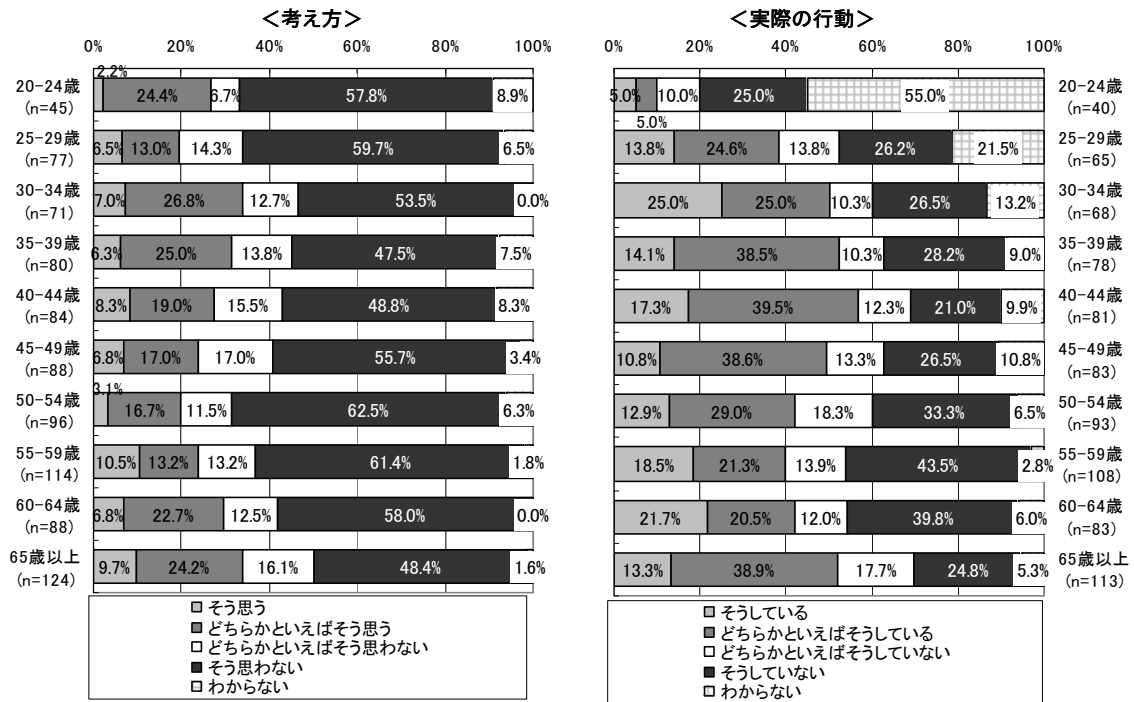
④ 「男は仕事・女は家庭」という考え方はいい」

- ・ 「男は仕事・女は家庭」という考え方はいい」という考え方については、女性の68.9%、男性の59.1%が反対（「そう思わない」および「どちらかといえばそう思わない」の合計）している（図表II-39）。
- ・ 女性の年齢別にみると（図表II-40）、いずれの年齢層においても概ね6～7割は考え方に反対しているが、実際の行動については30～44歳の年齢層において過半の女性が、「男は仕事・女は家庭」という考え方に沿った行動をとっている。この背景には、この時期がM字カーブの底部にあたり、育児のために一時期職場を離れて家庭に入る女性が増える時期であることが影響していると推測される。
- ・ 男性の年齢別にみると（図表II-40）、年齢が高くなるほどジェンダー意識にとらわれた考え方をする男性の割合が増える傾向がある。実際の行動については30～39歳の年齢層において過半の男性が、「男は仕事・女は家庭」という考え方に沿った行動をとっている。この背景にも上記と同様の事情が影響していると考えられる。
- ・ 平成19年度に豊田市在住の子どもを対象に行った意識調査と比較すると（図表II-42）、子どもについては中学生の53.1%、高校生の42.6%が、「男は仕事・女は家庭」という考え方に賛成しており、子どもの方が大人よりも固定的な性別分業意識が強いことがわかる。この背景には、社会に出る前の子どもにとっては、男女の役割分担についての判断材料が両親の役割分担しかなく、両親の役割分担を無意識のうちに受け入れていることがあると考えられる。
- ・ 子どもについて男女別にみると、中学生においても高校生においても、女子と比較して男子の方が、「男は仕事・女は家庭」という考え方を「よいと思う」と全面的に賛成する傾向が強い。一方で、考え方に賛成している割合は男女で大きな差はなく、大人の方が子どもよりも考え方の男女差が大きくなっている。

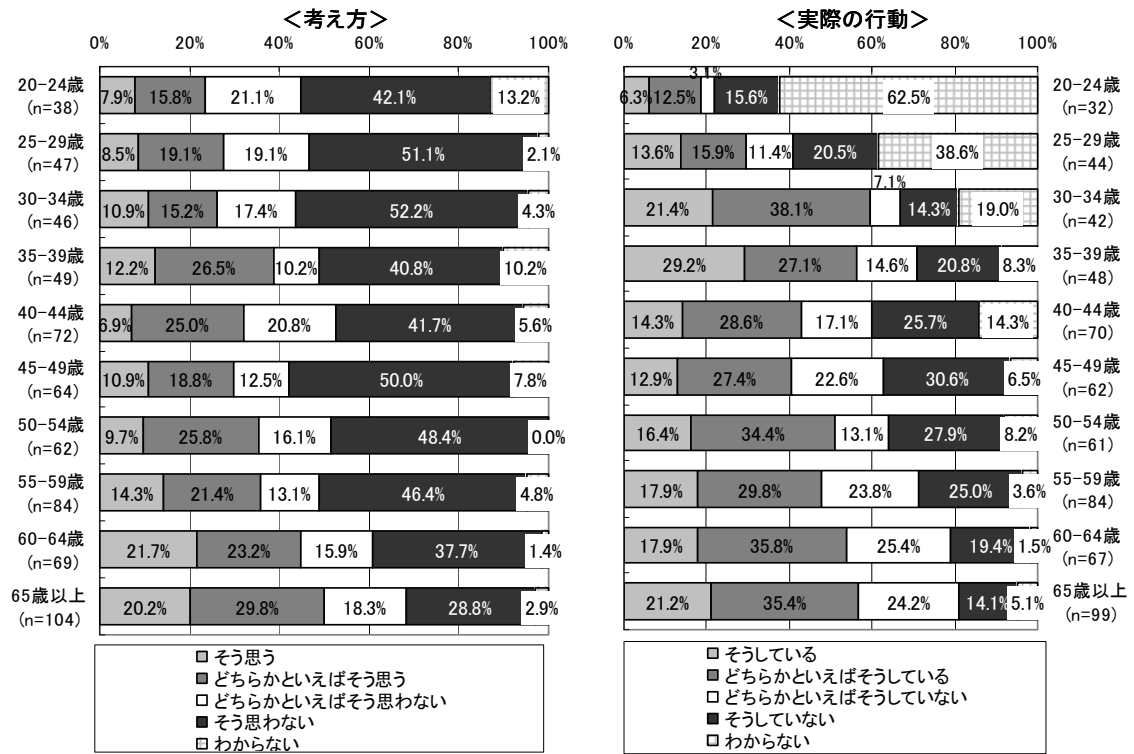
図表II-39 男女別 男女の役割分担「男は仕事・女は家庭」という考え方はいい」



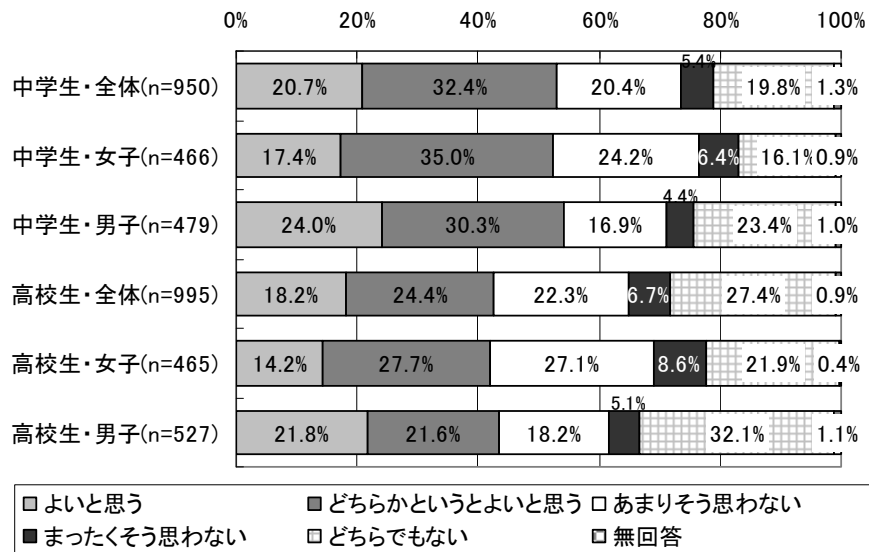
図表II-40 女性年齢別 男女の役割分担「男は仕事・女は家庭」という考え方はいい



図表II-41 男性年齢別 男女の役割分担「男は仕事・女は家庭」という考え方はいい



図表II-42 平成19年度子ども意識調査 「男は仕事・女は家庭」という考え方について



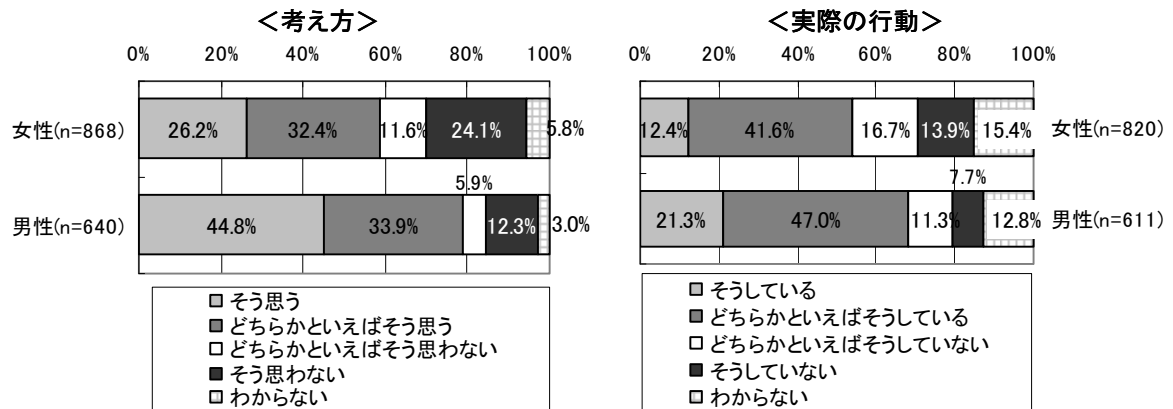
備考) 平成 18 年 8 月に豊田市の小学校 11 校、中学校 9 校、高等学校 5 校を対象とした調査。有効回収数は小学生 988 人、中学生 950 人、高校生 995 人

「男性が外で仕事をして収入を得て、女性は家庭において、育児や家事などを分担する」という考え方があります。あなたは、こういう考え方をどう思いますか」に対する回答

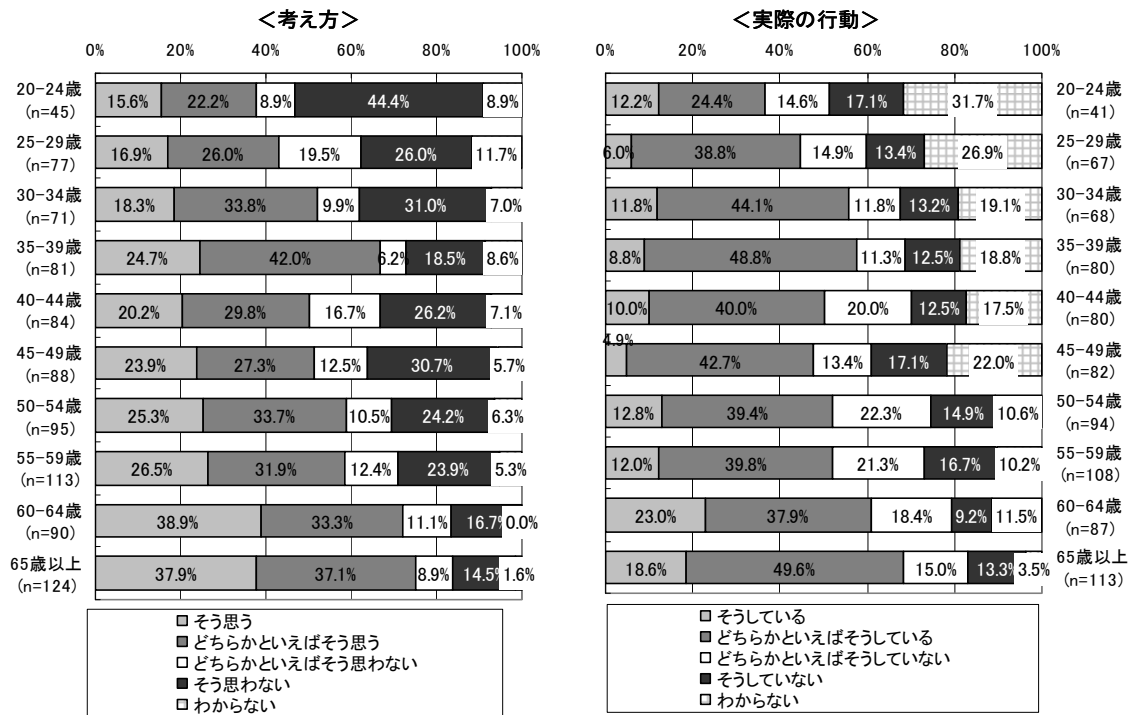
⑤ 「女は女らしく、男は男らしく」する方がいい

- ・ 「女は女らしく、男は男らしく」する方がいい」という考え方については、女性の58.6%、男性の78.7%が賛成している（図表 II-43）。考え方と実際の行動の間に大きな差異はない。
- ・ 女性の年齢別にみると（図表 II-44）、年齢が高いほど、考え方に賛同する人の割合が高くなっている。男性においても同様の傾向がみられる（図表 II-45）。
- ・ 実際の行動についてみると、女性では30代において、男性では30代後半において「女は女らしく、男は男らしく」という考え方に沿って行動している人の割合が他の年代と比較して高くなっており、他の年代については年齢が高いほど、同上の考え方に従って行動する人の割合が高くなっている。

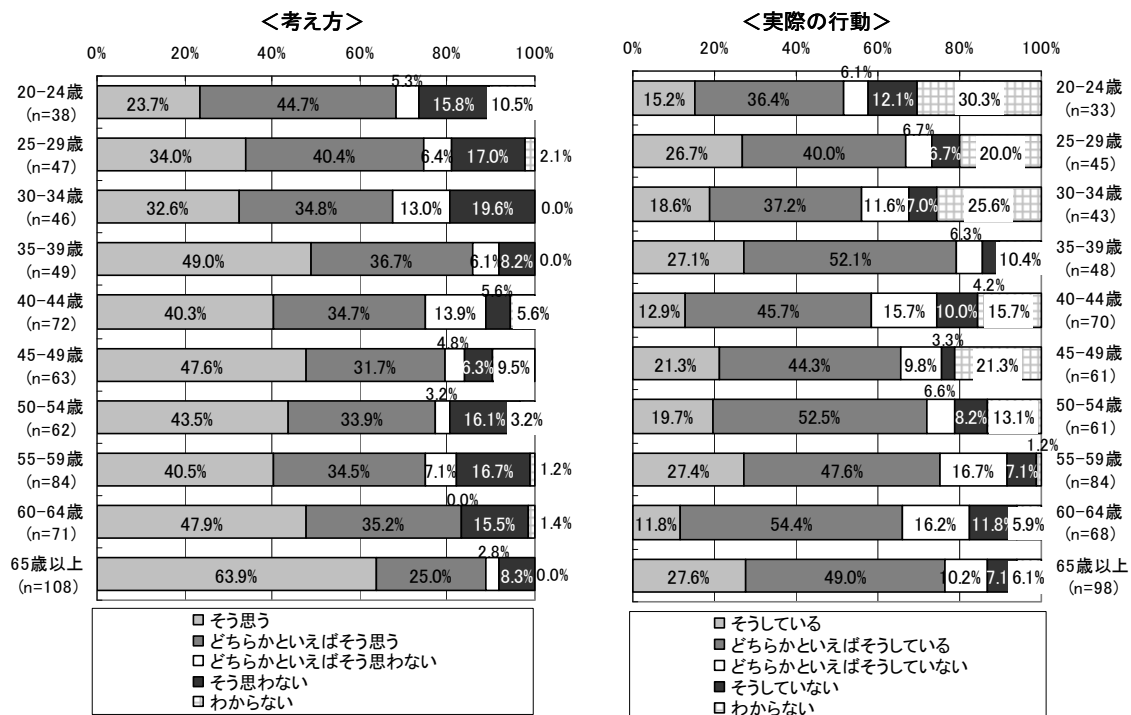
図表II-43 男女別 男女の役割分担「女は女らしく、男は男らしくする方がいい」



図表II-44 女性年齢別 男女の役割分担「女は女らしく、男は男らしくする方がいい」



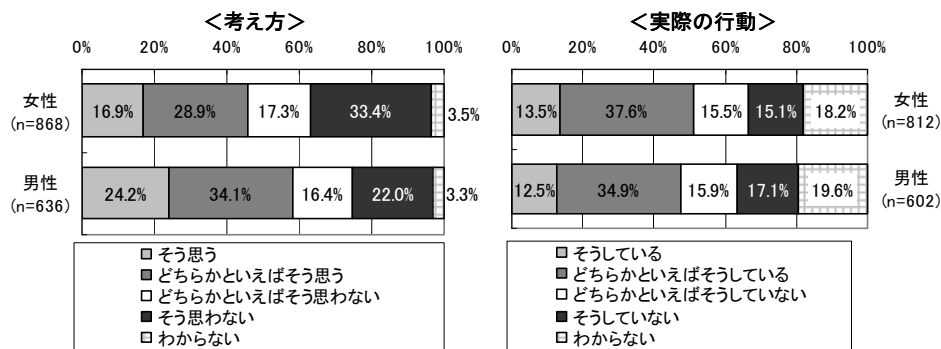
図表II-45 男性年齢別 男女の役割分担「女は女らしく、男は男らしくする方がいい」



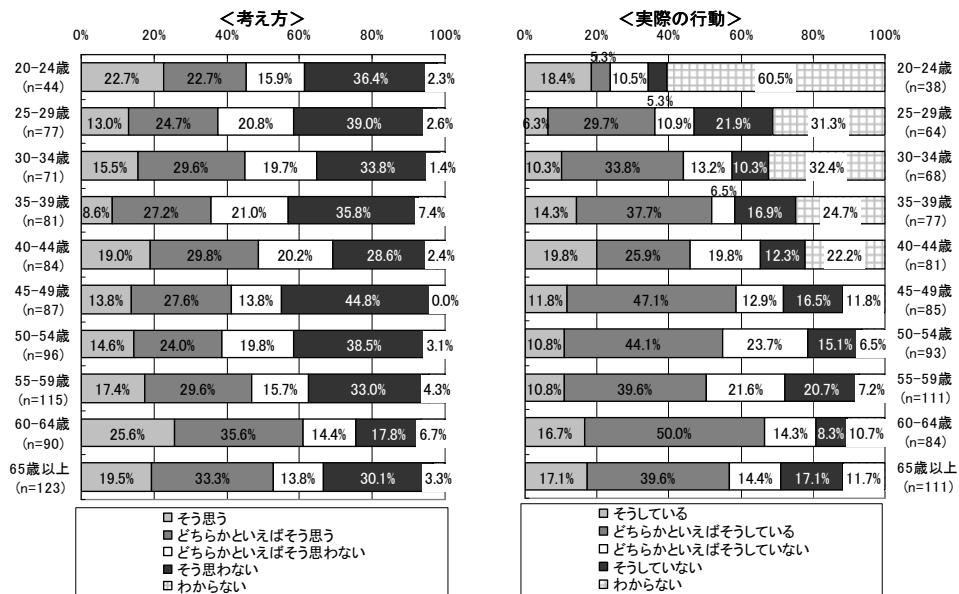
⑥ 女性が仕事を持つのは良いが家事・育児も専業主婦並にきちんとする方がいい

- ・ 「女性が仕事を持つのは良いが家事・育児も専業主婦並にきちんとする方がいい」については、女性の45.8%、男性の58.3%が賛成している。考え方と実際の行動とを比較すると、女性は考え方に賛成する人よりも実際に行動している人の割合が大きい。
- ・ 女性の年齢別にみると、20～24歳と45～54歳の年齢層において、考え方と行動のギャップが大きい（図表II-47）。この背景には、20代前半においては、家事・育児をしている人が少なく、仕事と家事・育児を両立する上で女性が感じるジレンマについて実感を持っている人が少ないことが影響していると考えられる。45～54歳においては、後段にて、豊田市においては結婚や出産を契機に仕事を離れる方がよいと考える人の割合が全国よりも高いことをみるが（図表II-83）、この年代の女性は家庭に入っている人が多く、結果として仕事よりも家事・育児を優先していると考えられる。

図表II-46 男女別 男女の役割分担「女性が仕事を持つのは良いが家事・育児も専業主婦並にきちんとする方がいい」



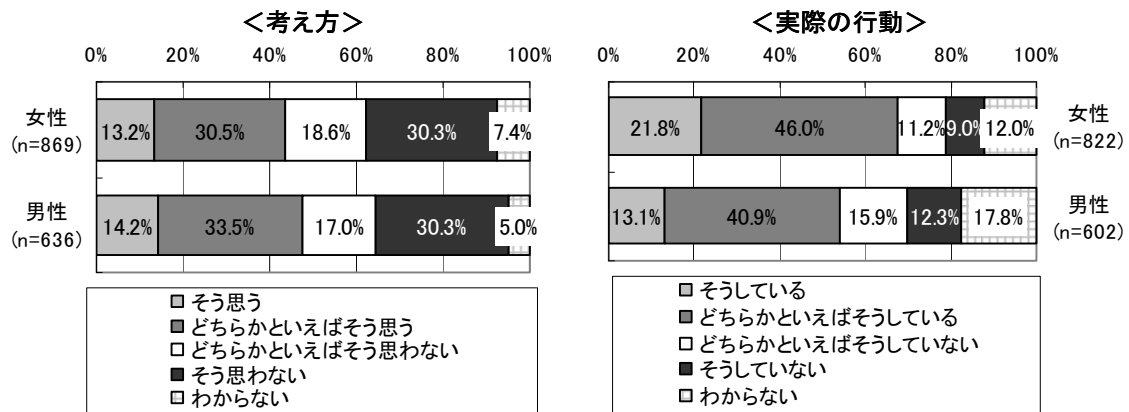
図表II-47 女性年齢別 男女の役割分担「女性が仕事を持つのは良いが家事・育児も専業主婦並にきちんとする方がいい」



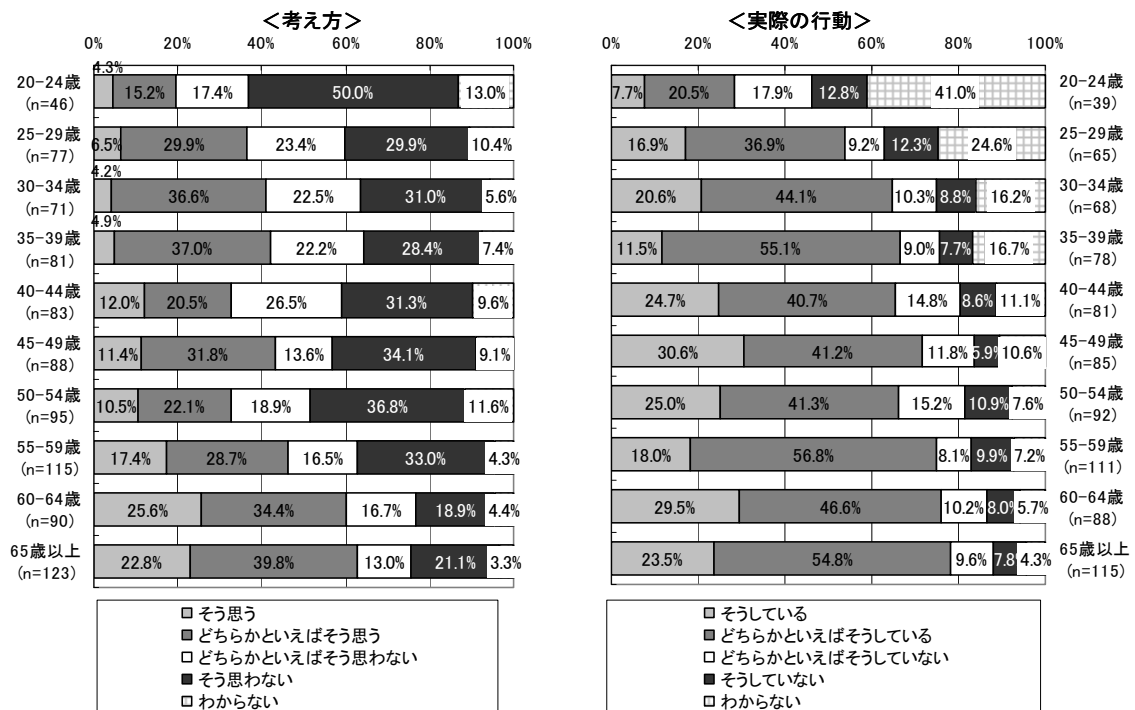
⑦ 女性は自分のことより家族のことを優先する方がいい

- ・ 「女性は自分のことより家族のことを優先する方がいい」についての考え方をみると（図表 II-48）、女性の43.7%、男性の47.7%が賛成している。実際の行動については、女性の67.8%が自分より家族のことを優先して行動しており、意識と行動の差は大きい。
- ・ 女性の年齢別にみると（図表 II-49）、年齢が高いほど自分より家族のことを優先して行動している割合が多いことがわかる。

図表II-48 男女別 男女の役割分担「女性は自分のことより家族のことを優先する方がいい」



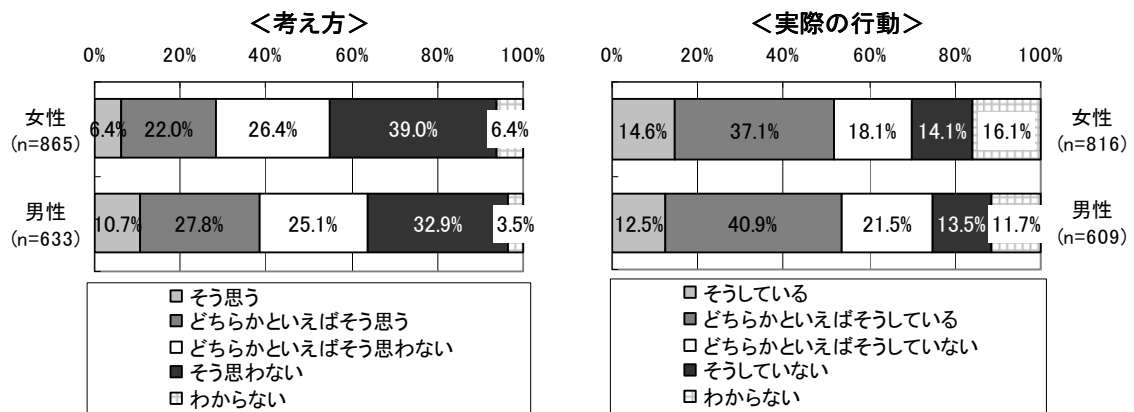
図表II-49 女性年齢別 男女の役割分担「女性は自分のことより家族のことを優先する方がいい」



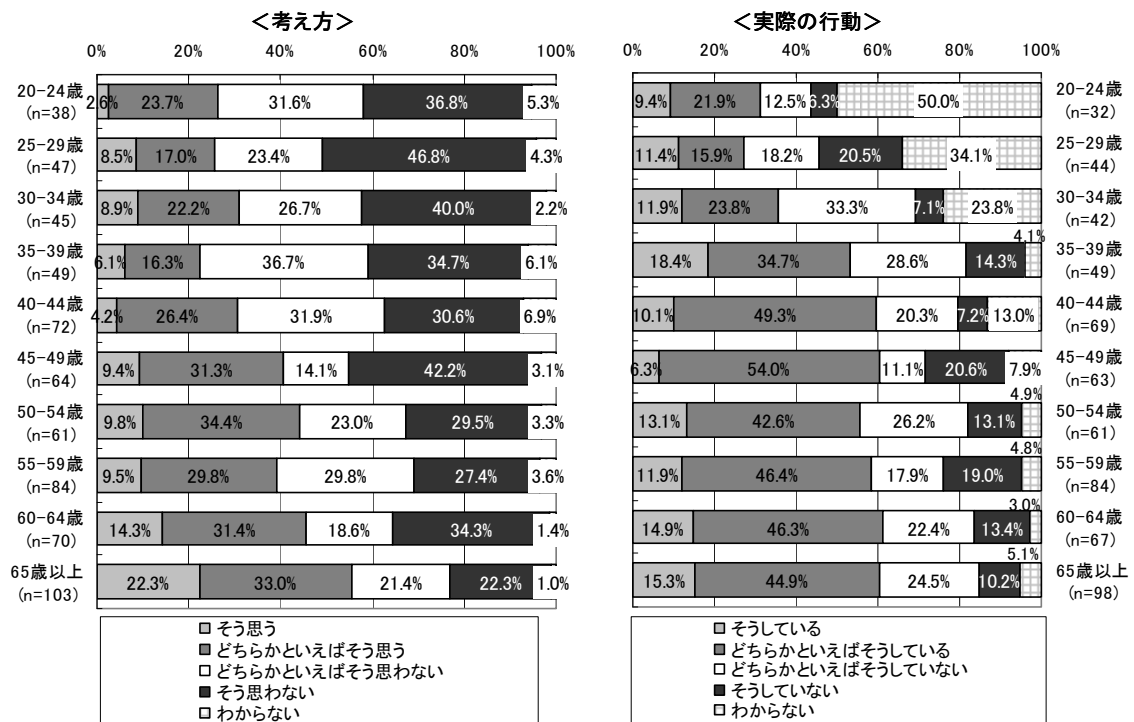
⑧ 男性は家庭や地域のことより仕事を優先する方がいい

- ・ 「男性は家庭や地域のことより仕事を優先する方がいい」についての考え方をみると（図表 II-50）、女性の 28.4%、男性の 38.5%が賛成している。実際に行動している割合は、男女ともに約5割で、考え方に賛成する人よりも実際は仕事を優先している人の割合が多いことがわかる。
- ・ 男性の年齢別にみると（図表 II-51）、若年層に比べて年齢が高い人の方が家庭や地域より仕事を優先して行動している割合が高くなっている。

図表II-50 男女別 男女の役割分担「男性は家庭や地域のことより仕事を優先する方がいい」



図表II-51 男性年齢別 男女の役割分担「男性は家庭や地域のことより仕事を優先する方がいい」



3 家庭における男女のあり方について

3-1. 家庭における夫婦の役割分担

- 前回調査と比較すると、全般的に共同で行う割合が増えており、家庭における夫婦の役割分担に変化がみられる。
- しかし、改善は見られるものの、現状では、共同で行うことを理想とする人が大半を占める一方で、家事のほとんどを妻が行っており、今後、更なる取組が必要とされる。

問3 家庭における夫婦の役割分担について、お伺いします。

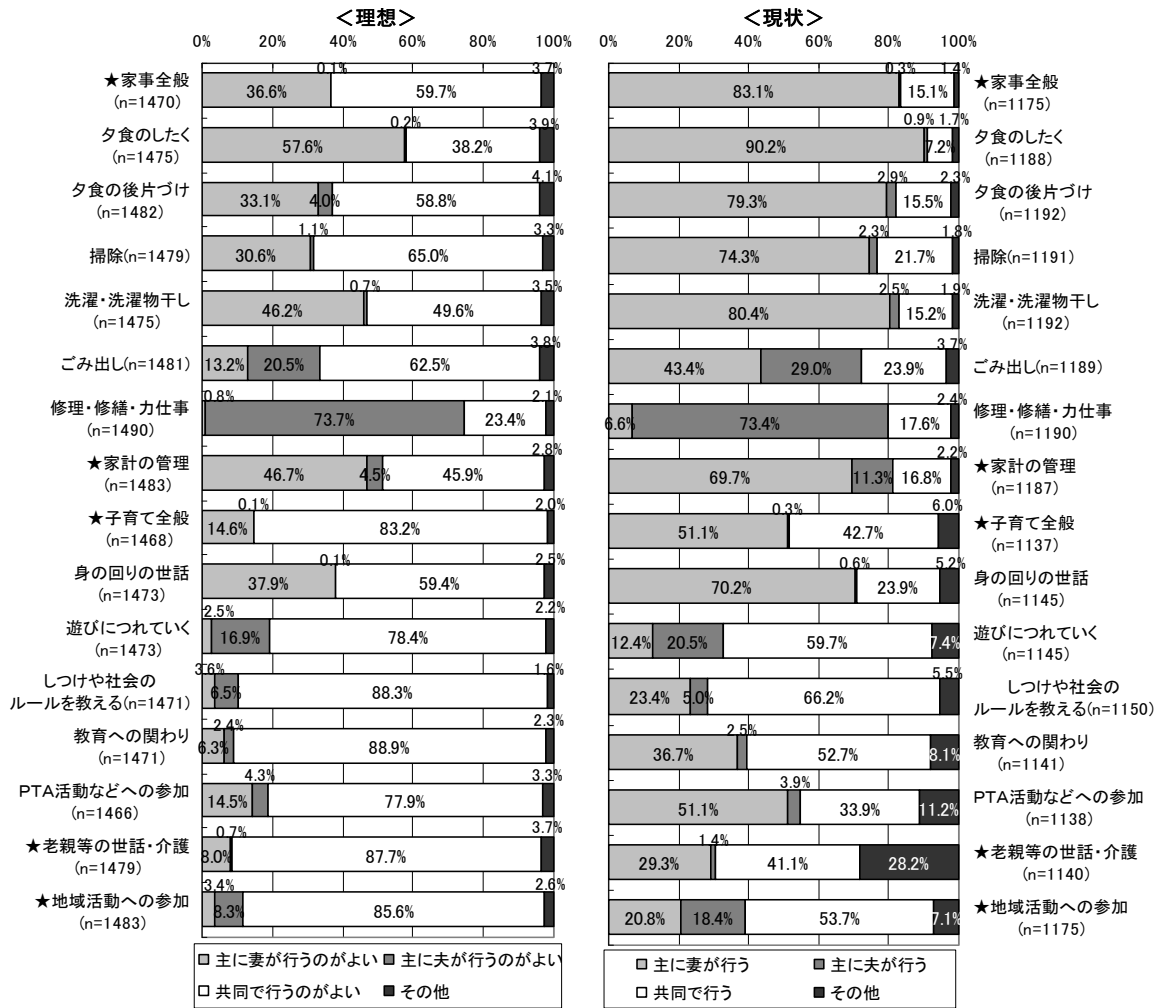
- (1) **【全ての方にお伺いします。】** A～Eに示す各場面で、夫婦のどちらが役割を担う方がいいと思いますか。【(1)理想】欄からあなたの考えに最も近いものを各々1つ選び○印をつけてください。
- (2) **【結婚している方にお伺いします。】** あなたの家庭では、A～Eに示す各場面で、実際に夫婦のどちらが役割を担っていますか。【(2)現状】欄から現状に最も近いものを各々1つ選び○印をつけてください。

	全ての方【(1)理想】				結婚している方【(2)現状】			
	よ行主 いうに の妻が	よ行主 いうに の夫が	よ行共 いう同 のが	その他	行主 つに 妻が	行主 つに 夫が	う共 同で 行	その他
A 家事全般(食事、洗濯、掃除等)	1	2	3	4	1	2	3	4
A-1 夕食のしたく	1	2	3	4	1	2	3	4
A-2 夕食の後かたづけ	1	2	3	4	1	2	3	4
A-3 掃除	1	2	3	4	1	2	3	4
A-4 洗濯・洗濯物干し	1	2	3	4	1	2	3	4
A-5 ごみ出し	1	2	3	4	1	2	3	4
A-6 修理・修繕・力仕事	1	2	3	4	1	2	3	4
B 家計の管理	1	2	3	4	1	2	3	4
C 子育て全般	1	2	3	4	1	2	3	4
C-1 身の回りの世話	1	2	3	4	1	2	3	4
C-2 遊びにつれていく	1	2	3	4	1	2	3	4
C-3 しつけや社会のルールを教える	1	2	3	4	1	2	3	4
C-4 教育への関わり(進学、習い事など)	1	2	3	4	1	2	3	4
C-5 PTA活動などへの参加	1	2	3	4	1	2	3	4
D 老親等の世話・介護	1	2	3	4	1	2	3	4
E 地域活動への参加	1	2	3	4	1	2	3	4

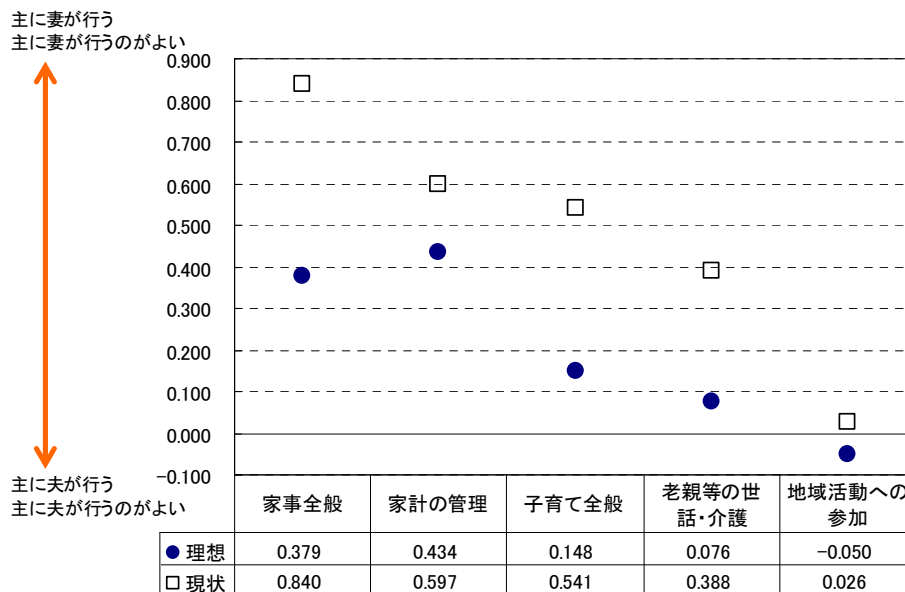
(1) 全体の傾向

- ・ 家庭における夫婦の役割分担の理想をみると（図表 II-52）、全体として「共同で行うのがよい」割合が高い。しかし、「夕食のしたく」や「家計の管理」などについては、妻が行う方がよいという考えを持つ人の割合が比較的高く、「修理・修繕・力仕事」については、夫が行う方がよいという考えを持つ人が 73.7%を占めている。
- ・ 現状をみると（図表 II-52）、「しつけや社会のルールを教える」や「遊びにつれていく」「教育への関わり」「地域活動への参加」については、5割以上を夫婦共同で行っているが、ほとんどの家事は主に妻が行っている。
- ・ 主要な選択肢について、「主に妻が行うのがよい」・「主に妻が行う」を1点、「共同で行うのがよい」を0点、「主に夫が行うのがよい」・「主に夫が行う」を-1点とし、「その他」の回答を除いた回答数を母数としてスコア化による分析を行うと（図表 II-53）、「家事全般」と「家計の管理」において理想のスコアが高く、家事や家計の管理を女性がすべきと考える人が多いことがわかる。「家事全般」については理想と現状が最も乖離している項目であり、理想以上に妻が家事全般を行っている現状が見てとれる。他方、「子育て全般」、「老親等の世話・介護」、「地域活動への参加」については、理想のスコアが0点に近く、一定割合の人が共同で行うのがよいと考えていることがわかる。
- ・ 前回調査と比較すると（図表 II-54）、全般に「共同で行う」割合が増えており、家庭における夫婦の役割分担が、妻がほとんど全てを行う形態から夫もそれに参加する形態への変わってきていることがうかがえる。
- ・ 平成 19 年度に実施した子ども向けのアンケート調査においては、子どもからみた大人の家庭での役割分担を把握した。そこでは、小学生・中学生・高校生いずれの学年においても、「主に女の人」が家事を行っているという回答を得た（図表 II-55）。このように、家庭における大人の役割分担は、子どもの役割分担に影響すると考えられるため、次世代における男女共同参画を推進するためにも、大人の役割分担を見直していく必要がある。

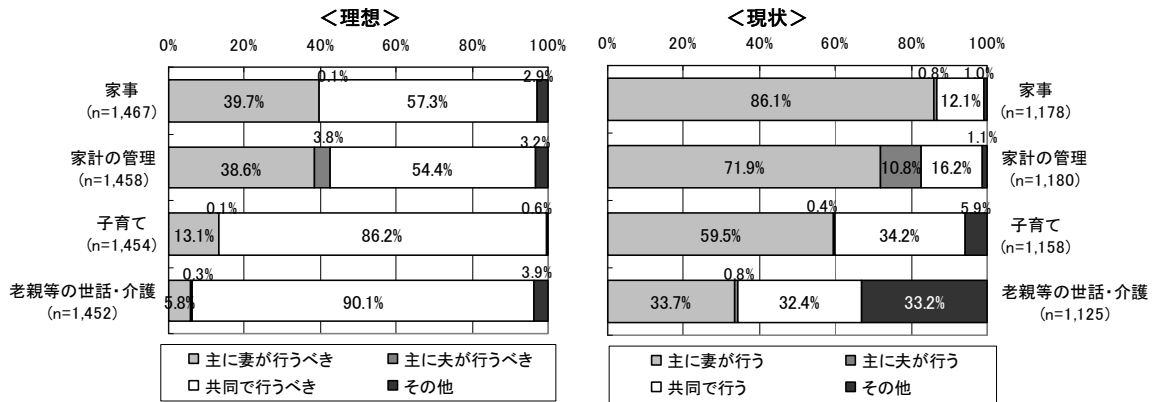
図表II-52 家庭における夫婦の役割分担



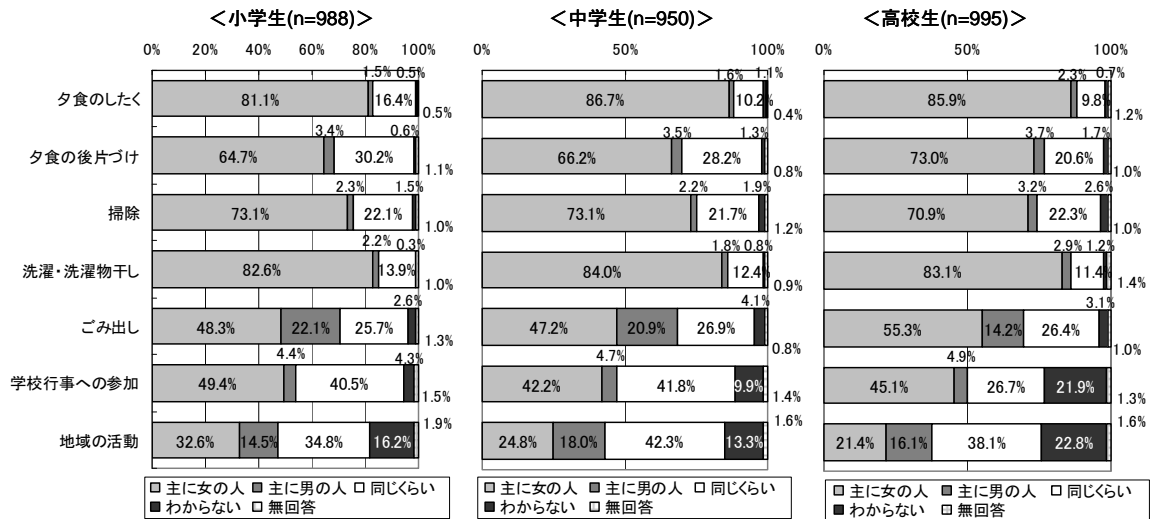
図表II-53 スコアによる分析【家庭における夫婦の役割分担】



図表II-54 平成15年度調査 家庭における夫婦の役割分担（家事、家計、子育て、介護）



図表II-55 平成19年度子ども意識調査 家庭における夫婦の役割分担



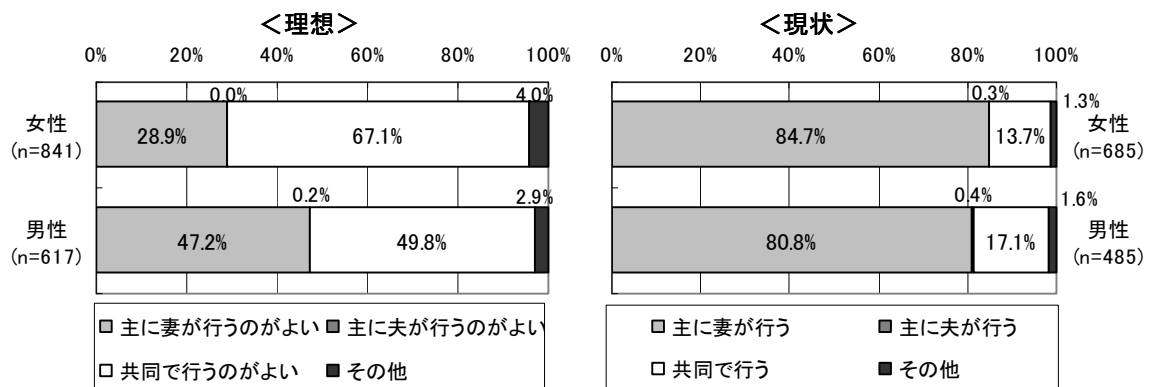
備考) 平成 18 年 8 月に豊田市の小学校 11 校、中学校 9 校、高等学校 5 校を対象とした調査。有効回収数は小学生 988 人、中学生 950 人、高校生 995 人
「あなたの家では、次のことを誰が主にしていますか」に対する回答

(2) 個別の傾向

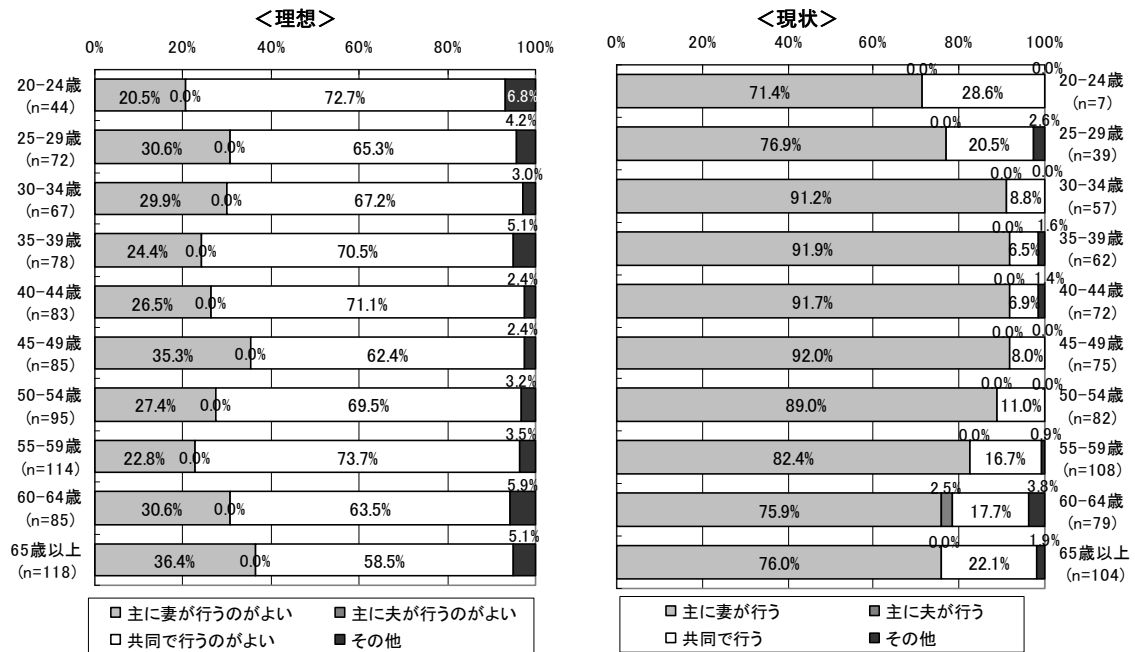
① 家事全般

- ・ 家事全般における家庭での役割分担についてみると（図表 II-56）、共同で行うのが良いと考える人は女性で 67.1%、男性で 49.8%となっているが、現状では男女ともに 8割を超える人が、家事全般を女性が担っていると回答している。
- ・ 女性の年齢別にみると（図表 II-57）、45～49 歳と 65 歳以上において、家事は主に女性が行うのがよいと考えている人の割合が他の年齢層と比較して高くなっている。実際の行動では、30～54 歳の子育て世代において女性が家事を担う割合が高く、概ね 9割の人が、家事全般を女性が担っていると回答している。
- ・ 男性の年齢別にみると（図表 II-58）、年齢を追うにしたがって、家事は主に女性が行うのがよいと考えている人の割合が高くなる傾向がある。実際の行動では、未婚者、あるいは結婚しても子どもがいない夫婦が多く、共働き世帯が多いと推測される 20～24 歳において、家事を共同で行っている人の割合が 60.0%と、他の年齢層と比較して突出している。

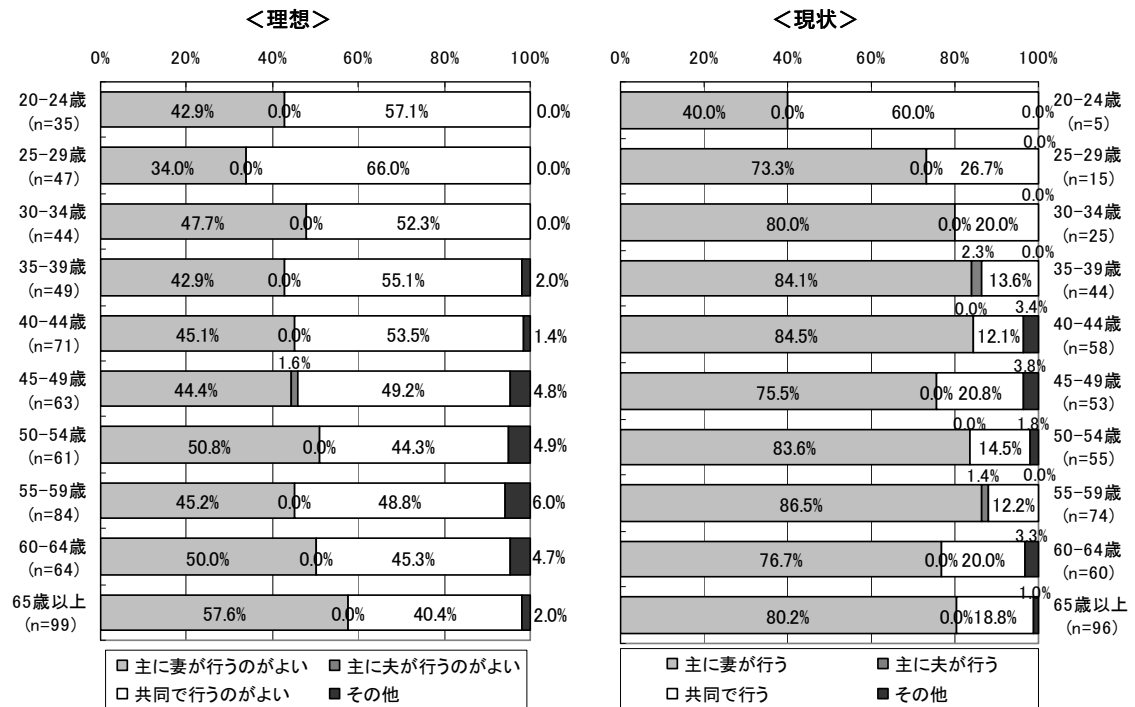
図表II-56 男女別 家庭における夫婦の役割分担「家事全般」



図表II-57 女性年齢別 家庭における夫婦の役割分担「家事全般」



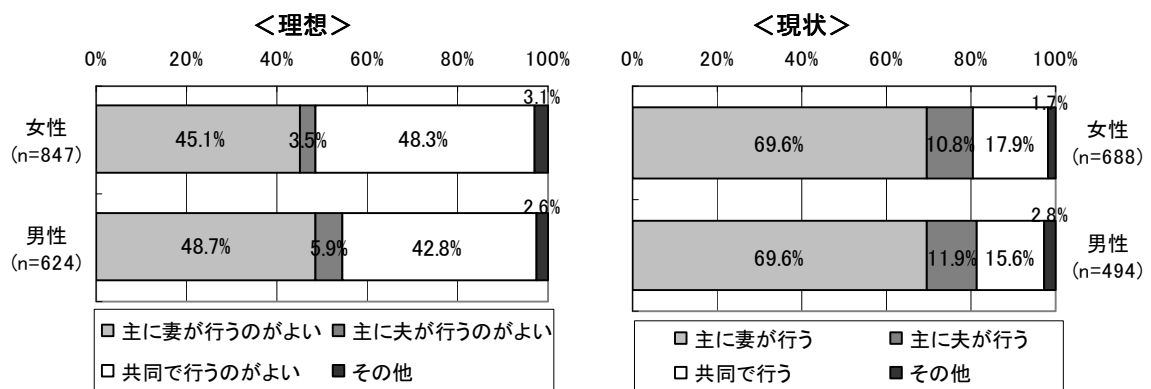
図表II-58 男性年齢別 家庭における夫婦の役割分担「家事全般」



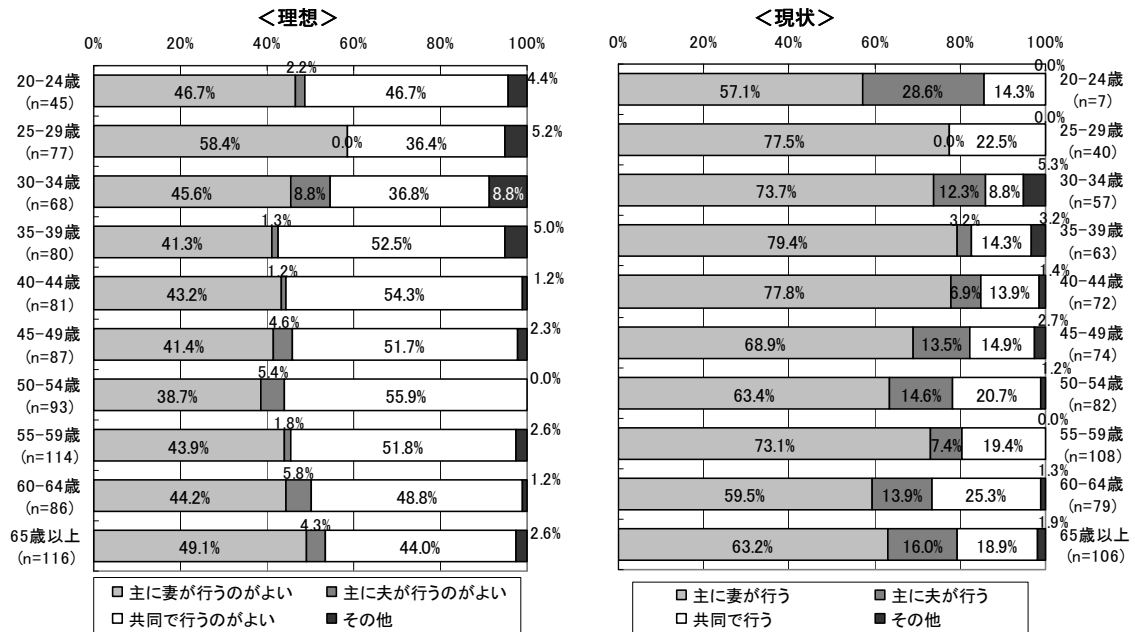
② 家計の管理

- ・ 家計の管理における家庭での役割分担についてみると（図表 II-59）、女性の 48.3%、男性の 42.8% が共同で行うのが良いと考えているが、実際は男女ともに約 7 割の人が、主に女性が家計の管理を担っていると回答している。
- ・ 女性の年齢別にみると（図表 II-60）、35～59 歳において「共同で行うのがよい」考える人が多くなっているが、現状では、同年齢層において家計の管理を妻が行っている割合が高くなっている。
- ・ 男性においては、家計の管理を共同で行うのが良いという考えの人よりも、主に妻が行うのがよいと考える人の割合の方が高いが、年齢別にみると（図表 II-61）比較的若い層で「共同で行うのがよい」と考える人が多く、高い年齢層において「主に妻が行うのがよい」と考える人が多くなっている。

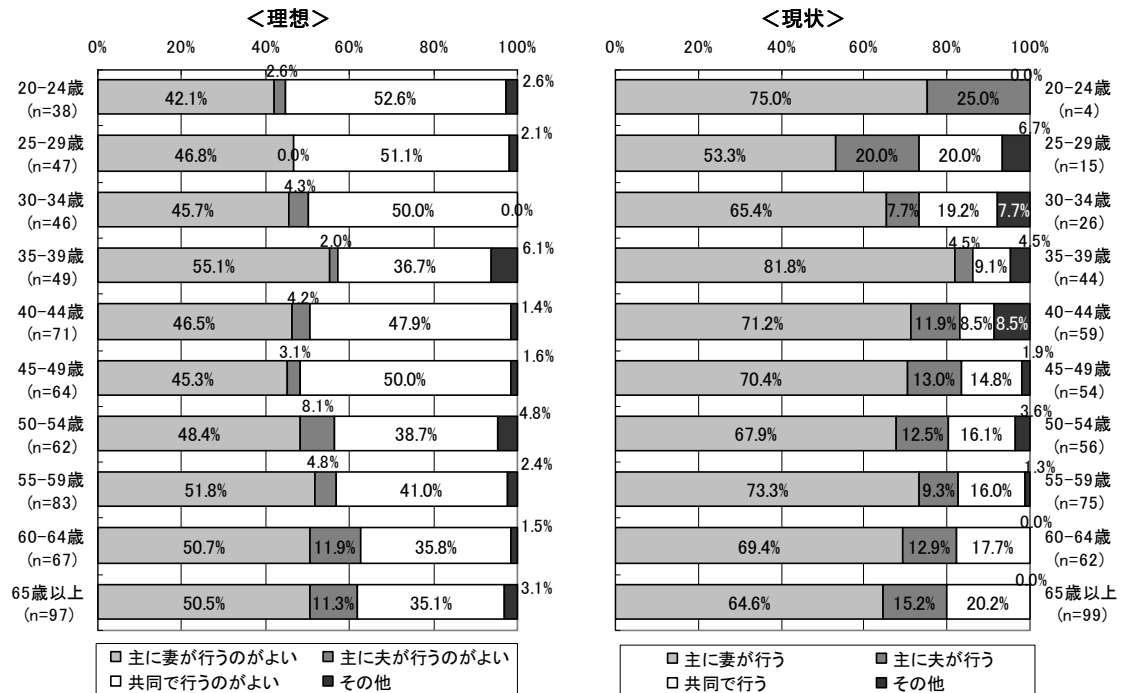
図表II-59 男女別 家庭における夫婦の役割分担「家計の管理」



図表II-60 女性年齢別 家庭における夫婦の役割分担「家計の管理」



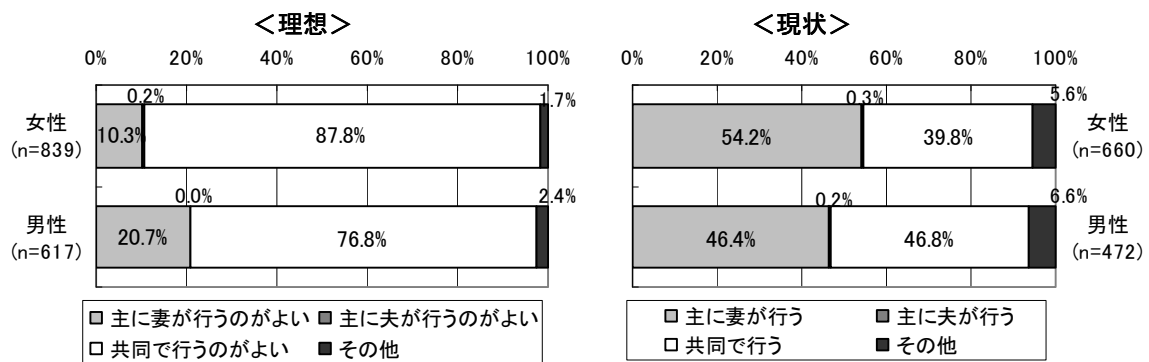
図表II-61 男性年齢別 家庭における夫婦の役割分担「家計の管理」



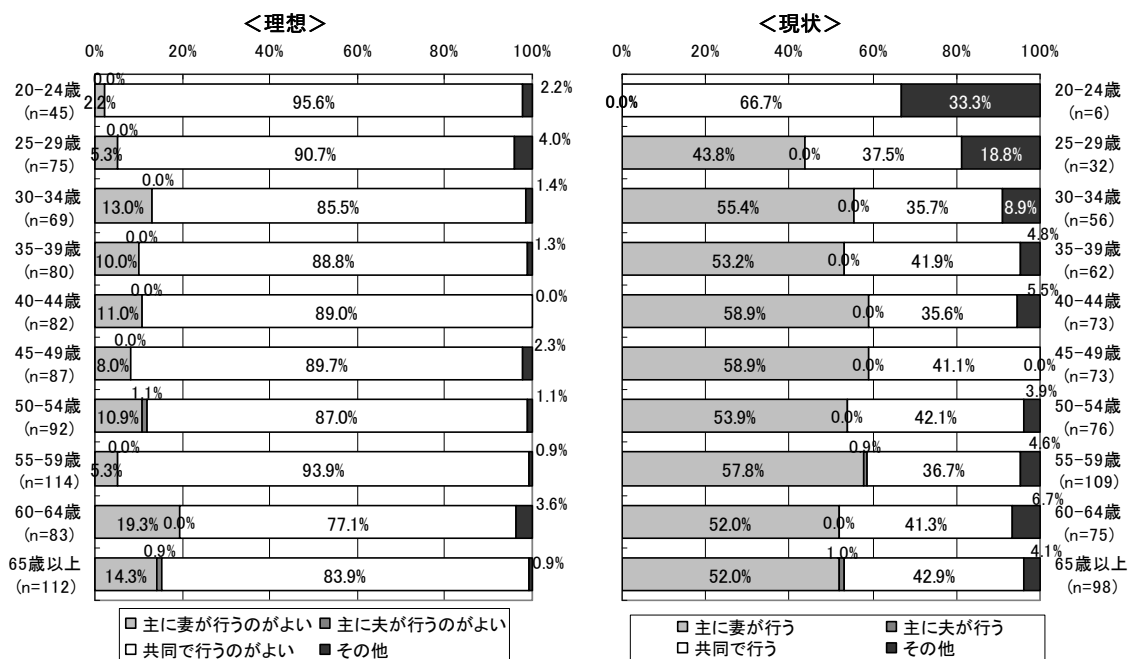
③ 子育て全般

- 子育て全般についてみると（図表 II-62）、女性の87.8%、男性の76.8%は共同で行うのが理想と考えているが、実際は、男女ともに約5割が、子育ては主に妻が行っていると回答している。男性の育児参加を望む声は大きい（図表 II-26）が、現状は主に妻が子育てを行っている家庭が約半数を占めている。
- 女性の年齢別にみると（図表 II-63）、60～64歳を除くすべての年齢層において、共同で行うのが理想と考えている人の割合が8割以上となっている。男性の年齢別にみると（図表 II-64）、年齢が高いほど、子育ては「主に妻が行うのがよい」と考えている人が多くなる傾向にある。

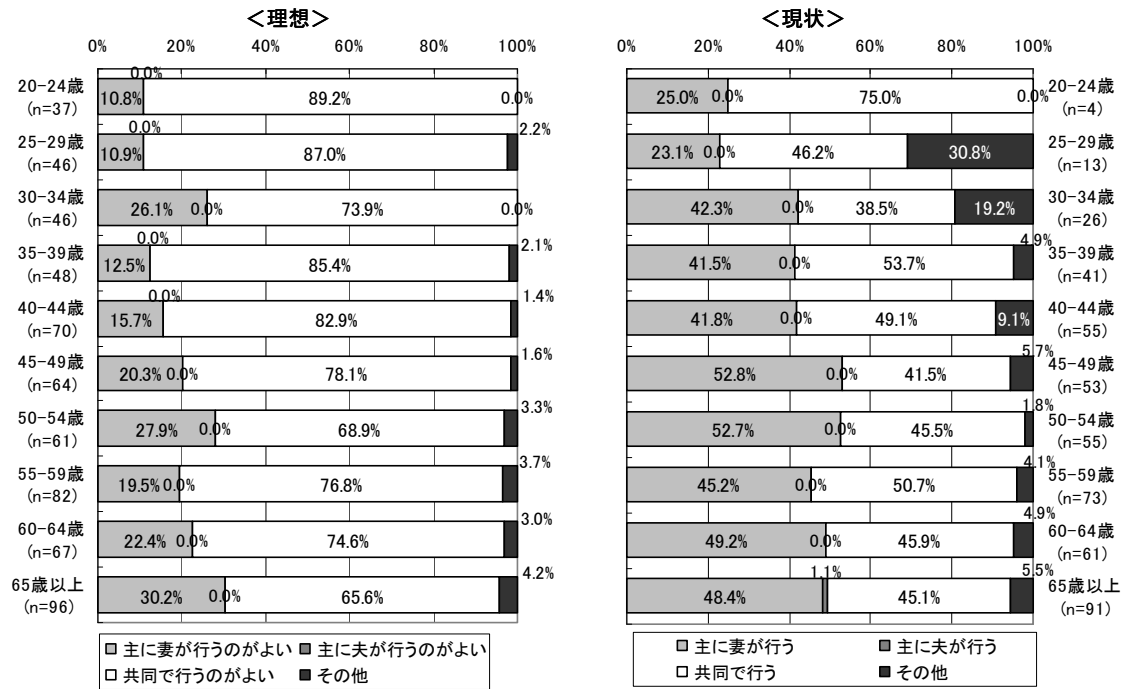
図表II-62 男女別 家庭における夫婦の役割分担「子育て全般」



図表II-63 女性年齢別 家庭における夫婦の役割分担「子育て全般」



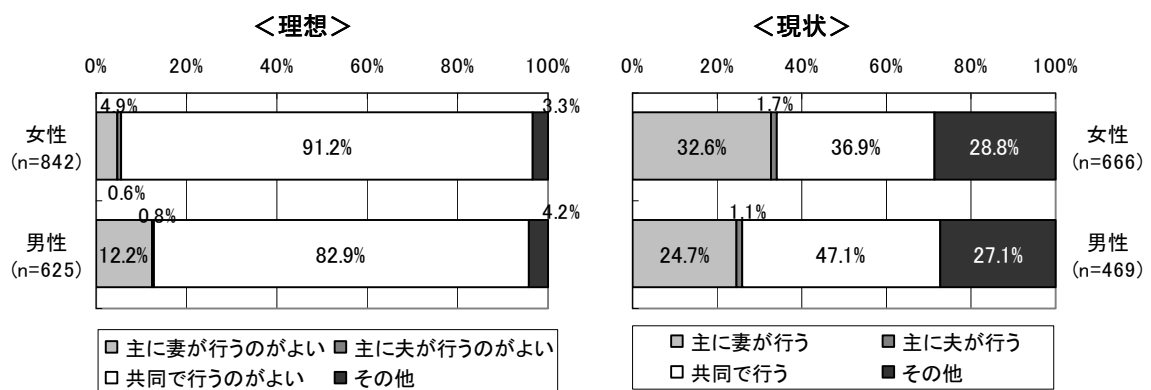
図表II-64 男性年齢別 家庭における夫婦の役割分担「子育て全般」



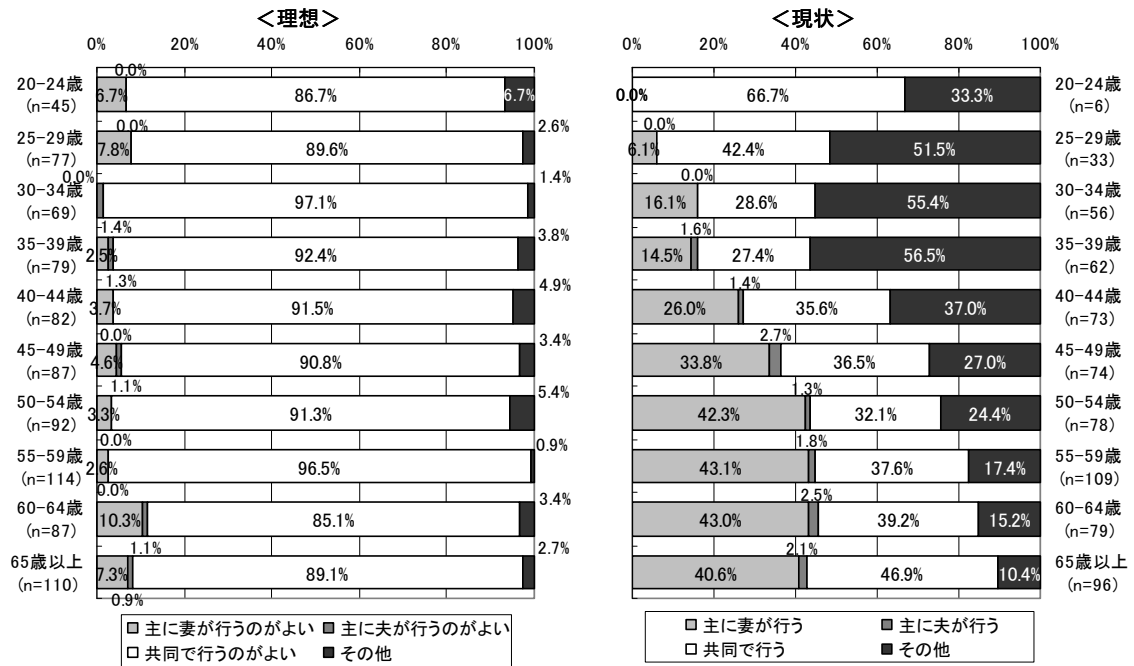
④ 老親の世話・介護

- ・ 老親の世話・介護についてみると（図表 II-65）、女性の91.2%、男性の82.9%は共同で行うのが理想と考えており、現実にも、女性の36.9%、男性の47.1%が共同で介護をしていると回答している。男性が単独で介護を行っている割合はごく僅かである。また、「その他」の主体が老親の世話・介護をやっている割合も高く、女性で28.8%、男性で27.1%となっている。「その他」には、介護サービスなどの利用者が含まれていると想定される。
- ・ 女性の年齢別にみると（図表 II-66）、すべての年齢層において、共同で行うのが理想と考えている人が9割前後を占めている。現状では、25～39歳において「その他」が過半数以上を占めており、年齢が高くなるほど、妻が行う割合および共同で行う割合が高くなっている。
- ・ 男性の年齢別にみると（図表 II-67）、年齢が高いほど、老親の世話・介護は「主に妻が行うのがよい」と考えている人が多くなる傾向にある。現状では、年齢が高くなるほど、共同で行う割合が高くなっており、若年層では「その他」の主体が介護を行う割合が高い。このように、若年層においては、男女ともに親の介護を外部主体に任せている例が多いことが推測される。ただし、若年層においては、親の介護が必要ない人も多く、それらの人も「その他」に回答している確率が高いことから、親の介護が必要な人のうち、外部に任せている人の割合は不明である。

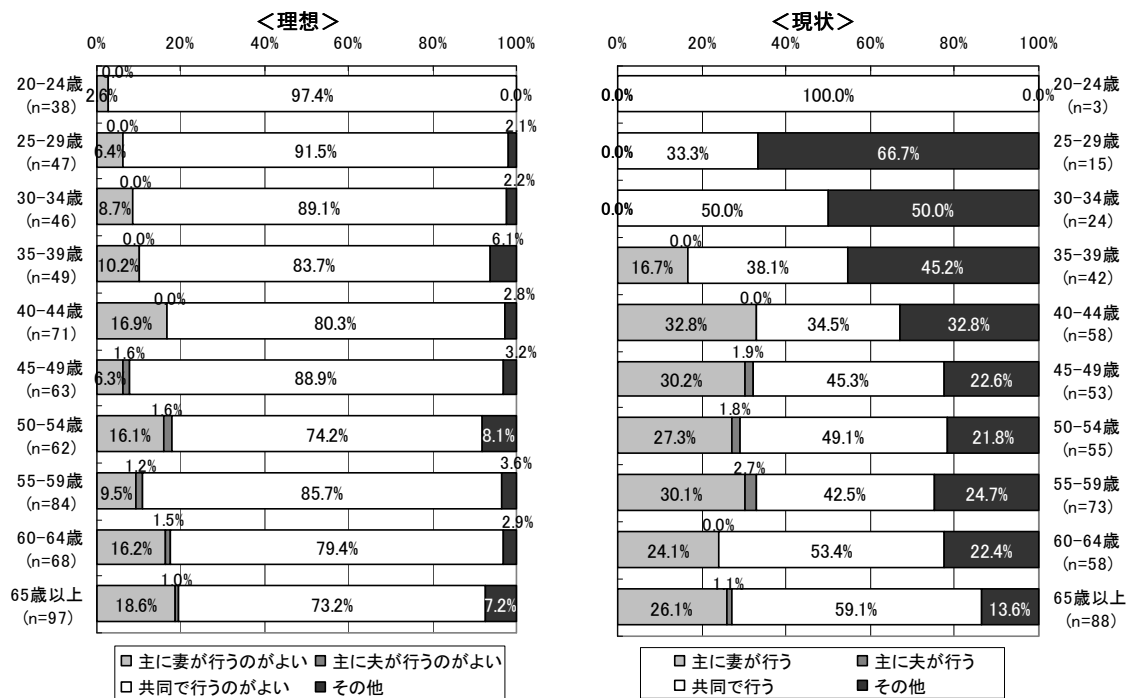
図表II-65 男女別 家庭における夫婦の役割分担「老親の世話・介護」



図表II-66 女性年齢別 家庭における夫婦の役割分担「老親の世話・介護」



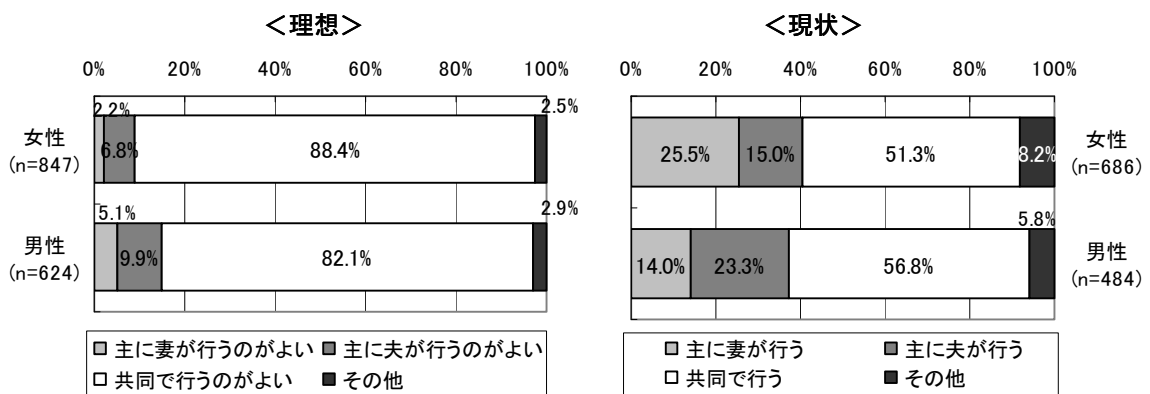
図表II-67 男性年齢別 家庭における夫婦の役割分担「老親の世話・介護」



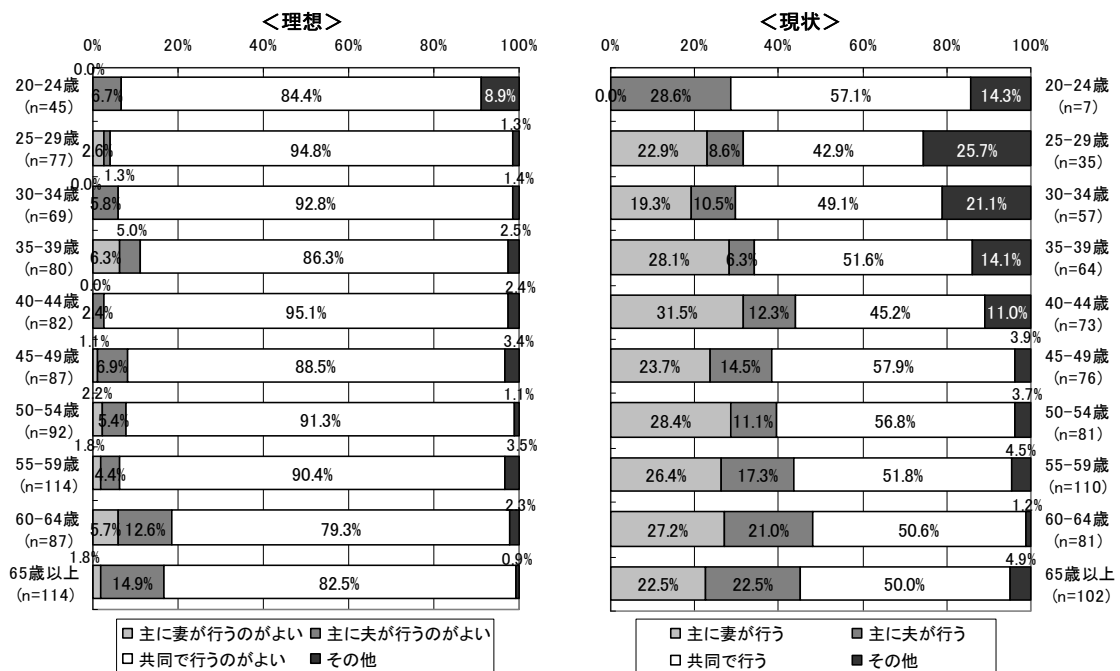
⑤ 地域活動への参加

- ・ 地域活動への参加についてみると（図表 II-68）、女性の 88.4%、男性の 82.1%が共同で行うのが理想と考えており、実際、男女ともに5割を超える人が、地域活動に共同で取り組んでいると回答している。
- ・ 男女の年齢別に地域活動をみると（図表 II-69・図表 II-70）、女性では60歳以上、男性では50歳以上において、地域活動は「主に夫が行うのがよい」と考える人の割合が他の年齢層よりも高くなっている。
- ・ 現状では、若年層において「その他」の割合が高くなっているが、これは、世帯を持っている人でも地域活動へ参加していないことが多いこと、世帯を持っておらず、親が地域活動を行っている人が多いことなどが考えられる。

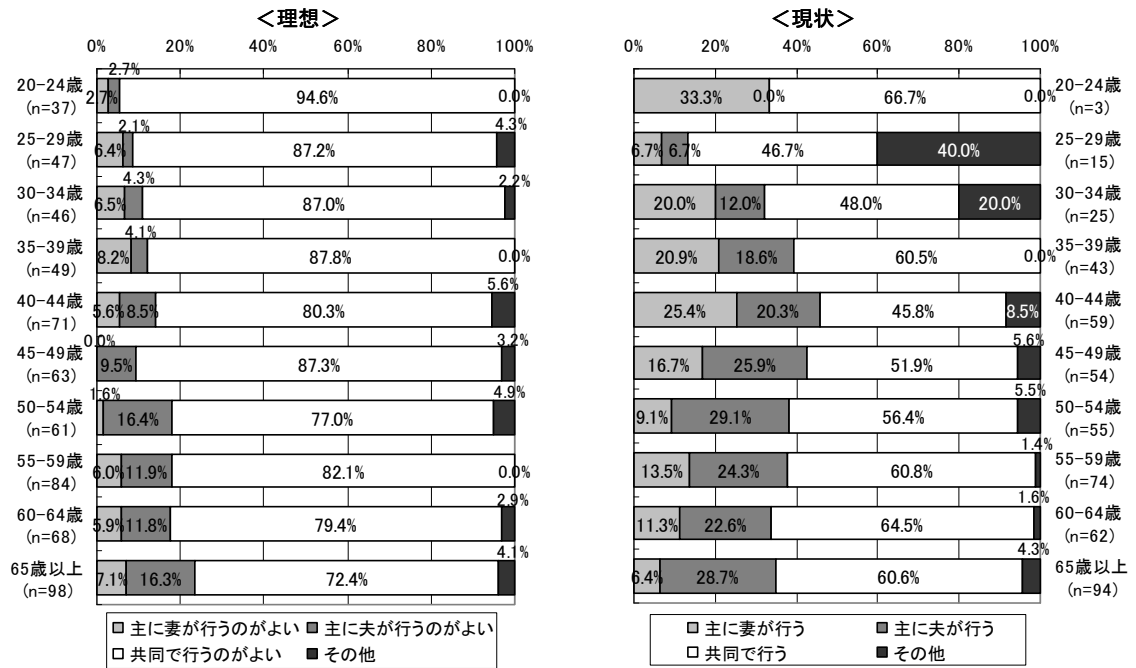
図表II-68 男女別 家庭における夫婦の役割分担「地域活動への参加」



図表II-69 女性年齢別 家庭における夫婦の役割分担「地域活動への参加」



図表II-70 男性年齢別 家庭における夫婦の役割分担「地域活動への参加」



3-2. 家庭における子どもの育て方

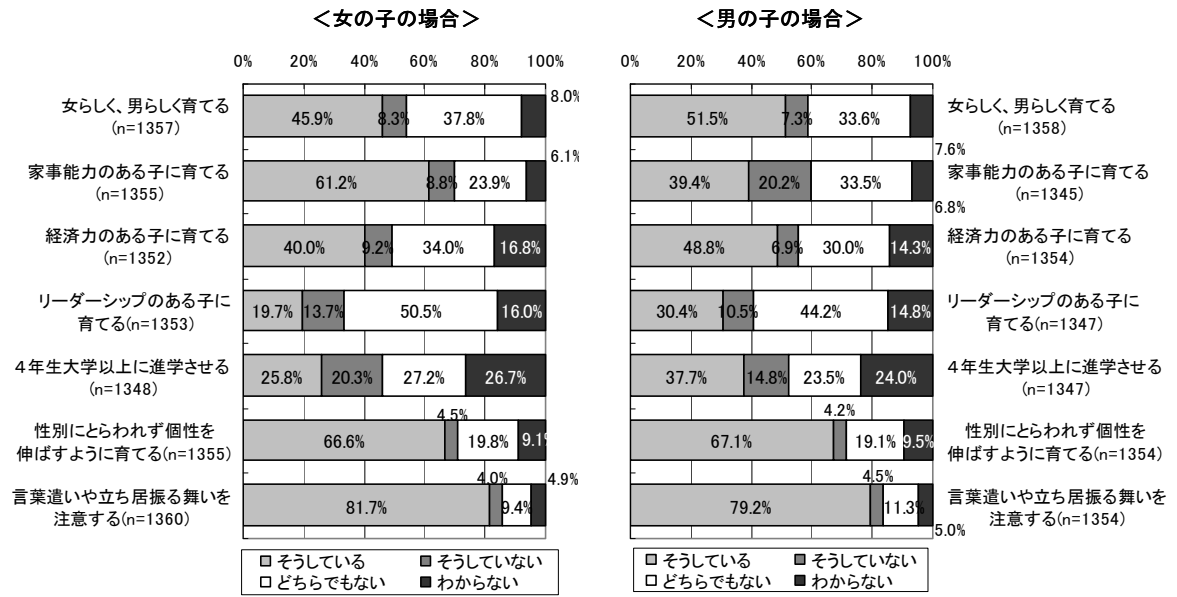
- 「家事能力のある子に育てる」については、子どもの性別によって育て方に差がみられる。
- 男性の方が、「女らしく、男らしく」子どもを育てることを重視する傾向がある。
- 「ジェンダー意識にとらわれている人」の方が、「女らしく、男らしく」子どもを育てることを重視する傾向がある。

問4 家庭における子どもの育て方についてお伺いします。A～Gについて、「女の子の場合」と「男の子の場合」別に、あてはまるものを各々1つ選び○印をつけてください。女の子、男の子それぞれの子育て経験のない方は、あなたの考えにより近いものに○印をつけてください。

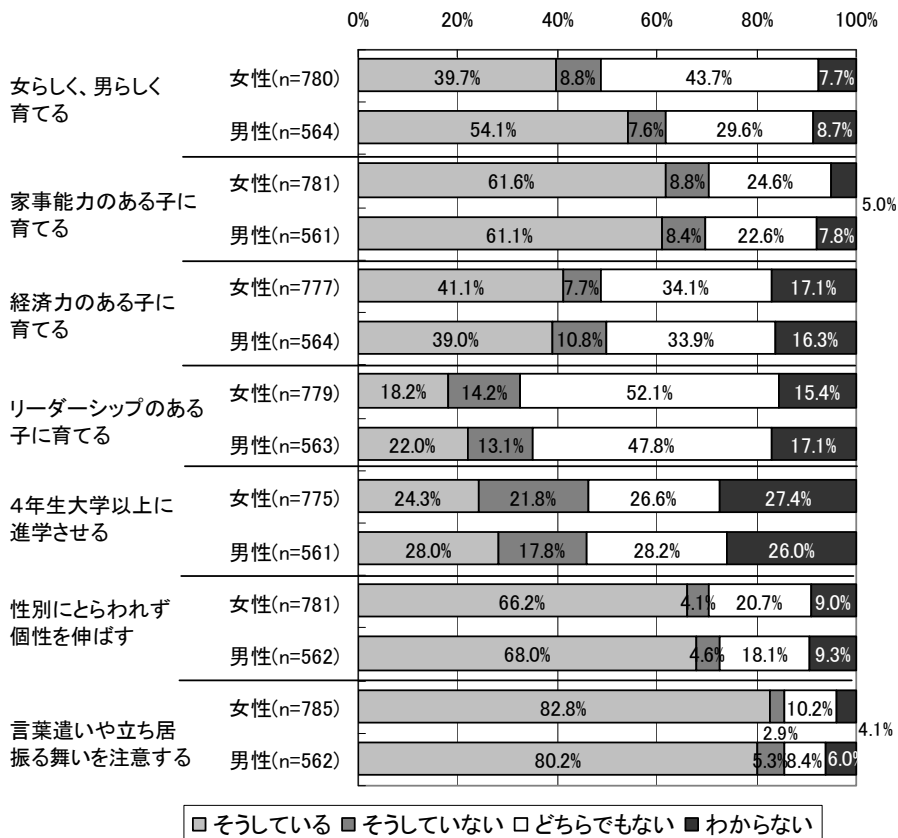
	女の子の場合				男の子の場合			
	いそ る し て	いそ な い し て	な い ち ぢ ぢ も	い わ か ら な	いそ る し て	いそ な い し て	な い ち ぢ ぢ も	い わ か ら な
A 女らしく、男らしく育てる	1	2	3	4	1	2	3	4
B 家事能力（料理、掃除など）のある子に育てる	1	2	3	4	1	2	3	4
C 経済力のある子に育てる	1	2	3	4	1	2	3	4
D リーダーシップのある子に育てる	1	2	3	4	1	2	3	4
E 4年制大学以上に進学させる	1	2	3	4	1	2	3	4
F 性別にとらわれず個性を伸ばすように育てる	1	2	3	4	1	2	3	4
G 言葉遣いや立ち居振る舞いを注意する	1	2	3	4	1	2	3	4

- ・ 家庭における子どもの育て方についてみると（図表 II-71）、女の子においても男の子においても、「性別にとらわれず個性を伸ばすようにする」「言葉遣いや立ち居振る舞いを注意する」について、「そうしている」という回答した人の割合が高くなっている。
- ・ 子どもの性別によって育て方に差がみられるのは、「家事能力のある子に育てる」で、女の子の場合は 61.2%が「そうしている」と回答しているのに対し、男の子の場合は 39.4%となっている。
- ・ 男女別に女の子・男の子の育て方をみると（図表 II-72・図表 II-73）、男性の方が、「女らしく、男らしく」育てることについて重視する傾向があることが見てとれる。

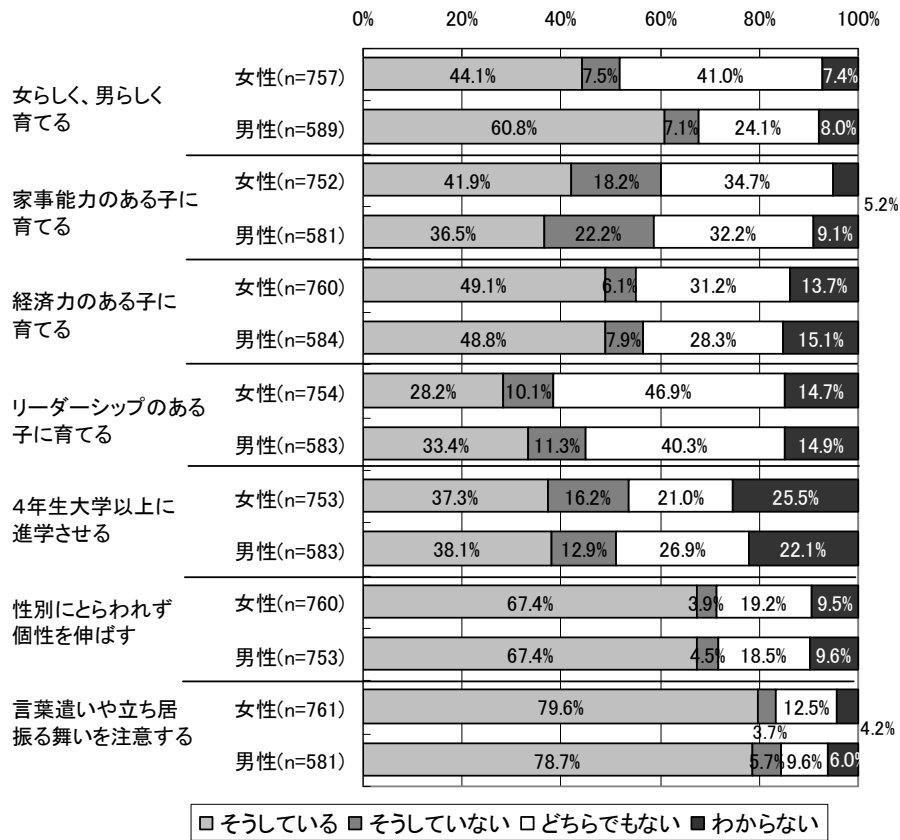
図表II-71 家庭における子どもの育て方



図表II-72 男女別 家庭における子どもの育て方 (女の子)



図表II-73 男女別 家庭における子どもの育て方（男の子）



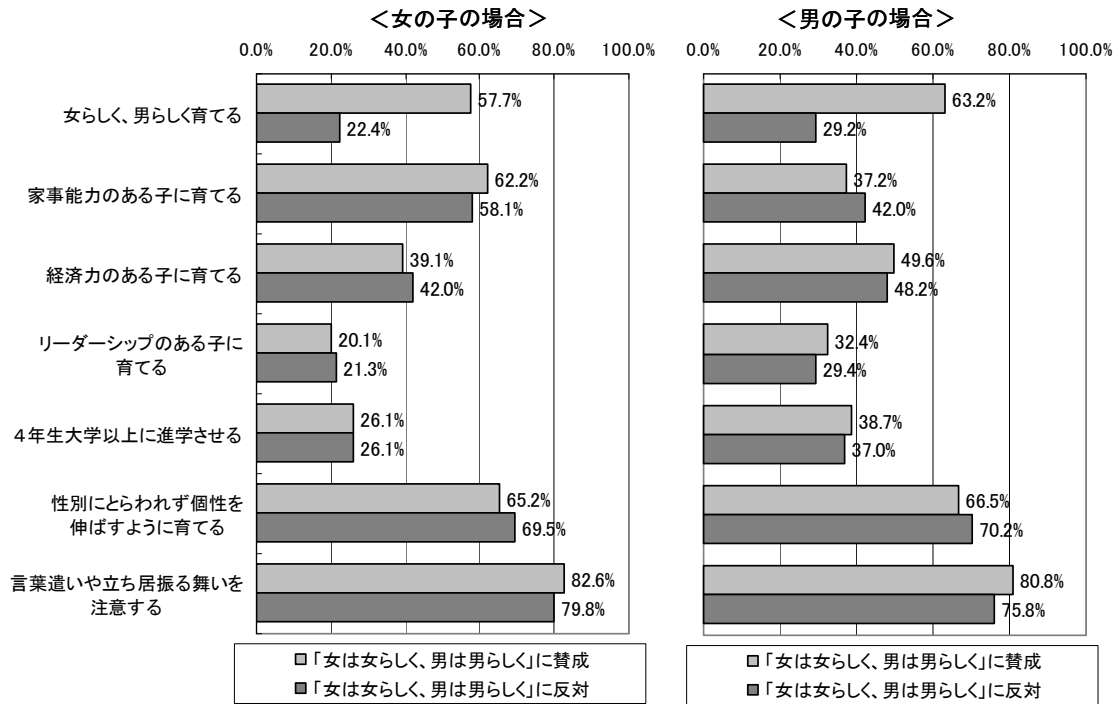
3-3. ジェンダー意識と子育て意識の関係

ここでは、ジェンダー意識が子育て意識にどのように影響するのかをみるために、両者の関係性について、問2の「男女の関わりに関する考え方」と、問4の「家庭における子どもの育て方」とのクロス分析を行う。なお、ジェンダー意識については、男性優位の意識が最も顕著に表れている設問である、問2の「「男は仕事・女は家庭」という考え方はいい」と「「女は女らしく、男は男らしく」する方がいい」とで測ることとした。

問2 男女の関わり・役割分担について	ジェンダー意識にとらわれている人		ジェンダー意識にとらわれていない人		
	【(1)考え方】				
	そう思う	えはどちらかとい えはそう思う	ない えはどちらかとい わ	そう思わない	わからない
D 「男は仕事・女は家庭」という考え方はいい	1	2	3	4	5
E 「女は女らしく、男は男らしく」する方がいい	1	2	3	4	5

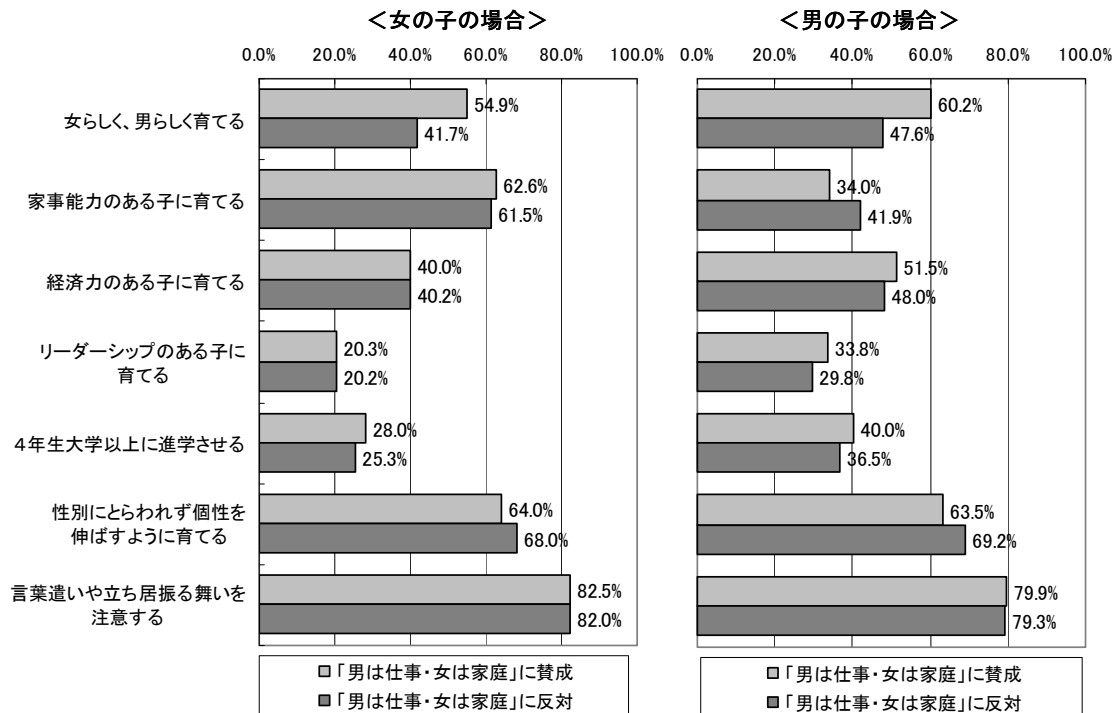
- ・ 「女は女らしく、男は男らしく」に賛成（以下、「ジェンダー意識にとらわれている人」）の人と、反対（以下、「ジェンダー意識にとらわれていない人」）の人とで、子育て意識がどのように異なるのかをみたのが図表 II-74である。「ジェンダー意識にとらわれている人」は、とらわれていない人に比べて「女らしく、男らしく育てる」ことを重視する傾向がうかがえる。他の項目については、ジェンダー意識と子育て意識の間に明確な関係性は認められなかった。
- ・ 「男は仕事・女は家庭」に賛成か反対かでジェンダー意識の有無を判断し、ジェンダー意識と子育て意識との関係をみたのが図表 II-75である。ここでも、「ジェンダー意識にとらわれている人」は、いない人に比べて「女らしく、男らしく育てる」ことを重視していることがわかる。他の項目については、ジェンダー意識と子育て意識の間に明確な関係性は認められなかった。

図表 II-74 ジェンダー意識「女は女らしく、男は男らしく」と子育て意識の関係



備考) 「女は女らしく、男は男らしく」に賛成：問2の男女の関わり・役割分担についての考えにおいて、「女は女らしく、男は男らしく」に「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した人
 「女は女らしく、男は男らしく」に反対：上記の問いにおいて、「女は女らしく、男は男らしく」に「そう思わない」又は「どちらかといえばそう思わない」と回答した人

図表 II-75 ジェンダー意識「男は仕事・女は家庭」と子育て意識の関係



4 地域活動における男女の役割分担

- 全般的に、地域活動においては、男性が企画や仕切りを行い、女性がお茶くみや片づけなどの雑事を行ったり、登録者名が男性であるにも関わらず女性が出席したりといった、従来からの慣習による性別の役割分担が未だに存在していることがうかがえる。
- 男女の改善意識を比べると、女性より男性の方が「改善すべき」と考える割合が高く、女性の方が「当然だと思う」や「仕方ない」の割合が高い。

問5 地域活動における男女の役割分担についてお伺いします。

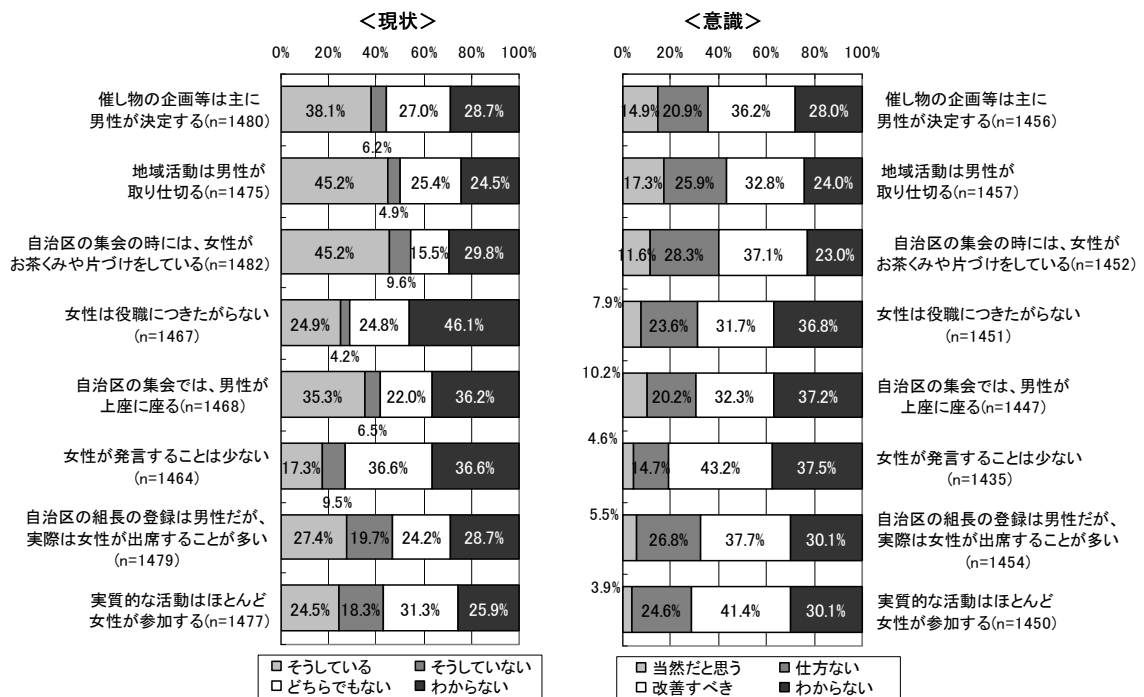
- (1) あなたが参加している地域活動の現状について、【(1)現状】欄からあてはまるものを各々1つ選び○印をつけてください。
- (2) 地域活動の今後のあり方について、【(2)意識】欄からあなたの考えに最も近いものを各々1つ選び○印をつけてください。

	【(1)現状】				【(2)意識】			
	いそ るう して	いそ ない して	もど ない らで	いわ から な	思 う然 だと	仕 方 な い	き 改 善 す べ	いわ から な
A 催し物の企画等は主に男性が決定する	1	2	3	4	1	2	3	4
B 地域活動は男性が取り仕切る	1	2	3	4	1	2	3	4
C 自治区の集会の時には、女性がお茶くみや片づけをしている	1	2	3	4	1	2	3	4
D 女性は役職につきたがらない	1	2	3	4	1	2	3	4
E 自治区の集会では、男性が上座に座る	1	2	3	4	1	2	3	4
F 女性が発言することは少ない	1	2	3	4	1	2	3	4
G 自治区の組長の登録は男性(夫)だが、実際は女性(妻)が出席することが多い	1	2	3	4	1	2	3	4
H 実質的な活動はほとんど女性が参加する	1	2	3	4	1	2	3	4

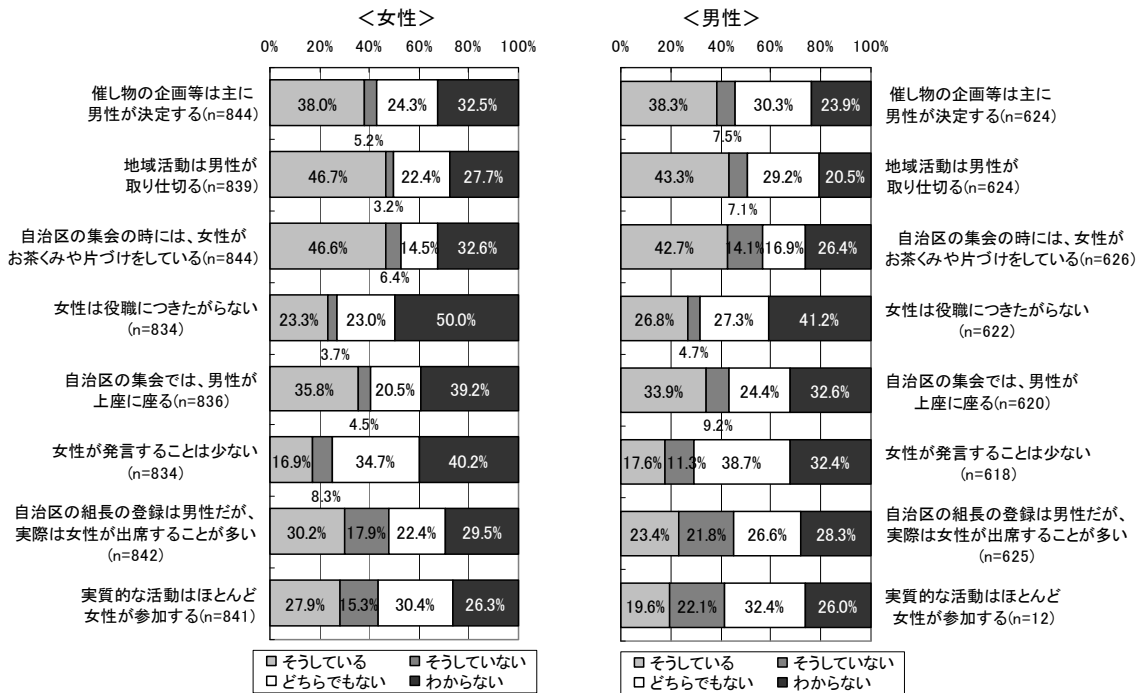
- ・ 地域活動における男女の役割分担の現状をみると（図表 II-76）、「地域活動は男性が取り仕切る」（45.2%）「自治区の集会の時には、女性がお茶くみや片づけをしている」（45.2%）「催し物の企画等は主に男性が決定する」（38.1%）という項目において「そうしている」と回答した人の割合が比較的高くなっている。
- ・ 男女別に役割分担の現状をみると（図表 II-77）、同項目については男女ともに「そうしている」と回答している人の割合が高くなっている。これに対し、「自治区の組長の登録は男性だが、実際は女性が出席することが多い」および「実質的な活動はほとんど女性が参加する」については、女性では「そうしている」という回答が3割程度あるのに対し、男性ではその割合が2割程度と差がある。全般的に、地域活動においては、男性が企画や仕切りを行い、女性がお茶くみや片づけなどの雑事を行ったり、登録者名が男性であるのに関わらず女性が出席したりといった、従来からの慣習による性別の役割分担が未だに存在していることがうかがえる。

- ・ 地域活動における男女の役割分担に関する改善意識をみると（図表 II-78）、女性より男性の方が「改善すべき」とする割合が高く、女性の方が「当然だと思う」や「仕方ない」の割合が高い。
- ・ 改善意識が高い項目は、「女性が発言することは少ない」および「実質的な活動はほとんど女性が参加する」で、4割以上の方が「改善すべき」と回答している。前回調査においても（図表 II-79）、同項目を改善すべきとの回答は多かったが、前回と比較すると「改善すべき」と考えている人の割合は低くなっている。ただし、この背景には、今回調査は前回調査と比較して、「わからない」と回答した人の割合が高かったため、「改善すべき」と考えている人の割合が相対的に低くなっていることも影響している。

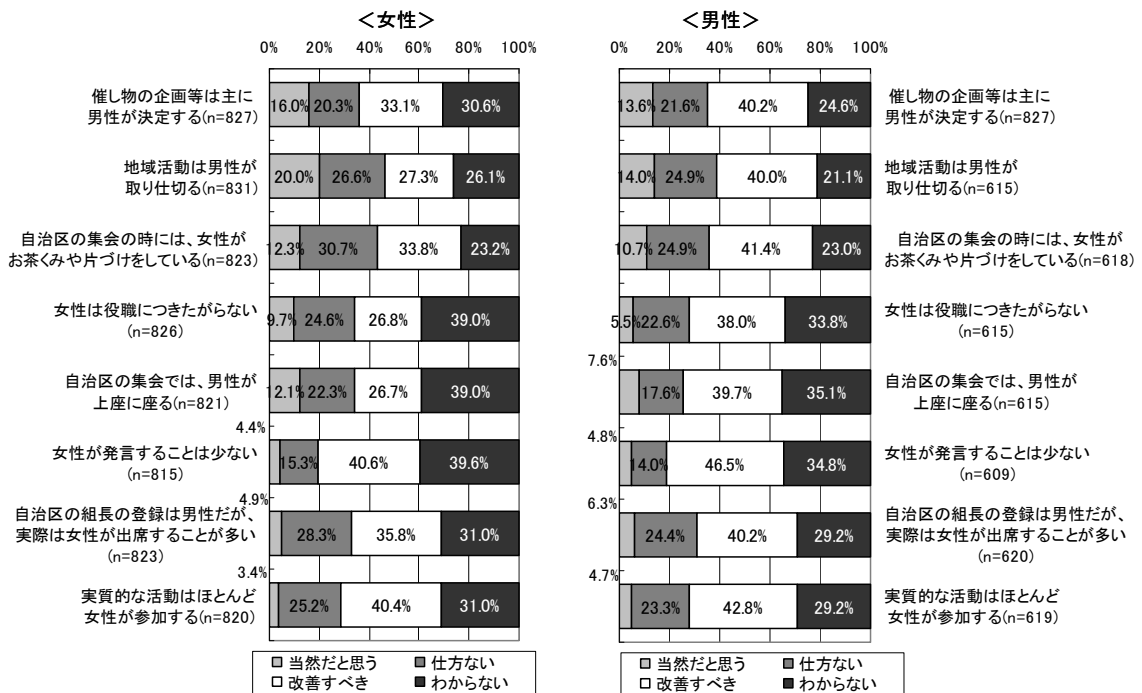
図表 II-76 地域活動における男女の役割分担



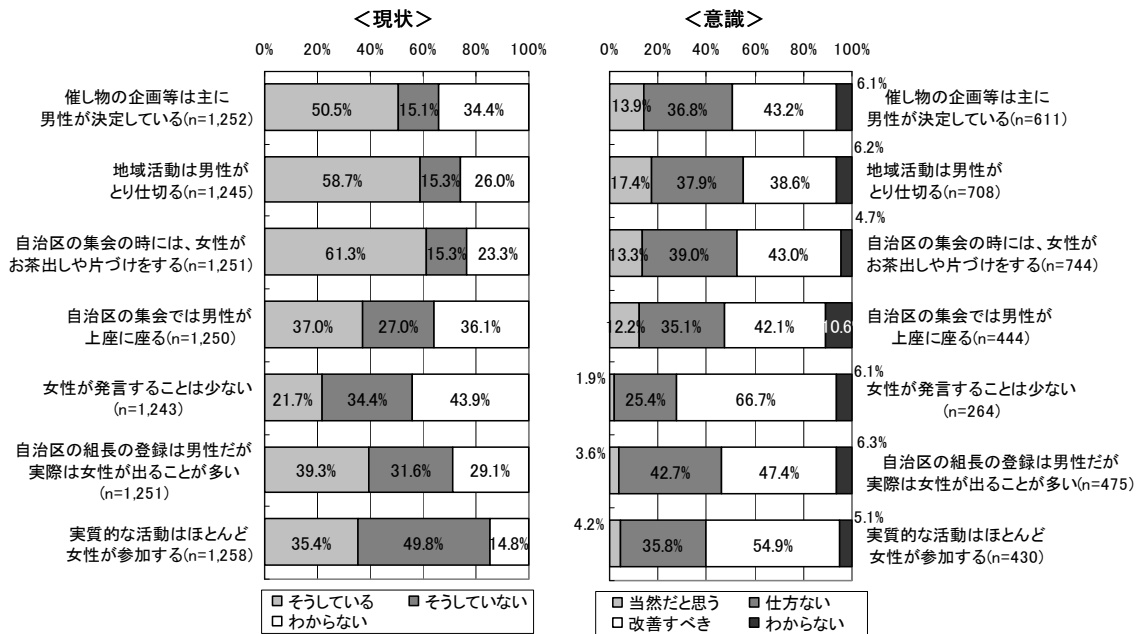
図表 II-77 男女別 地域活動における男女の役割分担【現状】



図表 II-78 男女別 地域活動における男女の役割分担【意識】



図表 II-79 平成15年度調査 地域活動における男女の役割分担



5 職場における男女の役割分担

5-1. 女性が仕事を持つことについての意向

- 男女ともに過半数の人が、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つ方がよい」と考えている。ただし、女性の意向は職業、年齢層により意識が大きく異なる。
- 豊田市では、女性は結婚や出産を機に仕事を離れる方がよいと考えている人が、全国に比べて多くなっている。

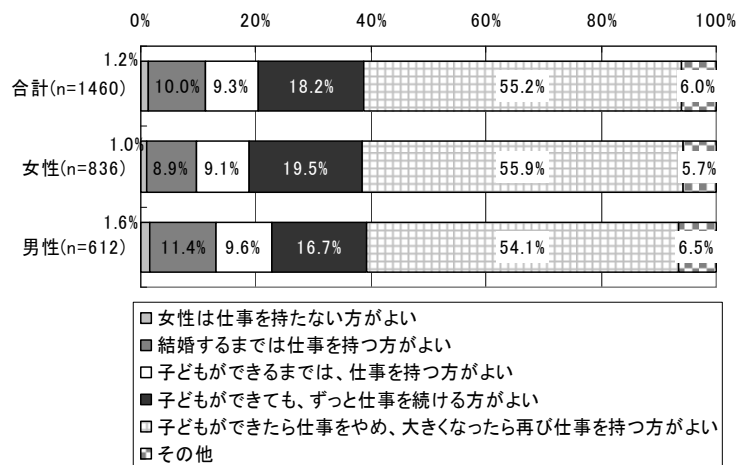
問 6 一般的に、女性が仕事を持つことについて、あなたはどのようにお考えですか。あてはまるものを1つ選び○印をつけてください。

A 女性は仕事を持たない方がよい		} A、Bの方
B 結婚するまでは仕事を持つ方がよい		} 問7へ
C 子どもができるまでは、仕事を持つ方がよい	→	Cの方は問7、8両方お答えください
D 子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい		} D、Eの方
E 子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つ方がよい		} 問8へ
F その他（具体的に)	

(1) 全体の傾向

- ・ 女性が仕事を持つことについての意向についてみると（図表 II-80）、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つ方がよい」が 55.2%と全体の過半数を占めている。次いで「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」が 18.2%となっている。
- ・ 男女別にみてもその傾向に特に変化はない。

図表 II-80 男女別 女性が仕事を持つことについての意向

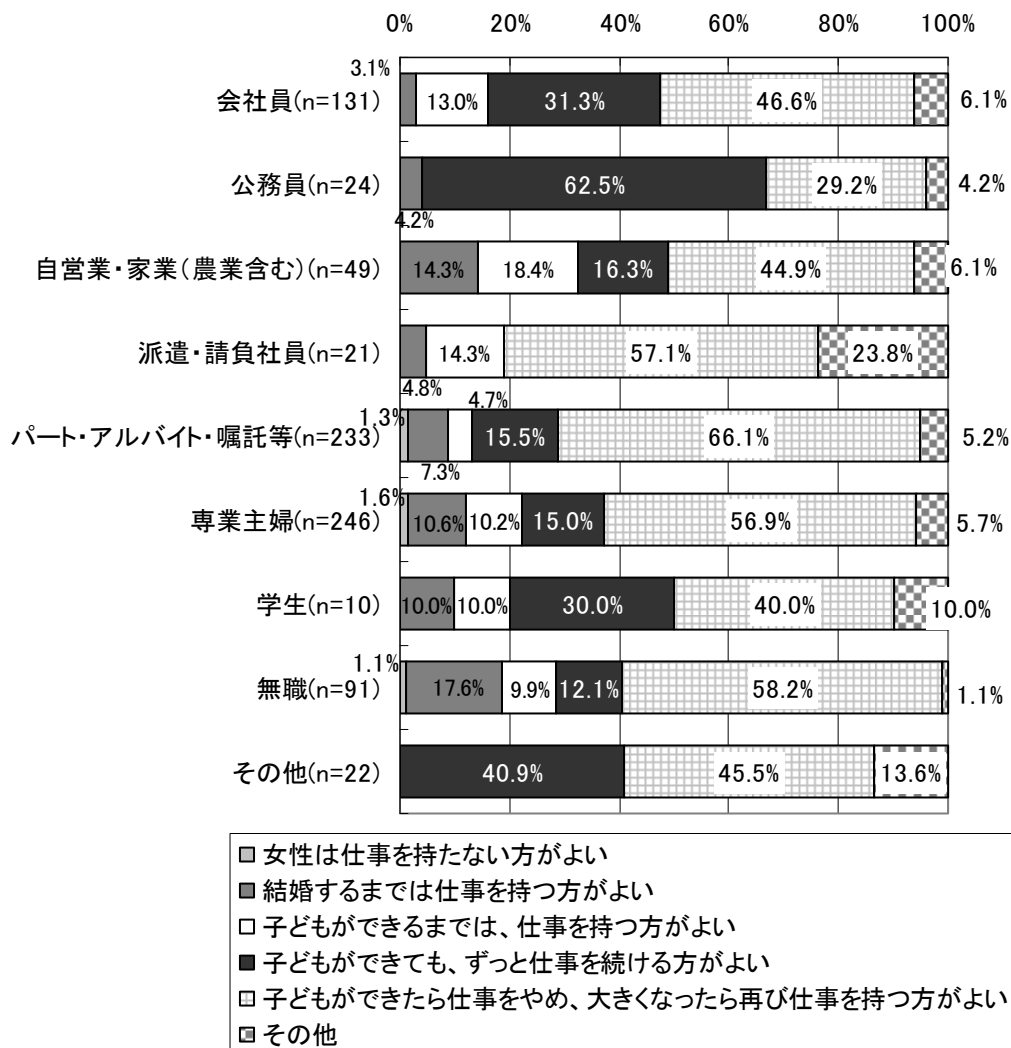


(2) 個別の結果

① 女性の職業別に見る女性が仕事を持つことについての意向

- ・ 女性の職業別にみると（図表 II-81）、公務員を除いて「子どもができれば仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つ方がよい」が最も高い割合となっている。しかし、会社員では、「子どもができれば仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つ方がよい」（46.6%）に続き「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」（31.3%）も他と比べても高い割合となっている。
- ・ 一方で、パート・アルバイト・嘱託等では、「子どもができれば仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つ方がよい」の割合が 66.1%と他と比べて高く、職業や就業形態によって子どもの有無による仕事の継続意欲が大きく異なることがわかる。

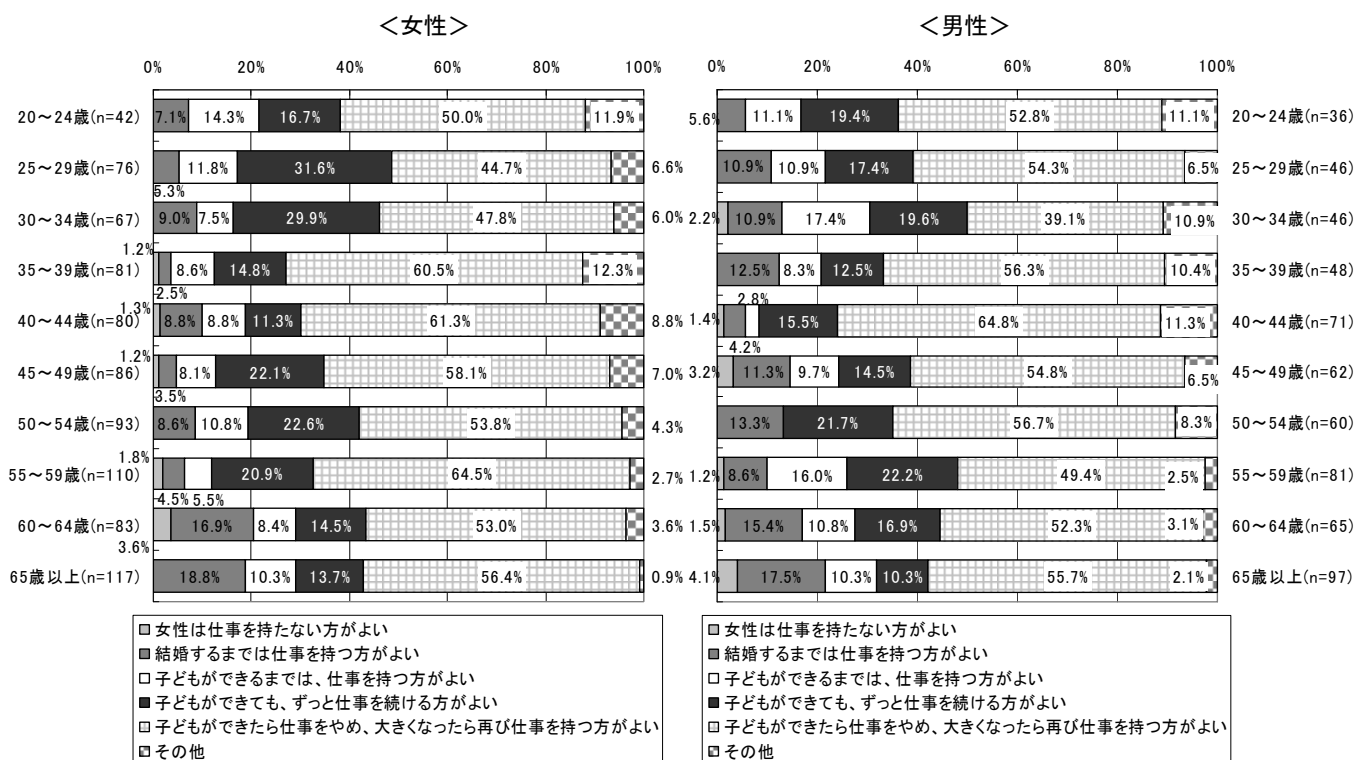
図表 II-81 女性職業別 女性が仕事を持つことについての意向



② 年齢別に見る女性が仕事を持つことについての意向

- ・ 女性の年齢別にみると（図表 II-82）、20代後半から30代前半では「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」の割合が約3割と他の年代よりも高い一方で、ある程度子どもが大きくなっていると考えられる35歳以上では「子どもができれば仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つ方がよい」が高くなり、さらに60歳以上では「結婚するまでは仕事を持つ方がよい」が他の年代よりも高くなっているなど、年齢により、仕事を持つことに対する意識が異なることが読み取れる。
- ・ 男性の年齢別にみると（図表 II-82）、35歳～49歳と60歳以上において「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」が他の年代よりも低くなっている。特に女性同様に60歳以上においては、「結婚するまでは仕事を持つ方がよい」が他の年代よりも高く、女性が仕事を持つことに対して理解がある人が少ない。

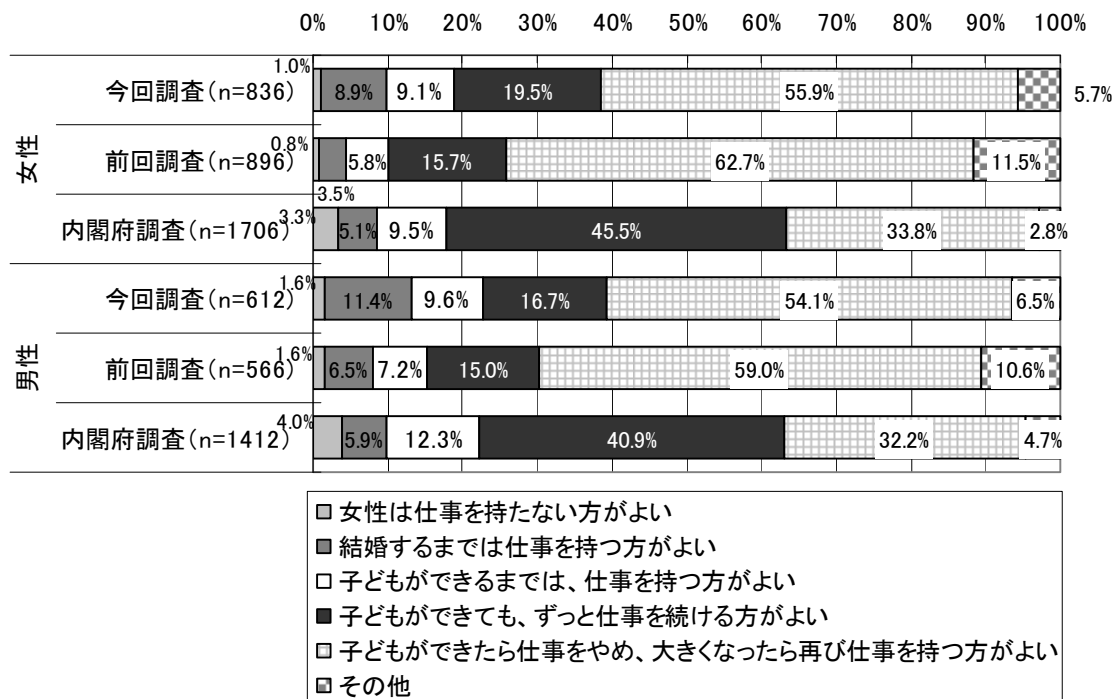
図表 II-82 年齢別 女性が仕事を持つことについての意向



③ 内閣府調査・前回調査との比較

- ・ 内閣府調査と比較すると、豊田市では「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」と考えている人の割合が大幅に低い。同割合は、内閣府調査では女性で45.5%、男性で40.9%となっているが、豊田市においては、女性で19.5%、男性で16.7%と、前回調査と比較すると増加してはいるものの、全国に比べて大幅に低くなっている。
- ・ 豊田市では、女性は結婚や出産を機に仕事を離れる方がよいと考えている人が全国に比べて多くなっている。
- ・ 平成19年4月1日現在の豊田市の待機児童数は19人であり、全国的にそれほど多いわけではないことを考えると、(財団法人こども未来財団「平成19年度全国待機児童マップ」(<http://www.i-kosodate.net/policy/waiting2007/start.asp>)参照)子育て環境が充実していないために結婚や出産を機に仕事を離れざるを得ない状況にある人ばかりではないと想像される。また、本市が実施した男女共同参画をテーマとした市民ワークショップのなかでは、結婚や出産を機に仕事を離れる女性は、男性の所得の高さや工場の勤務形態が理由となっている場合があるという意見もあった。

図表 II-83 女性が仕事を持つことについての意向 前回調査との比較



注) 前回調査、内閣府調査の「その他」には「その他」および「わからない」が含まれている。内閣府調査とは、2007年に内閣府が全国20歳以上の男女5,000人を対象に実施した調査のことである。

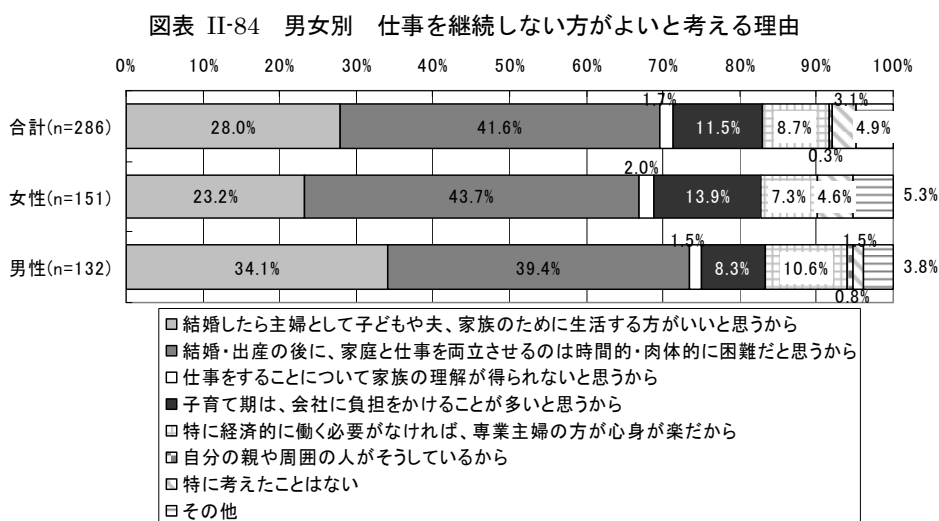
5-2. 仕事を継続しない方がよいと考える理由

- 仕事を継続しない方がよいと考える理由は、時間的・肉体的に家庭と仕事の両立が困難であるとの回答の割合が、男女ともに高くなっている。

問7 【問6でA～Cと回答された方にお伺いします】仕事を継続しない方がよいと考える理由は何ですか。あなたの考えに最も近いものを1つ選び○印をつけてください。

- A 結婚したら主婦として子どもや夫、家族のために生活する方がよいと思うから
- B 結婚・出産の後に、家庭と仕事を両立させるのは時間的・肉体的に困難だと思うから
- C 仕事をするということについて家族の理解が得られないと思うから
- D 子育て期は、会社に負担をかけることが多いと思うから（保育園の送り迎え、子どもの病気、学校行事など）
- E 特に経済的に働く必要がなければ、専業主婦の方が心身が楽だから
- F 自分の親や周囲の人がそうしているから
- G 特に考えたことはない
- H その他（ ）

- ・ 「女性は仕事を持たない方がよい」「結婚するまでは仕事を持つ方がよい」「子どもができるまでは、仕事を持つ方がよい」と回答した人について、仕事を継続しない方がよいと考える理由についてみると（図表 II-84）、女性では「結婚・出産の後に、家庭と仕事を両立させるのは時間的・肉体的に困難だと思うから」が43.7%と最も高く、家庭と仕事を両立させるための仕組みの整備が必要とされていることがわかる。
- ・ 次いで「結婚したら主婦として子どもや夫、家族のために生活する方がよいと思うから」が23.2%で続いており、自らの選択の結果として仕事を継続していない人も一定程度存在することがわかる。
- ・ 男性では、「結婚・出産の後に、家庭と仕事を両立させるのは時間的・肉体的に困難だと思うから」（39.4%）と「結婚したら主婦として子どもや夫、家族のために生活する方がよいと思うから」（34.1%）がほぼ同割合で続いている。



(参考)

※回答者数が少ないため、統計的意味は持たないが、参考値として女性年齢別の数値を掲載する。

図表 II-85 女性年齢別 仕事を継続しない方がよいと考える理由

	結婚したら主婦として子どもや夫、家族のために生活する方がよいと思うから	結婚・出産の後に、家庭と仕事を両立させるのは時間的・肉体的に困難だと思っから	仕事をするということについて家族の理解が得られないと思うから	子育て期は、会社に負担をかけることが多いと思うから(保育園の送り迎え、子どもの病気、学校行事など)	特に経済的に働く必要がなければ、専業主婦の方が心身が楽だから	自分の親や周囲の人がそうしているから	特に考えたことはない	その他
合計(n=151)	23.2%	43.7%	2.0%	13.9%	7.3%	0.0%	4.6%	5.3%
20～24 歳 (n=9)	0.0%	33.3%	0.0%	22.2%	44.4%	0.0%	0.0%	0.0%
25～29 歳 (n=13)	38.5%	30.8%	0.0%	0.0%	7.7%	0.0%	7.7%	15.4%
30～34 歳 (n=11)	27.3%	54.5%	0.0%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%	9.1%
35～39 歳 (n=8)	0.0%	75.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
40～44 歳 (n=15)	6.7%	60.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	13.3%
45～49 歳 (n=10)	10.0%	40.0%	0.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%
50～54 歳 (n=18)	22.2%	27.8%	0.0%	16.7%	16.7%	0.0%	11.1%	5.6%
55～59 歳 (n=13)	15.4%	53.8%	0.0%	30.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
60～64 歳 (n=24)	50.0%	33.3%	0.0%	4.2%	8.3%	0.0%	4.2%	0.0%
65 歳以上 (n=30)	23.3%	46.7%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	10.0%	3.3%

5-3. 結婚・出産後に女性が仕事をするために必要だと思うこと

- 男女別にみても、概ね柔軟な働き方ができる制度や育児離職者の再雇用制度、育児休業制度の充実など、就業環境の整備に対するニーズが高い。

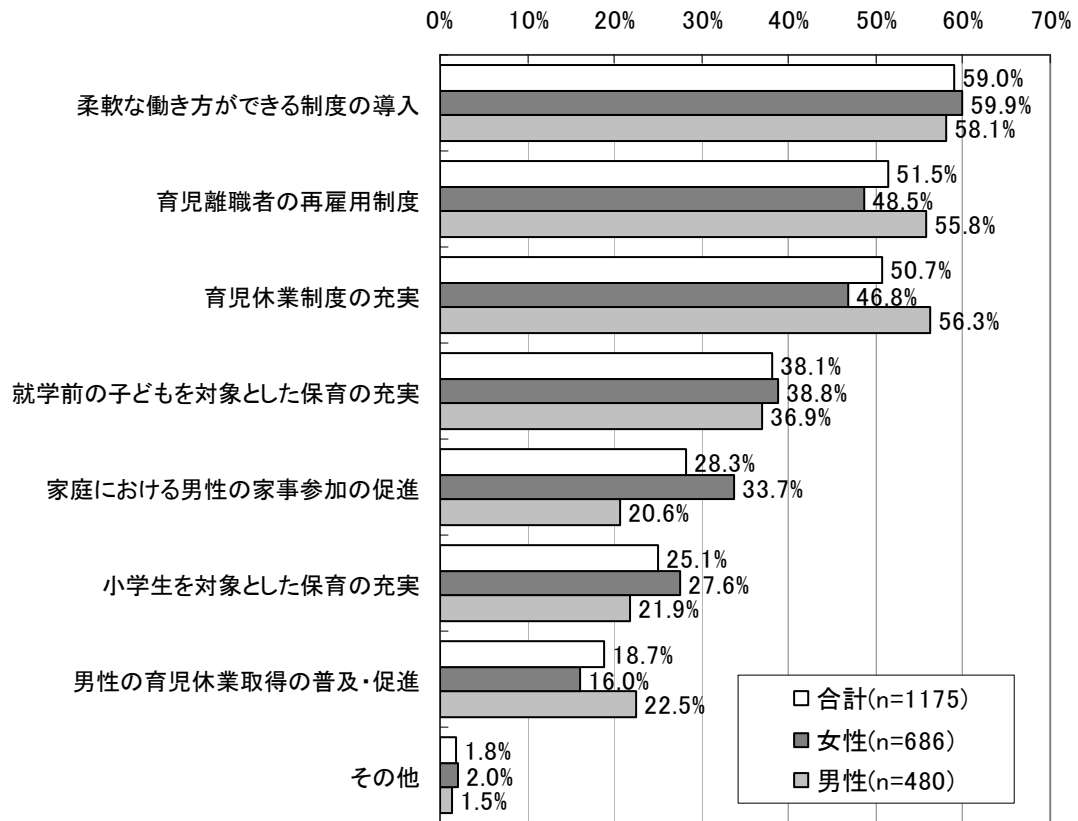
問8 【問6でC～Eと回答された方にお伺いします。】結婚・出産後に女性が仕事をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。あなたの考えに最も近いものを3つ以内で選び○印をつけてください。

- A 育児離職者の再雇用制度
- B 育児休業制度の充実（育児休業期間の延長、休業中の社会保障、経済保障など）
- C 柔軟な働き方ができる制度の導入（在宅勤務や短時間労働など）
- D 就学前の子どもを対象とした保育の充実（保育施設の増設や開設時間の延長など）
- E 小学生を対象とした保育の充実（放課後児童クラブの増設や対象年齢の上限引き上げなど）
- F 男性の育児休業取得の普及・促進
- G 家庭における男性の家事参加の促進
- H その他（)

(1) 全体の傾向

- ・ 「子どもができるまでは、仕事を持つ方がよい」「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」「子どもができれば仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つ方がよい」と回答した人について、結婚・出産後に女性が仕事をするために必要だと思うことについてみると（図表 II-86）、「柔軟な働き方ができる制度の導入」が59.0%と最も高く、「育児離職者の再雇用制度」（51.5%）と「育児休業制度の充実」（50.7%）がほぼ同程度で続いており、就業環境の整備が強く求められている。
- ・ 男女別にみても、傾向は大きく変わらないが、男性の場合「柔軟な働き方ができる制度の導入」「育児離職者の再雇用制度」「育児休業制度の充実」がほぼ同じ割合で続いている。また、「家庭における男性の家事参加の促進」では、男性（20.6%）と女性（33.7%）で約13ポイントと大きな意識の差がある。

図表 II-86 男女別 結婚・出産後に女性が仕事をするために必要だと思うこと(3つ以内MA)



(2) 個別の結果

① 職業別にみた結婚・出産後に女性が仕事をするために必要だと思うこと

- 女性職業別にみると（図表 II-87）、公務員やパート・アルバイト・嘱託等や専業主婦では、「柔軟な働き方ができる制度の導入」の割合が他と比べても高く、実際に就労する際の時間的な制約等から、現状パート・アルバイト・嘱託等や専業主婦となっている人が多いことがうかがえる。
- 一方で、会社員では「育児休業制度の充実」や「就学前の子どもを対象とした保育の充実」、「男性の育児休業取得の普及・促進」の割合が他と比べて高い点が特徴的である。

図表 II-87 女性職業別 結婚・出産後に女性が仕事をするために必要だと思うこと(3つ以内MA)

	柔軟な働き方ができる制度の導入 (在宅勤務や短期間労働など)	育児離職者の再雇用制度	育児休業制度の充実(育児休業期間の延長、休業中の社会保障、経済保障など)	就学前の子どもを対象とした保育の充実 (保育施設の増設や開設時間の延長など)	家庭における男性の家事参加の促進	小学生を対象とした保育の充実(放課後児童クラブの増設や対象年齢の上限引き上げなど)	男性の育児休業取得の普及・促進	その他
合計(n=686)	59.9%	48.5%	46.8%	38.8%	33.7%	27.6%	16.0%	2.0%
会社員(n=117)	47.0%	41.9%	61.5%	45.3%	32.5%	29.1%	25.6%	1.7%
公務員(n=22)	68.2%	59.1%	45.5%	36.4%	36.4%	22.7%	22.7%	4.5%
自営業・家業(農業含む)(n=37)	48.6%	48.6%	56.8%	27.0%	29.7%	29.7%	27.0%	0.0%
派遣・請負社員(n=14)	71.4%	64.3%	28.6%	64.3%	14.3%	28.6%	21.4%	0.0%
パート・アルバイト・嘱託等(n=196)	71.4%	49.0%	36.7%	32.7%	32.7%	29.6%	13.3%	1.5%
専業主婦(n=196)	66.8%	53.6%	44.4%	40.8%	36.7%	24.5%	9.2%	2.0%
学生(n=8)	25.0%	50.0%	87.5%	62.5%	37.5%	0.0%	12.5%	0.0%
無職(n=69)	40.6%	43.5%	47.8%	40.6%	36.2%	24.6%	11.6%	4.3%
その他(n=19)	42.1%	36.8%	52.6%	36.8%	31.6%	42.1%	31.6%	5.3%

注) 「派遣・請負社員」「学生」「その他」についてはn値が小さく統計的意味を持たない参考値
網掛けは合計より5ポイント以上高い項目

② 年齢別にみた結婚・出産後に女性が仕事をするために必要だと思うこと

- ・ 女性の年齢別にみると（図表 II-88）、25～44 歳までの実際に子育てをしていると考えられる世代では、「柔軟な働き方ができる制度の導入」を求める割合が高い。また、一度離職する割合が高い 30 代前半や、45～49 歳といった M 字曲線のピークに近い世代などでは「育児離職者の再雇用制度」に対するニーズが高くなっている。
- ・ その他、20 代前半では「男性の育児休業取得の普及・促進」が、小学生の子どもを持つ年齢となる 30 代後半では「小学生を対象とした保育の充実」の割合が高くなっている。
- ・ 男性の年齢別にみると（図表 II-89）、「柔軟な働き方ができる制度の導入」は 45～54 歳で高く、実際に小学生の子どもを抱える子育て世代と思われる 35～44 歳では、「小学生を対象とした保育の充実」を求める声が高い。
- ・ その他、「就学前の子どもを対象とした保育の充実」は 20 代前半や 30 代後半などで割合が高く、20 代後半から 30 代前半では「家庭における男性の家事参加の促進」が高くなっている。

図表 II-88 女性年齢別 結婚・出産後に女性が仕事をするために必要だと思うこと(3つ以内MA)

	柔軟な働き方ができる制度の導入（在宅勤務や短期間労働など）	育児離職者の再雇用制度	育児休業制度の充実（育児休業期間の延長、休業中の社会保障、経済保障など）	就学前の子どもを対象とした保育の充実（保育施設の増設や開設時間の延長など）	家庭における男性の家事参加の促進	小学生を対象とした保育の充実（放課後児童クラブの増設や対象年齢の上限引き上げなど）	男性の育児休業取得の普及・促進	その他
合計(n=686)	59.9%	48.5%	46.8%	38.8%	33.7%	27.6%	16.0%	2.0%
20～24 歳(n=34)	50.0%	47.1%	67.6%	38.2%	29.4%	5.9%	32.4%	0.0%
25～29 歳(n=66)	74.2%	37.9%	51.5%	45.5%	36.4%	16.7%	16.7%	6.1%
30～34 歳(n=57)	64.9%	54.4%	40.4%	50.9%	35.1%	26.3%	15.8%	3.5%
35～39 歳(n=65)	72.3%	33.8%	41.5%	29.2%	32.3%	41.5%	26.2%	1.5%
40～44 歳(n=65)	73.8%	49.2%	27.7%	33.8%	41.5%	30.8%	7.7%	0.0%
45～49 歳(n=74)	60.8%	55.4%	36.5%	31.1%	36.5%	36.5%	12.2%	4.1%
50～54 歳(n=81)	65.4%	43.2%	56.8%	33.3%	27.2%	28.4%	14.8%	1.2%
55～59 歳(n=97)	44.3%	51.5%	52.6%	41.2%	34.0%	32.0%	16.5%	1.0%
60～64 歳(n=58)	51.7%	53.4%	44.8%	43.1%	32.8%	22.4%	20.7%	0.0%
65 歳以上(n=89)	47.2%	56.2%	51.7%	42.7%	31.5%	22.5%	9.0%	2.2%

注) 網掛けは合計より 5 ポイント以上高い項目

図表 II-89 男性年齢別 結婚・出産後に女性が仕事をするために必要だと思うこと(3つ以内MA)

	柔軟な働き方ができる制度の導入(在宅勤務や短時間労働など)	育児離職者の再雇用制度	育児休業制度の充実 (育児休業期間の延長、休業中の社会保険、経済保障など)	就学前の子どもを対象とした保育の充実 (保育施設の増設や開設時間の延長など)	家庭における男性の家事参加の促進	小学生を対象とした保育の充実(放課後児童クラブの増設や対象年齢の上限引き上げなど)	男性の育児休業取得の普及・促進	その他
合計(n=480)	58.1%	56.3%	55.8%	36.9%	22.5%	21.9%	20.6%	1.5%
20～24歳(n=30)	56.7%	63.3%	46.7%	46.7%	16.7%	10.0%	20.0%	0.0%
25～29歳(n=37)	59.5%	56.8%	56.8%	37.8%	29.7%	13.5%	24.3%	0.0%
30～34歳(n=35)	60.0%	54.3%	45.7%	34.3%	37.1%	20.0%	22.9%	5.7%
35～39歳(n=37)	48.6%	51.4%	56.8%	54.1%	18.9%	32.4%	21.6%	2.7%
40～44歳(n=58)	60.3%	56.9%	60.3%	39.7%	20.7%	31.0%	13.8%	0.0%
45～49歳(n=47)	76.6%	48.9%	63.8%	25.5%	25.5%	21.3%	10.6%	0.0%
50～54歳(n=47)	68.1%	59.6%	48.9%	38.3%	19.1%	25.5%	17.0%	4.3%
55～59歳(n=68)	58.8%	57.4%	57.4%	25.0%	22.1%	29.4%	23.5%	0.0%
60～64歳(n=50)	46.0%	62.0%	58.0%	44.0%	18.0%	10.0%	26.0%	4.0%
65歳以上(n=71)	49.3%	53.5%	56.3%	35.2%	21.1%	18.3%	25.4%	0.0%

注) 網掛けは合計より5ポイント以上高い項目

5-4. 職場における男女の違い

- 現在働いている人の約半数が、職場において男女の違いがあると回答しており、男性の方が、違いがあると感じている人の割合がより高い。
- 具体的な違いの内容についてみると、「昇進・昇級に差がある」や「お茶くみ・雑用などの補助的な仕事を女性に割り振る」「賃金に格差がある」が他と比べても群を抜いて高い割合となっている。

問9 【現在働いている方にお伺いします。】それ以外の方は、問10にお進みください。

- (1) あなたの職場では、職場の慣行や待遇、仕事の内容等で、性別による違いがあると思いますか。【(1)男女の違いの有無】欄より、あてはまるものを1つ選び○印をつけてください。
- (2) 「A違いがある」と回答された方には、どのような違いがあるか、【(2)男女の違いの内容】欄より、あてはまるものすべてに○印をつけてください。

【(1)男女の違いの有無】

- A 違いがある
- B 違いはない
- C わからない

Aの人は(2)へ



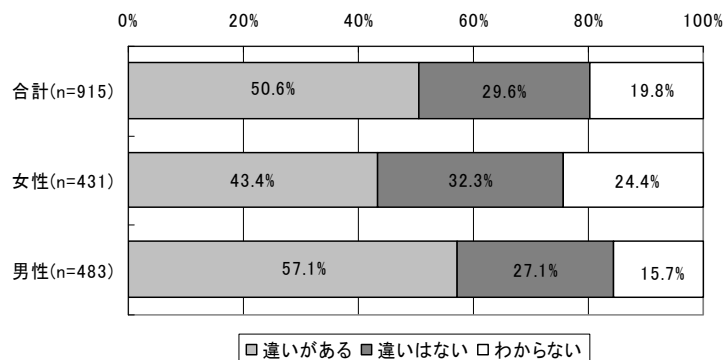
【(2)男女の違いの内容】

- A 賃金に格差がある
- B 昇進・昇級に差がある
- C お茶くみ・雑用などの補助的な仕事を女性に割り振る
- D トイレ、更衣室などの社内設備に差がある
- E セクシュアル・ハラスメントを受けやすい
- F 教育訓練の機会に差がある
- G 雇用形態に差がある（女性はパートのみで正社員採用はない）
- H その他（ ）
- I わからない

(1) 全体の傾向

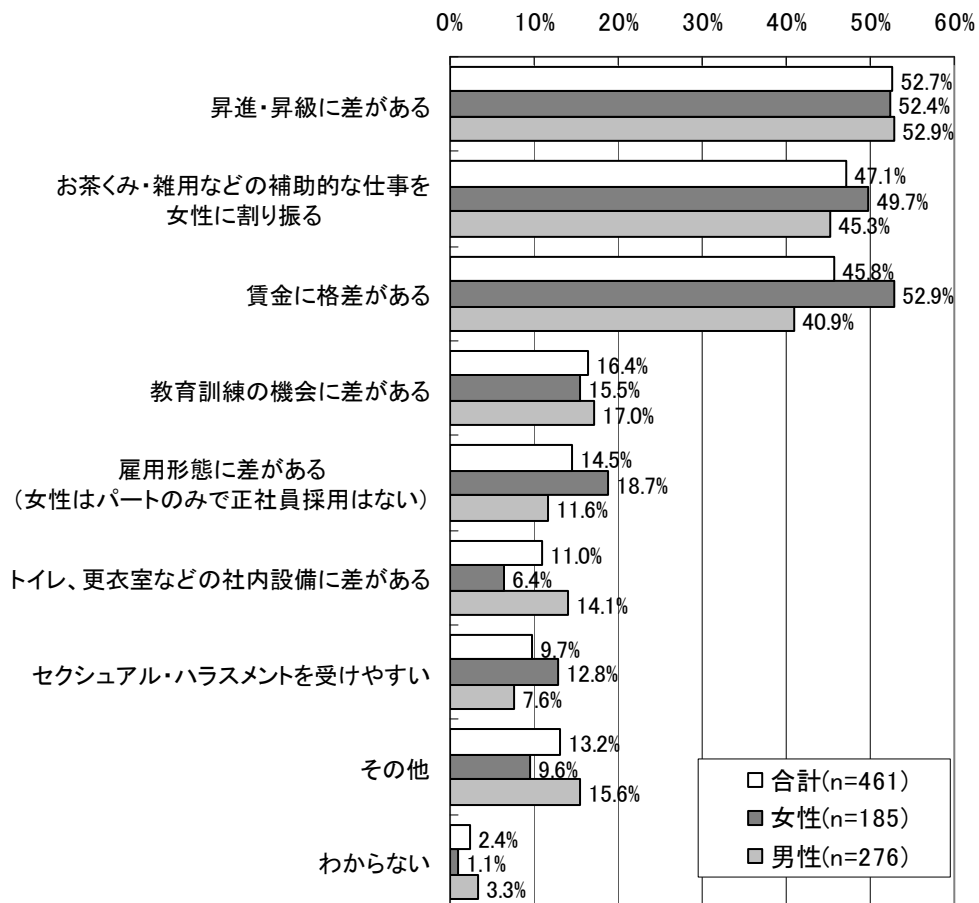
- ・ 現在働いている人についての職場における男女の違いの有無をみると（図表 II-90）、全体の約半数が「違いがある」と回答している。
- ・ 男女別にみると、女性の方が「わからない」の回答が男性よりも多い影響もあるが、女性（43.4%）よりも男性（57.1%）の方が、職場における違いがあると感じている人の割合が高い。

図表 II-90 男女別 職場における男女の違いの有無



- ・ 具体的な職場における男女の違いの内容についてみると（図表 II-91）、「昇進・昇級に差がある」が 52.7%で最も高く、「お茶くみ・雑用などの補助的な仕事を女性に割り振る」（47.1%）、「賃金に格差がある」（45.8%）がほぼ同じ割合で続いている。
- ・ 男女別にみると、女性で「賃金に格差がある」（52.9%）が「昇進・昇級に差がある」（52.4%）をわずかに上回っているほかは、男女ともに概ね全体と同様の傾向を示している。
- ・ 男女で差が大きいポイントについてみると「賃金に格差がある」「雇用形態に差がある」「セクシュアルハラスメントを受けやすい」で女性が男性よりも5ポイント以上高く、「トイレ、更衣室などの社内設備に差がある」では男性が女性よりも5ポイント以上高くなっている。

図表 II-91 職場における男女の違いの内容（MA）

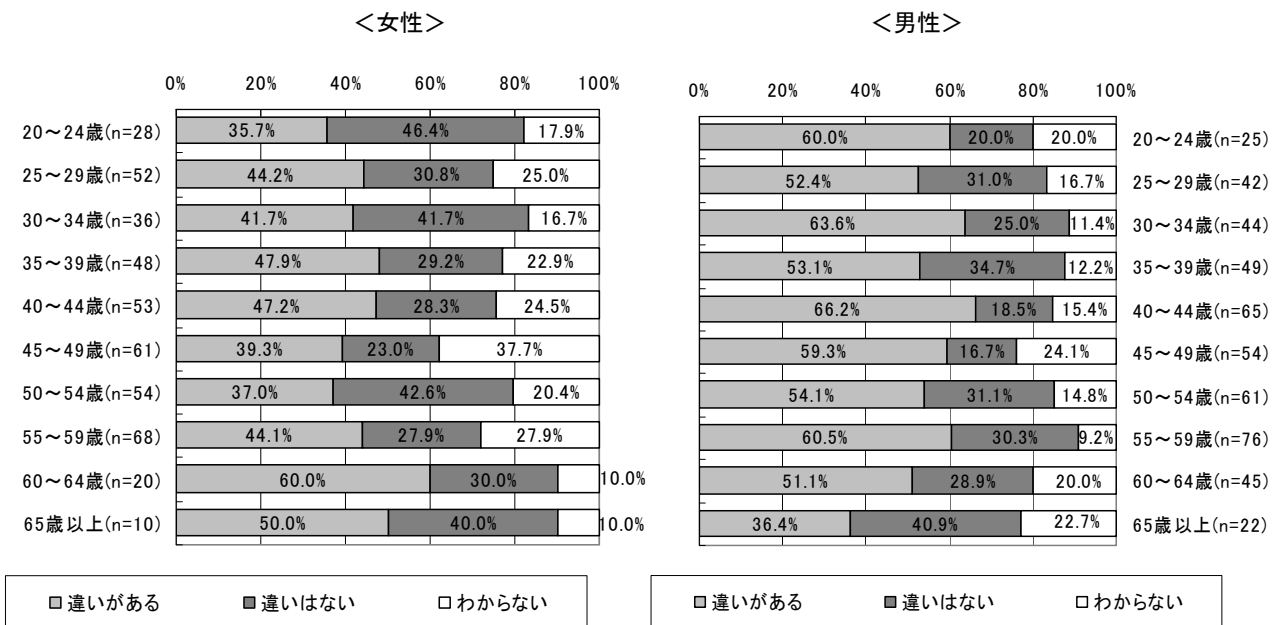


(2) 個別の結果

① 年齢別にみた職場における男女の違いの有無について

- ・ 年齢別に職場における男女の違いの有無についてみると（図表 II-92）、女性では、回答者数の少ない60歳以上を除くと、35～44歳で「違いがある」と感じている割合が全体と比べてやや高い傾向にある。この年代は、家庭との両立が問題となる年代であると同時に管理職への昇格が想定される年代でもあり、特に「違い」を感じる場面が多いことが影響していると想定される。
- ・ 一方で、男性の年齢別にみると、女性では「違いがある」と感じた割合が高かった35歳後半の男性においては「違いはない」と回答した割合が34.7%と男性全体よりも5ポイント以上高く、同世代でも男女間で意識に差があることがうかがえる。

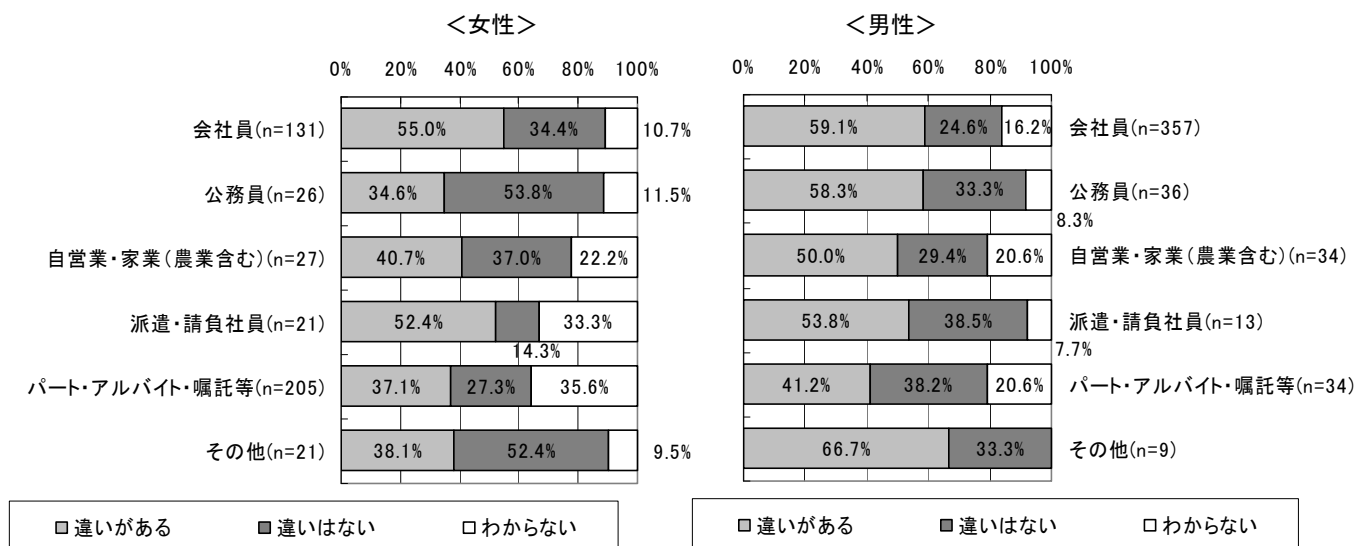
図表 II-92 年齢別 職場における男女の違いの有無



② 職業別にみた職場における男女の違いの有無について

- ・ 職業別に職場における男女の違いの有無についてみると（図表 II-93）、女性では会社員や派遣・請負社員で「違いがある」の割合が他よりも高く、半数を超えている。
- ・ 男性では回答者数が少ないため参考値ではあるものの、派遣・請負社員やパート・アルバイト・嘱託等で「違いはない」の回答が全体と比べても高い点に特徴がある。

図表 II-93 職業別 職場における男女の違いの有無



③ 年齢別にみた職場における男女の違いの内容について

- ・ 女性年齢別に職場における男女の違いの内容についてみると（図表 II-94）、それぞれの属性の回答数が少ないため、参考値ではあるものの、「賃金に格差がある」では50代前半を除くと、概ね40歳を境として40歳以上の年齢層で違いを感じる割合が高い。一方で、「お茶くみ・雑用などの補助的な仕事を女性に割り振る」では、概ね50歳を境として、50歳未満の年齢層で違いを感じる割合が高くなっている。
- ・ 男性年齢別に職場における男女の違いの内容についてみると（図表 II-95）、女性の場合と同様にそれぞれの属性の回答数が少ないため、参考値ではあるものの、「昇進・昇級に差がある」では20代前半と55～64歳に、「賃金に格差がある」では20代前半と50代で違いを感じる割合が高く、その間の層では全般的に違いを感じる割合が少なくなっている。

図表 II-94 女性年齢別 職場における男女の違いの内容

	賃金に格差がある	昇進・昇級に差がある	お茶くみ・雑用などの補助的な仕事を女性に割り振る	雇用形態に差がある(女性はパートのみで正社員採用はない)	教育訓練の機会に差がある	セクシュアル・ハラスメントを受けやすい	トイレ、更衣室などの社内設備に差がある	その他	わからない
合計(n=185)	53.5%	53.0%	50.3%	18.9%	15.7%	13.0%	6.5%	9.7%	1.1%
20～24歳(n=10)	40.0%	70.0%	50.0%	10.0%	10.0%	50.0%	10.0%	30.0%	10.0%
25～29歳(n=23)	43.5%	43.5%	52.2%	8.7%	26.1%	13.0%	17.4%	4.3%	0.0%
30～34歳(n=14)	35.7%	64.3%	57.1%	7.1%	0.0%	14.3%	7.1%	7.1%	0.0%
35～39歳(n=23)	39.1%	56.5%	56.5%	21.7%	13.0%	17.4%	4.3%	26.1%	0.0%
40～44歳(n=25)	56.0%	52.0%	64.0%	28.0%	20.0%	16.0%	0.0%	12.0%	0.0%
45～49歳(n=24)	75.0%	62.5%	62.5%	25.0%	12.5%	16.7%	0.0%	8.3%	0.0%
50～54歳(n=20)	45.0%	50.0%	45.0%	20.0%	5.0%	0.0%	0.0%	5.0%	0.0%
55～59歳(n=29)	58.6%	44.8%	31.0%	24.1%	20.7%	6.9%	6.9%	3.4%	0.0%
60～64歳(n=12)	83.3%	58.3%	33.3%	0.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%	8.3%
65歳以上(n=5)	60.0%	20.0%	40.0%	40.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

注) 各属性のn値が小さいため参考値

図表 II-95 男性年齢別 職場における男女の違いの内容

	昇進・昇級に差がある	お茶くみ・雑用などの補助的な仕事を女性に割り振る	賃金に格差がある	教育訓練の機会に差がある	トイレ、更衣室などの社内設備に差がある	雇用形態に差がある(女性はパートのみで正社員採用はない)	セクシュアル・ハラスメントを受けやすい	その他	わからない
合計(n=276)	52.9%	45.3%	40.9%	17.0%	14.1%	11.6%	7.6%	15.6%	3.3%
20～24歳(n=15)	60.0%	60.0%	46.7%	20.0%	40.0%	6.7%	13.3%	20.0%	0.0%
25～29歳(n=22)	40.9%	40.9%	18.2%	4.5%	36.4%	0.0%	4.5%	22.7%	4.5%
30～34歳(n=28)	46.4%	53.6%	28.6%	10.7%	17.9%	17.9%	10.7%	17.9%	7.1%
35～39歳(n=26)	53.8%	34.6%	26.9%	11.5%	19.2%	7.7%	3.8%	23.1%	0.0%
40～44歳(n=43)	48.8%	46.5%	34.9%	7.0%	11.6%	11.6%	9.3%	18.6%	7.0%
45～49歳(n=32)	50.0%	37.5%	34.4%	28.1%	12.5%	15.6%	6.3%	18.8%	3.1%
50～54歳(n=33)	48.5%	54.5%	57.6%	24.2%	9.1%	12.1%	9.1%	12.1%	3.0%
55～59歳(n=46)	60.9%	43.5%	54.3%	23.9%	6.5%	13.0%	6.5%	4.3%	0.0%
60～64歳(n=23)	69.6%	34.8%	47.8%	17.4%	0.0%	8.7%	4.3%	13.0%	4.3%
65歳以上(n=8)	50.0%	62.5%	75.0%	25.0%	0.0%	25.0%	12.5%	12.5%	0.0%

注) 各属性のn値が小さいため参考値

④ 職業別にみた職場における男女の違いの内容について

- ・ 女性の職業別に職場における男女の違いの内容についてみると（図表 II-96）、ほとんどの属性で回答者数が少ないため参考値ではあるものの、会社員では「昇進・昇級に差がある」の割合が高く、「雇用形態に差がある」では相当低い割合となっている。
- ・ 男性の職業別にみると（図表 II-97）、こちらも参考値ではあるものの、公務員では「賃金に格差がある」の割合が、他と比較して大幅に低い点が特徴的である。

図表 II-96 女性職業別 職場における男女の違いの内容

	賃金に格差がある	昇進・昇級に差がある	お茶くみ・雑用などの補助的な仕事を女性に割り振る	雇用形態に差がある（女性はパートのみで正社員採用はない）	教育訓練の機会に差がある	セクシアル・ハラスメントを受けやすい	トイレ、更衣室などの社内設備に差がある	その他	わからない
合計(n=185)	52.9%	52.4%	49.7%	18.7%	15.5%	12.8%	6.4%	9.6%	1.1%
会社員(n=72)	56.9%	66.7%	50.0%	5.6%	22.2%	13.9%	9.7%	12.5%	1.4%
公務員(n=9)	11.1%	88.9%	44.4%	11.1%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%	0.0%
自営業・家業（農業含む）(n=11)	63.6%	27.3%	45.5%	0.0%	18.2%	0.0%	0.0%	9.1%	0.0%
派遣・請負社員(n=11)	63.6%	36.4%	90.9%	27.3%	18.2%	27.3%	9.1%	9.1%	0.0%
パート・アルバイト・嘱託等(n=74)	52.6%	40.8%	40.8%	32.9%	10.5%	10.5%	3.9%	7.9%	1.3%
その他(n=8)	37.5%	50.0%	87.5%	25.0%	12.5%	37.5%	0.0%	12.5%	0.0%

注) 会社員とパート・アルバイト・嘱託等を除き各属性のn値が小さいため参考値

図表 II-97 男性職業別 職場における男女の違いの内容

	昇進・昇級に差がある	お茶くみ・雑用などの補助的な仕事を女性に割り振る	賃金に格差がある	教育訓練の機会に差がある	トイレ、更衣室などの社内設備に差がある	雇用形態に差がある（女性はパートのみで正社員採用はない）	セクシアル・ハラスメントを受けやすい	その他	わからない
合計(n=276)	52.9%	45.3%	40.9%	17.0%	14.1%	11.6%	7.6%	15.6%	3.3%
会社員(n=211)	53.6%	42.7%	42.2%	18.0%	16.1%	10.4%	7.6%	14.7%	2.4%
公務員(n=21)	52.4%	52.4%	9.5%	19.0%	14.3%	9.5%	9.5%	19.0%	0.0%
自営業・家業（農業含む）(n=17)	23.5%	41.2%	47.1%	5.9%	5.9%	29.4%	0.0%	23.5%	17.6%
派遣・請負社員(n=7)	71.4%	57.1%	57.1%	0.0%	14.3%	14.3%	14.3%	14.3%	0.0%
パート・アルバイト・嘱託等(n=14)	64.3%	64.3%	57.1%	28.6%	0.0%	14.3%	14.3%	14.3%	0.0%
その他(n=6)	66.7%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	16.7%

注) 会社員と公務員を除き各属性のn値が小さいため参考値

6 ワーク・ライフ・バランス

- 生活の中の仕事・家庭・プライベートの理想の優先順位をみると、女性の場合は「家庭」を1番に優先する割合が最も高く、男性では「仕事」を1番に優先する割合が最も高い。
- 現実の優先順位をみると、男女ともに、理想と比較して優先順位は変わらないが、1番目に「仕事」を優先している人の割合が増加している。特に女性の場合、「仕事」を優先する年齢構成はM字カーブと類似している。

問 10 生活の中での、仕事・家庭（家事・育児・家族関係・地域活動など）・プライベート（趣味など個人の楽しみ）の優先度についてお伺いします。

(1) あなたは、女性、男性それぞれについて、どのような優先順位が理想と考えますか。
 【(1)理想】欄に**優先度が高い順に2つ**ご記入ください。
*** あなたの性別に関係なく両方お答えください**

(2) 【(2)現実】欄には、あなたご自身の現実の生活における**優先度が高い順に2つ**ご記入ください。

A 仕事

B 家庭（家事・育児・家族関係・地域活動など）

C プライベート（趣味など個人の楽しみ）

→

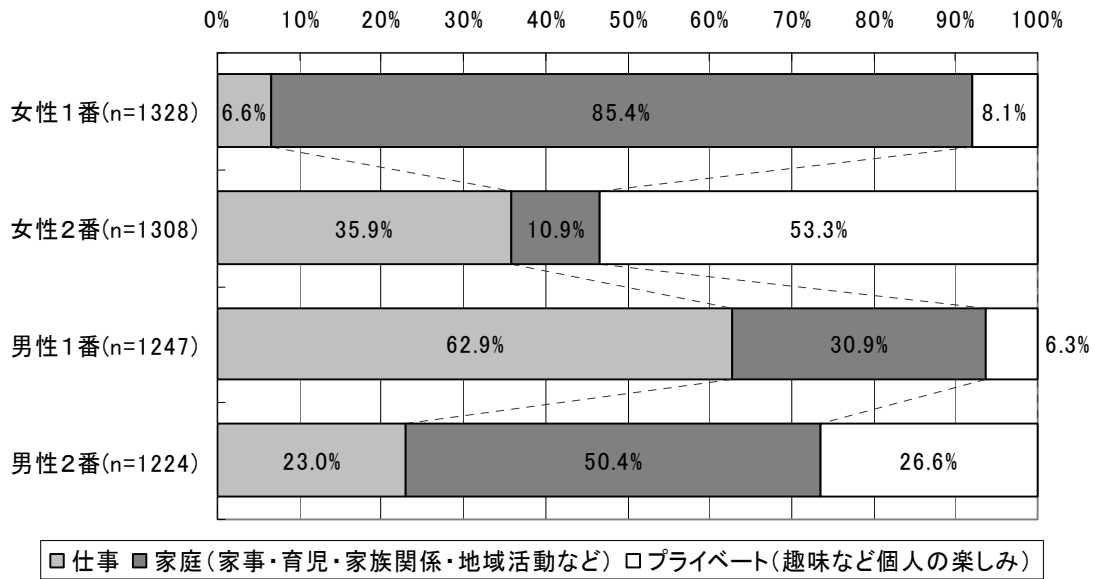
		A～Cより選び 番号を記入	
		1 番目	2 番目
【(1)理想】	女性の場合		
	男性の場合		
【(2)現実】	あなたご自身		

注) 【(1)理想】は、あなたの性別に関係なく両方お答えください。

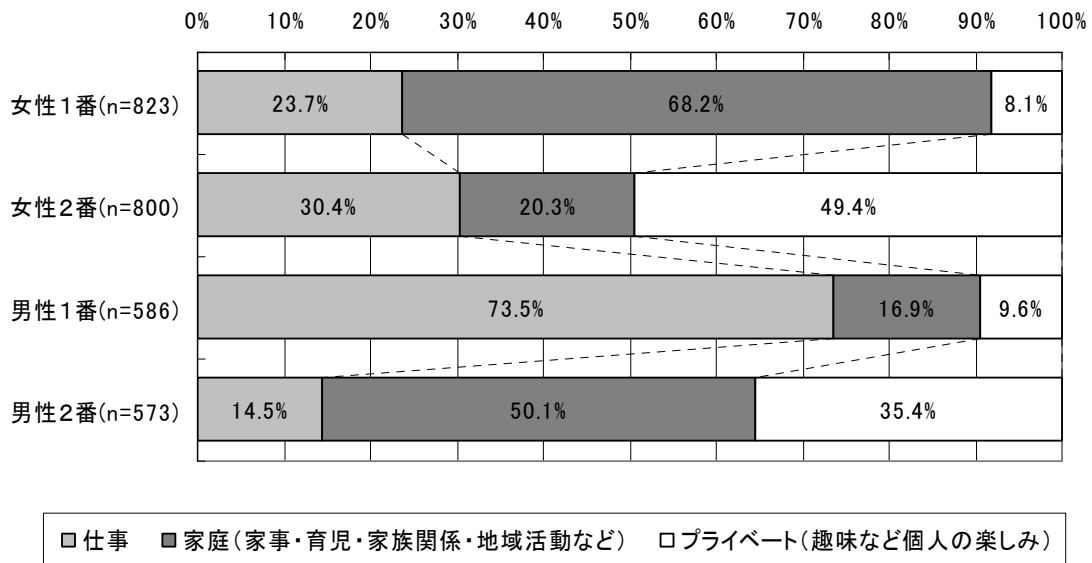
(1) 全体の傾向

- ・ 「仕事」「家庭」「プライベート」について、男女それぞれについて理想とする順番をみると（図表 II-1）、女性の場合は「家庭」を1番に優先する（85.4%）とした回答者が最も多く、2番目は「プライベート」（53.3%）とした回答者が多い。一方で、男性の場合は「仕事」を1番に優先する（62.9%）とした回答者が多く、2番目は「家庭」（50.4%）とした回答者が多くなっている。
- ・ 現実に優先している順番についてみると（図表 II-99）、男女ともに、理想と比較して優先する順番は同じであるが、1番目に「家庭」を優先する人の割合が減少し、「仕事」を優先している人の割合が増加している。

図表 II-98 理想とする優先順位



図表 II-99 現実の優先順位

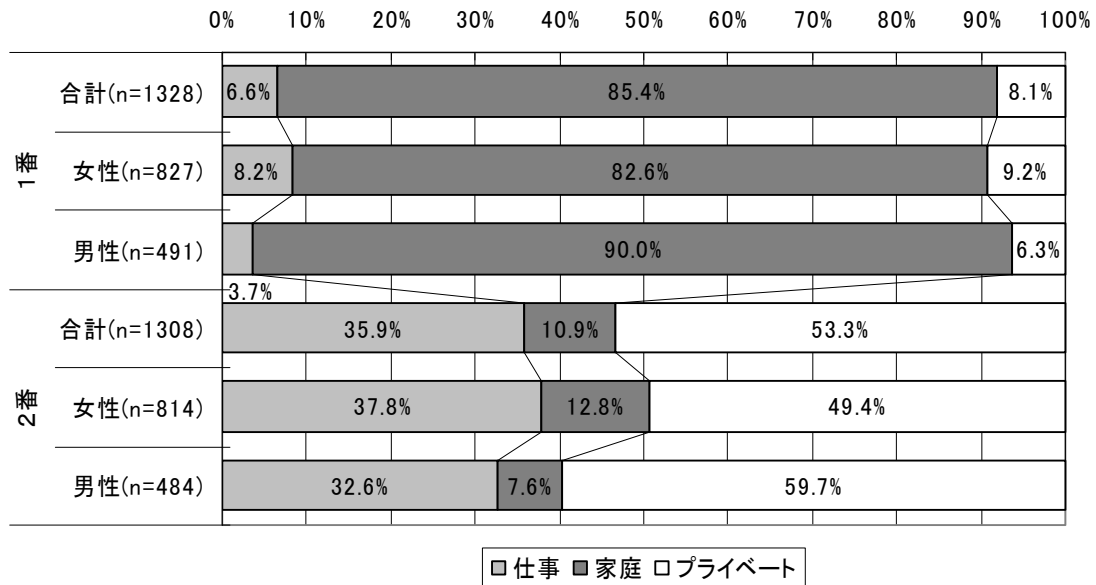


(2) 個別の傾向

① 女性の場合の理想とする順位

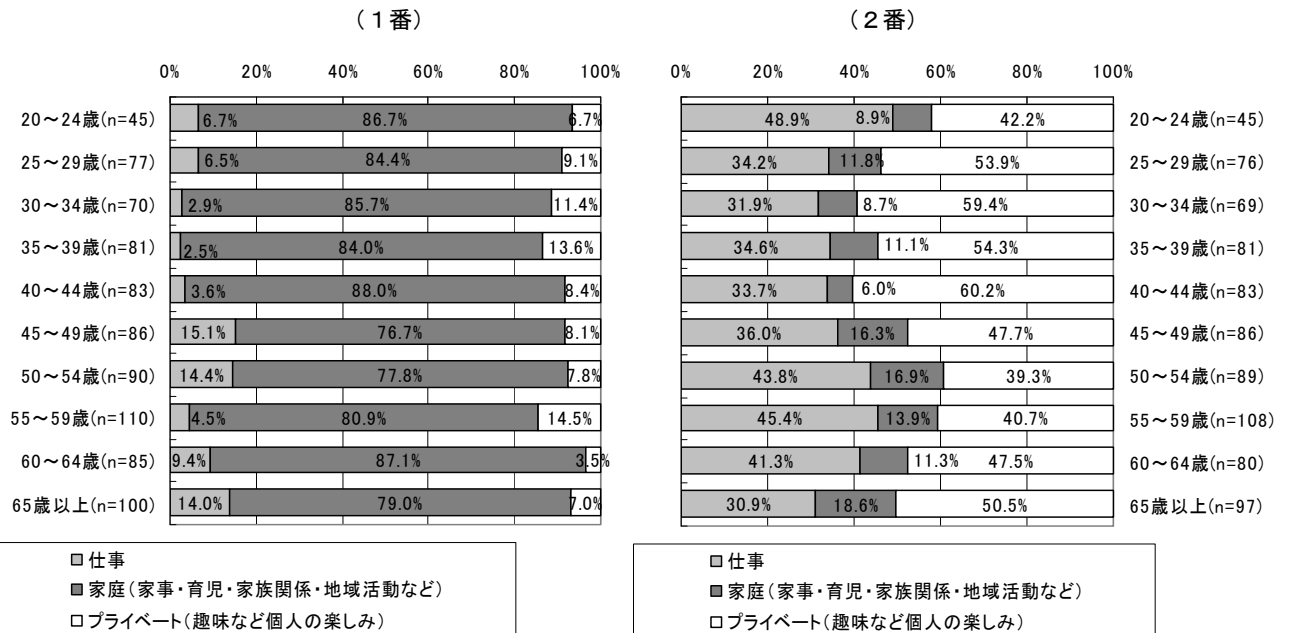
- ・ 女性の場合の理想とする順位について男女別にみると（図表 II-100）、1 番目に優先するものについて男女間で大きな差はみられなかったが、女性が「家庭」を1 番目に優先するのが望ましいと考える割合は男性（90.0%）が女性（82.6%）を若干上回っている。
- ・ 2 番目に優先するものについては、男性は女性よりも「プライベート」の割合が高まり、「仕事」と「家庭」の割合が女性よりも減少している。
- ・ 年齢別にみると（図表 II-101）、女性では45～54 歳で、1 番目に「仕事」をあげる割合が他の年代よりも高い。また2 番目に優先する項目についてみると、20 代後半から50 歳までと65 歳以上で「仕事」の割合が他の年齢層よりも低く、逆に「プライベート」の割合が高い。
- ・ 男性では学生が含まれる20 歳前半を除き、1 番目は「家庭」がほとんどを占めている。2 番目については20 歳前半を除くと40 代で「仕事」をあげる割合が高く、「プライベート」の割合が低くなっている。この背景には、これらの年代が会社において大きな責任を任される年代に相当することや、子育て等で支出が増大する世代であることが関係していると考えられる。
- ・ 女性の職業別にみると（図表 II-102）、回答数の少ない学生を除くと、1 番目については、自営業・家業やその他を除き就業の有無で劇的な差異はみられず、概ね「家庭」が8割前後と高い割合を占めている。一方2 番目では、会社員や公務員、自営業・家業、パート・アルバイト・嘱託等で「仕事」の割合が高い一方、派遣・請負社員や専業主婦では「プライベート」の割合が高くなっている。

図表 II-100 男女別 女性の場合の理想とする順位



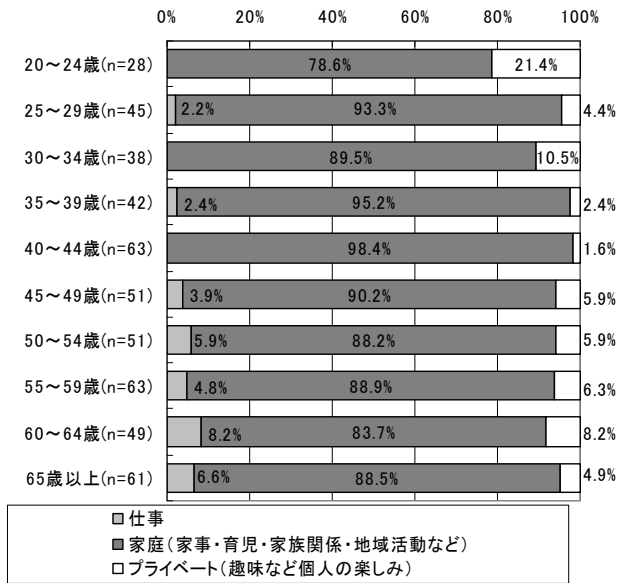
図表 II-101 年齢別 女性の場合の理想とする順位

(女性年齢別)

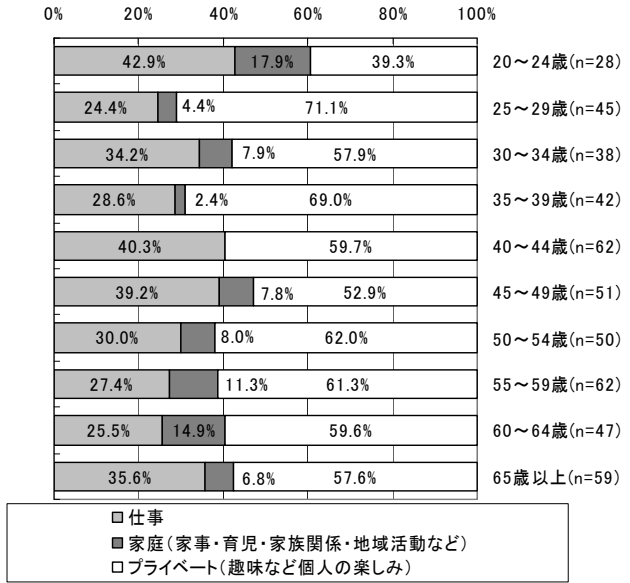


(男性年齢別)

(1番)

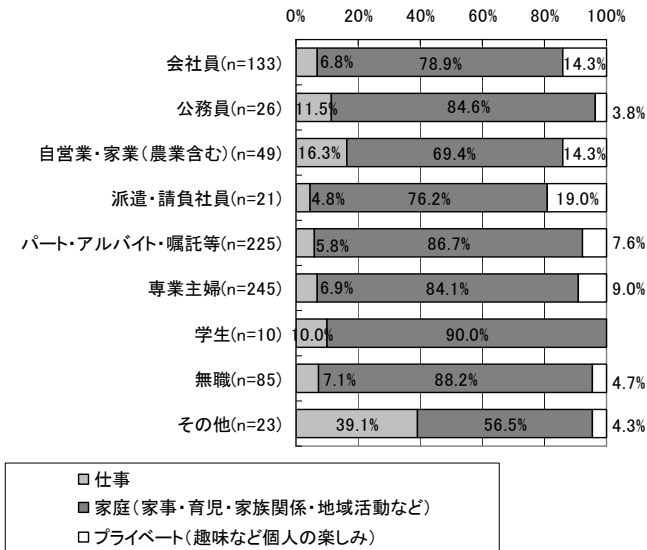


(2番)

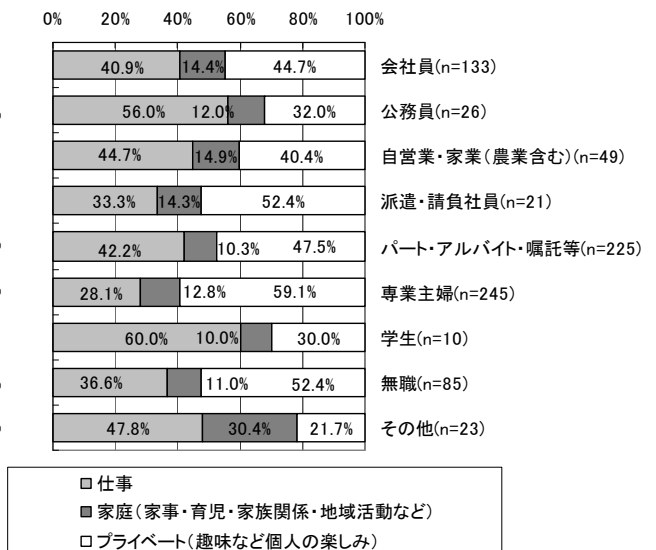


図表 II-102 女性職業別 女性の場合の理想とする順位

(1番)



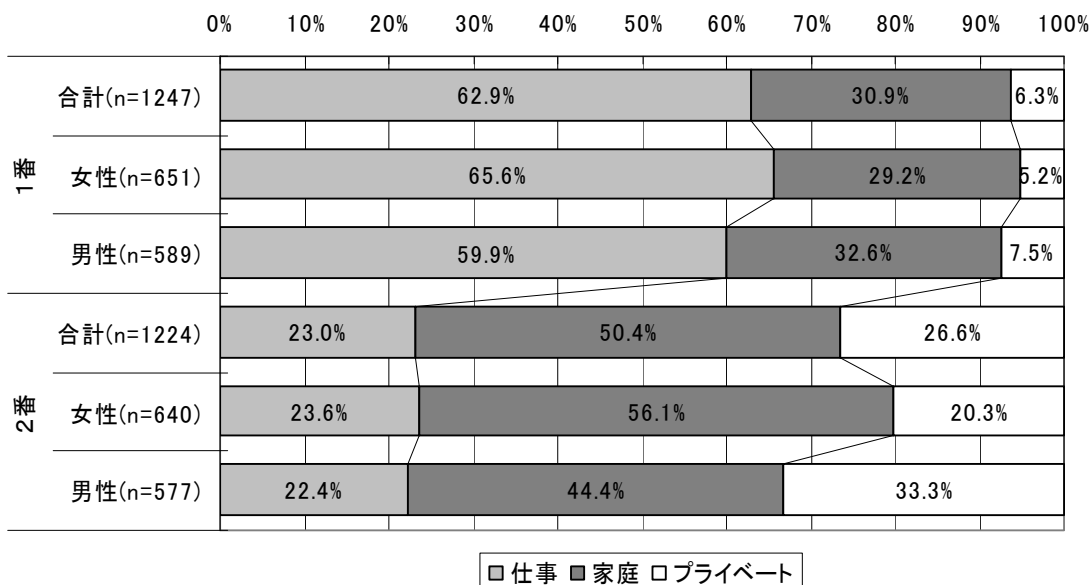
(2番)



② 男性の場合の理想とする順位

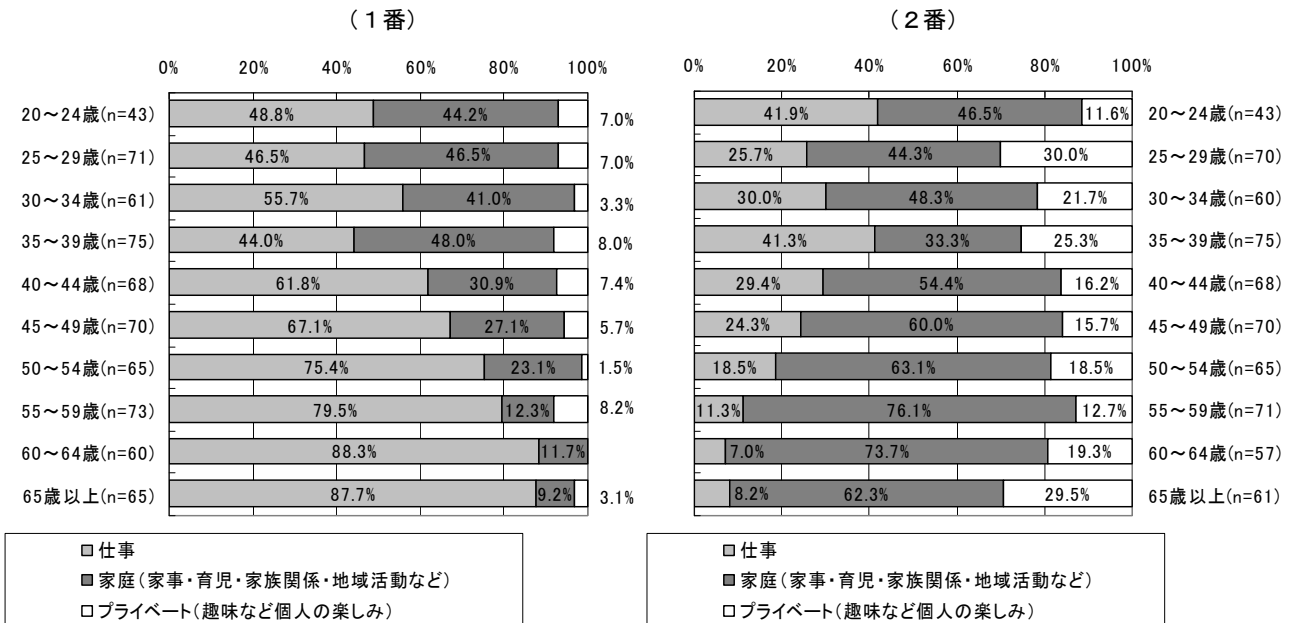
- ・ 男性の場合の理想とする順位について男女別にみると（図表 II-103）、男女ともに、男性は「仕事」を1番優先するのが望ましいと考えている。
- ・ 2番目に優先するものについては、女性は男性よりも「家庭」を優先すべきと考える人の割合が高く、男性は女性よりも「プライベート」を優先すべきと考える人の割合が高くなっている。
- ・ 年齢別にみると（図表 II-104）、女性では35歳以上では年齢があがるほど1番目に「仕事」をあげる割合が高まる傾向にある。また2番目に優先する項目についてみると、40歳以上では年齢があがるほど「家庭」の割合が高まる傾向がみられる。
- ・ 男性では、1番目に優先する項目では、20代後半から40歳までは「家庭」が「仕事」を上回っているが、40代前半で同じ割合となり、その後は年齢があがるとともに「仕事」の割合が高まっていく傾向がみられ、年齢層によって意識のギャップがある。「2. 男女の関わり・役割分担」にて、年齢が高い層よりも若年層の方が、男性も子育てを協力して行うのがいいと考える人や、男性も家事をきちんとできる方がいいと考える人の割合が高くなっていたことから、男性においては若年層の方が日常生活において「家庭」を優先的に考えている人の割合が多く、45歳～64歳は、仕事に重きを置く世代となっていることがわかる。

図表 II-103 男女別 男性の場合の理想とする順位

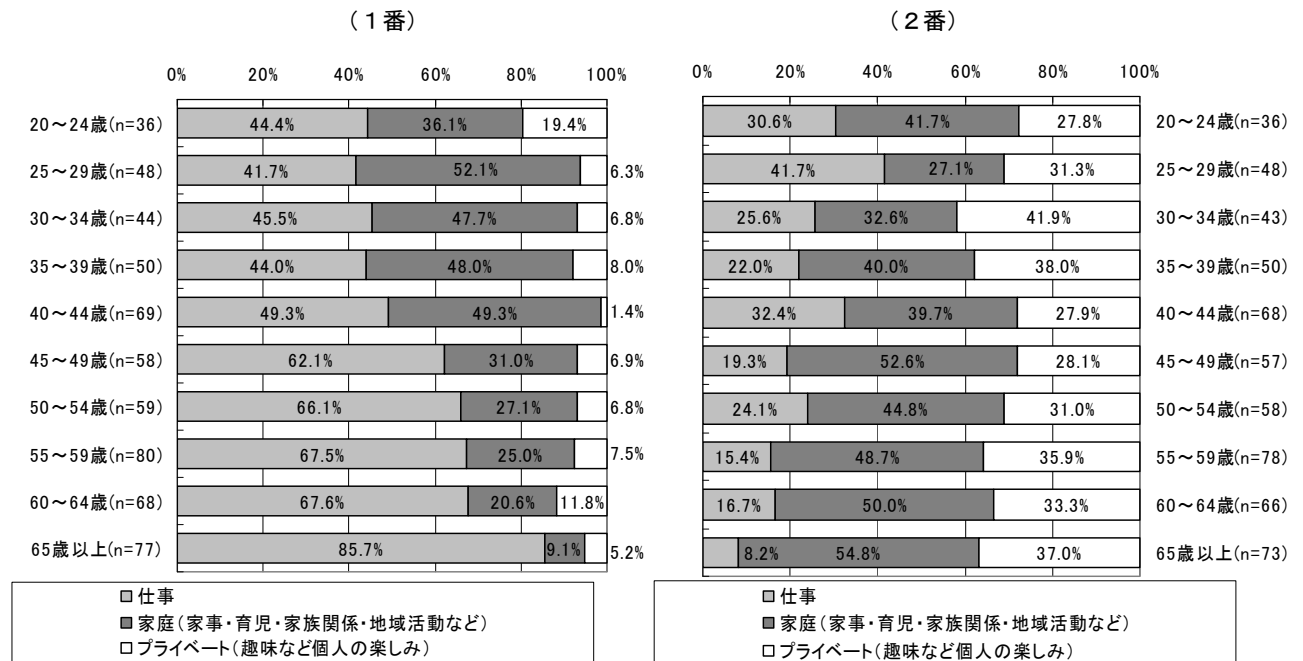


図表 II-104 年齢別 男性の場合の理想とする順位

(女性年齢別)



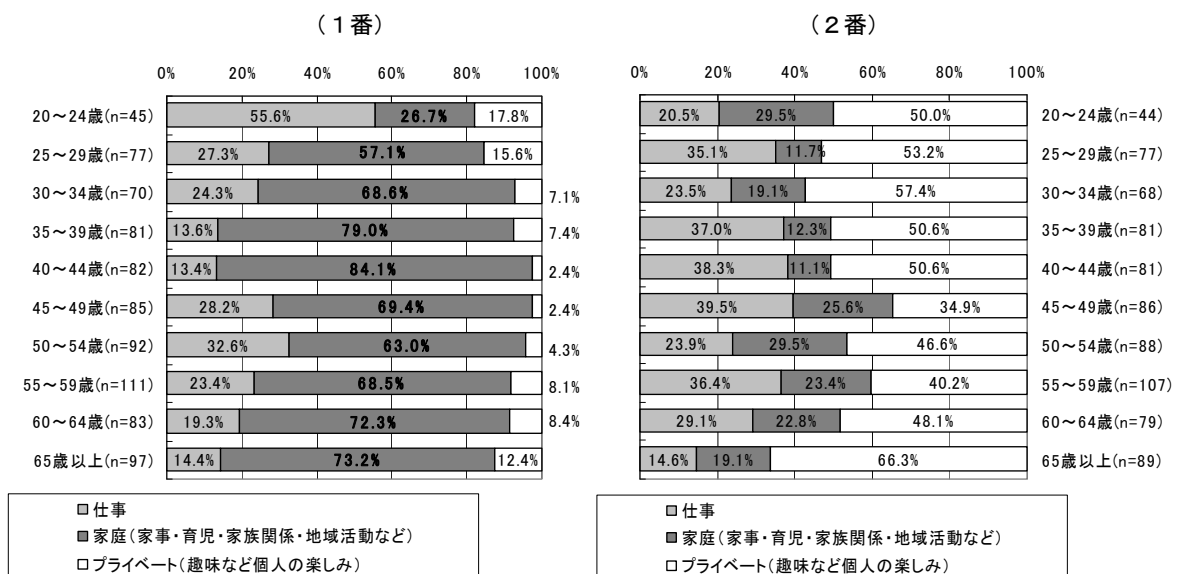
(男性年齢別)



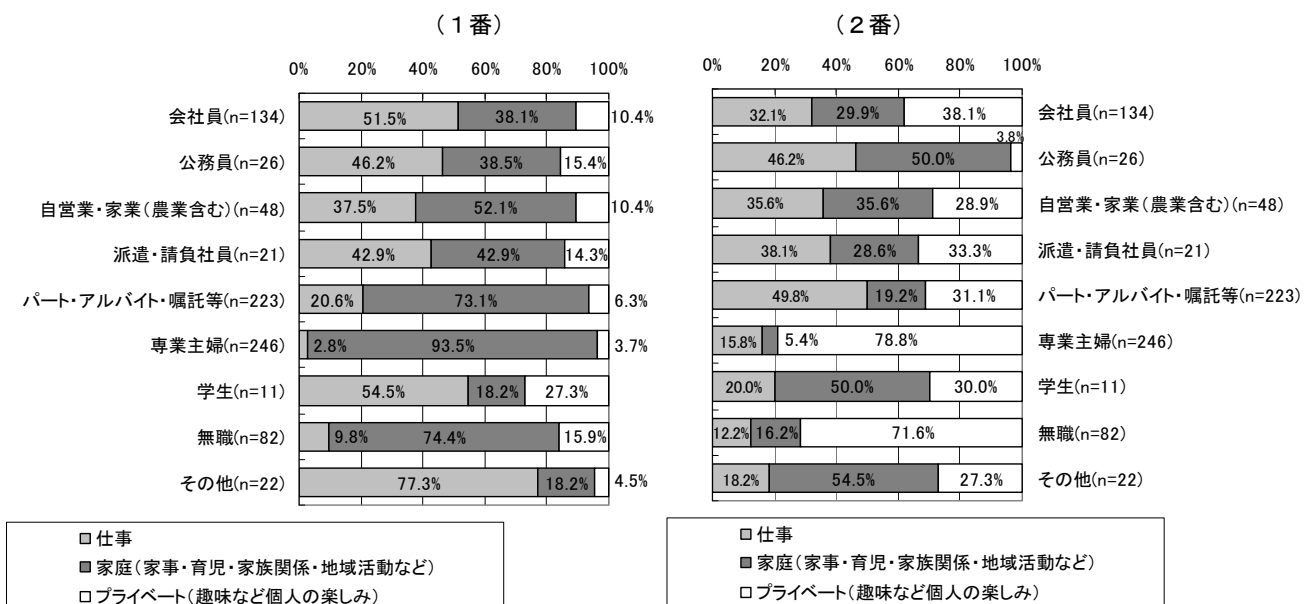
③ 女性の場合の現実的な順位

- ・ 女性の場合の現実的な順位について年齢別にみると（図表 II-105）、1番目に優先する項目については、20代前半で「仕事」が半数を超えており他の年代よりも圧倒的に高くなっているほか、25～34歳と45～59歳で「仕事」の割合が高く、他の箇所では「家庭」の割合が高いという、いわゆるM字カーブと同様の傾向を示している。
- ・ 職業別にみると（図表 II-106）、会社員や公務員、派遣・請負社員では1番目に優先する項目として「仕事」の割合が高くなり、学生やその他を除く他の職業では「家庭」の割合が高くなっている。ある程度業務時間が拘束される職業の場合は、結果として仕事を優先している状況が推測される。

図表 II-105 年齢別 女性の場合の現実的な順位



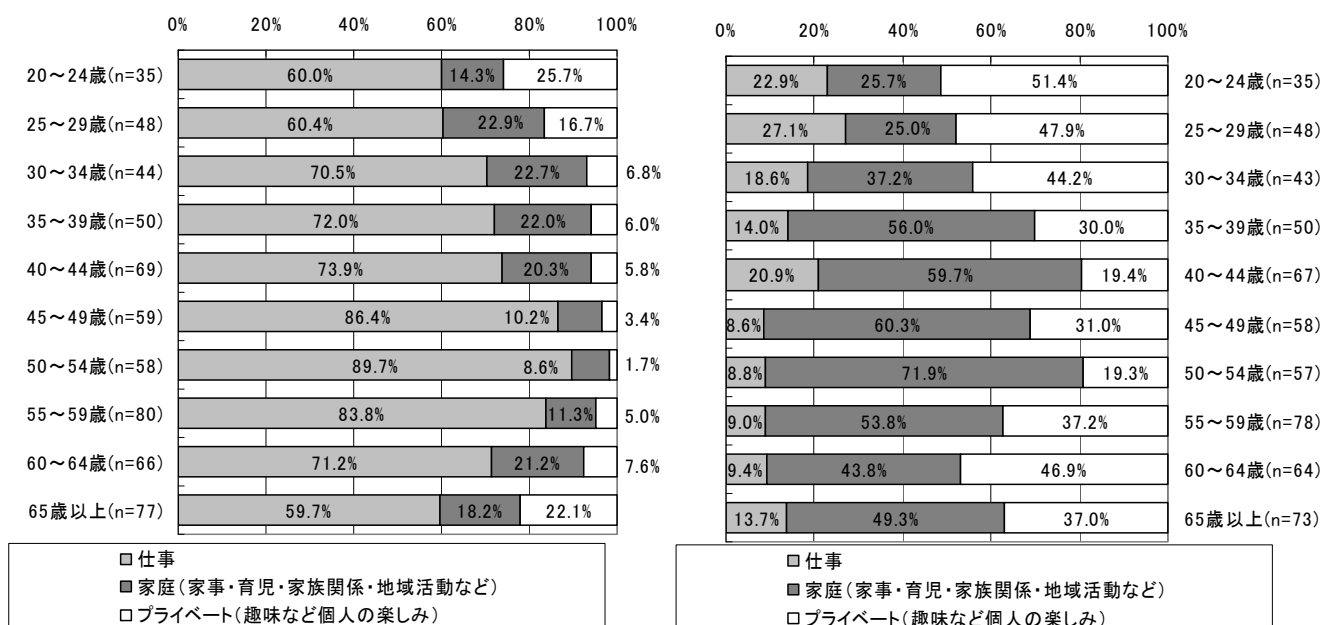
図表 II-106 女性職業別 女性の場合の現実的な順位



④ 男性の場合の現実的な順位

- ・ 男性の場合の現実的な順位について年齢別にみると（図表 II-107）、1番目に重視する項目は54歳までは年齢があがるとともに「仕事」の割合が増加し、「家庭」の割合が減少している。また、20代では未婚者層の割合が他の年代層よりも高い影響から、「プライベート」の割合が他よりも高くなっている。
- ・ 2番目に重視する項目は、子育て世代となる35歳～59歳では「家庭」の割合が5割を超えて他の年代よりも高く、その分「プライベート」の割合が減少している。一方で20代では「プライベート」が約5割を占めている。

図表 II-107 年齢別 男性の場合の現実的な順位
(1番) (2番)



7 男女共同参画社会実現に向けた豊田市の取組

7-1. これまでの事業の評価

- 全体として「わからない」の回答が多く、取組自体の認知についても検討が必要である。
- 項目別にみると、「出産・子育て」で比較的「良い」とする回答が多い一方で、「家庭・地域」については全般的に評価が低い状況にあり、特に重点的な取組が必要になると考えられる。

問 11 豊田市では、平成 11 年度に「とよた男女共同参画プラン」を策定し、この計画に基づき男女共同参画社会の実現に取り組んできました。

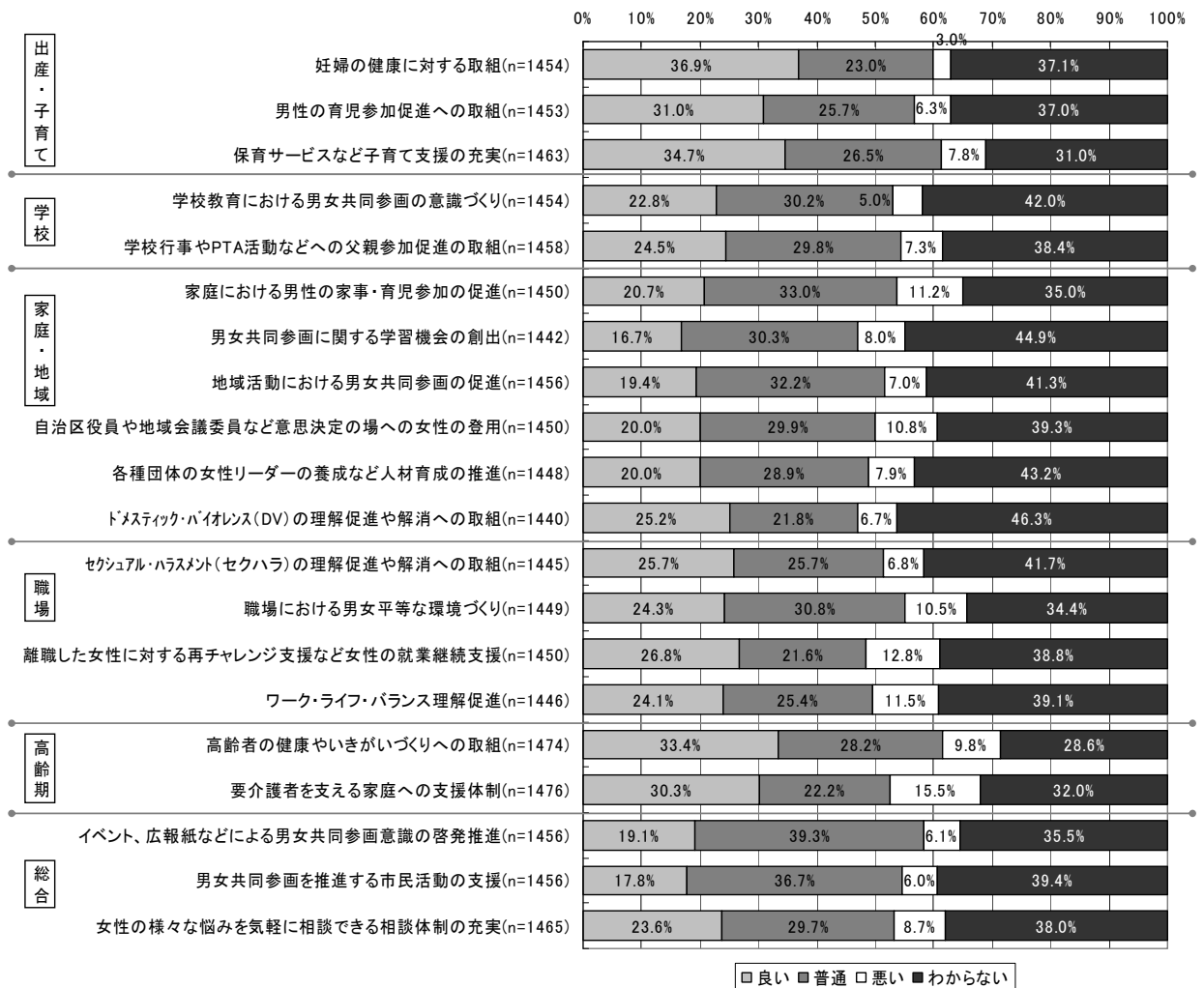
(1) 「A」～「T」にあげた豊田市が実施している取組（事業）について、あなたはどのように感じますか。あてはまるものを各々1つ選**び**○印をつけてください。

		良い	普通	悪い	わからない
子 出 産 で	A 妊婦の健康に対する取組（受動喫煙防止、不妊治療対策など）	1	2	3	4
	B 男性の育児参加促進への取組（父親向け育児講座の開催など）	1	2	3	4
	C 保育サービスなど子育て支援の充実	1	2	3	4
学 校	D 学校教育における男女共同参画の意識づくり	1	2	3	4
	E 学校行事やPTA活動などへの父親参加促進の取組	1	2	3	4
家 庭 ・ 地 域	F 家庭における男性の家事・育児参加の促進	1	2	3	4
	G 男女共同参画に関する学習機会の創出	1	2	3	4
	H 地域活動における男女共同参画の促進 （不平等な役割分担をなくすなど）	1	2	3	4
	I 自治区役員や地域会議委員など意思決定の場への女性の登用	1	2	3	4
	J 各種団体の女性リーダーの養成など人材育成の推進	1	2	3	4
職 場	K ドメスティック・バイアス（DV）の理解促進や解消への取組	1	2	3	4
	L セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）の理解促進や解消への取組	1	2	3	4
	M 職場における男女平等な環境づくり	1	2	3	4
	N 離職した女性に対する再チャレンジ支援など女性の就業継続支援	1	2	3	4
高 齢 期	O ワーク・ライフ・バランス理解促進 （労働時間短縮、休暇制度の普及など）	1	2	3	4
	P 高齢者の健康やいきがいづくりへの取組	1	2	3	4
	Q 要介護者を支える家庭への支援体制	1	2	3	4
総 合	R イベント、広報紙などによる男女共同参画意識の啓発推進	1	2	3	4
	S 男女共同参画を推進する市民活動の支援	1	2	3	4
	T 女性の様々な悩みを気軽に相談できる相談体制の充実	1	2	3	4

(1) 全体の傾向

- ・ 豊田市のこれまでの取組に対する評価についてみると（図表 II-108）、全般的に「わからない」の割合が高く、取組自体を知らなかったり、直接的なサービスの対象者ではないなどの理由から評価できない市民が多い。
- ・ こうした傾向を踏まえて、それぞれの評価結果をみると、まず「出産・子育て」や「高齢期」に関する内容はいずれも「良い」が3割を超えており、他の項目より高い評価が得られている一方で、「家庭・地域」については全般に評価が低い。「1. 男女平等意識」でもみたように、「家庭・地域」や「職場」では、依然として男性優遇が続いているという意見が強く、特に地域社会では平成15年度調査と比較しても「優遇度」の改善が見られていない結果が、今回の評価結果につながっているものと考えられる。

図表 II-108 豊田市の取組に対する評価

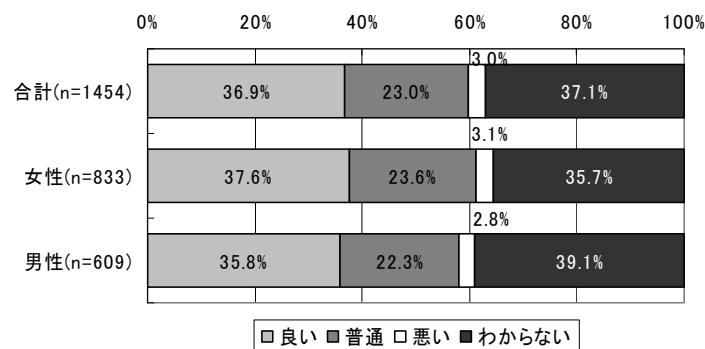


(2) 個別の結果

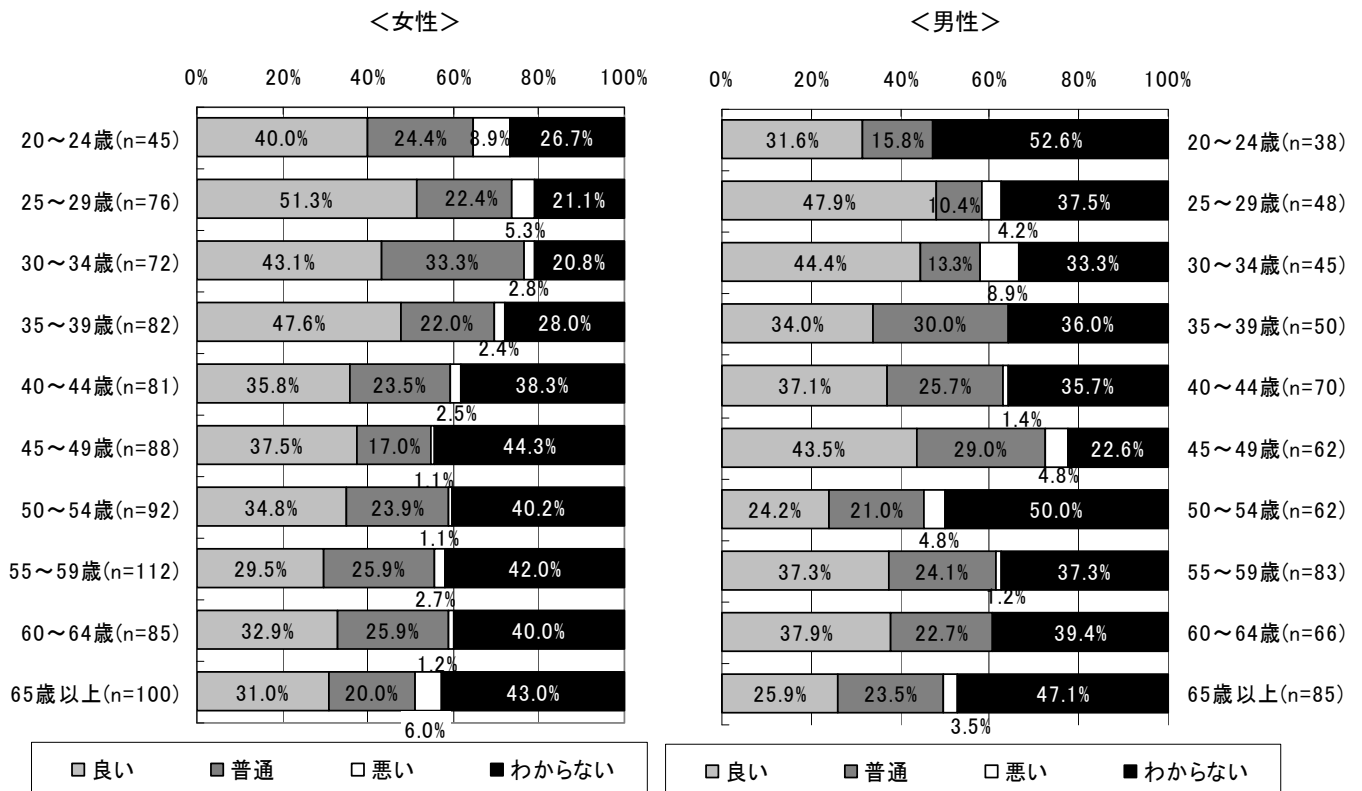
① 「妊婦の健康に対する取組」に対する評価

- ・ 妊婦の健康に対する取組に対する評価について男女別にみると（図表 II-109）、男女ほとんど評価に差はなく、女性で 37.6%、男性で 35.8%の回答者が「良い」と評価しており、「悪い」と回答した人の割合は男女ともに3%程度である。
- ・ 年齢別にみると（図表 II-110）、女性では40歳以上で「わからない」の回答が増加している。一方で、より施策対象者に近い20~30代では「良い」の割合が高く、一定の評価がなされていると考えられる。

図表 II-109 男女別 妊婦の健康に対する取組に対する評価



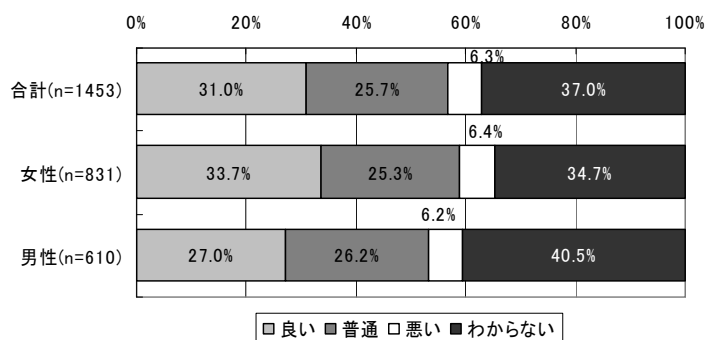
図表 II-110 年齢別 妊婦の健康に対する取組に対する評価



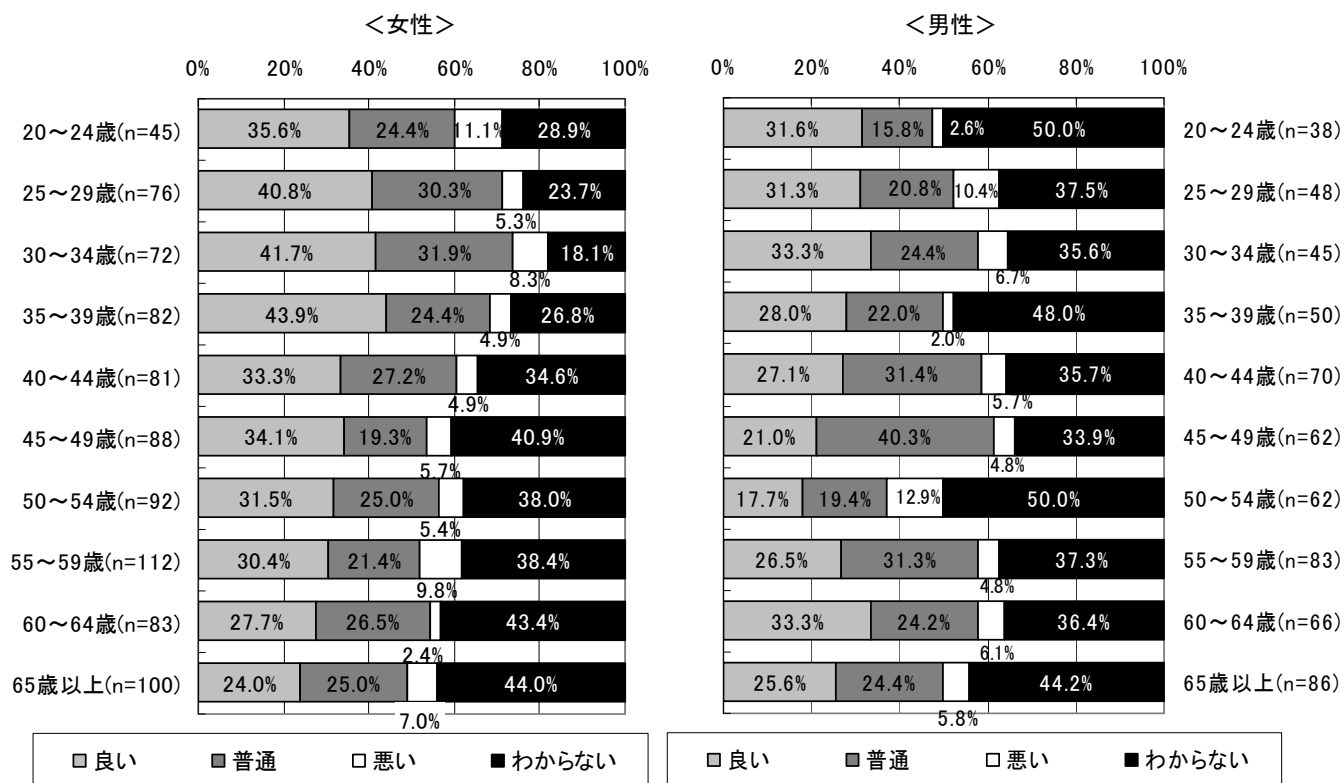
② 「男性の育児参加促進への取組」に対する評価

- ・ 男性の育児参加促進への取組に対する評価について男女別にみると（図表 II-111）、男性の方が「わからない」と回答した人の割合が女性より高いものの、男性（27.0%）は女性（33.7%）よりも「良い」の割合が6.7ポイント低く、直接の施策対象者である男性の評価は女性よりもやや低い。
- ・ 年齢別にみると（図表 II-112）、男女ともに乳幼児の子育て世代である25～34歳については「わからない」の割合が低く、「良い」の割合がやや高い状況にある。一方で、特に男性では、「悪い」の割合も他の年齢層と比較して同等かやや高い状況にあり、評価が分かれている。

図表 II-111 男女別 男性の育児参加促進への取組に対する評価



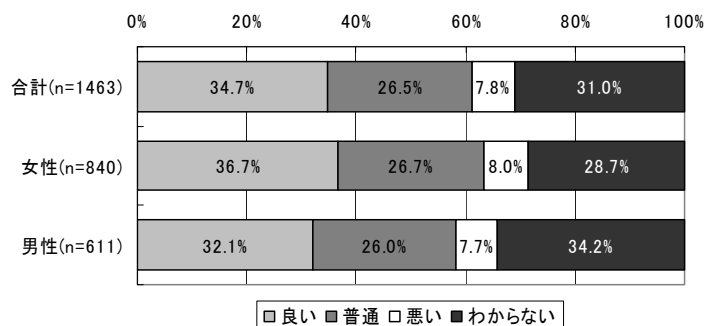
図表 II-112 年齢別 男性の育児参加促進への取組に対する評価



③ 「保育サービスなど子育て支援の充実」に対する評価

- ・ 保育サービスなど子育て支援の充実に対する評価について男女別にみると（図表 II-113）、男性の方が「わからない」が女性よりも高いものの、「良い」と評価している人の割合も女性より若干低くなっている。
- ・ 年齢別にみると（図表 II-114）、女性では40歳以下において「良い」と評価している人の割合が他の年齢層と比較して高くなっている。ただし、同様に「悪い」の割合も他の層より高い。
- ・ 女性の職業別にみると（図表 II-115）、パート・アルバイト・嘱託等で特に「良い」と評価している人の割合が低い。これは、保育サービスの問題から、正社員雇用をあきらめ、パートやアルバイトをしている層も一定程度存在しており、そのことが評価の低下につながっていると考えられることもできる。
- ・ 一方、保育サービスの直接的な施策対象者として、就学前の子どもの有無別の女性回答者についてみると（図表 II-116）、就学前の子どもがいる場合、「わからない」の評価は少なく、「良い」が48.7%を占めている。一方で、実際の利用者であるため、「悪い」と評価する人の割合も、就学前の子どもがいない場合より高く、16.8%となっている。

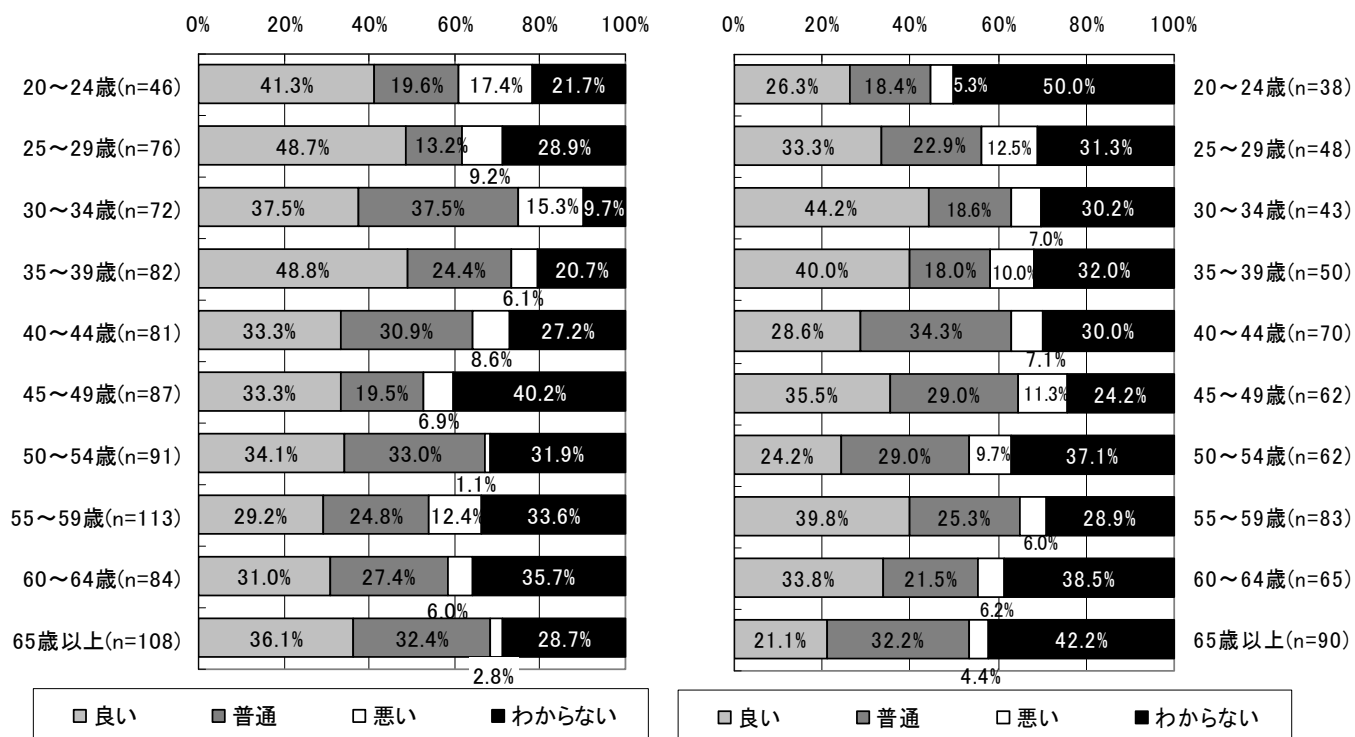
図表 II-113 男女別 保育サービスなど子育て支援の充実に対する評価



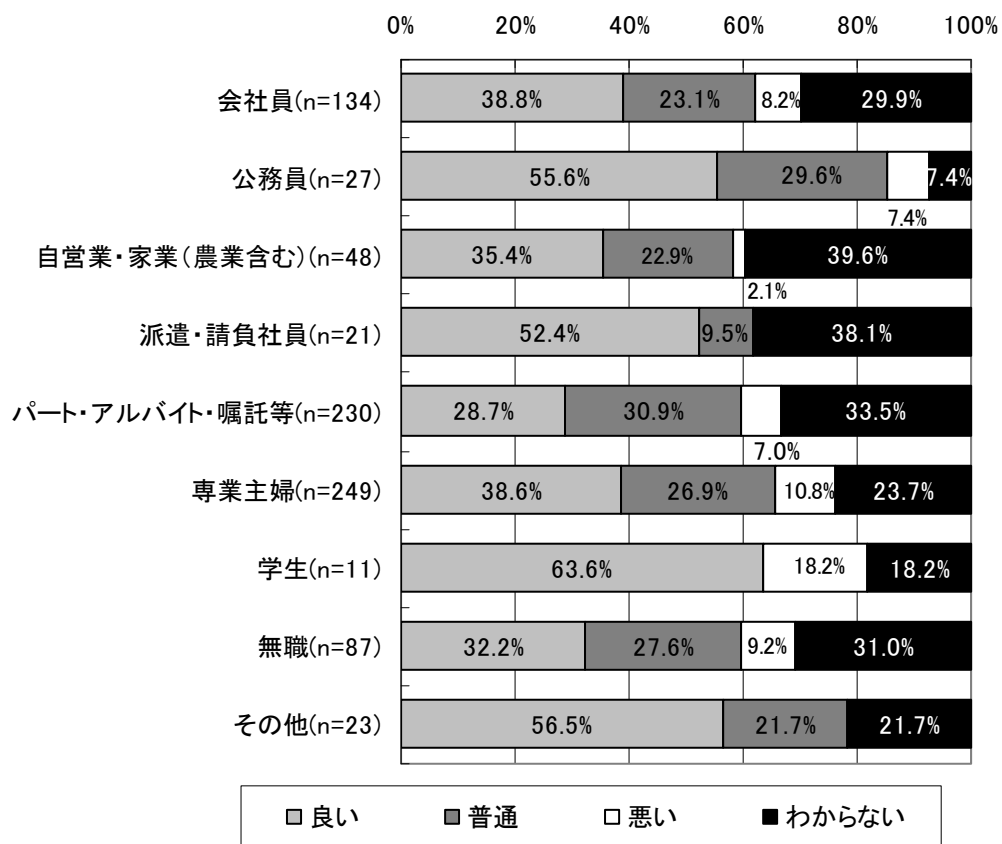
図表 II-114 年齢別 保育サービスなど子育て支援の充実に対する評価

<女性>

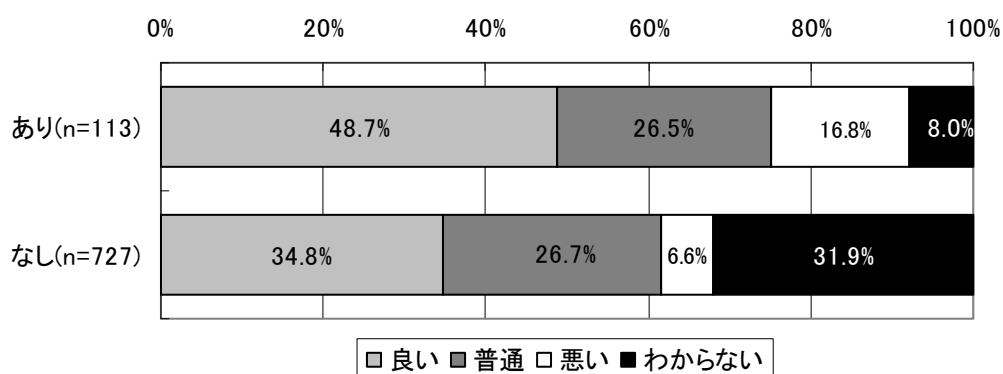
<男性>



図表 II-115 女性職業別 保育サービスなど子育て支援の充実に対する評価



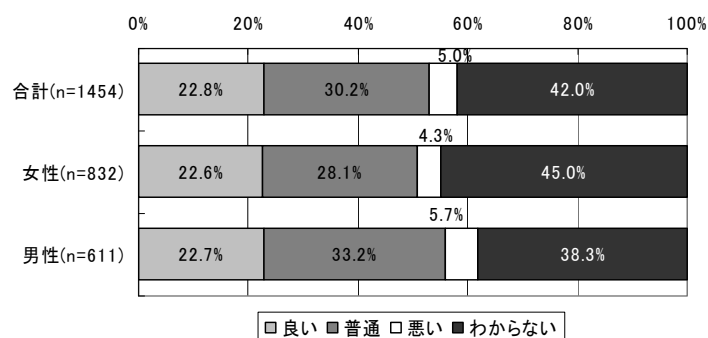
図表 II-116 女性 就学前の子どもの有無別 保育サービスなど子育て支援の充実に対する評価



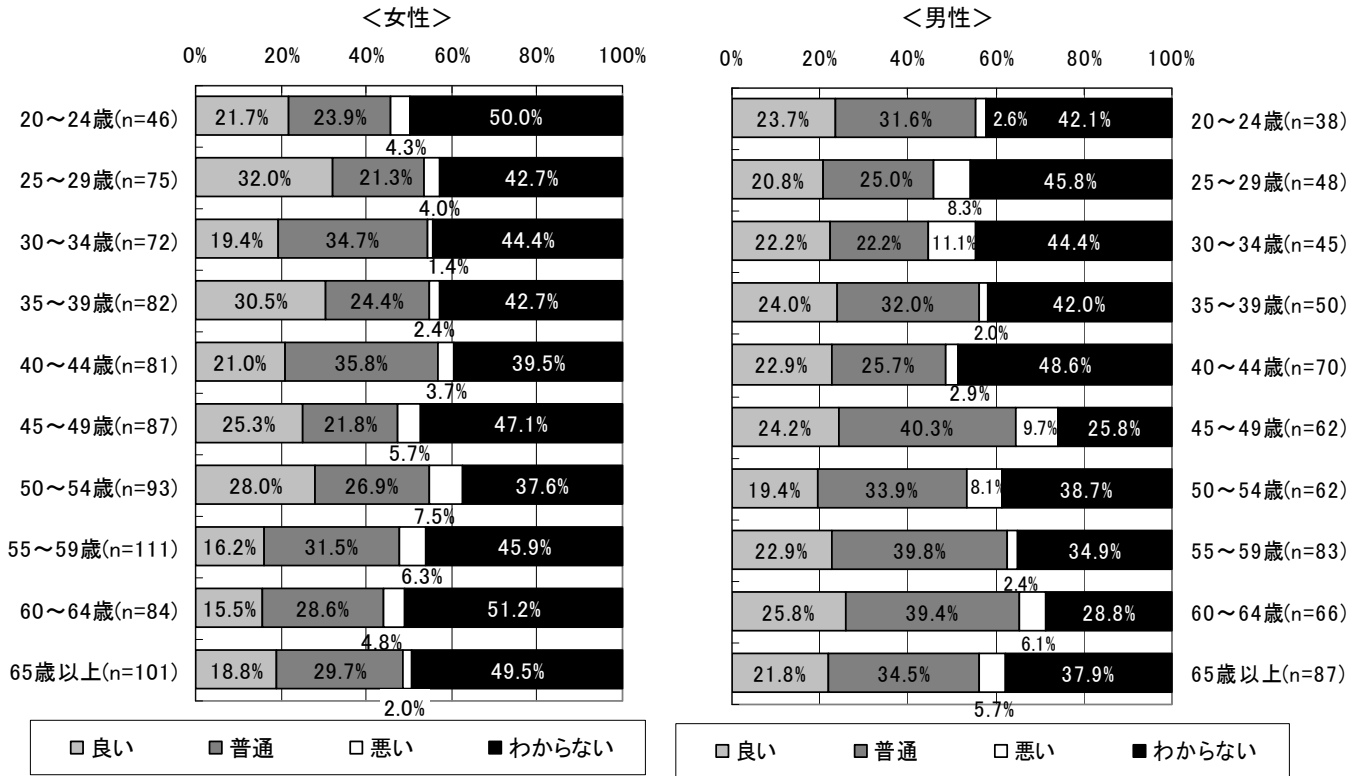
④ 「学校教育における男女共同参画の意識づくり」に対する評価

- ・ 学校教育における男女共同参画の意識づくりに対する評価について男女別にみると（図表 II-117）、男女ともに「良い」が約2割、「普通」が約3割、「悪い」が約5%となっている。
- ・ 年齢別にみると（図表 II-118）、男性では年齢による大きな差はみられないが、女性では25代後半や35代後半で評価が高くなっている一方、20代前半や60歳以上では「わからない」の割合が約5割となっている。これは、実際に学校現場と触れあう機会が少なく、判断できないことによるものと考えられる。
- ・ 小学生、中学生の子どもの有無別にみると（図表 II-122）、小学生や中学生の子どもがいる方が実際に学校と接する機会があることから、特に女性の「小学生子どもあり」で顕著にみられるように、「わからない」の割合が低くなっている。また「良い」の割合についても、男性の「中学生子どもあり」を除けば、子どもたちがいない回答者よりもわずかであるが高くなっている。

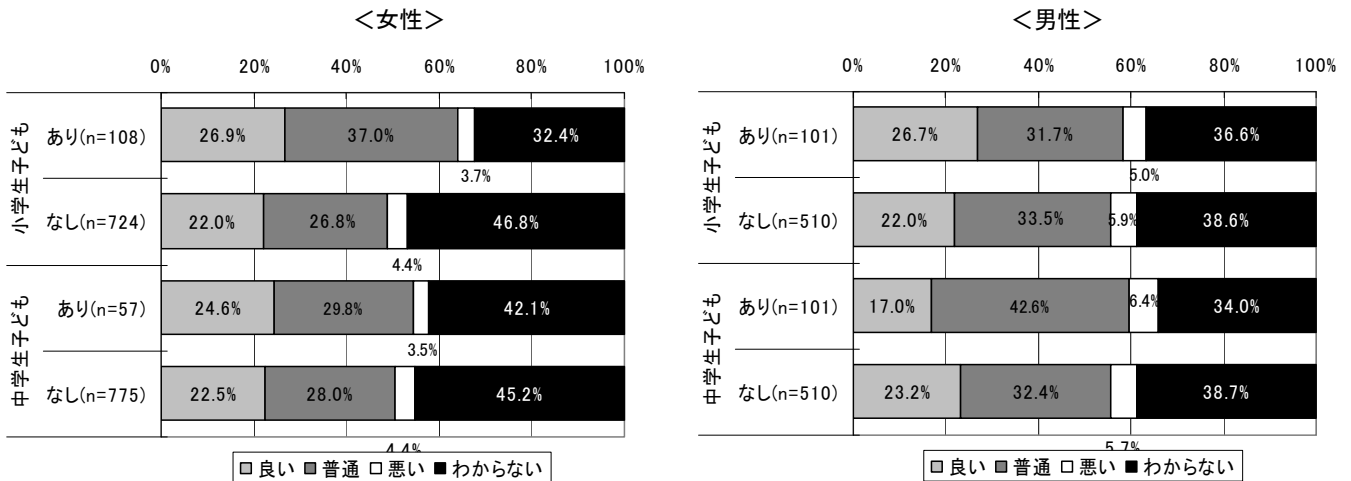
図表 II-117 男女別 学校教育における男女共同参画の意識づくりに対する評価



図表 II-118 年齢別 学校教育における男女共同参画の意識づくりに対する評価



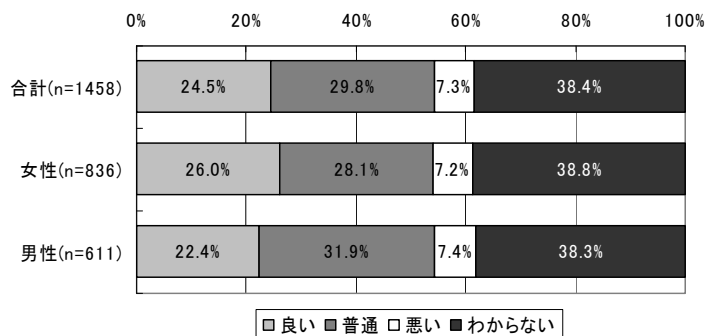
図表 II-119 小学生・中学生の子どもの有無別 学校教育における男女共同参画の意識づくりに対する評価



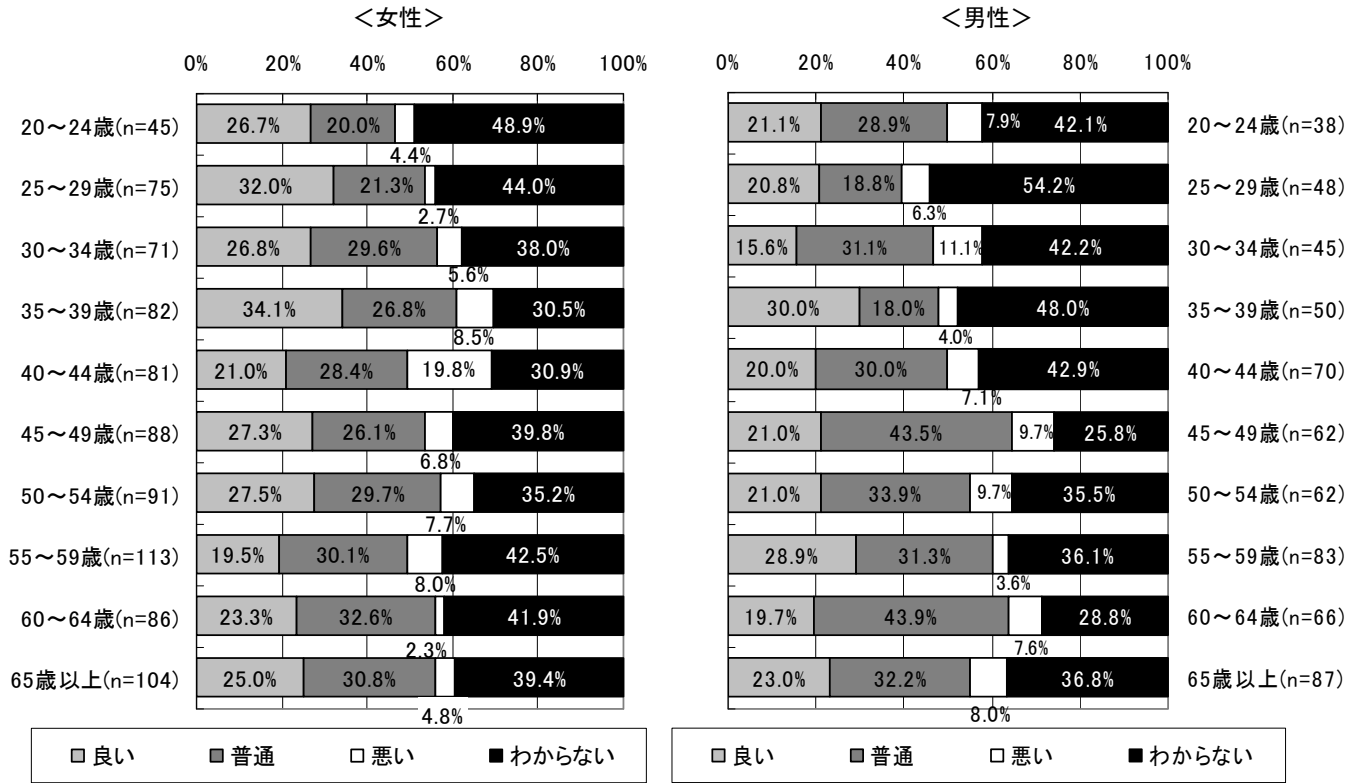
⑤ 「学校行事やPTA活動などへの父親参加促進の取組」に対する評価

- 学校行事やPTA活動などへの父親参加促進の取組に対する評価について男女別にみると（図表 II-120）、わずかではあるが男性の方が女性よりも「普通」の割合が高く、「良い」の割合が低くなっている。
- 年齢別にみると（図表 II-121）、男性では30代後半と50代後半を除いていずれも「良い」の割合が低く、特に30代前半では「良い」の割合が最も低く、「悪い」の割合が最も高い結果となっている。一方で、女性では、小学生の子どもがいる可能性が高い30代は比較的「良い」の割合が高く、同年代の男性とやや異なる評価となっている。
- 小学生、中学生の子どもの有無別にみると（図表 II-122）、男女ともに小学生の場合は子どもがいる回答者の方が、いない回答者よりも「良い」の割合が高くなっているが、中学生の場合には逆に低くなっている。また、女性では、小学生・中学生に限らず子どもがいる回答者の方が、「悪い」の割合が大幅に高く、実際に学校と接点のある回答者の方がより厳しい評価をしていることわかる。

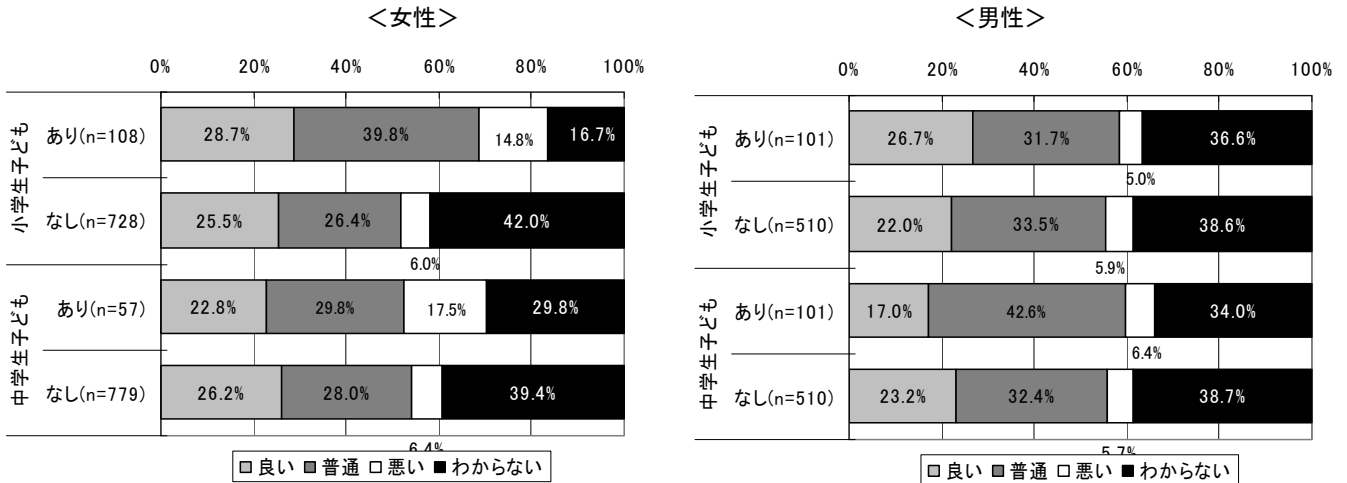
図表 II-120 男女別 学校行事やPTA活動などへの父親参加促進の取組に対する評価



図表 II-121 年齢別 学校行事やPTA活動などへの父親参加促進の取組に対する評価



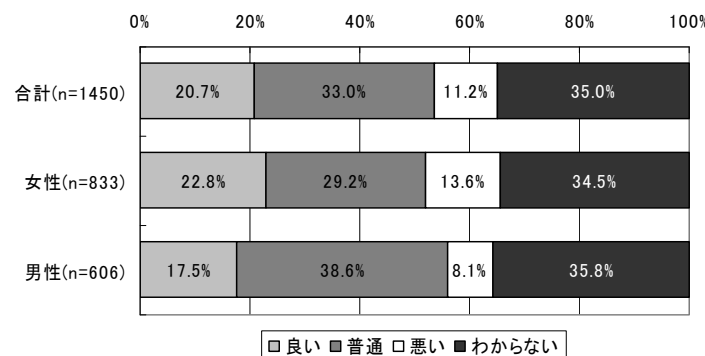
図表 II-122 小学生・中学生の子どもの有無別行事やPTA活動などへの父親参加促進の取組に対する評価



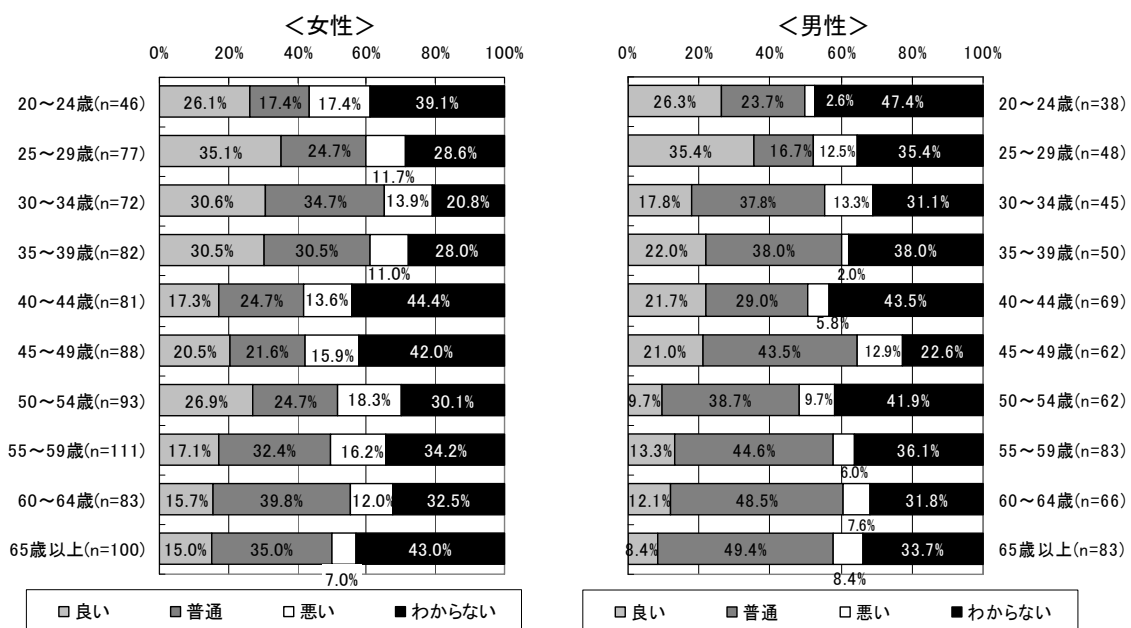
⑥ 「家庭における男性の家事・育児参加の促進」に対する評価

- ・ 家庭における男性の家事・育児参加の促進に対する評価について男女別にみると（図表 II-123）、男性は「普通」（38.6%）の割合が高いが、女性は「良い」（22.8%）および「悪い」（13.6%）の割合が男性に比べて高くなっている。
- ・ 年齢別にみると（図表 II-124）、女性では40歳を境に評価が変わっており、40歳未満では比較的「良い」と評価している割合が高い一方で、それ以降では「良い」の割合は低くなっている。また、家事・育児を主に妻が行うのが良いと考えている人の多い40代と65歳以上において（図表 II-57）、「わからない」の割合が高くなっている。
- ・ 男性については、30歳未満では「良い」が「普通」の割合を上回っているが、30歳以上ではその割合が逆転している。これは、年齢層が高いほど実際の家庭における男女の役割分担が平等ではないと感じている回答者が多いという調査結果（「1. 男女平等意識」）を反映しているものと考えられる。

図表 II-123 男女別 家庭における男性の家事・育児参加の促進に対する評価



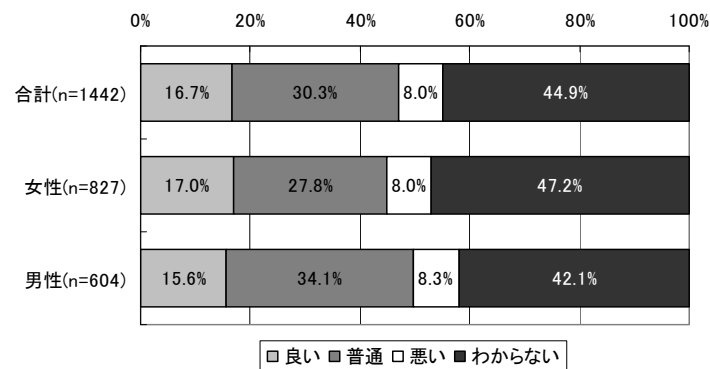
図表 II-124 年齢別 家庭における男性の家事・育児参加の促進に対する評価



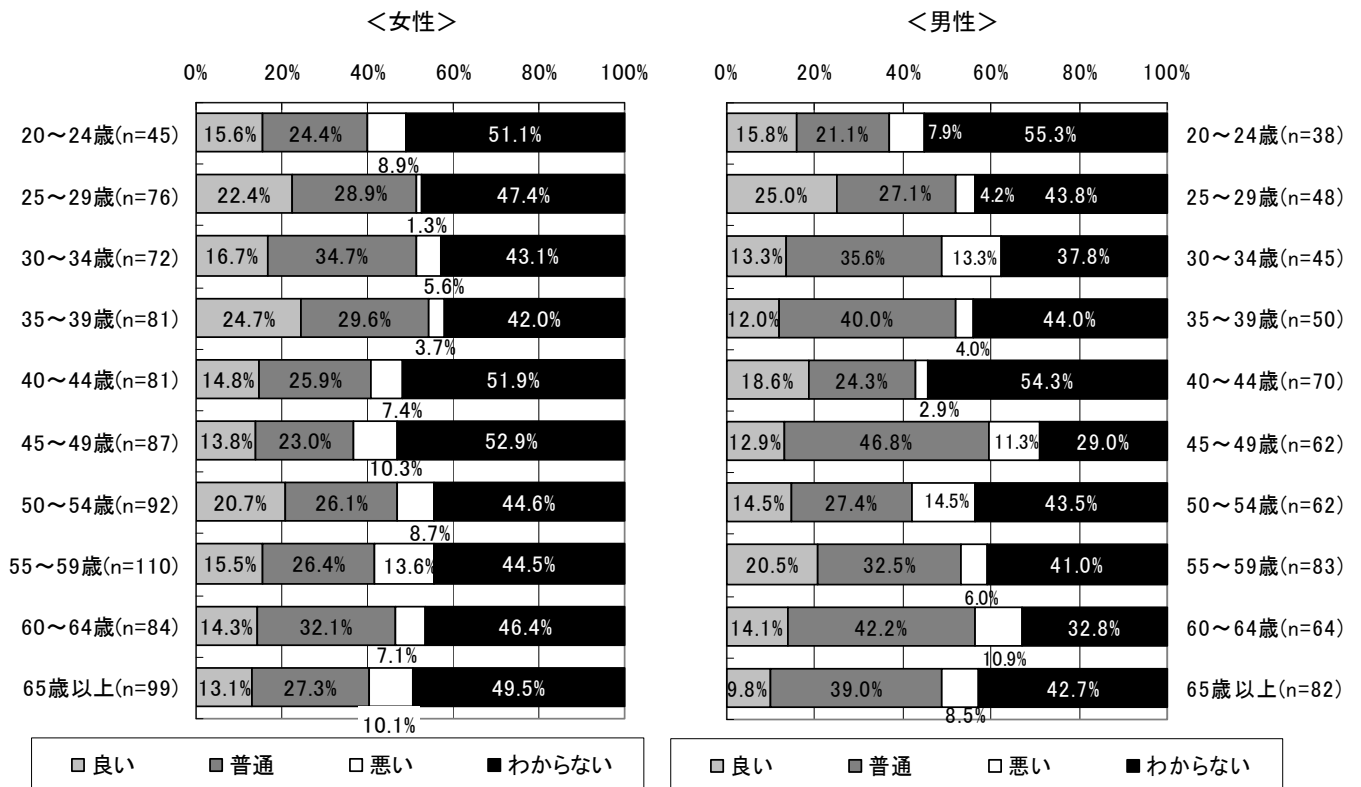
⑦ 「男女共同参画に関する学習機会の創出」に対する評価

- ・ 男女共同参画に関する学習機会の創出に対する評価について男女別にみると（図表 II-125）、「良い」および「悪い」の評価に関しては、男女ともにほぼ同様の傾向を示している。
- ・ 年齢別にみると（図表 II-126）、女性で25～29歳と35～39歳、50～54歳、男性では同じく25～29歳と55～59歳で「良い」の割合が2割を超えている。

図表 II-125 男女別 男女共同参画に関する学習機会の創出に対する評価



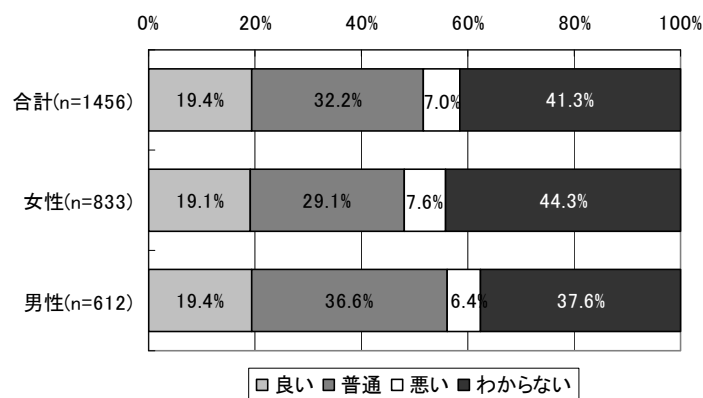
図表 II-126 年齢別 男女共同参画に関する学習機会の創出に対する評価



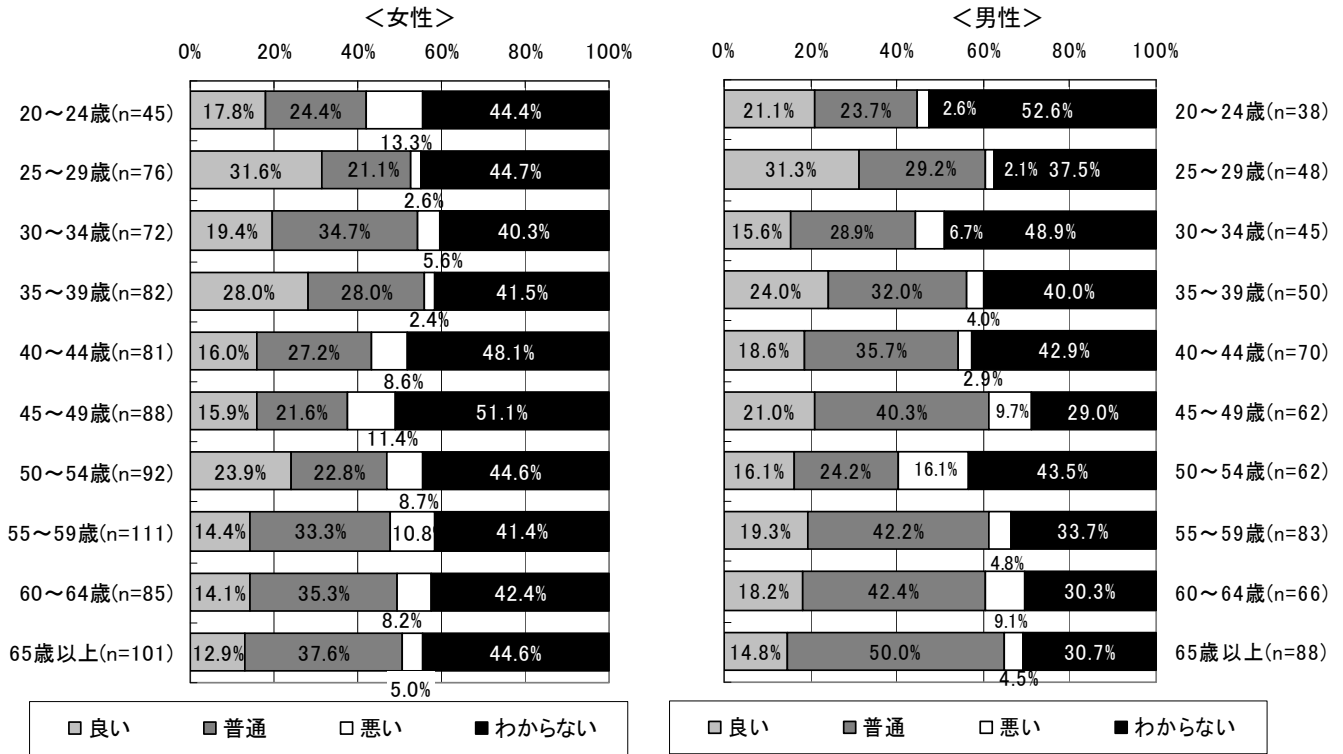
⑧ 「地域活動における男女共同参画の促進」に対する評価

- ・ 地域活動における男女共同参画の促進に対する評価についてみると（図表 II-127）、「良い」および「悪い」の評価に関しては、男女でそれほど大きな差はみられない。
- ・ 年齢別にみると（図表 II-128）、女性ではおよそ40歳を境に評価が変わっており、20代前半を除くと40歳未満では女性全体の評価に比べ、「良い」の割合が高くなっているが、40歳以上では50代前半を除いて「良い」の割合が女性全体より低くなっている。
- ・ 男性の場合は、「良い」の割合について、30代前半と50代前半および65歳以上が低いことと、25歳後半が突出して高いほか、概ね男性全体の「良い」の割合と同様の水準となっている。一方で、50代前半では、「悪い」の評価が他の年齢層と比較して突出して高い。
- ・ 居住地域別にみると（図表 II-129）、地域ごとに回答状況に偏りがあり、母数が少ない地域が存在するが、女性では藤岡地区で「良い」の割合が突出して低く、男性でみた場合には、女性ではそれほど評価が低くない上郷地区で「良い」の割合が突出して低い。また、松平地区では女性と男性で評価がわかれており、女性はそれほど高い評価をしていないものの、男性は非常に高い評価をしている。

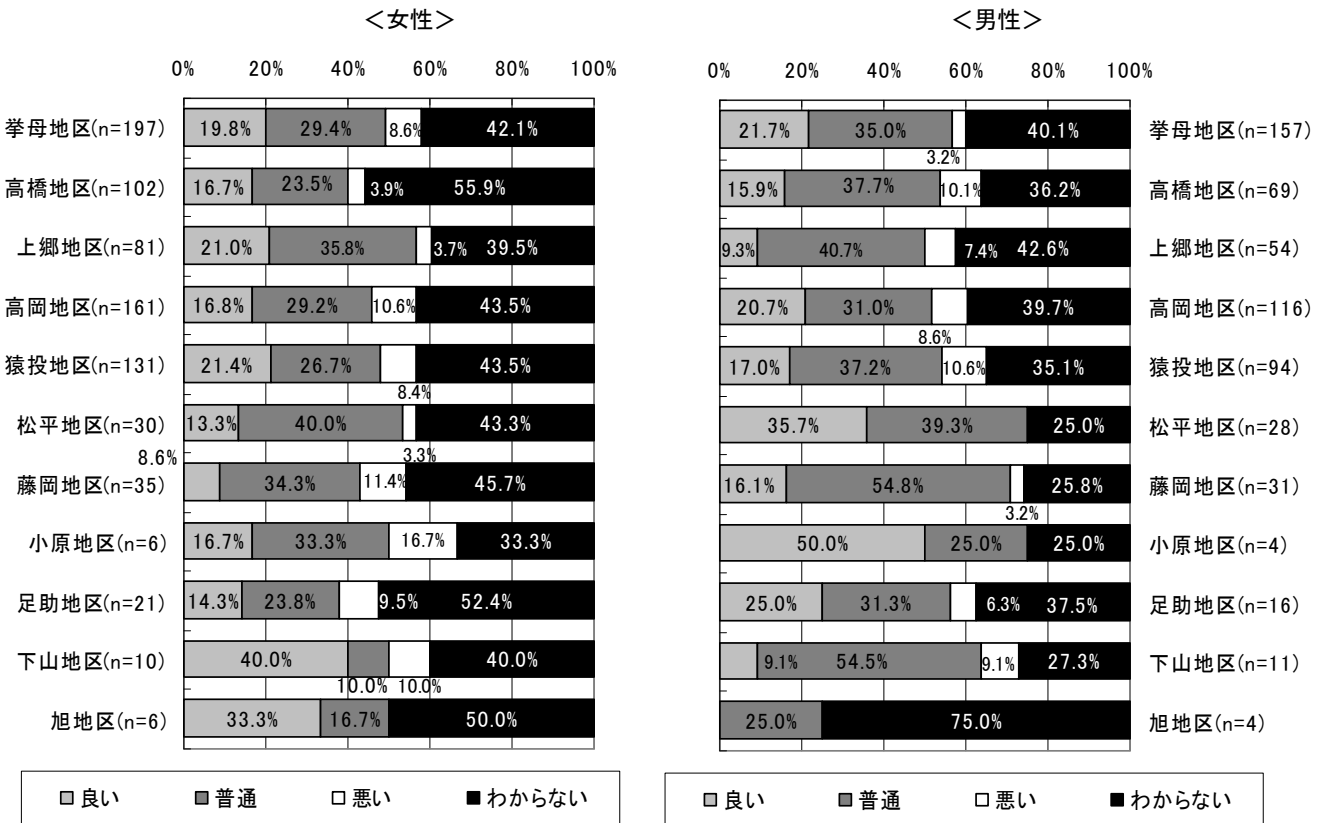
図表 II-127 男女別 地域活動における男女共同参画の促進に対する評価



図表 II-128 年齢別 地域活動における男女共同参画の促進に対する評価



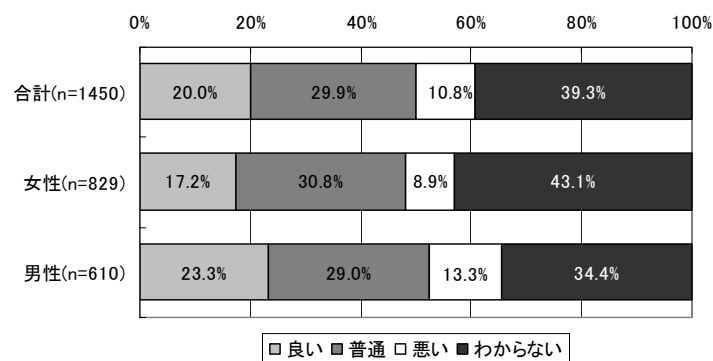
図表 II-129 居住地域別 地域活動における男女共同参画の促進に対する評価



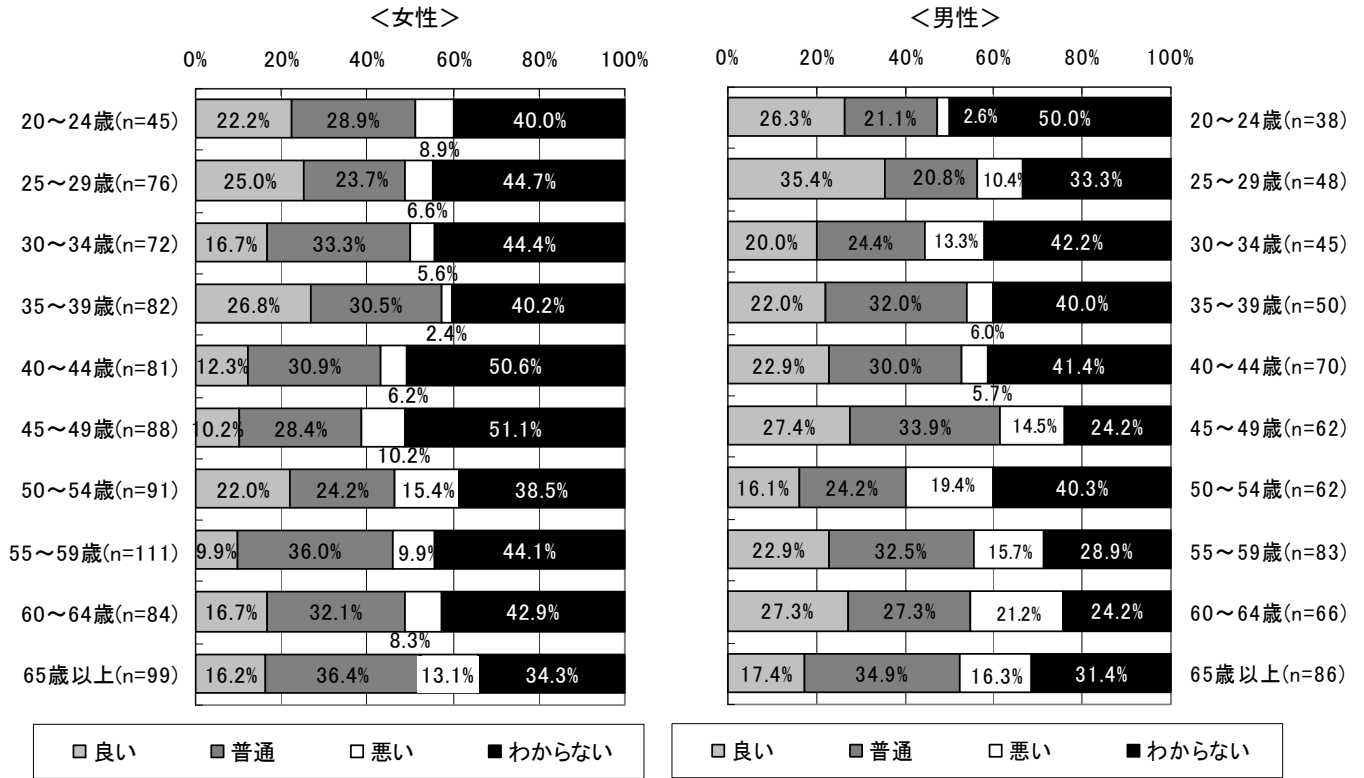
⑨ 「自治区役員や地域会議委員など意志決定の場への女性の登用」に対する評価

- 自治区役員や地域会議委員など意志決定の場への女性の登用に対する評価について男女別にみると（図表 II-130）、男性では女性より「わからない」が約 10 ポイント減少し、「良い」「悪い」とともに約 5 ポイントずつ増加しており、結果的に評価に大きな差はないといえる。
- 年齢別にみると（図表 II-131）、女性の場合は「地域活動における男女共同参画の促進に対する評価」と同様におよそ 40 歳を境に評価が変わっており、30 代前半を除くと 40 歳未満では女性全体の評価に比べ「良い」の割合が高くなっており、40 歳以上では 50 代前半を除いて「良い」の割合が女性全体よりも低くなっている。特に、50 代後半では「良い」と「悪い」が同数となっている。男性の場合、特に 50 代前半での評価が厳しく、「悪い」（19.4%）が「良い」（16.1%）の回答を上回る結果となっている。
- なお、特に男性では 40 代後半を除いて、概ね若年層ほど「わからない」の割合が高くなっており、自治区役員や地域会議委員などが基本的に高齢男性により意志決定されている状況がうかがえる。
- 居住地域別にみると（図表 II-132）、地域ごとに回答状況に偏りがあり、母数が少ない地域が存在するが、女性では特に藤岡地区での「良い」の評価が際だって低い。一方男性でみると高橋地区や猿投地区では「悪い」の割合が「良い」を上回る結果となっている。

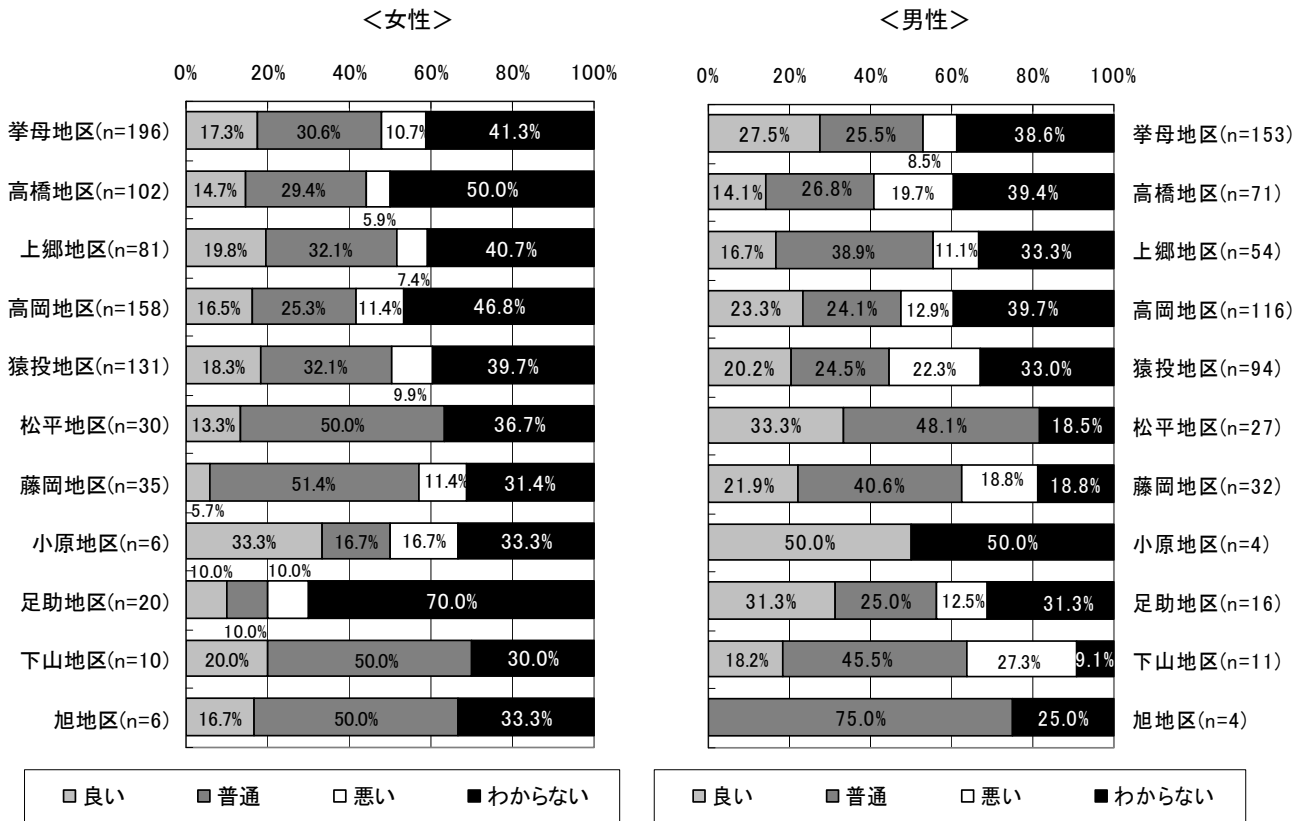
図表 II-130 男女別 自治区役員や地域会議委員など意志決定の場への女性の登用に対する評価



図表 II-131 年齢別 自治区役員や地域会議委員など意志決定の場への女性の登用に対する評価



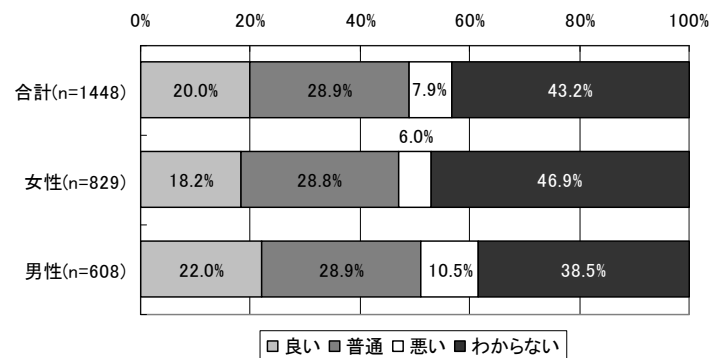
図表 II-132 居住地域別 自治区役員や地域会議委員など意志決定の場への女性の登用に対する評価



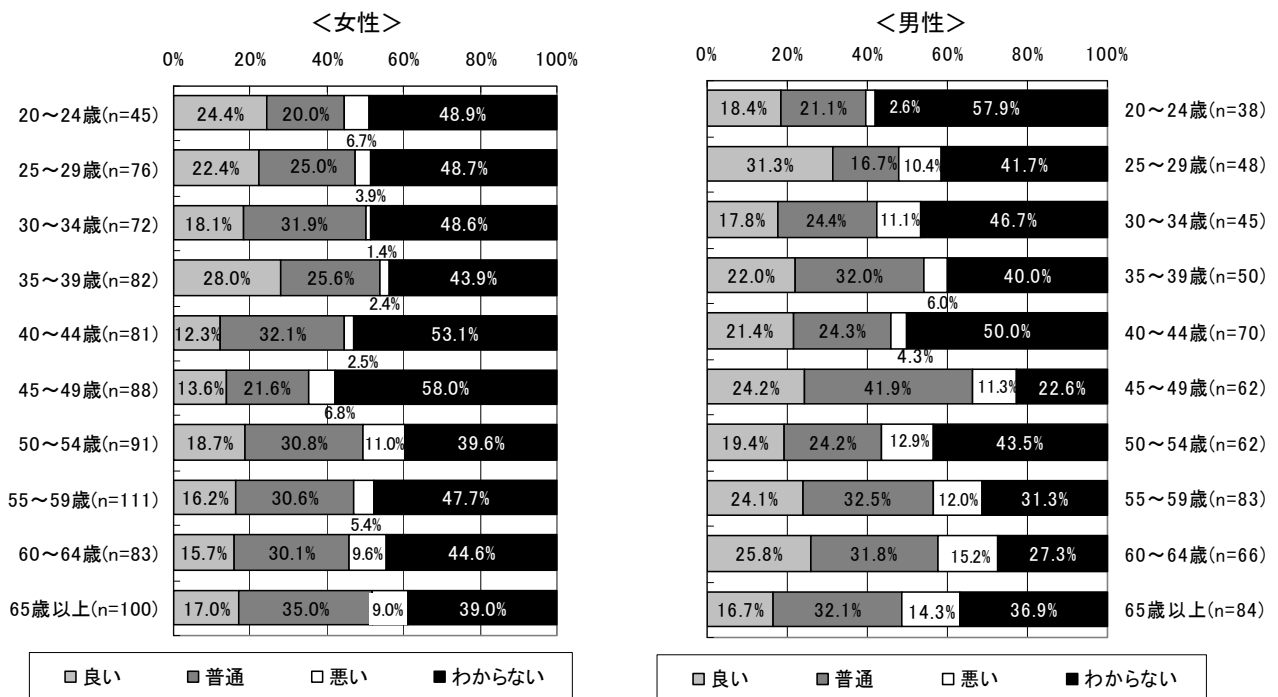
⑩ 「各種団体の女性リーダーの養成など人材育成の推進」に対する評価

- ・ 各種団体の女性リーダーの養成など人材育成の推進に対する評価について男女別にみると（図表 II-133）、男性では女性より「わからない」の割合が約8ポイント減少し、「良い」「悪い」がそれぞれ約4ポイント増加しており、結果的に評価に大きな差はないといえる。
- ・ 年齢別にみると（図表 II-134）、女性はおよそ40歳を境に評価が変わっており、30代を除くと40歳未満では「良い」の割合が女性全体を上回っているが、40歳以上では50歳前半を除き、「良い」の割合が女性全体を下回っている。なお、40代については「わからない」の回答も過半数を占めており、当該世代が地域活動を行う上で重要な対象であることから、当該取組について十分に認知されていない可能性がある点に留意が必要である。

図表 II-133 男女別 各種団体の女性リーダーの養成など人材育成の推進に対する評価



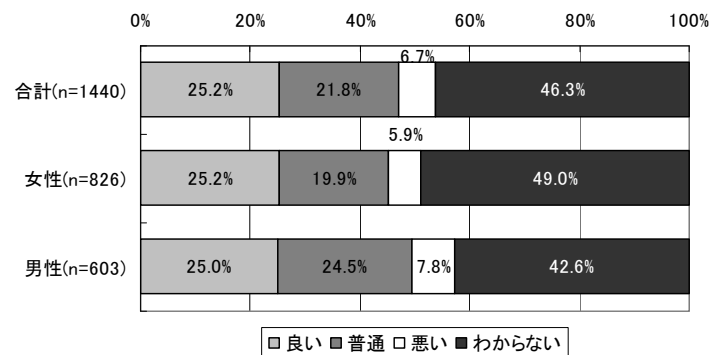
図表 II-134 年齢別 各種団体の女性リーダーの養成など人材育成の推進に対する評価



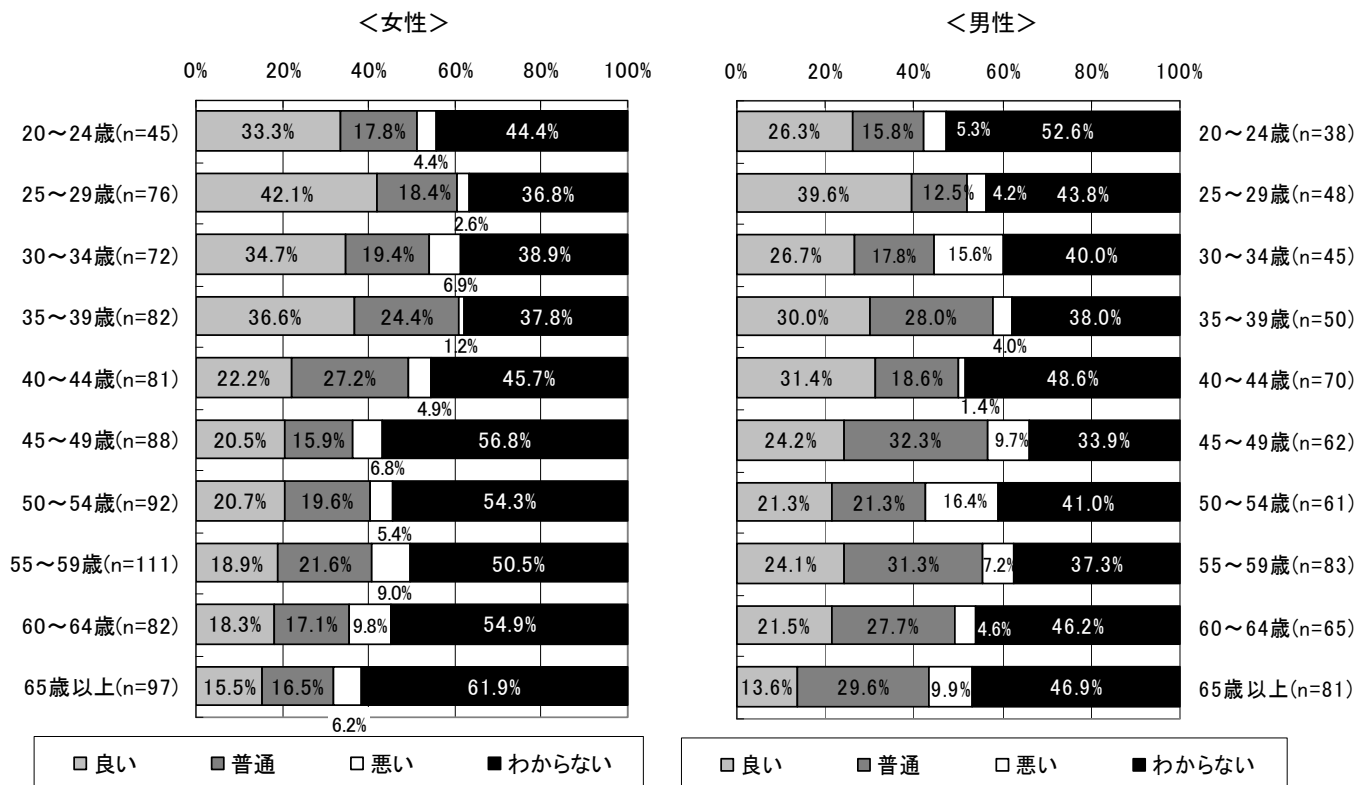
⑪ 「ドメスティック・バイオレンス (DV) の理解促進や解消への取組」に対する評価

- ・ ドメスティック・バイオレンス (DV) の理解促進や解消への取組に対する評価について男女別にみると (図表 II-135)、男女ともにほぼ同様の傾向を示している。
- ・ 年齢別にみると (図表 II-136)、女性では25歳以上で、年齢があがるにつれて「わからない」の回答が増加するとともに「良い」および「普通」の割合が減少している。そのため、40歳未満の年齢層の方が、取組に対する関心等が高い状況にあり、その上で、一定の評価を与えていると考えられる。
- ・ 男性についてみると、30代前半と50代前半で「悪い」の評価が男性全体の約2倍と高い水準になっている。また、45歳以上では「良い」の割合が男性全体を下回っている。

図表 II-135 男女別 ドメスティック・バイオレンス (DV) の理解促進や解消への取組に対する評価



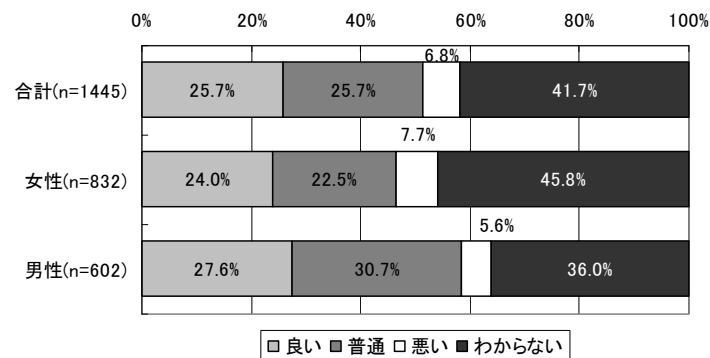
図表 II-136 年齢別 ドメスティック・バイオレンス (DV) の理解促進や解消への取組に対する評価



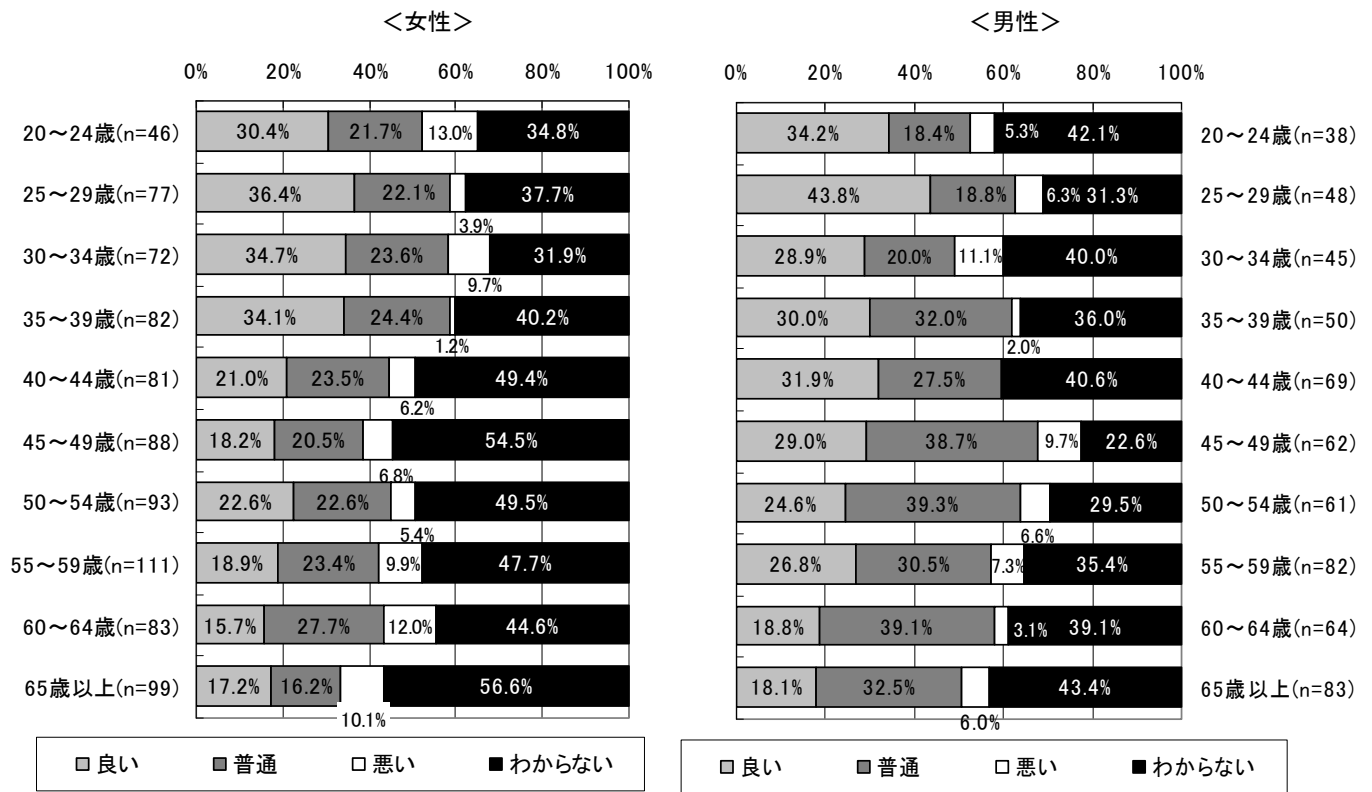
⑫ 「セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）の理解促進や解消への取組」に対する評価

- ・ セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）の理解促進や解消への取組に対する評価について男女別にみると（図表 II-137）、本来この問題について被害者になることが多く意識が強いはずの女性（45.8%）が男性（36.0%）よりも「わからない」の割合が高い。これは、実際に就労している女性が男性よりも少ないことによるのではないかと推測される。一方で、「悪い」の割合は女性の方が男性よりも高く、「わからない」の割合の違いを考慮すると、女性の方が状況は悪く感じていることがわかる。
- ・ 年齢別にみると（図表 II-138）、女性では40歳未満で「わからない」の割合が低く、身近な問題としてとらえている回答者が高いことがわかるが、同じ年齢層の方が評価も良いという結果になっている。一方男性では20代前半を除き、年齢層があがるほど概ね「良い」の割合は減少している。また、特に45～54歳といった管理職クラスの年齢層の男性が「わからない」の割合が低いことが特徴的である。
- ・ 職業別（図表 II-139）にみると、男女ともに会社員や公務員といった企業等での職務経験を有する職業で「わからない」の割合が低くなっており、概ね評価も良い傾向にある。一方パート・アルバイト・嘱託等では、女性全体と比較すると「良い」の割合がやや低い傾向にあり、雇用形態により改善状況に差がみられる。

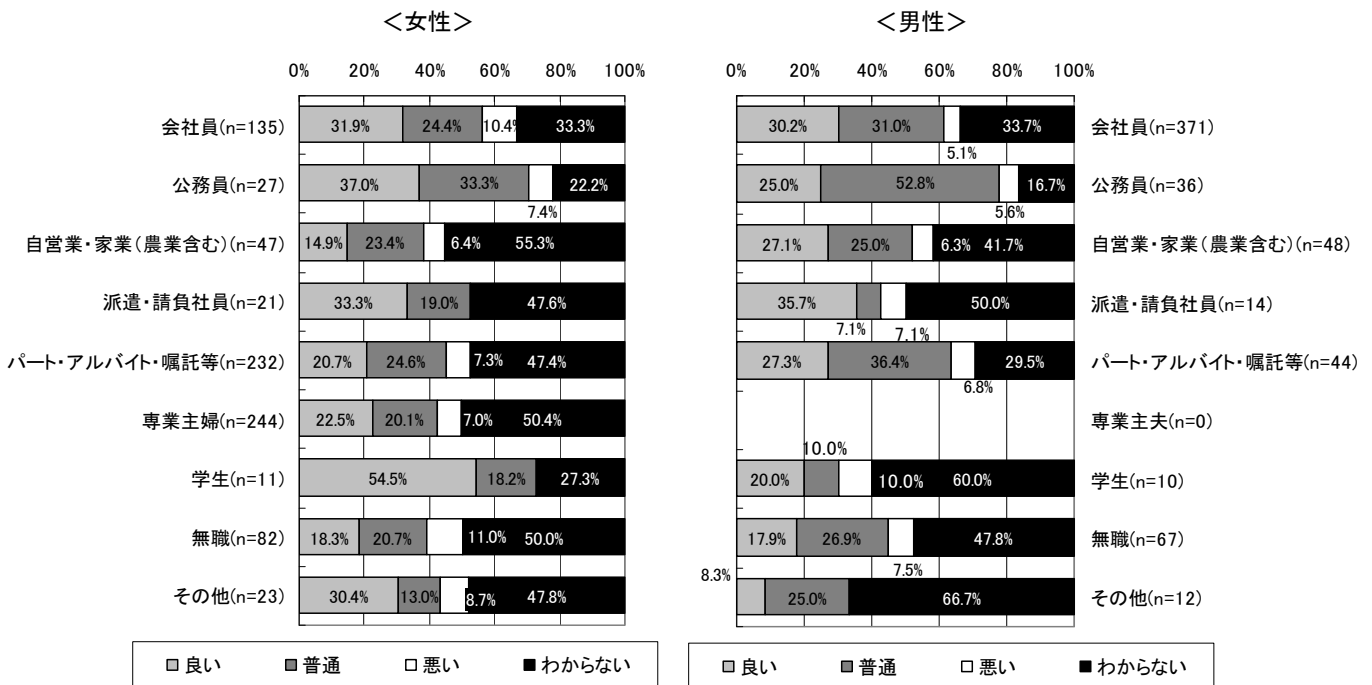
図表 II-137 男女別 セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）の理解促進や解消への取組に対する評価



図表 II-138 年齢別 セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）の理解促進や解消への取組に対する評価



図表 II-139 職業別 セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）の理解促進や解消への取組に対する評価

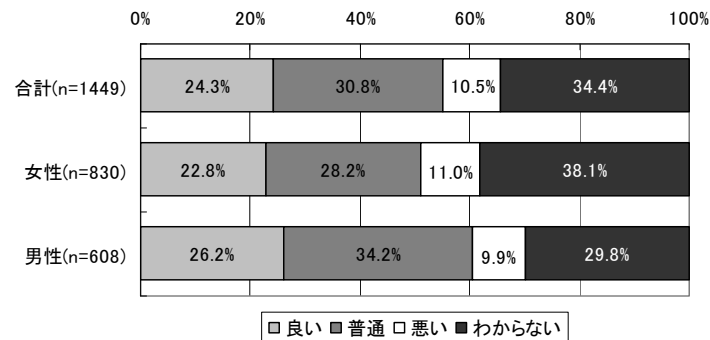


注) 男性の「専業主婦」は該当者なし

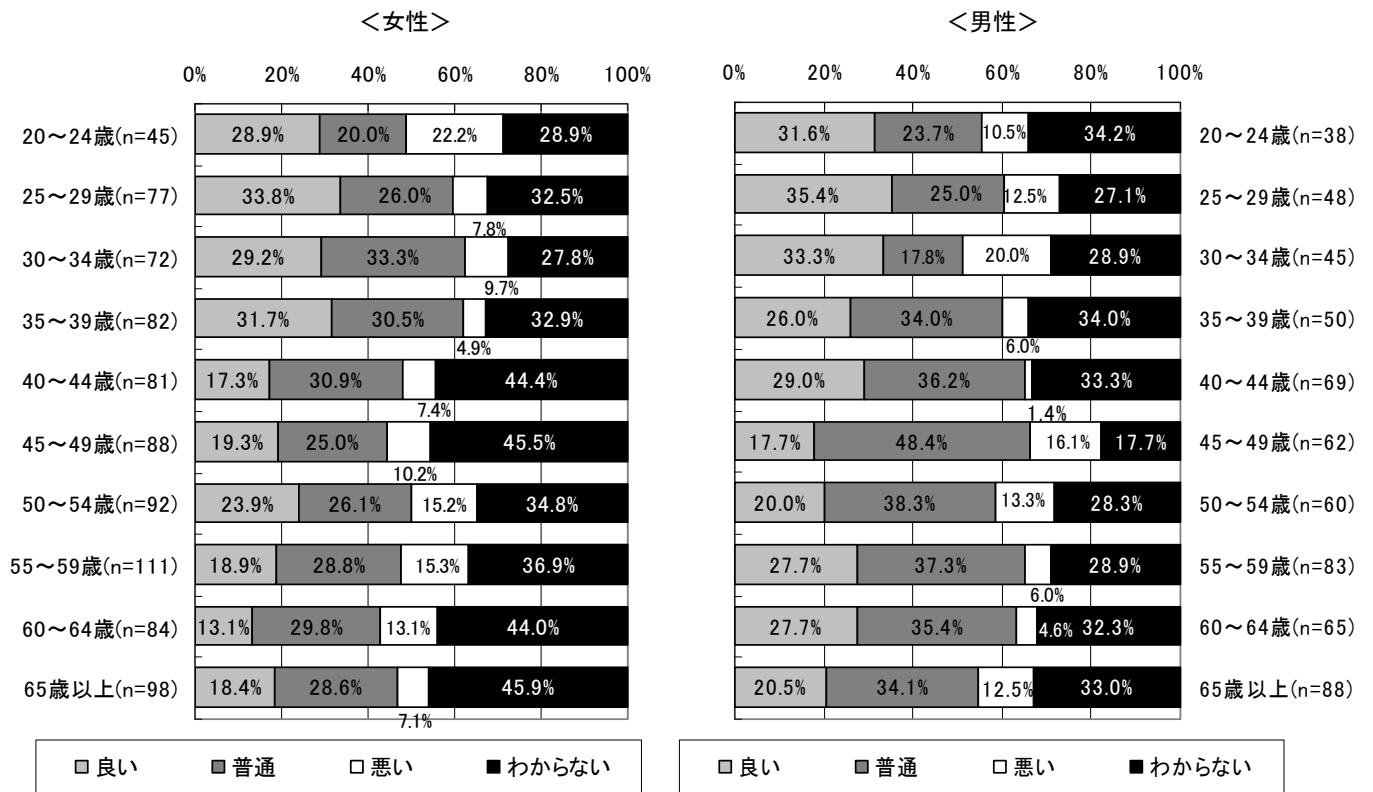
⑬ 「職場における男女平等な環境づくり」に対する評価

- ・ 職場における男女平等な環境づくりに対する評価について男女別にみると（図表 II-140）、女性（38.1%）の方が男性（29.8%）よりも「わからない」の割合は高いにも関わらず、「悪い」の割合は男性よりも高い。女性は職場でも男性優位と感じる割合が高く、取組に対する評価についても男性よりも厳しい評価となったと思われる。
- ・ 年齢別にみると（図表 II-141）、女性では40歳未満では比較的「良い」の評価が高い一方で、40歳以上で「良い」の評価は減少している。また、50代では「悪い」の評価も高くなっており、他の年齢層よりも厳しい評価となっている。男性でみると45～54歳で「良い」が低く「悪い」が高いという評価結果になっており、また、30代前半でも「良い」の評価は高いものの（33.3%）、「悪い」の評価も（20.0%）も高い結果となっている。
- ・ 職業別にみると（図表 II-142）、セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）の理解促進や解消への取組と同様、女性の場合会社員や公務員では一定の評価が得られているが、パート・アルバイト・嘱託等では「良い」の評価は低く、雇用形態による差がみられる。一方男性の場合、女性ほどの差はみられない。

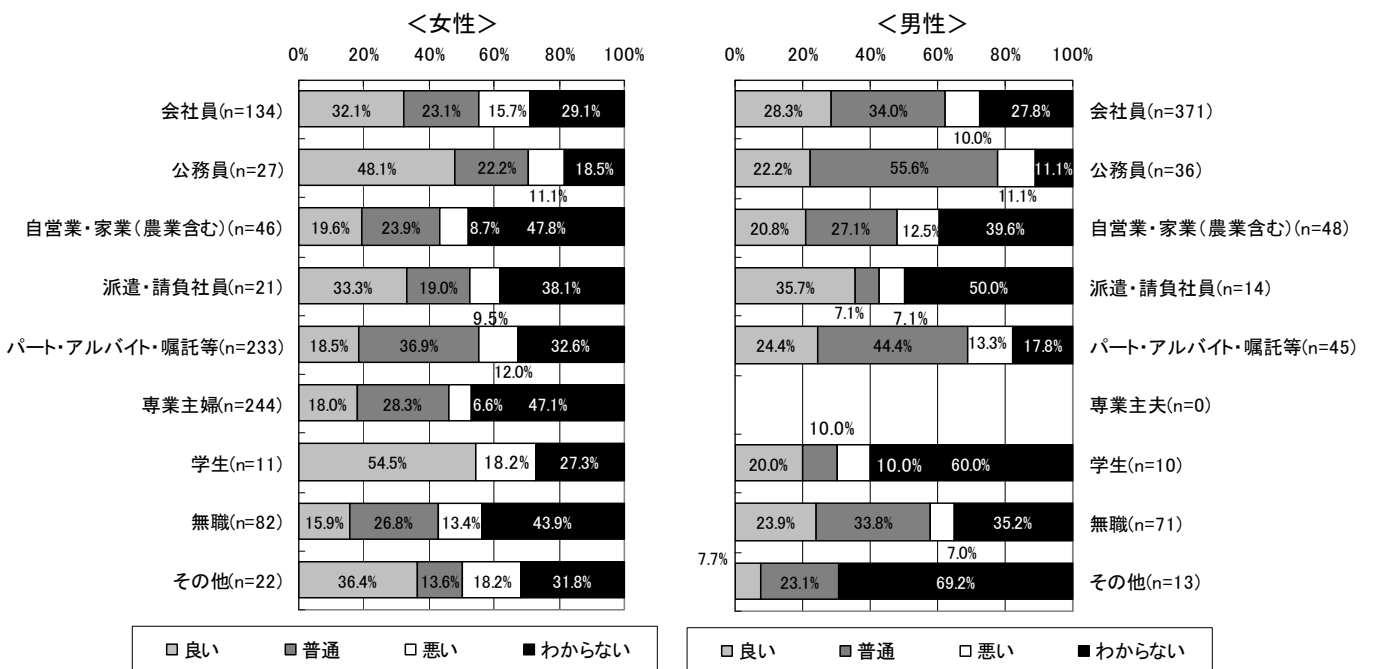
図表 II-140 男女別 職場における男女平等な環境づくりに対する評価



図表 II-141 年齢別 職場における男女平等な環境づくりに対する評価



図表 II-142 職業別 職場における男女平等な環境づくりに対する評価

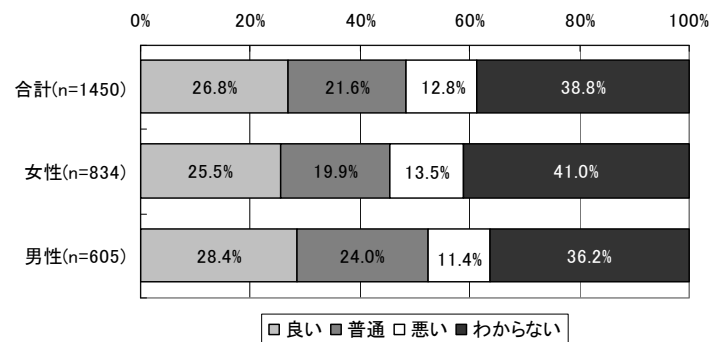


注) 男性の「専業主夫」は該当者なし

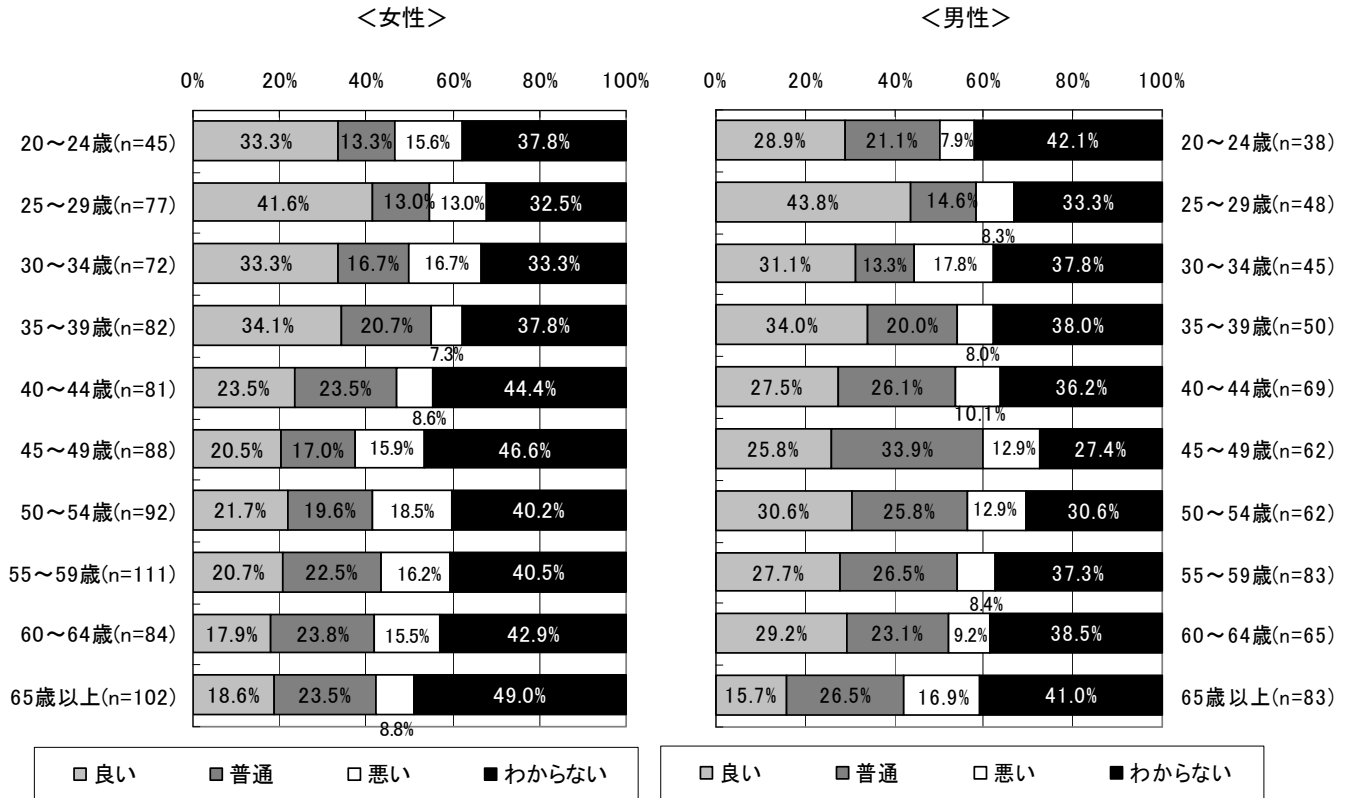
⑭ 「離職した女性に対する再チャレンジ支援など女性の就業継続支援」に対する評価

- ・ 離職した女性に対する再チャレンジ支援など女性の就業継続支援に対する評価について男女別にみると（図表 II-143）、他の職場に関する取組と同様、より直接的な利害関係を持つ女性の方が男性よりも厳しい評価をしている。
- ・ 年齢別にみると（図表 II-144）、女性では25歳以上では年齢とともに「良い」の割合が減少し、特に45歳以上では「悪い」の割合も15%以上となるなど、実際に就業継続において課題を持つ年代であることから、評価が厳しくなっている。また、「良い」の割合が高い30代前半でも、就業継続の可否に直面する年代であることから、「悪い」と回答する割合がやや高い状況にある。女性ほど明確ではないものの、同様の傾向は男性でもみられ、特に40歳以上の男性では40歳未満の男性と比べて評価が悪い。
- ・ 職業別にみると（図表 II-145）、女性では会社員や公務員のような正規職員では評価はそれほど悪くない一方で、パート・アルバイト・嘱託等では「良い」の割合が低い結果となっている。

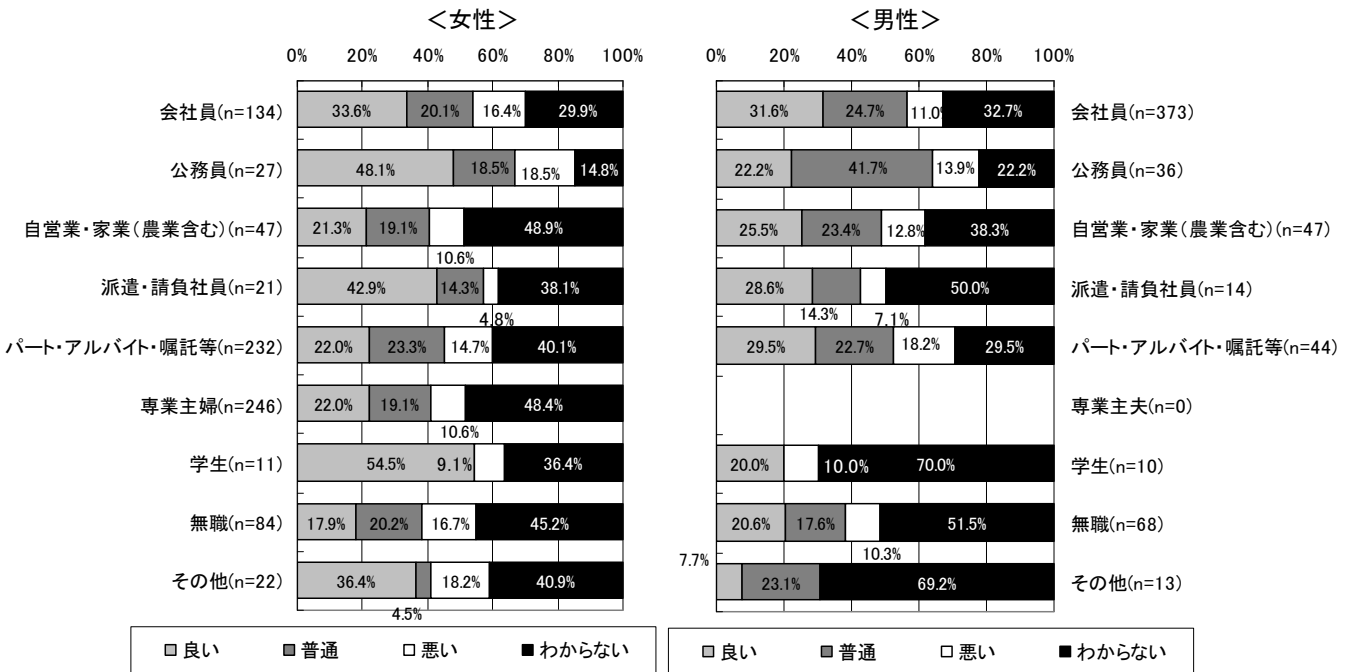
図表 II-143 男女別 離職した女性に対する再チャレンジ支援など女性の就業継続支援に対する評価



図表 II-144 年齢別 離職した女性に対する再チャレンジ支援など女性の就業継続支援に対する評価



図表 II-145 職業別 離職した女性に対する再チャレンジ支援など女性の就業継続支援に対する評価

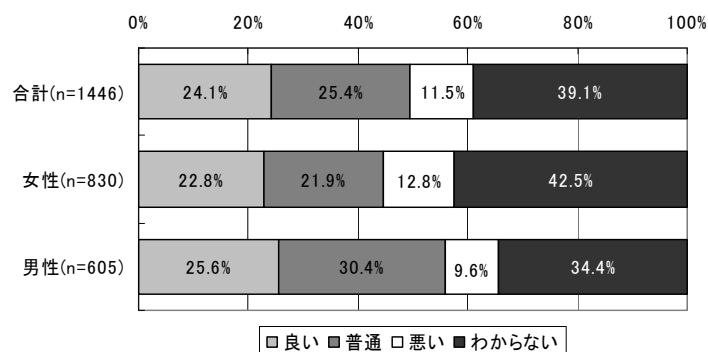


注) 男性の「専業主婦」は該当者なし

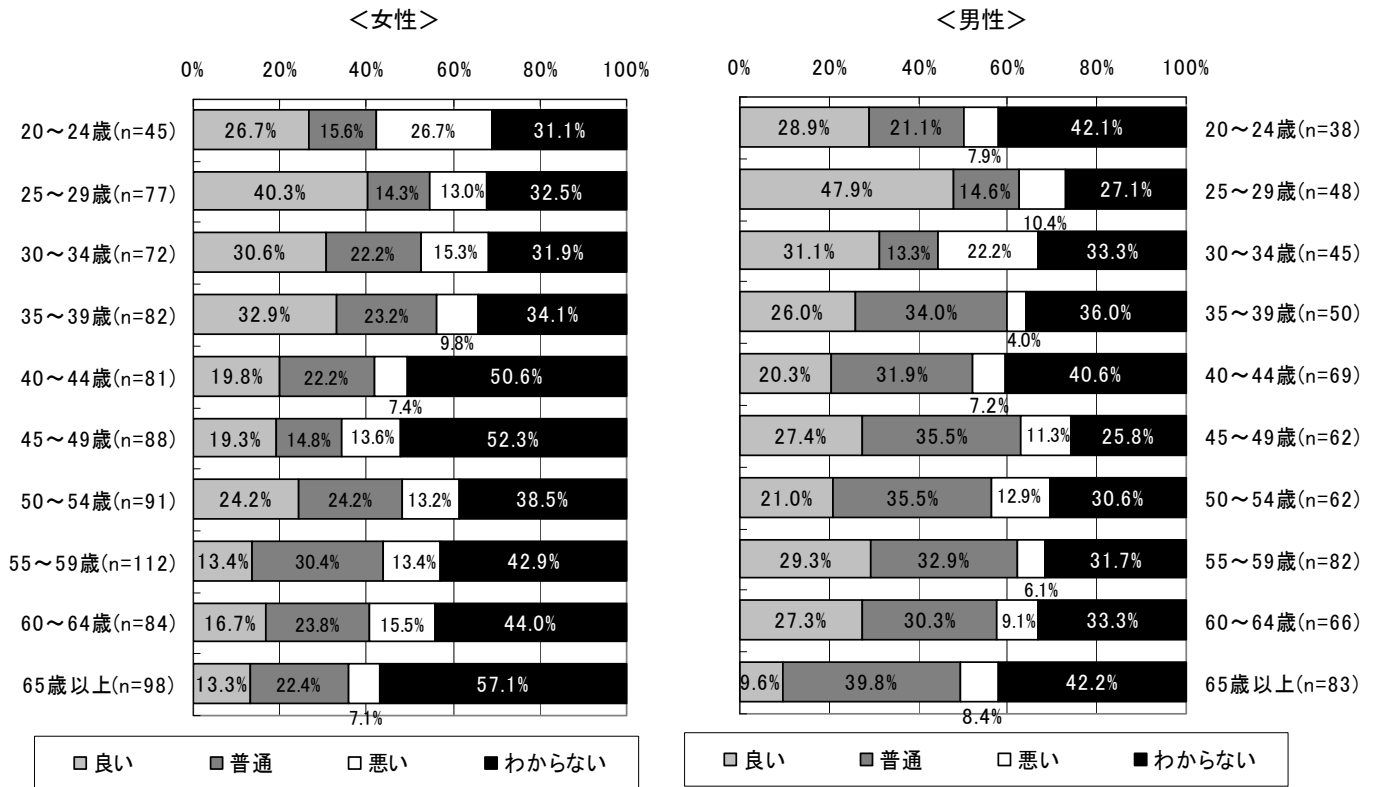
⑮ 「ワーク・ライフ・バランス理解促進」に対する評価

- ・ ワーク・ライフ・バランス理解促進に対する評価について男女別にみると（図表 II-146）、他の職場に関する取組と同様、女性の方が「悪い」の割合（12.8%）が男性（9.6%）よりも高く、より厳しい評価をしている。
- ・ 年齢別にみると（図表 II-147）、女性では40歳を境に「良い」の割合が分かれており、40歳未満では「良い」の割合が高い。ただし、20代前半では「良い」と「悪い」が同じ割合となっており、評価が分かれている。男性については、特に30代前半において「良い」「悪い」ともに割合が高くなっており、50代前半と並んで「良い」と「悪い」の割合の差が小さくなっている。特に30代前半は結婚・出産が重なる時期であることから、回答者によって家庭環境の変化が大きく、評価が分かれる結果につながったものと推察される。
- ・ 職業別にみると（図表 II-148）、女性では会社員や公務員などで「良い」の割合が高く、一方でパート・アルバイト・嘱託等や専業主婦では「良い」の割合が低くなっている。一方、男性では女性と比較すると公務員での評価が低い。

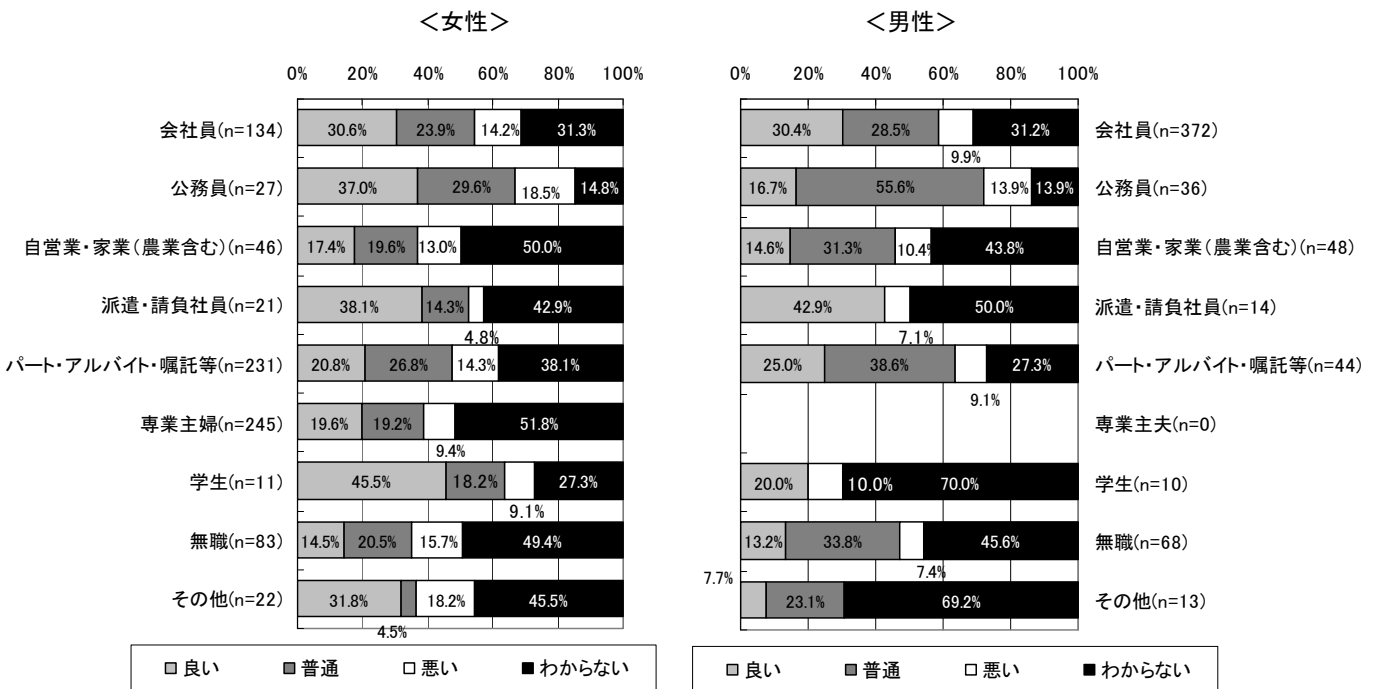
図表 II-146 男女別 ワーク・ライフ・バランス理解促進に対する評価



図表 II-147 年齢別 ワーク・ライフ・バランス理解促進に対する評価



図表 II-148 職業別 ワーク・ライフ・バランス理解促進に対する評価

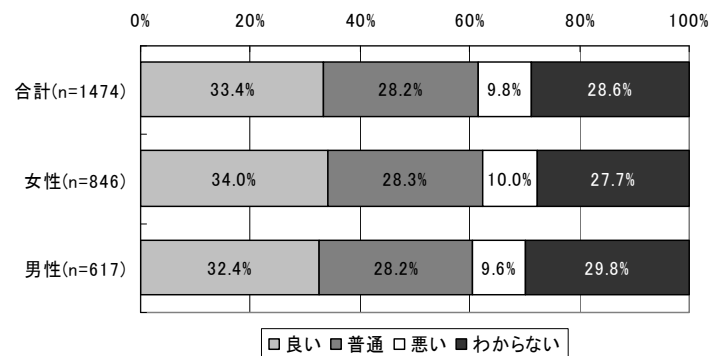


注) 男性の「専業主夫」は該当者なし

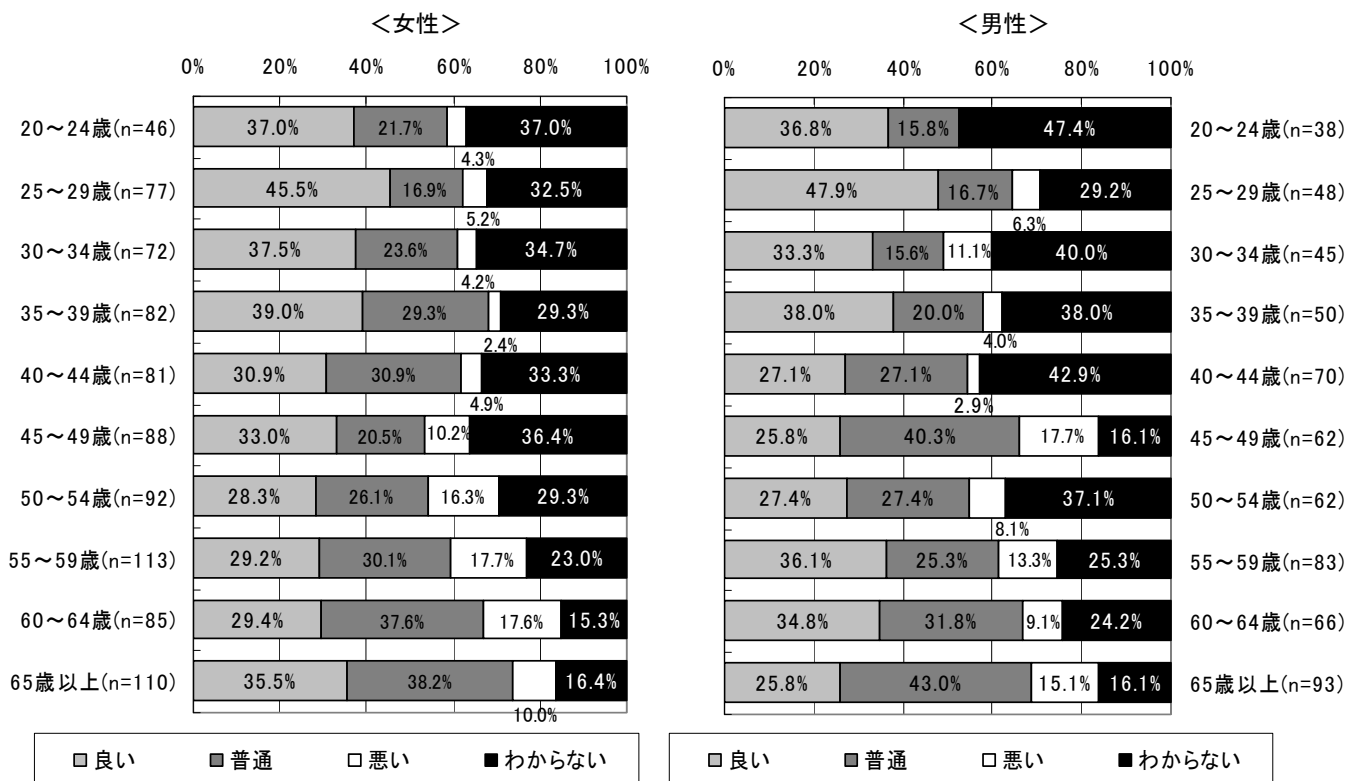
⑯ 「高齢者の健康やいきがづくりへの取組」に対する評価

- ・ 高齢者の健康やいきがづくりへの取組に対する評価について男女別にみると（図表 II-149）、男女ともにほぼ同様の傾向を示している。
- ・ 年齢別にみると（図表 II-150）、男女ともに概ね若年層よりは55歳以上の回答者の方が「わからない」の割合が低く身近な問題としてとらえていることがわかる。直接の対象者となる65歳以上の回答者についてみると、男性では「良い」の割合が男性全体よりも低く、「悪い」の割合が高くなっており、厳しい評価となっている。

図表 II-149 男女別 高齢者の健康やいきがづくりへの取組に対する評価



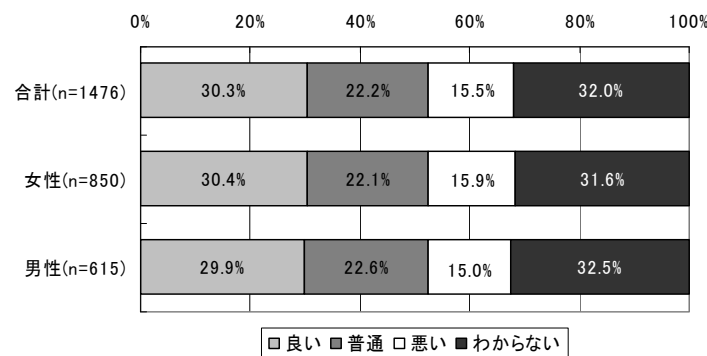
図表 II-150 年齢別 高齢者の健康やいきがづくりへの取組に対する評価



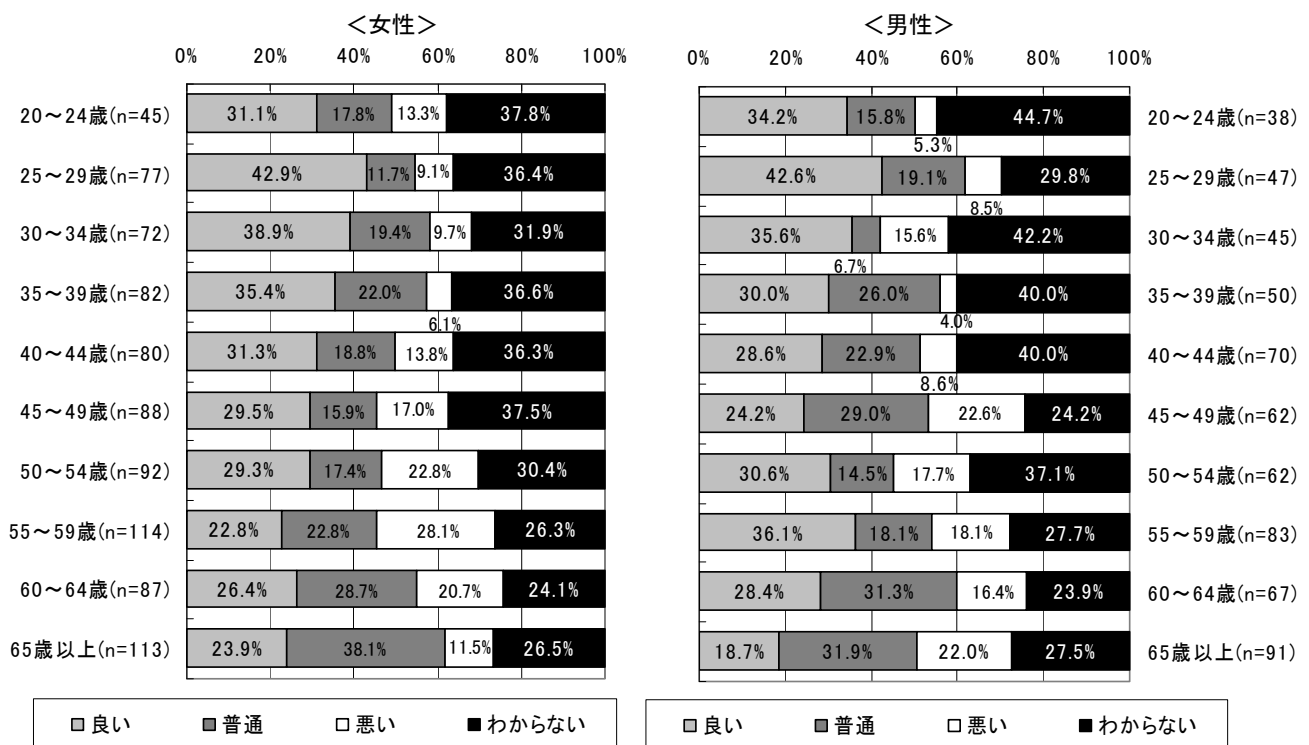
⑰ 「要介護者を支える家庭への支援体制」に対する評価

- ・ 要介護者を支える家庭への支援体制に対する評価について男女別にみると（図表 II-151）、男女ともにほぼ同様の傾向を示している。
- ・ 年齢別にみると（図表 II-152）、女性では50歳を境に傾向が変わり、50歳以上では「わからない」が概ね3割を下回り、「悪い」の割合が2割を超えるなど、厳しい評価となっている。これは、親世代の介護や夫の介護などで、50歳前後からより切実な問題となっていることによるものと想定される。
- ・ 男性では40代後半で「悪い」の評価が22.6%と高く、「良い」とほぼ同程度になっている。また、65歳以上となると「良い」（18.7%）が「悪い」（22.0%）を下回っている。

図表 II-151 男女別 要介護者を支える家庭への支援体制に対する評価



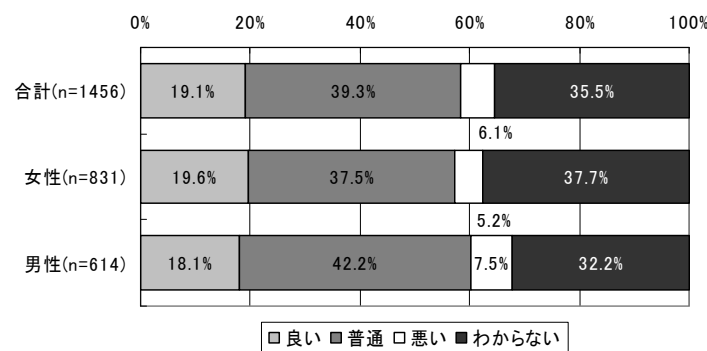
図表 II-152 年齢別 要介護者を支える家庭への支援体制に対する評価



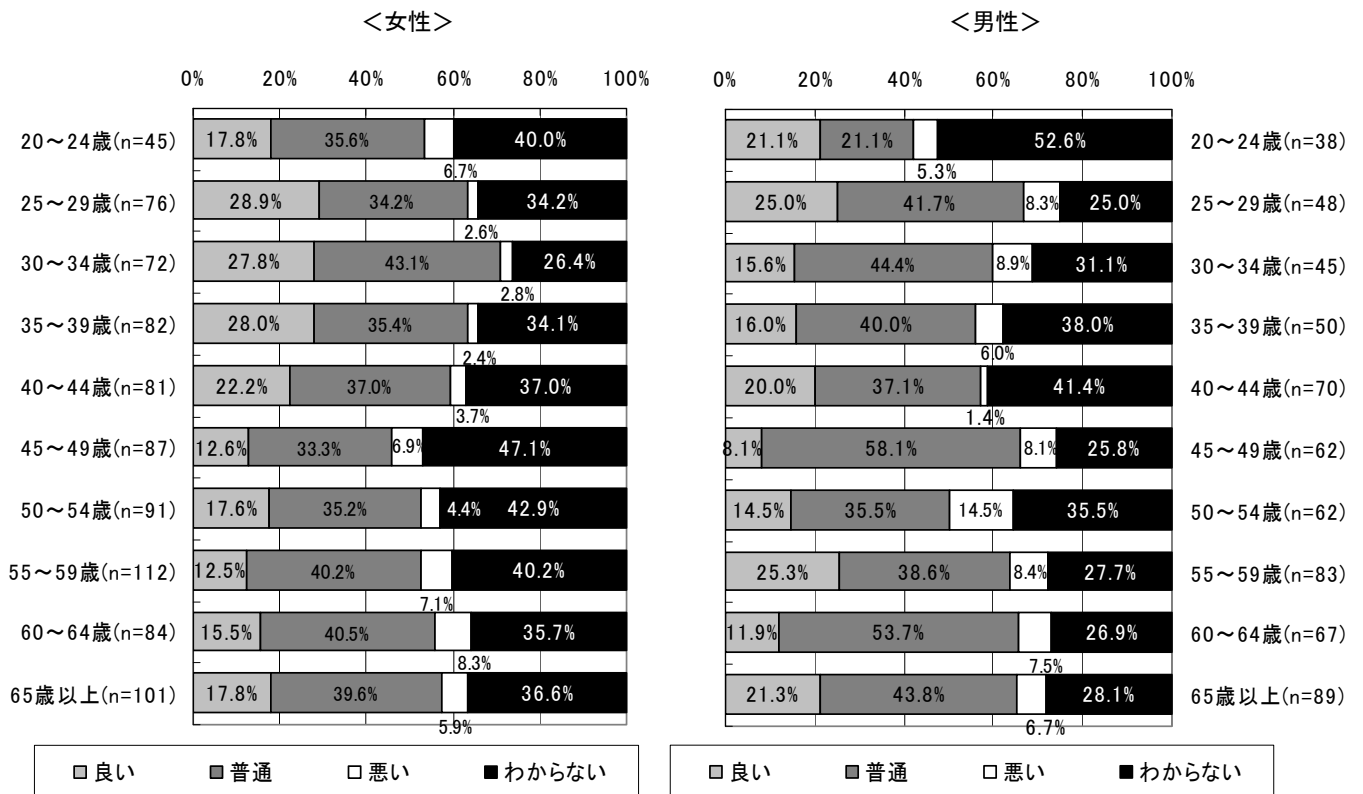
⑱ 「イベント、広報紙などによる男女共同参画意識の啓発推進」に対する評価

- ・ イベント、広報紙などによる男女共同参画意識の啓発推進に対する評価について男女別にみると（図表 II-153）、男女ともにほぼ同様の傾向を示している。
- ・ 年齢別にみると（図表 II-154）、女性は20代前半と45歳以上で「良い」の評価が女性全体を下回っており、その他の年齢層では「わからない」が低く、「良い」の割合が高くなっている。「わからない」の割合が低いことから、これらの世代は全般的にこうしたイベントや広報紙に対する関心が高いことがうかがえる。
- ・ 男性でみると、30代、45～54歳、60歳以上で「良い」の割合が低くなっている。

図表 II-153 男女別 イベント、広報紙などによる男女共同参画意識の啓発推進に対する評価



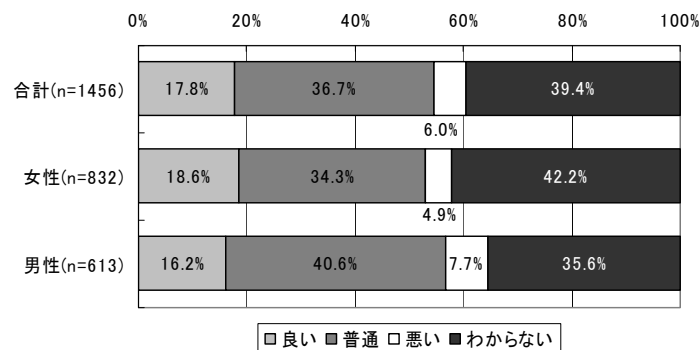
図表 II-154 年齢別 イベント、広報紙などによる男女共同参画意識の啓発推進に対する評価



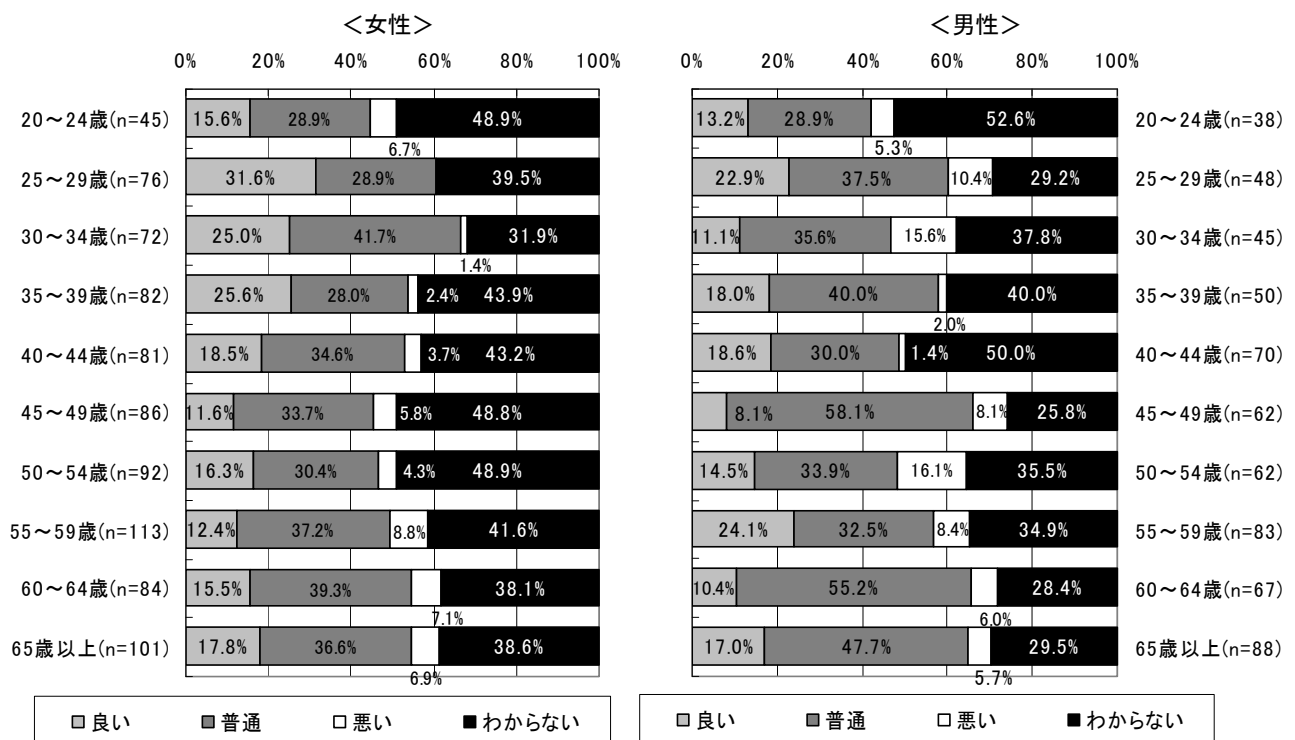
⑱ 「男女共同参画を推進する市民活動の支援」に対する評価

- 男女共同参画を推進する市民活動の支援に対する評価について男女別にみると（図表 II-155）、女性の方が「わからない」（42.2%）の割合が男性よりも高いにも関わらず女性の「良い」（18.6%）は男性（16.2%）より高く、「悪い」（4.9%）は男性（7.7%）より低いことから、女性の方が取組について評価をしている。
- 年齢別にみると、女性は35～54歳において「わからない」が女性全体を上回っている。この背景には、これらの年代は他の年代と比べて子育てや仕事などの影響で市民活動に取り組むことが難しく、評価できないと判断した回答者が多いことがうかがえる。今後こうした年齢層への働きかけも重要になると考えられる。

図表 II-155 男女別 男女共同参画を推進する市民活動の支援に対する評価



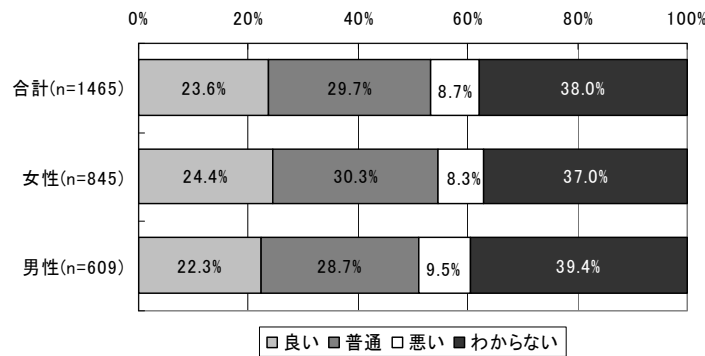
図表 II-156 年齢別 男女共同参画を推進する市民活動の支援に対する評価



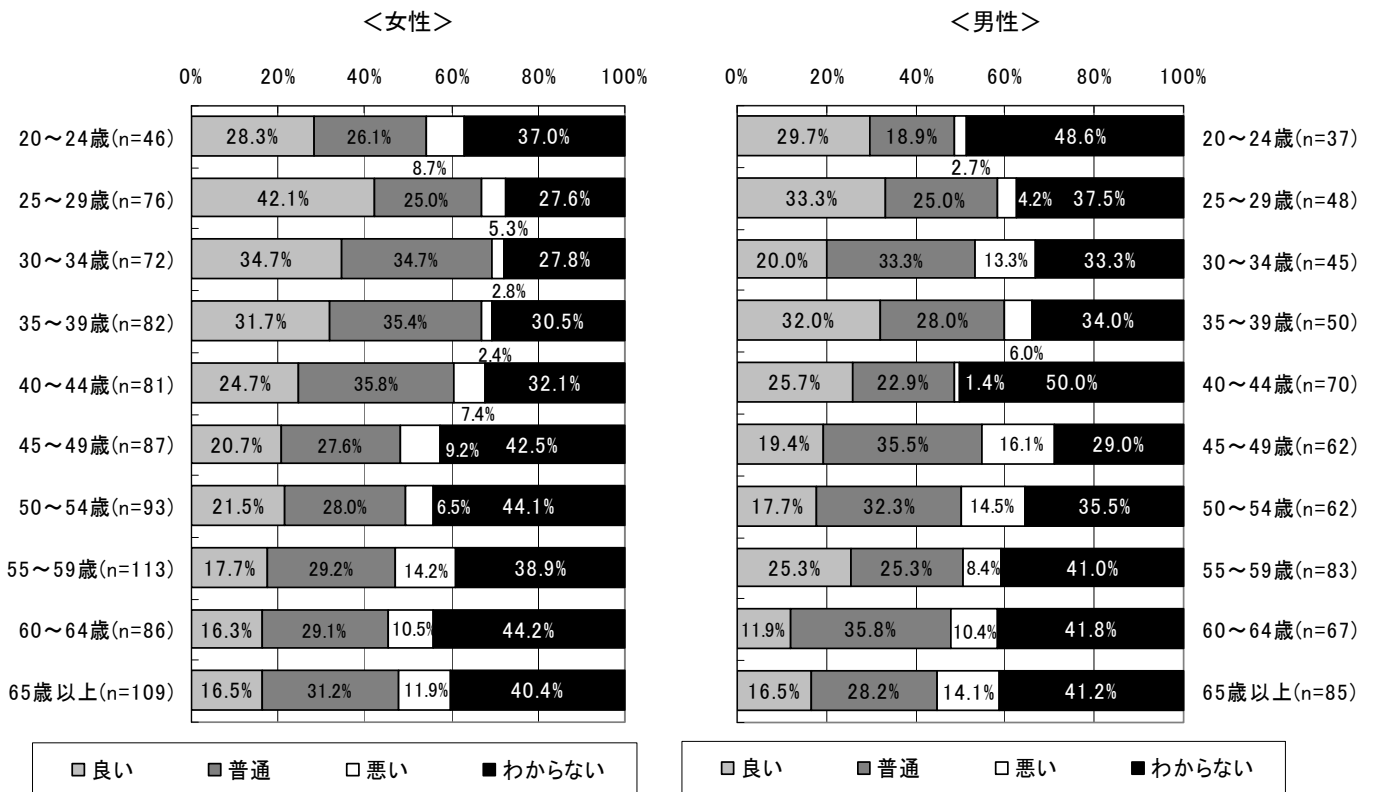
⑳ 「女性の様々な悩みを気軽に相談できる相談体制の充実」に対する評価

- ・ 女性の様々な悩みを気軽に相談できる相談体制の充実に対する評価について男女別にみると（図表 II-157）、概ね男女で同様の傾向を示している。
- ・ 年齢別にみると（図表 II-158）、女性では45歳を境に評価が変わっている。45歳以上では「わからない」の割合が高く、45歳未満の女性よりもこうした取組の認知が低いもしくはニーズが低いと考えられるが、評価は45歳未満女性よりも厳しい結果となっている。一方で、特に25～39歳の年齢層からは高い評価を得ている。

図表 II-157 男女別 女性の様々な悩みを気軽に相談できる相談体制の充実に対する評価



図表 II-158 年齢別 女性の様々な悩みを気軽に相談できる相談体制の充実に対する評価



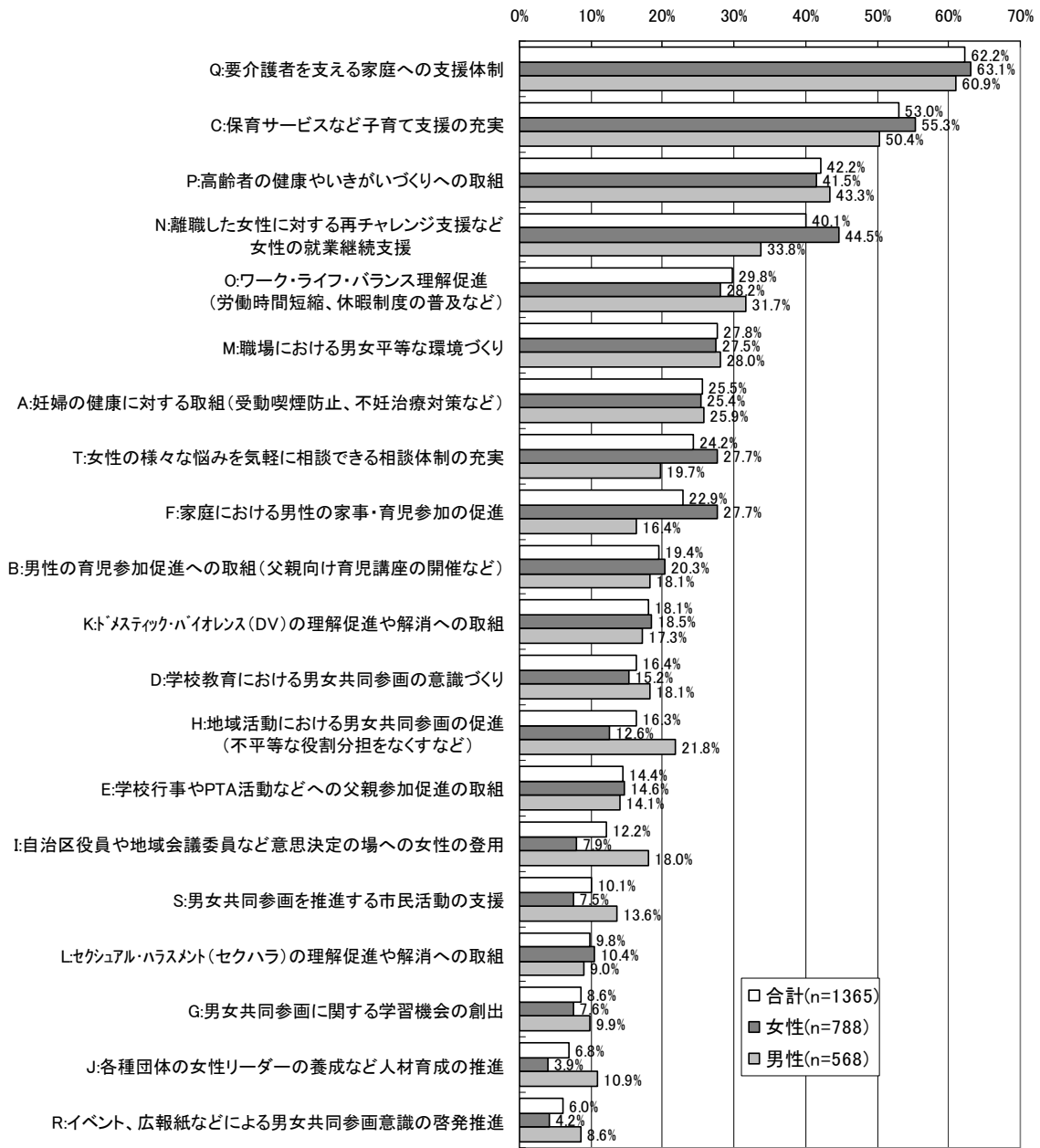
7-2. 男女共同参画社会の実現において重要と思うもの

- 「Q:要介護者を支える家庭への支援体制」について重要であると考えてる人が最も多く、次いで「C:保育サービスなど子育て支援の充実」となっている。
- 全般に、施策対象となる性別、年齢層で、当該施策へのニーズが高い。施策対象に加えて、対象より少し上の年齢層においても、施策ニーズが高い項目もある。
- スコアによる分析を行ったところ、現在の状況が悪い（「悪い」の回答が「良い」の回答を上回る）項目はなかった。
- 「F:家庭における男性の家事・育児参加の促進」や「T:女性の様々な悩みを気軽に相談できる相談体制の充実」については、男女間で問題認識は共有できているが、男性は女性よりも重要度が低いと判断している。
- また、「J:各種団体の女性リーダーの養成など人材育成の推進」や「S:男女共同参画に関する学習機会の創出」は、男女とも相対的に悪い状況であると認識しているがともに重要度が低いと判断している。

(1) 全体の傾向

- ・ 7-1. の「A」～「T」の取組のうち、豊田市の男女共同参画社会の実現において、重要と思うものについて5つ以内を選択してもらったところ（図表 II-159）、最も回答者の割合が高いのは「Q:要介護者を支える家庭への支援体制」（62.2%）であり、次いで「C:保育サービスなど子育て支援の充実」（53.0%）となっている。
- ・ 男女別で見ると、男性は概ね全体と同様の傾向を示しているが、女性は全体では4番目に多かった「N:離職した女性に対する再チャレンジ支援など女性の就業継続支援」（44.5%）が、「P:高齢者の健康や生きがいづくりへの取組」を上回っている。
- ・ 男女間で5ポイント以上の差があったものについてみると、「N:離職した女性に対する再チャレンジ支援など女性の就業継続支援」、「T:女性の様々な悩みを気軽に相談できる相談体制の充実」といった女性が直接の施策対象者であるものに加え、「F:家庭における男性の家事・育児参加の促進」も女性の方が男性より高い割合を示している。ワーク・ライフ・バランス等の観点からも、家庭における男性の家事・育児参加は、特に女性にとって重要な問題であるにも関わらず、男性はそれほど重要視していない状況にあり、こうした意識のずれの改善が必要である。
- ・ 一方、全体の割合は低いものの「H:地域活動における男女共同参画の促進」や「I:自治区役員や地域会議委員など意志決定の場への女性の登用」、「S:男女共同参画を推進する市民活動の支援」「J:各種団体の女性リーダーの養成など人材育成の推進」では、男性の方が回答の割合が高く、男女の様々な不平等が指摘されている（図表 II-76）地域活動への女性参画については、男性の方が強い問題意識を有していることがわかる。

図表 II-159 男女別 男女共同参画社会の実現において重要と思うもの



注) 7-1. の「A」～「T」の取組のうち、豊田市の男女共同参画社会の実現において、重要と思うものについて5つ以内を選択してもらった結果

(2) 個別の傾向

- ・ 女性の年齢別にみると（図表 II-161）、合計よりも5ポイント以上高い割合となっている主な項目は、「Q:要介護者を支える家庭への支援体制」では40代と50代後半、「C:保育サービスなど子育て支援の充実」については25～34歳と50代後半、「N:離職した女性に対する再チャレンジ支援など女性の就業継続支援」については20～34歳と40代前半、「P:高齢者の健康やいきがづくりへの取組」では55歳以上と65歳以上、「O:ワーク・ライフ・バランス理解促進」では20代と30代後半、「F:家庭における男性の家事・育児参加の促進」では20代前半と30代といずれも、当該施策の直接の施策対象者が該当する年齢層となっている。一方、「A:妊婦の健康に対する取組」については35歳未満と60代、「E:学校行事やPTA活動などへの父親参加促進の取組」については、40代前半と60代など、当該施策の直接の施策対象者に加えて、施策対象者よりも少し年が上の世代において、重要性を感じている人の割合が高い項目もみられる。これらの項目については、自分が直接の施策対象者の時代には、そのようなことが大きく取り上げられなかったが、振り返ってみるとそのような施策が必要であったと感じた人が重要であると回答していると考えられる。
- ・ 男性の年齢別にみると（図表 II-161）、「P:高齢者の健康やいきがづくりへの取組」や家事・育児参加に関する内容（「B:男性の育児参加促進への取組」、「F:家庭における男性の家事・育児参加の促進」）など、女性と同様の傾向を示しているものも多いが、男性の高い年齢層において、女性よりも地域活動に関する内容（「H:地域活動における男女共同参画の促進」、「I:自治区役員や地域会議委員など意思決定の場への女性の登用」）を重要視する人の割合が高くなっている。

図表 II-160 女性年齢別 男女共同参画社会の実現において重要と思うもの

	合計	20 ～ 24 歳	25 ～ 29 歳	30 ～ 34 歳	35 ～ 39 歳	40 ～ 44 歳	45 ～ 49 歳	50 ～ 54 歳	55 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 歳 以上
n値	788	43	74	72	80	78	75	90	105	79	92
Q: 要介護者を支える家庭への支援体制	63.1%	39.5%	45.9%	56.9%	57.5%	69.2%	70.7%	65.6%	82.9%	65.8%	58.7%
C: 保育サービスなど子育て支援の充実	55.3%	53.5%	66.2%	66.7%	57.5%	52.6%	44.0%	53.3%	61.9%	48.1%	48.9%
N: 離職した女性に対する再チャレンジ支援など女性の就業継続支援	44.5%	53.5%	52.7%	51.4%	45.0%	50.0%	42.7%	45.6%	42.9%	32.9%	35.9%
P: 高齢者の健康やいきがづくりへの取組	41.5%	18.6%	32.4%	30.6%	31.3%	42.3%	36.0%	41.1%	60.0%	45.6%	56.5%
O: ワーク・ライフ・バランス理解促進	28.2%	55.8%	43.2%	31.9%	33.8%	28.2%	32.0%	25.6%	15.2%	15.2%	20.7%
F: 家庭における男性の家事・育児参加の促進	27.7%	39.5%	25.7%	36.1%	35.0%	24.4%	28.0%	21.1%	25.7%	30.4%	19.6%
T: 女性の様々な悩みを気軽に相談できる相談体制の充実	27.7%	18.6%	24.3%	19.4%	20.0%	25.6%	29.3%	26.7%	26.7%	43.0%	37.0%
M: 職場における男女平等な環境づくり	27.5%	41.9%	28.4%	23.6%	32.5%	20.5%	30.7%	31.1%	25.7%	31.6%	17.4%
A: 妊婦の健康に対する取組	25.4%	44.2%	36.5%	30.6%	13.8%	19.2%	20.0%	14.4%	23.8%	30.4%	31.5%
B: 男性の育児参加促進への取組	20.3%	23.3%	29.7%	33.3%	20.0%	15.4%	20.0%	26.7%	15.2%	10.1%	14.1%
K: ドメスティック・バイオレンス(DV)の理解促進や解消への取組	18.5%	23.3%	13.5%	20.8%	22.5%	24.4%	24.0%	17.8%	14.3%	16.5%	13.0%
D: 学校教育における男女共同参画の意識づくり	15.2%	7.0%	10.8%	11.1%	16.3%	16.7%	10.7%	14.4%	19.0%	22.8%	17.4%
E: 学校行事やPTA活動などへの父親参加促進の取組	14.6%	2.3%	12.2%	15.3%	12.5%	20.5%	12.0%	16.7%	7.6%	22.8%	19.6%
H: 地域活動における男女共同参画の促進	12.6%	7.0%	6.8%	8.3%	16.3%	9.0%	10.7%	14.4%	15.2%	15.2%	17.4%
L: セクシュアル・ハラスメント(セクハラ)の理解促進や解消への取組	10.4%	16.3%	9.5%	5.6%	6.3%	15.4%	17.3%	13.3%	5.7%	12.7%	6.5%
I: 自治区役員や地域会議委員など意思決定の場への女性の登用	7.9%	4.7%	6.8%	4.2%	1.3%	2.6%	12.0%	6.7%	6.7%	15.2%	16.3%
G: 男女共同参画に関する学習機会の創出	7.6%	4.7%	1.4%	8.3%	7.5%	5.1%	6.7%	14.4%	8.6%	2.5%	13.0%
S: 男女共同参画を推進する市民活動の支援	7.5%	4.7%	1.4%	4.2%	5.0%	7.7%	8.0%	5.6%	10.5%	12.7%	12.0%
R: イベント、広報紙などによる男女共同参画意識の啓発推進	4.2%	7.0%	1.4%	2.8%	3.8%	1.3%	2.7%	4.4%	5.7%	5.1%	7.6%
J: 各種団体の女性リーダーの養成など人材育成の推進	3.9%	2.3%	2.7%	1.4%	2.5%	2.6%	4.0%	4.4%	2.9%	3.8%	10.9%

注) 7-1. の「A」～「T」の取組のうち、豊田市の男女共同参画社会の実現において、重要と思うものについて5つ以内を選択してもらった結果

注) 網掛けは合計より5ポイント以上高い項目

図表 II-161 男性年齢別 男女共同参画社会の実現において重要と思うもの

	合計	20 ～ 24 歳	25 ～ 29 歳	30 ～ 34 歳	35 ～ 39 歳	40 ～ 44 歳	45 ～ 49 歳	50 ～ 54 歳	55 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 歳 以上
n値	568	35	47	43	49	66	59	57	74	62	76
Q: 要介護者を支える家庭への支援体制	60.9%	48.6%	40.4%	67.4%	57.1%	56.1%	62.7%	77.2%	67.6%	61.3%	61.8%
C: 保育サービスなど子育て支援の充実	50.4%	42.9%	48.9%	60.5%	57.1%	47.0%	62.7%	56.1%	50.0%	43.5%	39.5%
P: 高齢者の健康やいきがいづくりへの取組	43.3%	20.0%	21.3%	37.2%	34.7%	36.4%	44.1%	38.6%	59.5%	58.1%	57.9%
N: 離職した女性に対する再チャレンジ支援など女性の就業継続支援	33.8%	34.3%	40.4%	37.2%	36.7%	39.4%	18.6%	36.8%	35.1%	35.5%	27.6%
O: ワーク・ライフ・バランス理解促進	31.7%	42.9%	51.1%	55.8%	34.7%	24.2%	35.6%	29.8%	28.4%	27.4%	10.5%
M: 職場における男女平等な環境づくり	28.0%	28.6%	25.5%	32.6%	24.5%	27.3%	23.7%	21.1%	31.1%	29.0%	34.2%
A: 妊婦の健康に対する取組	25.9%	34.3%	42.6%	32.6%	34.7%	19.7%	15.3%	17.5%	20.3%	32.3%	22.4%
H: 地域活動における男女共同参画の促進	21.8%	14.3%	8.5%	7.0%	18.4%	21.2%	22.0%	22.8%	27.0%	21.0%	39.5%
T: 女性の様々な悩みを気軽に相談できる相談体制の充実	19.7%	17.1%	14.9%	27.9%	24.5%	18.2%	23.7%	24.6%	17.6%	14.5%	17.1%
B: 男性の育児参加促進への取組	18.1%	28.6%	23.4%	30.2%	16.3%	24.2%	16.9%	8.8%	14.9%	8.1%	18.4%
D: 学校教育における男女共同参画の意識づくり	18.1%	20.0%	2.1%	11.6%	20.4%	25.8%	16.9%	21.1%	13.5%	27.4%	18.4%
I: 自治区役員や地域会議委員など意思決定の場への女性の登用	18.0%	17.1%	12.8%	7.0%	8.2%	10.6%	13.6%	14.0%	17.6%	30.6%	36.8%
K: ドメスティック・バイオレンス(DV)の理解促進や解消への取組	17.3%	17.1%	21.3%	18.6%	20.4%	24.2%	23.7%	21.1%	17.6%	4.8%	7.9%
F: 家庭における男性の家事・育児参加の促進	16.4%	25.7%	25.5%	23.3%	16.3%	21.2%	8.5%	15.8%	13.5%	6.5%	15.8%
E: 学校行事やPTA活動などへの父親参加促進の取組	14.1%	5.7%	8.5%	0.0%	12.2%	12.1%	16.9%	17.5%	17.6%	17.7%	21.1%
S: 男女共同参画を推進する市民活動の支援	13.6%	14.3%	10.6%	9.3%	10.2%	10.6%	11.9%	14.0%	17.6%	17.7%	15.8%
J: 各種団体の女性リーダーの養成など人材育成の推進	10.9%	8.6%	4.3%	4.7%	12.2%	9.1%	15.3%	15.8%	8.1%	12.9%	14.5%
G: 男女共同参画に関する学習機会の創出	9.9%	8.6%	6.4%	2.3%	6.1%	12.1%	10.2%	14.0%	9.5%	9.7%	14.5%
L: セクシュアル・ハラスメント(セクハラ)の理解促進や解消への取組	9.0%	11.4%	12.8%	9.3%	12.2%	18.2%	8.5%	5.3%	9.5%	3.2%	2.6%
R: イベント、広報紙などによる男女共同参画意識の啓発推進	8.6%	2.9%	6.4%	4.7%	12.2%	10.6%	8.5%	5.3%	13.5%	8.1%	9.2%

注) 7-1. の「A」～「T」の取組のうち、豊田市の男女共同参画社会の実現において、重要と思うものについて5つ以内を選択してもらった結果

注) 網掛けは合計より5ポイント以上高い項目

(3) 今後の施策の方向性

ここでは、「取組の評価（問 11（1））」と「重要度（問 11（2））」を活用して、図表 II-162に示した方法により、取組の評価と重要度をスコア化し、それらをもとに各取組を分類することで、分析を行った。

図表 II-162 分析の方法

■ 取組の評価のスコア化

問 11（1）について、「良い」を1点、「普通」を0点、「悪い」を-1点とし、それぞれの点数に回答者割合（実数）を掛け合わせたものを足し合わせた。つまり

$$1 \times (\text{「良い」の割合}) + 0 \times (\text{「普通」の割合}) + (-1) \times (\text{「悪い」の割合})$$

で算出した。

なお、スコア化にあたっては、施策内容を適切に評価したと考えられる回答者の数値のみをとることで、各項目間の評価の公平性を担保するため、各項目について施策内容を知らない回答者（「わからない」の回答）を除いた回答数を母数として算出し直した数値を活用した（図表 II-163、図表 II-164）。

こうして算出した当該スコアの平均値（期待値）は「0」となる。

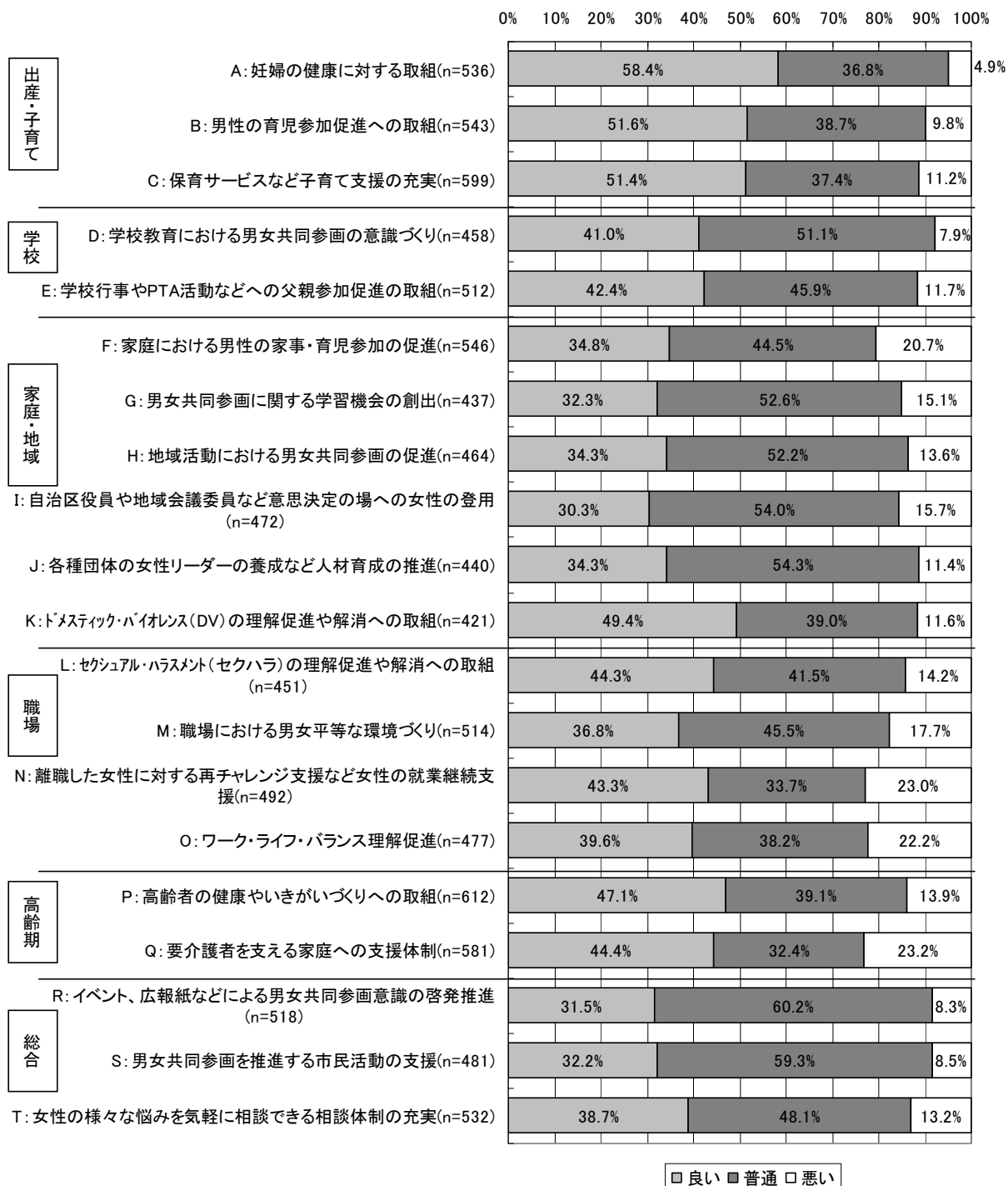
■ 重点度のスコア化

重点度については、各設問の回答割合に100を乗じた値をスコアとして活用した。当該設問は最大5個までの複数回答設問であるため、こうして算出した当該スコアの期待値は「25」である

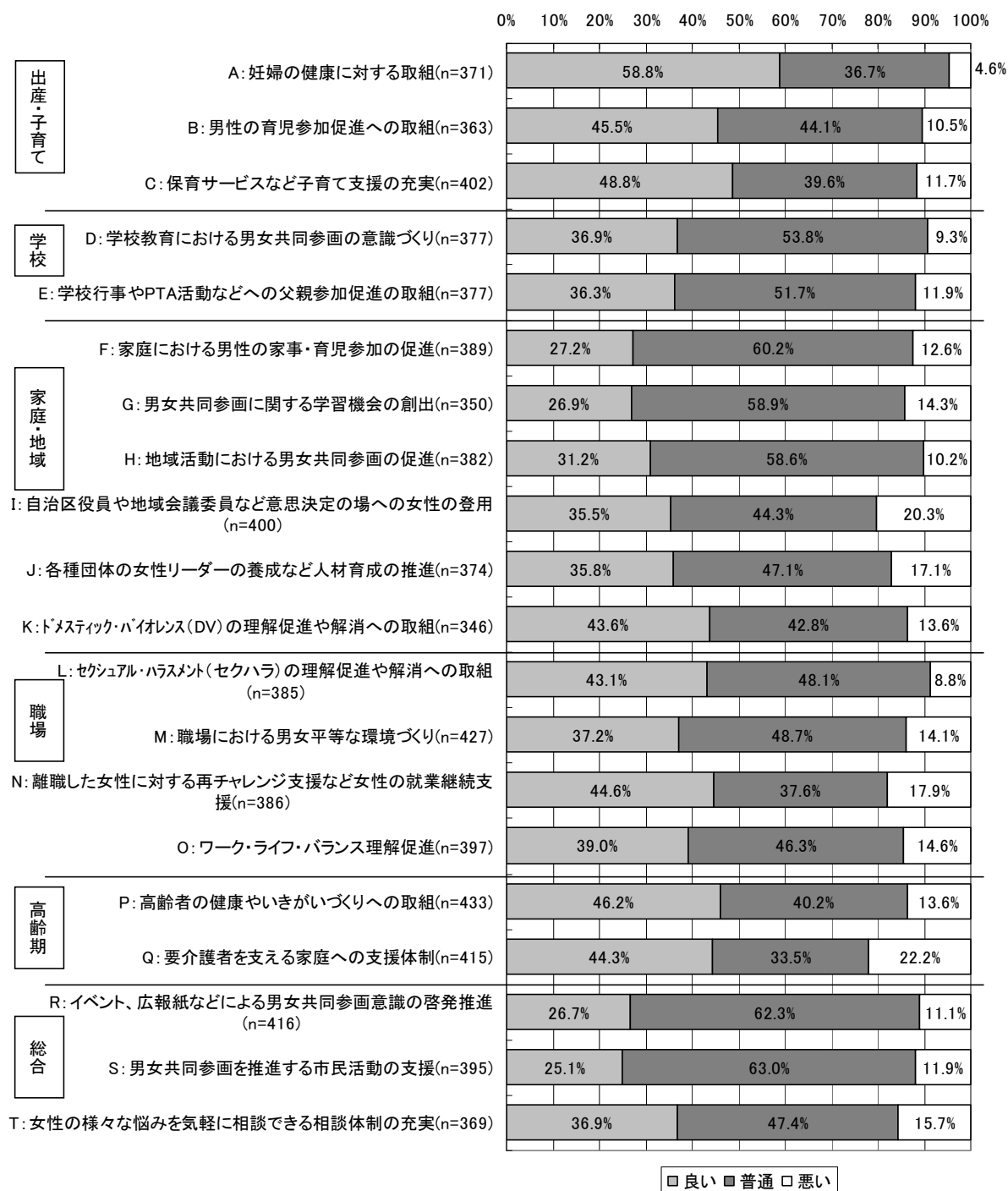
■ 各施策の分類

取組の評価のスコアをX軸、重点度のスコアをY軸とした散布図を作成し、第2象限に含まれるものが、現状の不満が大きく重要度も高い内容であるため、今後特に取組が必要であると考えられる施策となる。

図表 II-163 女性 各施策の評価（「わからない」を除いた値）



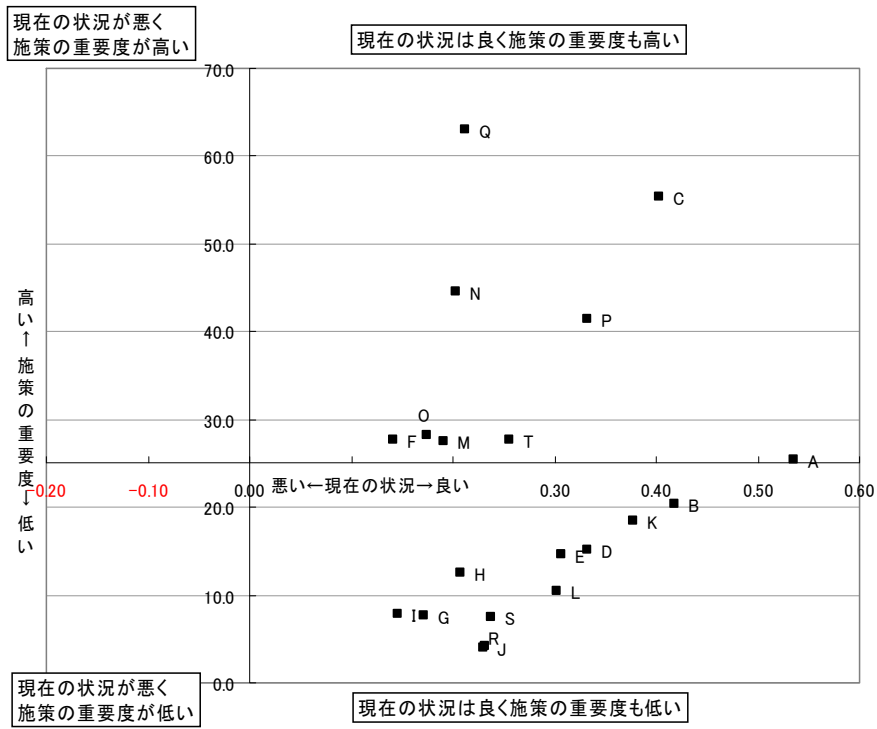
図表 II-164 男性 各施策の評価（「わからない」を除いた値）



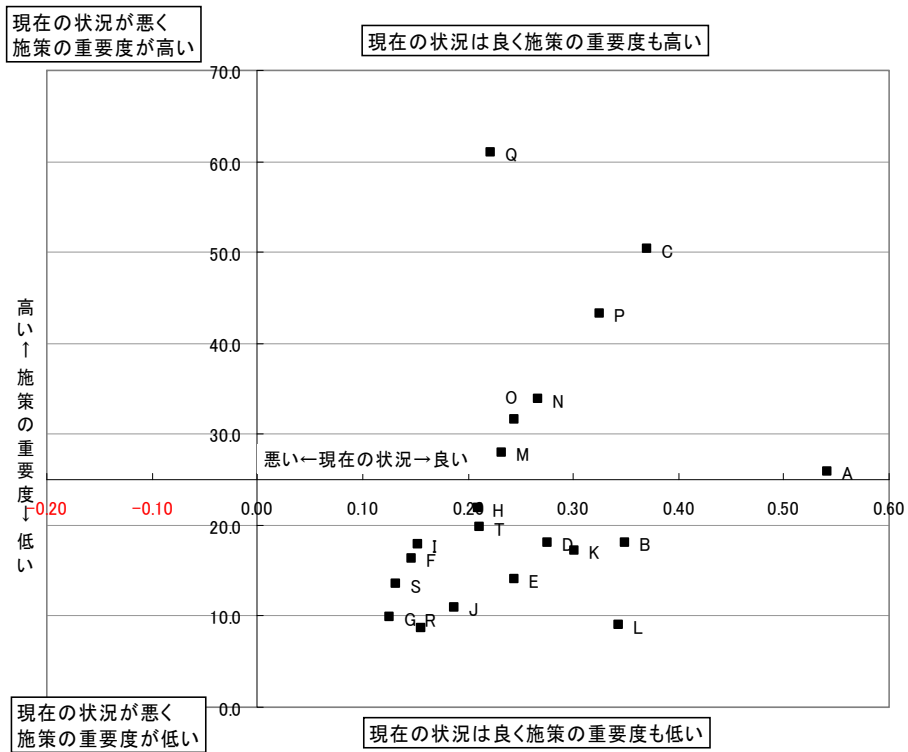
- ・ スコアによる分析を行ったところ、男女ともに「現在の状況が悪い」と評価された取組は皆無であった（図表 II-165、図表 II-166）。
- ・ 個別の施策についてみると、いずれの施策も現況は良いと評価されているが、特に重要度が高かった項目は「Q：要介護者を支える家庭への支援体制」と「C：保育サービスなど子育て支援の充実」であった。これらは現在の状況も比較的良いが、今後とも継続的に取り組んでいくことが強い要望となっている。これらの項目は、市民が肌で感じやすい取組であり、そのことも、重要度が高いと感じる人が多い要因になっていると考えられる。
- ・ 他方、「J：各種団体の女性リーダーの養成など人材育成の推進」や「G：男女共同参画に関する学習機会の創出」については、男女ともに現在の状況は他の項目と比較すれば相対的に悪いとされており、重要性も 25.0（期待値）を下回り、男女ともに取組の重要性は低いと判断している。
- ・ 女性では「現在の状況は良く施策の重要度も高い」に該当するが、男性では該当しない項目は、「F：家庭における男性の家事・育児参加の促進」および「T：女性の様々な悩みを気軽に相談できる相談体制の充実」である。男性でも現在の状況のスコアは女性のそれと比べても決して高くないため、現状認識は共有しているがその重要性について男女間で認識のズレがある項目となっている。
- ・ また、「N：離職した女性に対する再チャレンジ支援など女性の就業継続支援」については男性の方が現在の状況のスコアが女性よりも低く、重要度が低い状況にあり、現状認識も重要性についても男女間でズレが生じている。

A	妊婦の健康に対する取組
B	男性の育児参加促進への取組
C	保育サービスなど子育て支援の充実
D	学校教育における男女共同参画の意識づくり
E	学校行事やPTA活動などへの父親参加促進の取組
F	家庭における男性の家事・育児参加の促進
G	男女共同参画に関する学習機会の創出
H	地域活動における男女共同参画の促進
I	自治区役員や地域会議委員など意思決定の場への女性の登用
J	各種団体の女性リーダーの養成など人材育成の推進
K	ドメスティック・バイオレンス(DV)の理解促進や解消への取組
L	セクシュアル・ハラスメント(セクハラ)の理解促進や解消への取組
M	職場における男女平等な環境づくり
N	離職した女性に対する再チャレンジ支援など女性の就業継続支援
O	ワーク・ライフ・バランス理解促進
P	高齢者の健康やいきがづくりへの取組
Q	要介護者を支える家庭への支援体制
R	イベント、広報紙などによる男女共同参画意識の啓発推進
S	男女共同参画を推進する市民活動の支援
T	女性の様々な悩みを気軽に相談できる相談体制の充実

図表 II-165 女性 各施策の分類結果



図表 II-166 男性 各施策の分類結果



7-3. 自分自身や家族の男女共同参画に関する理解が深まったと思うこと

- 「結婚や出産で離職しない(仕事を続ける)女性が増えたこと」が最も高い割合を占めている。
- 次いで「喫煙・受動喫煙、感染症など、子どもを産む母体への危険性に関する理解が深まったこと」、「男性(夫)も介護の方法について学ぶ方がよいと思うようになったこと」が同程度で続いている。

問 12 世の中の変化や豊田市の約8年間の取組などによって、あなたご自身や家族の男女共同参画に関する理解が深まったと思うことはどれですか。あてはまるものすべてに○印をつけてください。

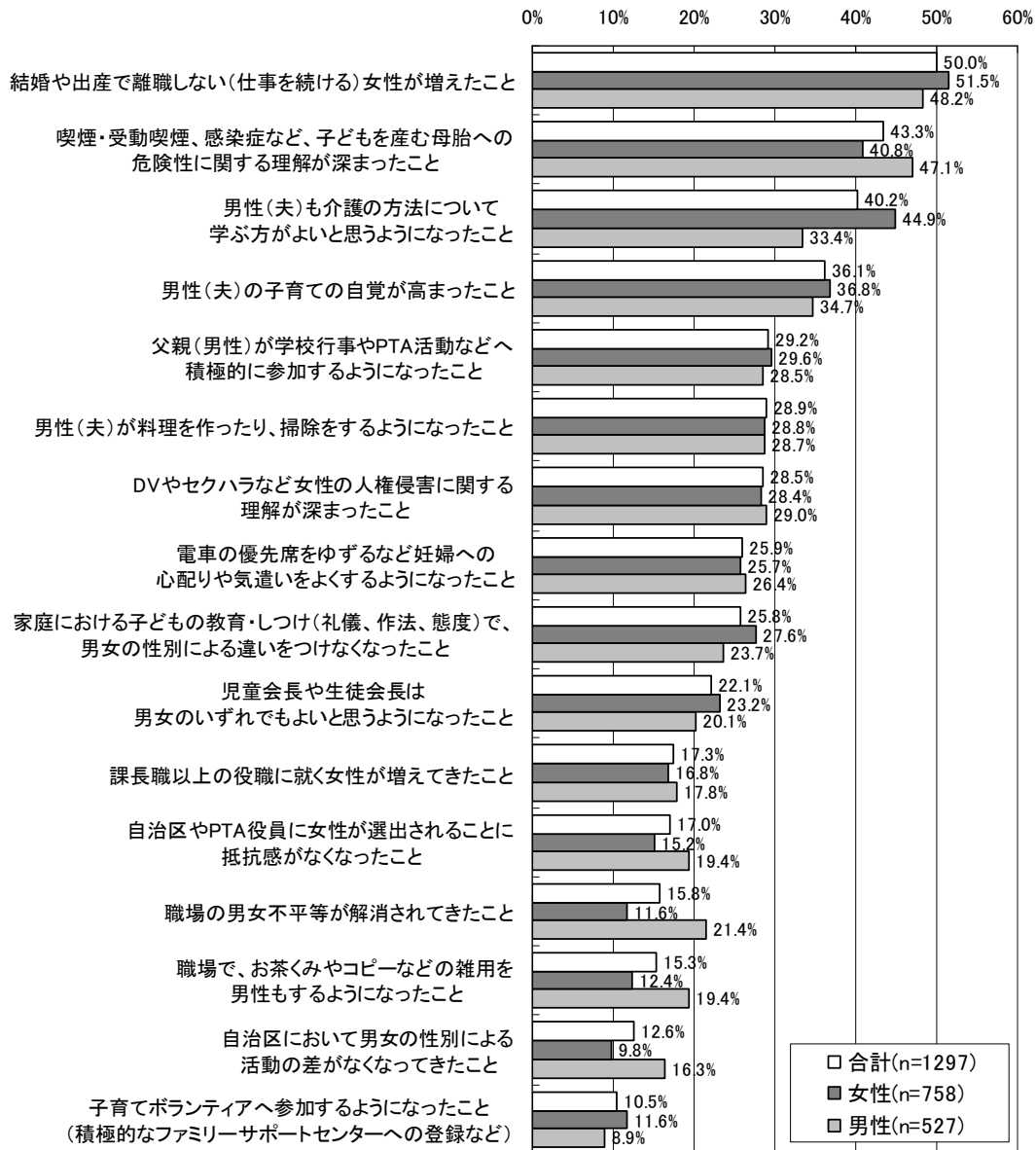
- 1 喫煙・受動喫煙、感染症など、子どもを産む母胎への危険性に関する理解が深まったこと
- 2 男性(夫)の子育ての自覚が高まったこと
- 3 電車の優先席をゆずるなど妊婦への心配りや気遣いをよくするようになったこと
- 4 子育てボランティアへ参加するようになったこと(積極的なファミリーサポートセンターへの登録など)
- 5 児童会長や生徒会長は男女のいずれでもよいと思うようになったこと
- 6 家庭における子どもの教育・しつけ(礼儀、作法、態度)で、男女の性別による違いをつけなくなったこと
- 7 父親(男性)が学校行事やPTA活動などへ積極的に参加するようになったこと
- 8 男性(夫)が料理を作ったり、掃除をするようになったこと
- 9 自治区において男女の性別による活動の差がなくなってきたこと
- 10 自治区やPTA役員に女性が選出されることに抵抗感がなくなったこと
- 11 DVやセクハラなど女性の人権侵害に関する理解が深まったこと
- 12 職場の男女不平等が解消されてきたこと
- 13 職場で、お茶くみやコピーなどの雑用を男性もするようになったこと
- 14 課長職以上の役職に就く女性が増えてきたこと
- 15 結婚や出産で離職しない(仕事を続ける)女性が増えたこと
- 16 男性(夫)も介護の方法について学ぶ方がよいと思うようになったこと

(1) 全体の傾向

- ・ 自分自身や男女共同参画に関する理解が深まったと思うことについてみると(図表II-167)、全体では「結婚や出産で離職しない(仕事を続ける)女性が増えたこと」が50.0%で最も高く、「喫煙・受動喫煙、感染症など、子どもを産む母体への危険性に関する理解が深まったこと」(43.3%)と「男性(夫)も介護の方法について学ぶ方がよいと思うようになったこと」(40.2%)がほぼ同じ割合で続いている。
- ・ 男女別にみると、男性は概ね全体と同様の傾向を示しているが、女性は、全体で3番目であった「男性(夫)も介護の方法について学ぶ方がよいと思うようになったこと」が44.9%で、全体で2番目であった「喫煙・受動喫煙、感染症など、子どもを産む母体への危険性に関する理解が深まったこと」を上回る結果となっている。
- ・ 男女別で5ポイント以上差がある項目をみると、「男性(夫)も介護の方法について学ぶ方がよいと思うようになったこと」で女性が男性を上回っている一方で、全体の

割合は低いものの、「自治区やPTA役員に女性が選出されることに抵抗感がなくなったこと」、「職場の男女不平等が解消されてきたこと」、「職場で、お茶くみやコピーなどの雑用を男性もするようになったこと」、「自治区において男女の性別による活動の差がなくなってきたこと」といった職場や地域社会における内容で女性を5ポイント以上上回っている。

図表 II-167 自分自身や家族の男女共同参画に関する理解が深まったと思うこと (MA)



8 男女共同参画社会実現に関する今後の取組

8-1. 地域イベントや行政が発信する情報の入手経路

- 入手経路は「市の広報紙」と「自治区回覧」が圧倒的に高い割合を占めている。
- ただし、自治区回覧や一般の新聞は高齢者層での利用が多く、若年者層は地域情報誌や子どもが学校からもらう配付物なども高い割合となっており、対象者に応じた適切な媒体の選択が重要である。

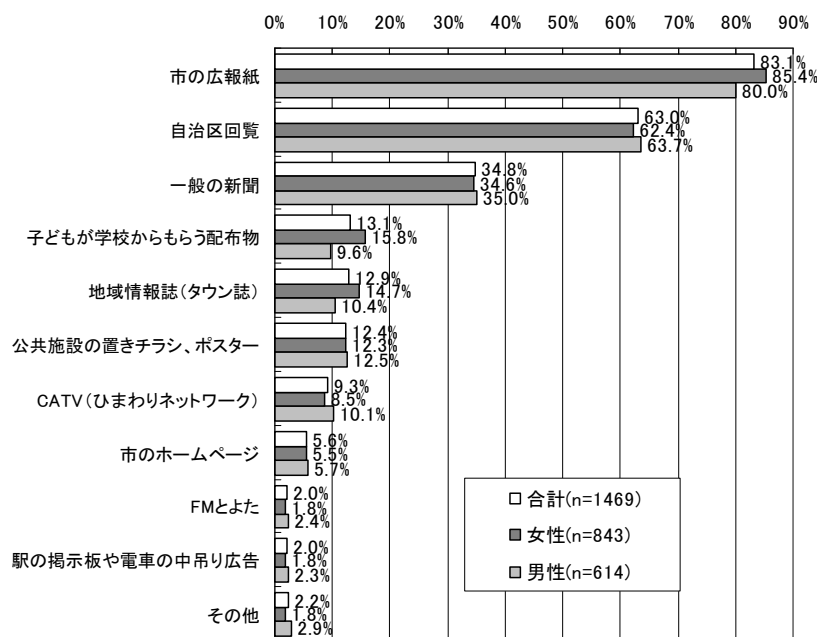
問 13 あなたは、地域のイベントや行政が発信する情報をどこから得ることが多いですか。あてはまるものを3つ以内で選び○印をつけてください。

1 一般の新聞	2 CATV（ひまわりネットワーク）
3 FMとよた	4 市のホームページ
5 市の広報紙	6 自治区回覧
7 地域情報誌（タウン誌）	8 駅の掲示板や電車の中吊り広告
9 公共施設の置きチラシ、ポスター	10 子どもが学校からもらう配布物
11 その他（	）

(1) 全体の傾向

- ・ 地域イベントや行政が発信する情報の入手経路についてみると（図表 II-168）、「市の広報紙」が83.1%で最も多く、次いで「自治区回覧」が63.0%を占めている。
- ・ 男女別にみてもこの傾向はほぼ同様であるが、「市の広報紙」や「子どもが学校からもらう配布物」では、女性が男性を上回っている。

図表 II-168 男女別 地域イベントや行政が発信する情報の入手経路（MA）



(2) 個別の結果

- 女性年齢別にみると（図表 II-169）、「市の広報紙」はやや若年層での割合が低いものの、いずれの層でも「市の広報紙」を通して情報を入手する人の割合が高いのに対して、女性全体では2番目に割合が高かった「自治区回覧」については50歳以上では利用者が多いが、若年層ではあまり利用されておらず、年齢により割合に大きな隔たりがある。また、「一般の新聞」では55歳以上の割合が高い一方で、「子どもが学校からもらう配付物」については子どもがいる年齢である30～44歳の割合が、「地域情報誌」では40歳未満が、「公共施設の置きチラシ、ポスター」では30歳未満といった比較的若い世代での割合が高い。なお、「駅の掲示板や電車の中吊り広告」は、全体的に低い割合であったが、20歳前半だけは、突出して高い割合となっている。
- 男性年齢別にみると（図表 II-170）、女性よりも「地域情報誌」にて情報を入手する40歳未満の層が少なく、20代、30代においては「CATV」や「市のホームページ」で情報を入手している人の割合が高くなっている。50歳以上の層は、「自治区回覧」や「市の広報紙」で情報を入手している人の割合が高い。

図表 II-169 女性年齢別 地域イベントや行政が発信する情報の入手経路（MA）

	市の広報紙	自治区回覧	一般の新聞	子どもが学校からもらう配付物	地域情報誌（タウン誌）	公共施設の置きチラシ、ポスター	CATV（ひまわりネットワーク）	市のホームページ	FMやJKT
合計(n=843)	85.4%	62.4%	34.6%	15.8%	14.7%	12.3%	8.5%	5.5%	1.8%
20～24歳(n=42)	66.7%	35.7%	23.8%	0.0%	19.0%	19.0%	9.5%	4.8%	0.0%
25～29歳(n=74)	79.7%	37.8%	32.4%	4.1%	21.6%	21.6%	6.8%	6.8%	0.0%
30～34歳(n=71)	84.5%	32.4%	15.5%	28.2%	23.9%	15.5%	4.2%	9.9%	0.0%
35～39歳(n=80)	86.3%	58.8%	23.8%	41.3%	20.0%	13.8%	5.0%	5.0%	1.3%
40～44歳(n=80)	87.5%	56.3%	18.8%	55.0%	11.3%	7.5%	3.8%	5.0%	1.3%
45～49歳(n=85)	81.2%	62.4%	38.8%	18.8%	16.5%	7.1%	11.8%	7.1%	2.4%
50～54歳(n=94)	86.2%	72.3%	35.1%	6.4%	13.8%	9.6%	9.6%	5.3%	1.1%
55～59歳(n=113)	90.3%	81.4%	40.7%	1.8%	13.3%	14.2%	8.8%	6.2%	1.8%
60～64歳(n=86)	88.4%	70.9%	46.5%	7.0%	10.5%	7.0%	12.8%	5.8%	0.0%
65歳以上(n=118)	89.8%	79.7%	51.7%	2.5%	5.9%	12.7%	11.0%	0.8%	6.8%

注) 網掛けは合計より5ポイント以上高い項目

図表 II-170 男性年齢別 地域イベントや行政が発信する情報の入手経路 (MA)

	市の広報紙	自治区回覧	一般の新聞	公共施設の置きチラシ、ポスター	地域情報誌(タウン誌)	OWN(ひまわりネットワーク)	子どもが学校からもらう配布物	市のホームページ	FMとよた	駅の掲示板や電車の中吊り広告	その他
合計 (n=614)	80.0%	63.7%	35.0%	12.5%	10.4%	10.1%	9.6%	5.7%	2.4%	2.3%	2.9%
20~24 歳 (n=34)	50.0%	38.2%	29.4%	17.6%	8.8%	8.8%	0.0%	11.8%	5.9%	23.5%	5.9%
25~29 歳 (n=46)	71.7%	32.6%	30.4%	17.4%	8.7%	10.9%	0.0%	8.7%	2.2%	0.0%	2.2%
30~34 歳 (n=43)	65.1%	34.9%	27.9%	16.3%	11.6%	20.9%	2.3%	4.7%	0.0%	2.3%	4.7%
35~39 歳 (n=48)	85.4%	58.3%	18.8%	8.3%	16.7%	4.2%	22.9%	0.0%	0.0%	0.0%	2.1%
40~44 歳 (n=71)	80.3%	56.3%	28.2%	5.6%	9.9%	12.7%	28.2%	2.8%	4.2%	0.0%	1.4%
45~49 歳 (n=59)	79.7%	66.1%	30.5%	5.1%	11.9%	10.2%	28.8%	10.2%	0.0%	1.7%	3.4%
50~54 歳 (n=60)	71.7%	73.3%	40.0%	6.7%	15.0%	10.0%	5.0%	5.0%	0.0%	1.7%	5.0%
55~59 歳 (n=82)	90.2%	76.8%	31.7%	13.4%	9.8%	12.2%	3.7%	6.1%	3.7%	1.2%	2.4%
60~64 歳 (n=68)	92.6%	76.5%	39.7%	22.1%	7.4%	5.9%	1.5%	5.9%	0.0%	2.9%	2.9%
65 歳以上 (n=103)	85.4%	79.6%	53.4%	14.6%	7.8%	7.8%	2.9%	4.9%	5.8%	0.0%	1.9%

注) 網掛けは合計より 5 ポイント以上高い項目

8-2. 男女共同参画に関する意識啓発を推進する方法

- 「地元メディアを通じた情報発信」が最も多く、次いで「企業における教育・研修」、「交流館などの学習講座」である。
- ただし、「地元メディアを通じた情報発信」や「交流館などの学習講座」は比較的高齢者層の利用ニーズが高く、若年者層は「企業における教育・研修」などの利用ニーズが高く、対象者に応じた適切な役割分担が求められる。

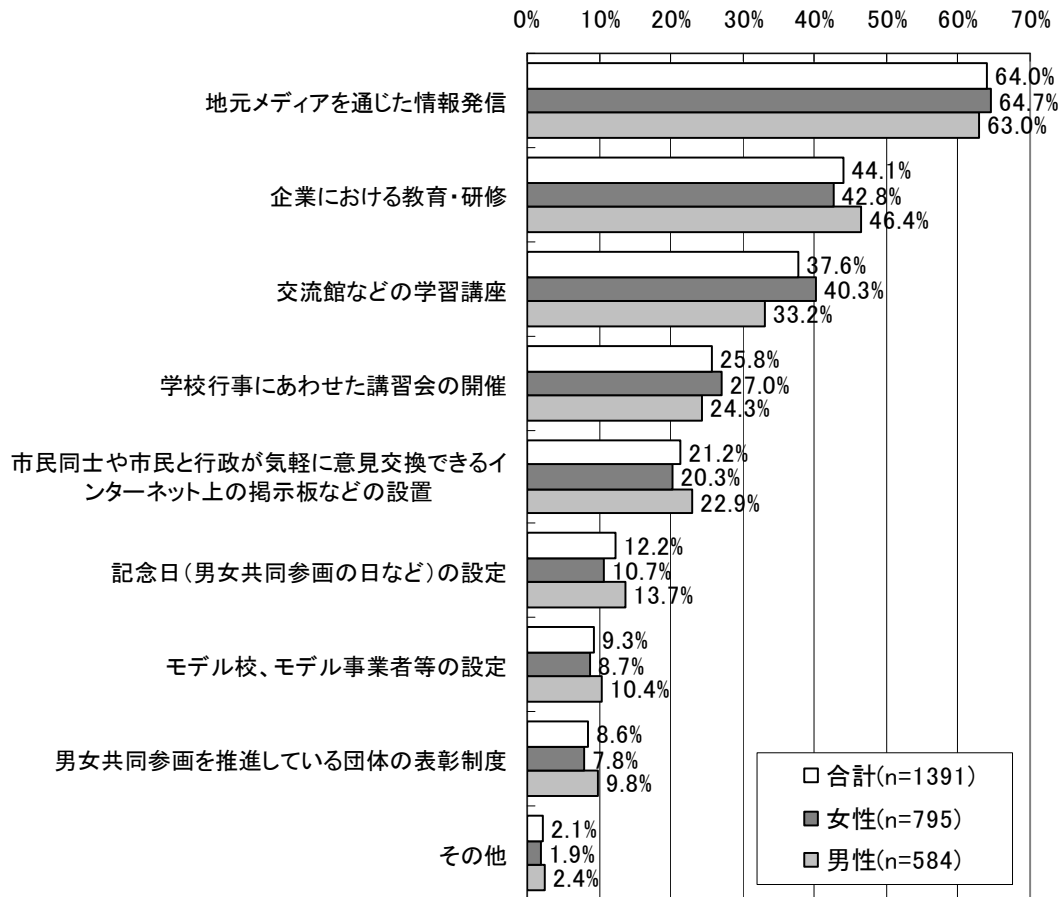
問 14 あなたは、行政が男女共同参画に関する意識啓発を推進する方法として、どれが有効だと思いますか。あてはまるものを 3つ以内で選び○印をつけてください。

- 1 地元メディアを通じた情報発信
- 2 学校行事にあわせた講習会の開催
- 3 交流館などの学習講座
- 4 企業における教育・研修
- 5 男女共同参画を推進している団体の表彰制度
- 6 市民同士や市民と行政が気軽に意見交換できるインターネット上の掲示板などの設置
- 7 モデル校、モデル事業者等の設定
- 8 記念日（男女共同参画の日など）の設定
- 9 その他（)

(1) 全体の傾向

- ・ 男女共同参画に関する意識啓発を推進する方法についてみると（図表 II-171）、「地元メディアを通じた情報発信」が 64.0%と最も多く、次いで「企業における教育・研修」（44.1%）、「交流館などの学習講座」（37.6%）となっている。
- ・ 男女別にみてもこの傾向はほぼ同様であるが、「交流館などの学習講座」に関しては、男性よりも女性の割合が約 7 ポイント高く、他と比べても男女差が大きい項目となっている。これは、男性よりも女性の方が日中の時間に融通が利く場合が多く、男性では受講できないような講座でも女性の場合は受講可能であることが影響していると想定される。

図表 II-171 男女共同参画に関する意識啓発を推進する方法 (MA)



(2) 個別の結果

- ・ 女性年齢別にみると（図表 II-172）、「地元メディアを通じた情報発信」や「交流館などの学習講座」では概ね 50 歳以上の年齢層で高い割合であるのに対して、「企業における教育・研修」は、就労状況を反映して、40 歳未満で高い割合を示している。また、「学校行事にあわせた講習会の開催」は、子どもを通じて学校とつながりを持つことができる 30～44 歳で高い割合となっている。
- ・ なお、「市民同士や市民と行政が気軽に意見交換できるインターネット上の掲示板などの設置」で 60～64 歳の割合が最も高い点は、きわめて特徴的である。
- ・ 男性年齢別にみると（図表 II-173）、概ね女性と同様の傾向を示しているが、「市民同士や市民と行政が気軽に意見交換できるインターネット上の掲示板などの設置」については 55～59 歳、65 歳以上と同時に 30 歳未満の割合も高くなっている。

図表 II-172 女性年齢別 男女共同参画に関する意識啓発を推進する方法 (MA)

	地元メディアを通じた情報発信	企業における教育・研修	交流館などの学習講座	学校行事にあわせた講習会の開催	掲示板などの設置 市民同士や市民と行政が気軽に意見交換できるインターネット上の	記念日(男女共同参画の日など)の設定	モデル校、モデル事業者等の設定	男女共同参画を推進している団体の表彰制度	その他
合計 (n=795)	64.7%	42.8%	40.3%	27.0%	20.3%	10.7%	8.7%	7.8%	1.9%
20～24 歳 (n=40)	52.5%	65.0%	20.0%	25.0%	22.5%	12.5%	15.0%	10.0%	5.0%
25～29 歳 (n=71)	62.0%	56.3%	16.9%	23.9%	23.9%	15.5%	12.7%	5.6%	1.4%
30～34 歳 (n=71)	57.7%	47.9%	26.8%	32.4%	12.7%	12.7%	8.5%	4.2%	1.4%
35～39 歳 (n=80)	47.5%	55.0%	31.3%	40.0%	21.3%	8.8%	8.8%	3.8%	1.3%
40～44 歳 (n=76)	60.5%	44.7%	35.5%	35.5%	18.4%	6.6%	11.8%	2.6%	1.3%
45～49 歳 (n=76)	63.2%	43.4%	27.6%	28.9%	17.1%	13.2%	10.5%	9.2%	1.3%
50～54 歳 (n=90)	70.0%	38.9%	42.2%	18.9%	20.0%	12.2%	10.0%	10.0%	3.3%
55～59 歳 (n=107)	74.8%	30.8%	49.5%	16.8%	18.7%	12.1%	6.5%	9.3%	1.9%
60～64 歳 (n=79)	62.0%	40.5%	63.3%	29.1%	26.6%	5.1%	5.1%	8.9%	1.3%
65 歳以上 (n=105)	80.0%	27.6%	63.8%	24.8%	21.9%	9.5%	3.8%	12.4%	1.9%

注) 網掛けは合計より 5 ポイント以上高い項目

図表 II-173 男性年齢別 男女共同参画に関する意識啓発を推進する方法 (MA)

	地元メディアを通じた情報発信	企業における教育・研修	交流館などの学習講座	学校行事にあわせた講習会の開催	掲示板などの設置	市民同士や市民と行政が気軽に意見交換できるインターネット上の	記念日(男女共同参画の日など)の設定	モデル校、モデル事業者等の設定	男女共同参画を推進している団体の表彰制度	その他
合計 (n=584)	63.0%	46.4%	33.2%	24.3%	22.9%	13.7%	10.4%	9.8%	2.4%	
20～24 歳 (n=34)	50.0%	55.9%	14.7%	20.6%	29.4%	11.8%	11.8%	14.7%	2.9%	
25～29 歳 (n=46)	56.5%	54.3%	15.2%	19.6%	28.3%	10.9%	4.3%	6.5%	0.0%	
30～34 歳 (n=43)	48.8%	60.5%	11.6%	7.0%	23.3%	16.3%	14.0%	11.6%	4.7%	
35～39 歳 (n=47)	66.0%	48.9%	23.4%	29.8%	8.5%	21.3%	17.0%	4.3%	4.3%	
40～44 歳 (n=68)	55.9%	51.5%	16.2%	39.7%	20.6%	11.8%	11.8%	13.2%	0.0%	
45～49 歳 (n=59)	57.6%	44.1%	18.6%	35.6%	22.0%	15.3%	15.3%	8.5%	1.7%	
50～54 歳 (n=59)	69.5%	54.2%	25.4%	32.2%	16.9%	10.2%	10.2%	3.4%	6.8%	
55～59 歳 (n=74)	74.3%	48.6%	48.6%	12.2%	28.4%	14.9%	8.1%	14.9%	1.4%	
60～64 歳 (n=65)	70.8%	35.4%	53.8%	24.6%	21.5%	7.7%	10.8%	12.3%	3.1%	
65 歳以上 (n=89)	66.3%	29.2%	65.2%	19.1%	28.1%	16.9%	5.6%	7.9%	1.1%	

注) 網掛けは合計より 5 ポイント以上高い項目

8-3. 豊田市が進める男女共同参画社会づくりのための取組についての意見

豊田市が進める男女共同参画社会づくりのための取組について自由記述を求めたところ、全部で 291 件の意見が寄せられた。記述の内容は、アンケートに関する意見と、行政への要望の 2 つに大別される。

(1) アンケートについての意見

- ・ アンケートについては 31 件の意見が寄せられ、そのうち半数の意見が、アンケートの内容が理解出来なかったというものであった。この背景には、「7.男女共同参画社会実現に向けた豊田市の取組」において、豊田市の取組について「わからない」と回答していた人が多かったことからわかるように、豊田市の取組が広く認知されていないことが影響していると考えられる。
- ・ このほか、アンケート結果の活用が明示されていないという意見や、アンケートの選択肢が不適當な箇所があるという意見も複数名から挙げられた。また、アンケートを機に男女共同参画社会への関心が高まったという意見も見られた。

図表 II-174 アンケートについての意見

意見の概要	数
内容が理解出来なかった	16
結果の活用方法が不明	4
アンケートを機に関心が高まった	2
選択肢が不適當	2
アンケート結果の活用	1
質問が男女対象でない	1
対象が不適切	1
男性・女性の順番を意図的に変える必要はない	1
表記が分かりにくい	1
その他	2
総計	31

(2) 行政への要望

- ・ 行政への要望については、260 件の意見が寄せられた。主な意見をみると、積極的な情報発信を望む意見や、豊田市における取組を知らなかったという意見が多く、ここでも、豊田市の取組を広く認知させるための取組が必要とされていることがわかる。
- ・ 続いて、企業を巻き込んだ取組についての要望も多くあげられている。具体的には、働いている人への情報発信の窓口として企業を活用することが有効であるという意見や、家庭における家事・子育ての共働を進めるうえでは家庭における夫婦の時間を確保することが必要であるという状況について企業の理解を促進することが必要であるという意見がみられた。
- ・ さらに、子どもを対象とした取組や、次世代につながる取組を要望する声も多く、子

子どもが将来希望を持って生活できるような社会をつくるために、子どものうちから男女共同参画に関する価値観を醸成していくことが必要であると考えられている。

図表 II-175 行政への要望

意見の概要	数
積極的な情報発信	30
豊田市における取組を知らなかった	25
企業を巻き込んだ取組	16
男性には男性の、女性には女性特有の役割もある	11
男女共同参画という取組を知らなかった	10
子どもを対象とした取組	8
中高年の意識改革	8
次世代につながる取組	8
取組の成果が見えない	7
取組の継続	7
家庭における時間の確保	7
地域単位での取組の促進	6
性別に関係なく、個人の能力を活かせる社会の実現	6
性別に関係なく、お互いを思いやる社会の実現	6
一層の意識啓発	5
総計	260

9 調査結果のまとめ

(1) 男女平等意識

- ・ 全ての分野において、男性が優遇されていると考える人の割合が、女性が優遇されていると考える人の割合を上回っている。
- ・ 男性の優遇度が高いのは「政治」「社会通念・慣習や風潮」である。他方、性別による優遇度の差が小さい分野は「学校教育」で、過半数の人が、男女が対等なパートナーとして扱われていると感じている。
- ・ 平成10年度以降、各分野における男女平等意識は確実に変化しているものの、目標に達するほどには至っておらず、男女共同参画に関わる意識啓発や各分野の取組が一層必要とされている。

(2) 男女の関わり・役割分担

- ・ 男性は、家事や育児に参加することが望ましいと考えられているが、現状は仕事が優先になっている。
- ・ 若年層より年齢が高い人の方が、「男は仕事・女は家庭」というジェンダーにとらわれた考え方や行動が強い傾向にある。
- ・ 特に、育児のために一時期職場を離れて家庭に入る女性が増える、M字カーブの底部にあたる年齢層では、「男は仕事・女は家庭」という考え方に沿った行動をしている人が、男女ともに過半数を占めている。

(3) 家庭における男女のあり方

① 家庭における夫婦の役割分担

- ・ 前回調査と比較すると、全般的に共同で行う割合が増えており、家庭における夫婦の役割分担に変化がみられる。
- ・ しかし、改善は見られるものの、現状では、共同で行うことを理想とする人が大半を占める一方で、家事のほとんどを妻が行っており、今後、更なる取組が必要とされる。

② 家庭における子どもの育て方

- ・ 「家事能力のある子に育てる」については、子どもの性別によって育て方に差がみられる。
- ・ 男性の方が、「女らしく、男らしく」子どもを育てることを重視する傾向がある。
- ・ 「ジェンダー意識にとらわれている人」の方が、「女らしく、男らしく」子どもを育てることを重視する傾向がある。

(4) 地域活動における男女の役割分担

- ・ 全般的に、地域活動においては、男性が企画や仕切りを行い、女性がお茶くみや片づけなどの雑事を行ったり、登録者名が男性であるにも関わらず女性が出席したりといった、従来からの慣習による性別の役割分担が未だに存在していることがうかがえる。
- ・ 男女の改善意識を比べると、女性より男性の方が「改善すべき」と考える割合が高く、女性の方が「当然だと思う」や「仕方ない」の割合が高い。

(5) 職場における男女の役割分担

① 女性が仕事を持つことについての意向

- ・ 男女ともに過半数の人が、「子どもができれば仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つ方がよい」と考えている。ただし、女性の意向は職業、年齢層により意識が大きく異なる。
- ・ 豊田市では、女性は結婚や出産を機に仕事を離れる方がよいと考えている人が、全国に比べて多くなっている。

② 仕事を継続しない方がよいと考える理由

- ・ 仕事を継続しない方がよいと考える理由は、時間的・肉体的に家庭と仕事の両立が困難であると回答する割合が、男女ともに高くなっている。

③ 結婚・出産後に女性が仕事をするために必要だと思うこと

- ・ 男女別にみても、概ね柔軟な働き方ができる制度や育児離職者の再雇用制度、育児休業制度の充実など、就業環境の整備に対するニーズが高い。

④ 職場における男女の違い

- ・ 現在働いている人の約半数が、職場において男女の違いがあると回答しており、男性の方が、違いがあると感じている人の割合がより高い。
- ・ 具体的な違いの内容についてみると、「昇進・昇級に差がある」や「お茶くみ・雑用などの補助的な仕事を女性に割り振る」「賃金に格差がある」が他と比べても群を抜いて高い割合となっている。

(6) ワーク・ライフ・バランス

- ・ 生活の中の仕事・家庭・プライベートの理想の優先順位をみると、女性の場合は「家庭」を1番に優先する割合が最も高く、男性では「仕事」を1番に優先する割合が最も高い。
- ・ 現実の優先順位をみると、男女ともに、理想と比較して優先順位は変わらないが、1番目に「仕事」を優先している人の割合が増加している。特に女性の場合、「仕事」を優先する年齢構成はM字カーブと類似している。

(7) 男女共同参画社会実現に向けた豊田市の取組

① これまでの事業評価

- ・ 全体として「わからない」の回答が多く、取組自体の認知についても検討が必要である。
- ・ 項目別にみると、「出産・子育て」で比較的「良い」とする回答が多い一方で、「家庭・地域」については全般的に評価が低い状況にあり、特に重点的な取組が必要になると考えられる。

② 男女共同参画社会の実現において重要と思うもの

- ・ 「Q:要介護者を支える家庭への支援体制」について重要であると回答した回答者が最も多く、次いで「C:保育サービスなど子育て支援の充実」となっている。
- ・ 全般に、施策対象となる性別、年齢層で、当該施策へのニーズが高い。施策対象に加えて、対象より少し上の年齢層においても、施策ニーズが高い項目もある。
- ・ スコアによる分析を行ったところ、現在の状況が悪い（「悪い」の回答が「良い」の回答を上回る）項目はなかった。
- ・ 「F:家庭における男性の家事・育児参加の促進」や「T:女性の様々な悩みを気軽に相談できる相談体制の充実」については、男女間で問題認識は共有できているが、男性は女性よりも重要度が低いと判断している。
- ・ また、「J:各種団体の女性リーダーの養成など人材育成の推進」や「S:男女共同参画に関する学習機会の創出」は、男女とも相対的に悪い状況であると認識しているがともに重要度が低いと判断している。

③ 自分自身や家族の男女共同参画に関する理解が深まったと思うこと

- ・ 「結婚や出産で離職しない(仕事を続ける)女性が増えたこと」が最も高い割合を占めている。
- ・ 次いで「喫煙・受動喫煙、感染症など、子どもを産む母体への危険性に関する理解が深まったこと」、「男性(夫)も介護の方法について学ぶ方がよいと思うようになったこと」が続いている。

(8) 男女共同参画社会実現に関する今後の取組

① 地域イベントや行政が発信する情報の入手経路

- ・ 入手経路は「市の広報紙」と「自治区回覧」が圧倒的に高い割合を占めている。
- ・ ただし、自治区回覧や一般の新聞は高齢者層での利用が多く、若年者層は地域情報誌や子どもが学校からもらう配付物なども高い割合となっており、対象者に応じた適切な媒体の選択が重要である。

② 男女共同参画に関する意識啓発を推進する方法

- ・ 「地元メディアを通じた情報発信」が最も多く、次いで「企業における教育・研修」、「交流館などの学習講座」である。

- ・ ただし、「地元メディアを通じた情報発信」や「交流館などの学習講座」は比較的高齢者層の利用ニーズが高く、若年者層は「企業における教育・研修」などの利用ニーズが高く、対象者に応じた適切な役割分担が求められる。

参考資料



この調査票に記入された内容については、統計以外の目的に使ったり、他にもらしたりすることは一切ありませんので、ありのままをご記入ください。

男女共同参画社会に関する意識調査のお願い

平素から市政に深いご理解とご協力をいただきありがとうございます。

豊田市では、女性も男性も対等なパートナーとして共に支えあう「男女共同参画社会」の実現に向けて様々な取り組みを行っています。

平成17年度に策定された「とよた男女共同参画プラン（クローバープラン）」は、平成21年度に策定期間終了を迎えます。

本調査は、新たな男女共同参画プランを策定するにあたり、今後の施策展開の基礎資料とするために、改めて豊田市民の皆様のご日常やお考えをお聞きするものです。

調査対象者は、豊田市にお住まいの 20歳以上の男女各1,500人 を無作為に選ばせていただきました。調査票に個人のお名前をご記入いただく必要は一切ありません。またご回答いただいた結果は、全て統計的に処理し、回答者個人にご迷惑をおかけすることはございませんので、ありのままにご回答ください。

お忙しいところ大変恐縮ですが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成20年8月 豊田市長 鈴木 公平

【ご記入に際してのお願い】

- 封筒のあて名の方【ご本人様】がお答えください。
- 質問ごとに「○は1つ」「○は3つ以内」など指定しておりますので、その数に応じてご回答ください。
- 回答の際、「問△で○と回答された方」となっている場合は、それに応じて、ご回答ください。
- 回答いただきました調査票は、返信用封筒に入れ

8月25日（月）までにご返送下さい。（切手不要）

問合せ先：とよた男女共同参画センター（キラッ☆とよた）

豊田市小坂本町 1-25 豊田産業文化センター2階

電話：31-7780

担当：小澤・藤谷

<用語解説>

以下に、男女共同参画社会を理解する上で必要な用語を掲載しますので、アンケートにご回答いただく際にご参考にしてください。

a 男女共同参画社会

女性と男性が社会を構成する対等なメンバーとして認め合い、仕事、家庭、地域などあらゆる分野に参画し、喜びも責任も、ともに分かち合う社会をいいます。

b ジェンダー

生物学的な性別ではなく、『女らしさ、男らしさ』など文化的・社会的につくられた性差をさします。このようなジェンダー意識を持つことは、例えば「男は仕事・女は家庭」などのように、個人の個性や能力と関わりなく、男女の性別による役割を与えることにつながり、結果として女性も男性も生き方の幅を狭めてしまいます。

c ドメスティック・バイオレンス（DV）

配偶者（事実婚、別居を含む）やパートナーなど親密な関係にある（あった）人から振るわれる暴力のことをいいます。暴力には殴る蹴るなどの暴力のみならず、威嚇する、生活費を渡さない、仕事につかせない、性行為の強要、外出や交友関係を制限して孤立させるといった精神的な苦痛や経済的な抑圧なども含まれます。また、子どもに暴力をみせることも含まれます。親密な関係の男女間のことであっても、刑法に規定されている暴行、傷害、脅迫等の行為が行われた場合は犯罪となります。

d ワーク・ライフ・バランス

老若男女誰もが、仕事、家庭生活、地域生活などにおいて、自らが希望するバランスのとれた生活を送ることを指します。そのような生活を実現させるためには、働き方の見直しや家庭における家族の役割分担などが必要とされています。

e とよた男女共同参画センター（キラッ☆とよた）

豊田市が設置・運営している男女共同参画社会実現のための拠点施設で、情報誌の発行、セミナー・講座やイベントの開催、女性団体支援等様々な活動を行っています。（豊田産業文化センター2階 電話：31-7780）

はじめに、あなたご自身のことについてご記入ください。

【F1からF8について、あてはまる番号を各々1つ選び○印をつけてください】

F1 あなたの性別

1 女性	2 男性
------	------

F2 あなたの年齢

1 20～24 歳	2 25～29 歳	3 30～34 歳	4 35～39 歳
5 40～44 歳	6 45～49 歳	7 50～54 歳	8 55～59 歳
9 60～64 歳	10 65 歳以上		

F3 あなたは現在結婚していますか。

1 結婚している(内縁を含む)	2 結婚していない
3 結婚していたが、離婚・死別した	4 その他()

F4 家族構成

1 1人暮らし	2 夫婦のみ
3 2世代家族(親とその子ども(未婚)の世帯)	4 2世代家族(親と子ども夫婦の世帯)
5 3世代家族(親とその子ども(既婚)と孫の世帯)	6 その他の世帯(1～5のいずれにも該当しない)

F5 あなたの職業

1 会社員	2 公務員	3 自営業・家業(農業含む)
4 派遣・請負社員	5 パート・アルバイト・嘱託等	6 専業主婦・専業主夫
7 学生	8 無職	9 その他()

F6 【結婚している方にお伺いします】あなたの配偶者の職業

1 会社員	2 公務員	3 自営業・家業(農業含む)
4 派遣・請負社員	5 パート・アルバイト・嘱託等	6 専業主婦・専業主夫
7 学生	8 無職	9 その他()

F7 【子どものいる方にお伺いします】お子さんの年代と男女別の人数を()内にご記入下さい。

1 就学前の乳幼児	(男_____人、女_____人)
2 小学生	(男_____人、女_____人)
3 中学生	(男_____人、女_____人)
4 高校生・予備校生	(男_____人、女_____人)
5 短大・各種専門学生	(男_____人、女_____人)
6 大学生・大学院生	(男_____人、女_____人)
7 社会人	(男_____人、女_____人)

F8 あなたのお住まい

1 拳母地区	2 高橋地区	3 上郷地区
4 高岡地区	5 猿投地区	6 松平地区
7 藤岡地区	8 小原地区	9 足助地区
10 下山地区	11 旭地区	12 稲武地区

次の質問からは、あなたご自身の日常生活や考え方などをお伺いしていきます。日頃、感じているままにご回答ください。

男女平等観について

問1 A～Eの分野において、男女の地位は平等になっていると思いますか。また、F、G にあげた社会全体のしくみにおいてはどう思いますか。A～Gについて、あてはまるものを各々1つ選**び**O印をつけてください。

	優遇されている 女性の方が	やや優遇されている 女性の方が	平等である	やや優遇されている 男性の方が	優遇されている 男性の方が	どちらともいえない	わからない
A 家庭生活上で	1	2	3	4	5	6	7
B 学校教育の場で	1	2	3	4	5	6	7
C 職場で	1	2	3	4	5	6	7
D 政治の場で	1	2	3	4	5	6	7
E 地域社会の場で	1	2	3	4	5	6	7
F 法律や制度で	1	2	3	4	5	6	7
G 社会通念・慣習や風潮で	1	2	3	4	5	6	7

注) 「B 学校教育の場」とは、授業や学校生活など学校の環境全体とお考えください。

男女の関わり・役割分担について

問2 男女の関わりに関する以下の考え方や行動について、あなたはどのように考えますか。

- (1) A～Hそれぞれについて、あなたはどのように思われますか。【(1)考え方】欄からあなたの考えに最も近い番号を各々1つ選び○印をつけてください。
- (2) A～Hそれぞれについて、あなたはどのように行動していますか。【(2)実際の行動】欄からあなたの行動に最も近い番号を各々1つ選び○印をつけてください。

	【(1)考え方】					【(2)実際の行動】				
	そう思う	どちらかといえば	どちらかといえば	そう思わない	わからない	そうしている	どちらかといえば	どちらかといえば	そうしていない	わからない
A 結婚をしてもそれぞれ自分名義の財産を持った方がいい	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
B 子育ては女性も男性も協力して行う	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
C 男性も家事をきちんとできる方がいい	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
D 「男は仕事・女は家庭」という考え方はいい	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
E 「女は女らしく、男は男らしく」する方がいい	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
F 女性が仕事を持つのは良いが家事・育児も専業主婦並にきちんとする方がいい	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
G 女性は自分のことより家族のことを優先する方がいい	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
H 男性は家庭や地域のことより仕事を優先する方がいい	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

家庭における女・男のあり方について

問3 家庭における夫婦の役割分担について、お伺いします。

- (1) 【**全ての方にお伺いします。**】 A～Eに示す各場面で、夫婦のどちらが役割を担う方がいいと思いますか。【(1)理想】欄からあなたの考えに最も近いものを各々1つ選び○印をつけてください。
- (2) 【**結婚している方にお伺いします。**】あなたの家庭では、A～Eに示す各場面で、実際に夫婦のどちらが役割を担っていますか。【(2)現状】欄から現状に最も近いものを各々1つ選び○印をつけてください。

	全ての方【(1)理想】				結婚している方【(2)現状】			
	主に妻が行うのがよい	主に夫が行うのがよい	共同で行うのがよい	その他	主に妻が行う	主に夫が行う	共同で行う	その他
A 家事全般(食事、洗濯、掃除等)	1	2	3	4	1	2	3	4
A-1 夕食のしたく	1	2	3	4	1	2	3	4
A-2 夕食の後かたづけ	1	2	3	4	1	2	3	4
A-3 掃除	1	2	3	4	1	2	3	4
A-4 洗濯・洗濯物干し	1	2	3	4	1	2	3	4
A-5 ごみ出し	1	2	3	4	1	2	3	4
A-6 修理・修繕・力仕事	1	2	3	4	1	2	3	4
B 家計の管理	1	2	3	4	1	2	3	4
C 子育て全般	1	2	3	4	1	2	3	4
C-1 身の回りの世話	1	2	3	4	1	2	3	4
C-2 遊びにつれていく	1	2	3	4	1	2	3	4
C-3 しつけや社会のルールを教える	1	2	3	4	1	2	3	4
C-4 教育への関わり(進学、習い事など)	1	2	3	4	1	2	3	4
C-5 PTA活動などへの参加	1	2	3	4	1	2	3	4
D 老親等の世話・介護	1	2	3	4	1	2	3	4
E 地域活動への参加	1	2	3	4	1	2	3	4

問4 家庭における子どもの育て方についてお伺いします。A～Gについて、「女の子の場合」と「男の子の場合」別に、あてはまるものを各々1つ選び○印をつけてください。女の子、男の子それぞれの子育て経験のない方は、あなたの考えにより近いものに○印をつけてください。

	女の子の場合				男の子の場合			
	いる そうして	いない そうして	ない どちらでも	わからない	いる そうして	いない そうして	ない どちらでも	わからない
A 女らしく、男らしく育てる	1	2	3	4	1	2	3	4
B 家事能力（料理、掃除など）のある子に育てる	1	2	3	4	1	2	3	4
C 経済力のある子に育てる	1	2	3	4	1	2	3	4
D リーダーシップのある子に育てる	1	2	3	4	1	2	3	4
E 4年制大学以上に進学させる	1	2	3	4	1	2	3	4
F 性別にとらわれず個性を伸ばすように育てる	1	2	3	4	1	2	3	4
G 言葉遣いや立ち居振る舞いを注意する	1	2	3	4	1	2	3	4

地域活動における男女の役割分担について

問5 地域活動における男女の役割分担についてお伺いします。

- あなたが参加している地域活動の現状について、【(1)現状】欄からあてはまるものを各々1つ選び○印をつけてください。
- 地域活動の今後のあり方について、【(2)意識】欄からあなたの考えに最も近いものを各々1つ選び○印をつけてください。

	【(1)現状】				【(2)意識】			
	いる そうして	いない そうして	ない どちらでも	わからない	思う 当然だと	仕方ない	改善すべき	わからない
A 催し物の企画等は主に男性が決定する	1	2	3	4	1	2	3	4
B 地域活動は男性が取り仕切る	1	2	3	4	1	2	3	4
C 自治区の集会の時には、女性がお茶くみや片づけをしている	1	2	3	4	1	2	3	4
D 女性は役職につきたがらない	1	2	3	4	1	2	3	4
E 自治区の集会では、男性が上座に座る	1	2	3	4	1	2	3	4
F 女性が発言することは少ない	1	2	3	4	1	2	3	4
G 自治区の組長の登録は男性(夫)だが、実際は女性(妻)が出席することが多い	1	2	3	4	1	2	3	4
H 実質的な活動はほとんど女性が参加する	1	2	3	4	1	2	3	4

職場における男女の役割分担について

問6 一般的に、女性が仕事を持つことについて、あなたはどのようにお考えですか。あてはまるものを1つ選び○印をつけてください。

- | | | | |
|-------------------------------------|---|-------------------|-----|
| A 女性は仕事を持たない方がよい | } | A、Bの方 | |
| B 結婚するまでは仕事を持つ方がよい | | 問7へ | |
| C 子どもができるまでは、仕事を持つ方がよい | → | Cの方は問7、8両方お答えください | |
| D 子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい | } | D、Eの方 | |
| E 子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つ方がよい | | | 問8へ |
| F その他（具体的に | | | ） |

問7 **【問6でA～Cと回答された方にお伺いします】**仕事を継続しない方がよいと考える理由は何ですか。あなたの考えに最も近いものを1つ選び○印をつけてください。

- A 結婚したら主婦として子どもや夫、家族のために生活する方がよいと思うから
- B 結婚・出産の後に、家庭と仕事を両立させるのは時間的・肉体的に困難だと思うから
- C 仕事をするということについて家族の理解が得られないと思うから
- D 子育て期は、会社に負担をかけることが多いと思うから（保育園の送り迎え、子どもの病気、学校行事など）
- E 特に経済的に働く必要性がなければ、専業主婦の方が心身が楽だから
- F 自分の親や周囲の人がそうしているから
- G 特に考えたことはない
- H その他（

問8 **【問6でC～Eと回答された方にお伺いします。】**結婚・出産後に女性が仕事をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。あなたの考えに最も近いものを3つ以内で選び○印をつけてください。

- A 育児離職者の再雇用制度
- B 育児休業制度の充実（育児休業期間の延長、休業中の社会保障、経済保障など）
- C 柔軟な働き方ができる制度の導入（在宅勤務や短時間労働など）
- D 就学前の子どもを対象とした保育の充実（保育施設の増設や開設時間の延長など）
- E 小学生を対象とした保育の充実（放課後児童クラブの増設や対象年齢の上限引き上げなど）
- F 男性の育児休業取得の普及・促進
- G 家庭における男性の家事参加の促進
- H その他（

男女共同参画社会実現に向けた豊田市の取り組みについて

問11 豊田市では、平成11年度に「とよた男女共同参画プラン」を策定し、この計画に基づき男女共同参画社会の実現に取り組んできました。

(1) 「A」～「T」にあげた豊田市が実施している取組（事業）について、あなたはどのように感じますか。あてはまるものを各々1つ選び○印をつけてください。

		良い	普通	悪い	わからない
出産・子育て	A 妊婦の健康に対する取組（受動喫煙防止、不妊治療対策など）	1	2	3	4
	B 男性の育児参加促進への取組（父親向け育児講座の開催など）	1	2	3	4
	C 保育サービスなど子育て支援の充実	1	2	3	4
学校	D 学校教育における男女共同参画の意識づくり	1	2	3	4
	E 学校行事やPTA活動などへの父親参加促進の取組	1	2	3	4
家庭・地域	F 家庭における男性の家事・育児参加の促進	1	2	3	4
	G 男女共同参画に関する学習機会の創出	1	2	3	4
	H 地域活動における男女共同参画の促進 （不平等な役割分担をなくすなど）	1	2	3	4
	I 自治区役員や地域会議委員など意思決定の場への女性の登用	1	2	3	4
	J 各種団体の女性リーダーの養成など人材育成の推進	1	2	3	4
	K ドメスティック・バイオレンス（DV）の理解促進や解消への取組	1	2	3	4
職場	L セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）の理解促進や解消への取組	1	2	3	4
	M 職場における男女平等な環境づくり	1	2	3	4
	N 離職した女性に対する再チャレンジ支援など女性の就業継続支援	1	2	3	4
	O ワーク・ライフ・バランス理解促進 （労働時間短縮、休暇制度の普及など）	1	2	3	4
高齢期	P 高齢者の健康やいきがいづくりへの取組	1	2	3	4
	Q 要介護者を支える家庭への支援体制	1	2	3	4
総合	R イベント、広報紙などによる男女共同参画意識の啓発推進	1	2	3	4
	S 男女共同参画を推進する市民活動の支援	1	2	3	4
	T 女性の様々な悩みを気軽に相談できる相談体制の充実	1	2	3	4

(2) 前頁の「A」～「T」の取組のうち、豊田市の男女共同参画社会の実現において、重要と思うものを5つ以内で選び、「A」～「T」の記号をご記入ください。

--	--	--	--	--

問12 世の中の変化や豊田市の約8年間の取組などによって、あなたご自身や家族の男女共同参画に関する理解が深まったと思うことはどれですか。あてはまるものすべてに○印をつけてください。

- 1 喫煙・受動喫煙、感染症など、子どもを産む母胎への危険性に関する理解が深まったこと
- 2 男性（夫）の子育ての自覚が高まったこと
- 3 電車の優先席をゆずるなど妊婦への心配りや気遣いをよくするようになったこと
- 4 子育てボランティアへ参加するようになったこと(積極的なファミリーサポートセンターへの登録など)
- 5 児童会長や生徒会長は男女のいずれでもよいと思うようになったこと
- 6 家庭における子どもの教育・しつけ（礼儀、作法、態度）で、男女の性別による違いをつけなくなったこと
- 7 父親（男性）が学校行事やPTA活動などへ積極的に参加するようになったこと
- 8 男性（夫）が料理を作ったり、掃除をするようになったこと
- 9 自治区において男女の性別による活動の差がなくなってきたこと
- 10 自治区やPTA役員に女性が選出されることに抵抗感がなくなったこと
- 11 DVやセクハラなど女性の人権侵害に関する理解が深まったこと
- 12 職場の男女不平等が解消されてきたこと
- 13 職場で、お茶くみやコピーなどの雑用を男性もするようになったこと
- 14 課長職以上の役職に就く女性が増えてきたこと
- 15 結婚や出産で離職しない（仕事を続ける）女性が増えたこと
- 16 男性（夫）も介護の方法について学ぶ方がよいと思うようになったこと

男女共同参画社会実現に関する今後の取り組みについて

問13 あなたは、地域のイベントや行政が発信する情報をどこから得ることが多いですか。あてはまるものを3つ以内で選び〇印をつけてください。

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1 一般の新聞 | 2 CATV（ひまわりネットワーク） |
| 3 FMとよた | 4 市のホームページ |
| 5 市の広報紙 | 6 自治区回覧 |
| 7 地域情報誌（タウン誌） | 8 駅の掲示板や電車の中吊り広告 |
| 9 公共施設の置きチラシ、ポスター | 10 子どもが学校からもらう配布物 |
| 11 その他（ | ） |

問14 あなたは、行政が男女共同参画に関する意識啓発を推進する方法として、どれが有効だと思いますか。あてはまるものを3つ以内で選び〇印をつけてください。

- | | |
|--|---|
| 1 地元メディアを通じた情報発信 | |
| 2 学校行事にあわせた講習会の開催 | |
| 3 交流館などの学習講座 | |
| 4 企業における教育・研修 | |
| 5 男女共同参画を推進している団体の表彰制度 | |
| 6 市民同士や市民と行政が気軽に意見交換できるインターネット上の掲示板などの設置 | |
| 7 モデル校、モデル事業者等の設定 | |
| 8 記念日（男女共同参画の日など）の設定 | |
| 9 その他（ | ） |

問15 最後に、豊田市が進める男女共同参画社会づくりのための取組についてご意見等がございましたら、以下にご記入ください。

☆男女共同参画に関する施策に関心を持たれた方は、とよた男女共同参画センター（クラッ☆とよた）のホームページをご覧ください。（<http://www.hm4.aitai.ne.jp/~clover/>）

これでアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

豊田市男女共同参画に関する意識調査報告書

平成21年3月



〒471-0034 愛知県豊田市小坂本町1-25
豊田産業文化センター2階(月曜休館)
TEL 0565-31-7780 / FAX 0565-31-3270
Eメール clover@city.toyota.aichi.jp
ホームページ <http://www.hm4.aitai.ne.jp/~clover/>